

2015年度 人間環境学部 講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覽

〔発行日：2021/6/1〕最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

基幹	【C2001】	行政法の基礎 [後藤 彌彦] 秋学期	1
基幹	【C2002】	民法 I [花立 文子] 春学期	1
基幹	【C2003】	民法 II [花立 文子] 秋学期	2
基幹	【C2004】	国際法 I [岡松 暁子] 春学期	3
基幹	【C2005】	国際法 II [岡松 暁子] 秋学期	4
基幹	【C2006】	市民社会と政治 [谷本 有美子] 秋学期	4
基幹	【C2007】	行政学 [申 龍徹] 年間授業	5
基幹	【C2008】	国際関係論 [岡松 暁子] 春学期	6
基幹	【C2009】	アメリカ法の基礎 [永野 秀雄] 春学期	7
基幹	【C2010】	地方自治論 [谷本 有美子] 春学期	7
基幹	【C2011】	憲法の基礎 [土屋 志穂] 秋学期	9
基幹	【C2012】	刑法の基礎 [渡辺 靖明] 春学期	10
政策	【C2013】	環境法 I [後藤 彌彦] 春学期	11
政策	【C2014】	環境法 II [永野 秀雄] 秋学期	11
政策	【C2015】	環境法 III [後藤 彌彦] 春学期	12
政策	【C2016】	環境法 IV [長井 圓] 秋学期	13
政策	【C2017】	国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期	14
政策	【C2018】	比較環境法 [後藤 彌彦] 秋学期	14
政策	【C2019】	労働環境法 [沼田 雅之] 春学期	15
政策	【C2020】	自治体環境政策論 I [小島 聡] 春学期	16
政策	【C2021】	自治体環境政策論 II [小島 聡] 秋学期	17
政策	【C2022】	日本公害史と法 [後藤 彌彦] 秋学期	18
政策	【C2023】	アメリカ環境法 [永野 秀雄] 秋学期	19
政策	【C2024】	エネルギー政策論 [菊地 昌廣] 春学期	19
政策	【C2025】	地球環境政治論 [横田 匡紀] 春学期	20
政策	【C2026】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期	21
基幹	【C2031】	国際法 I (教職) [岡松 暁子] 春学期	22
基幹	【C2032】	国際法 II (教職) [岡松 暁子] 秋学期	23
基幹	【C2100】	ミクロ経済学 I [大瀧 雅之] 春学期	24
基幹	【C2101】	ミクロ経済学 II [大瀧 雅之] 秋学期	25
基幹	【C2102】	マクロ経済学 I [大瀧 雅之] 春学期	25
基幹	【C2103】	マクロ経済学 II [大瀧 雅之] 秋学期	26
基幹	【C2104】	現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期	26
基幹	【C2105】	ビジネスヒストリー [長谷川 直哉] 秋学期	27
基幹	【C2106】	経営学入門 [金藤 正直] 春学期	28
基幹	【C2107】	環境経営と会計 [金藤 正直] 秋学期	29
基幹	【C2108】	公共経済学 [小田 圭一郎] 秋学期	30
基幹	【C2109】	簿記入門 I・II [大下 勇二] 年間授業	30
政策	【C2110】	環境経済論 I [内山 勝久] 春学期	32
政策	【C2111】	環境経済論 II [内山 勝久] 秋学期	32
政策	【C2112】	環境経営論 I [金藤 正直] 春学期	33
政策	【C2113】	環境経営論 II [金藤 正直] 秋学期	34
政策	【C2114】	環境経営実践論 I [花田 正明] 春学期	35
政策	【C2115】	環境経営実践論 II [花田 正明] 秋学期	36
政策	【C2116】	CSR 論 I [長谷川 直哉] 春学期	37
政策	【C2117】	CSR 論 II [長谷川 直哉] 秋学期	38
政策	【C2120】	途上国経済論 I [武貞 稔彦] 春学期	39
政策	【C2121】	途上国経済論 II [武貞 稔彦] 秋学期	40
政策	【C2122】	国際経済協力論 I [武貞 稔彦] 春学期	41
政策	【C2123】	国際経済協力論 II [武貞 稔彦] 秋学期	42
政策	【C2126】	環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 秋学期	43
基幹	【C2200】	現代社会論 I [田中 勉] 春学期	44
基幹	【C2201】	現代社会論 II [田中 勉] 春学期	45

基幹	【C2202】	現代社会論Ⅲ [田中 勉] 秋学期	46
基幹	【C2203】	NPO・ボランティア論 [川崎 あや] 秋学期	47
基幹	【C2204】	フィールド調査論 [西城戸 誠] 春学期	48
基幹	【C2205】	フィールド調査論 [田中 勉] 秋学期	49
基幹	【C2206】	フィールド調査論 [傅 凱儀] 秋学期	50
基幹	【C2207】	社会統計論 [藤本 隆史] 秋学期	51
基幹	【C2208】	ファシリテーション論 [三田地 真実] 秋学期	52
政策	【C2210】	地域形成論 [石神 隆] 春学期	54
政策	【C2211】	地域経済論 [石神 隆] 秋学期	55
政策	【C2212】	地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期	56
政策	【C2213】	地域コモンズ論 [傅 凱儀] 春学期	57
政策	【C2214】	都市環境論Ⅰ [石神 隆] 春学期	58
政策	【C2215】	都市環境論Ⅱ [石神 隆] 秋学期	59
政策	【C2216】	都市デザイン論 [田中 大助] 春学期	60
政策	【C2217】	環境社会論Ⅰ [西城戸 誠] 春学期	61
政策	【C2218】	環境社会論Ⅱ [西城戸 誠] 秋学期	62
政策	【C2219】	環境社会論Ⅲ [西城戸 誠] 秋学期	63
政策	【C2220】	労働環境論Ⅰ [長峰 登記夫] 春学期	64
政策	【C2221】	労働環境論Ⅱ [長峰 登記夫] 秋学期	65
政策	【C2223】	NGO活動論 [中村 玲子] 秋学期	66
政策	【C2225】	地域環境ケーススタディⅠ [船戸 修一] 秋学期	67
政策	【C2226】	地域環境ケーススタディⅡ [後藤 純] 秋学期	68
政策	【C2227】	災害政策論 [中川 和之] 春学期	69
政策	【C2228】	科学技術社会論 [詫間 直樹] 秋学期	71
政策	【C2229】	社会開発論 [秋吉 恵] 秋学期	72
政策	【C2230】	グローバルコミュニティ [荒川 裕子] 秋学期	73
政策	【C2231】	開発教育 [福田 紀子] 春学期	75
基幹	【C2300】	西欧近代批判の思想 [越部 良一] 春学期	76
基幹	【C2301】	仏教思想 [関口 和男] 秋学期	76
基幹	【C2302】	日本詩歌の伝統 [日原 傳] 春学期	77
基幹	【C2303】	比較演劇論Ⅰ [平野井 ちえ子] 春学期	79
基幹	【C2304】	比較演劇論Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期	80
基幹	【C2307】	日本美術史論 [豊田 和平] 秋学期	81
基幹	【C2308】	西洋美術史論 [板橋 美也] 秋学期	82
基幹	【C2309】	生命の現在と倫理 [鶴岡 健] 春学期	83
基幹	【C2310】	環境倫理学 [鶴岡 健] 秋学期	84
政策	【C2311】	環境哲学基礎論 [関口 和男] 春学期	85
政策	【C2312】	日本環境史論Ⅰ [根崎 光男] 春学期	86
政策	【C2313】	日本環境史論Ⅱ [根崎 光男] 秋学期	87
政策	【C2314】	ヨーロッパ環境史論Ⅰ [辻 英史] 春学期	88
政策	【C2315】	ヨーロッパ環境史論Ⅱ [辻 英史] 秋学期	89
基幹	【C2316】	環境人類学Ⅰ [安岡 宏和] 秋学期	90
政策	【C2317】	環境人類学Ⅱ [安岡 宏和] 春学期	91
政策	【C2321】	環境人類学Ⅲ [安岡 宏和] 春学期	92
政策	【C2322】	環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期	93
政策	【C2323】	環境表象論Ⅱ [梶 裕史] 秋学期	94
基幹	【C2400】	自然環境科学の基礎 (化学) [藤倉 良] 秋学期	95
基幹	【C2401】	自然環境科学の基礎 (生物学) [宮川 路子] 秋学期	96
基幹	【C2402】	自然環境科学の基礎 (生態学) [高田 雅之] 春学期	97
基幹	【C2403】	自然環境論Ⅰ [杉戸 信彦] 春学期	98
基幹	【C2404】	自然環境論Ⅱ [杉戸 信彦] 秋学期	99
基幹	【C2405】	自然環境論Ⅲ [杉戸 信彦] 秋学期	99
基幹	【C2406】	エネルギー論Ⅰ [北川 徹哉] 春学期	100
基幹	【C2407】	地球科学史Ⅰ [谷本 勉] 春学期	101
基幹	【C2408】	地球科学史Ⅱ [谷本 勉] 秋学期	101
基幹	【C2411】	気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 春学期	102
基幹	【C2412】	気候変動論Ⅱ [松本 倫明] 秋学期	103

政策	【C2413】	自然環境政策論Ⅰ	[高田 雅之]	春学期	104
政策	【C2414】	自然環境政策論Ⅱ	[高田 雅之]	秋学期	105
政策	【C2416】	環境科学Ⅰ	[藤倉 良]	春学期	106
政策	【C2417】	環境科学Ⅱ	[藤倉 良]	秋学期	106
政策	【C2418】	環境科学Ⅲ	[藤倉 良]	春学期	107
政策	【C2419】	衛生・公衆衛生学Ⅰ	[宮川 路子]	春学期	108
政策	【C2420】	衛生・公衆衛生学Ⅱ	[宮川 路子]	秋学期	109
政策	【C2421】	衛生・公衆衛生学Ⅲ	[宮川 路子]	春学期	110
政策	【C2422】	エネルギー論Ⅱ	[北川 徹哉]	秋学期	110
政策	【C2423】	大気と社会Ⅰ	[北川 徹哉]	春学期	111
政策	【C2424】	大気と社会Ⅱ	[北川 徹哉]	秋学期	112
基幹	【C2429】	自然環境科学の基礎(物理学)	[渡邊 誠]	春学期	113
基幹	【C2430】	環境モデル論Ⅰ	[渡邊 誠]	春学期	114
基幹	【C2431】	環境モデル論Ⅱ	[渡邊 誠]	秋学期	115
基幹	【C2432】	自然災害論	[杉戸 信彦]	春学期	116
政策	【C2433】	自然環境論Ⅳ	[高田 雅之]	秋学期	117
	【C2500】	公害防止管理論Ⅰ	[大岡 健三]	春学期	118
	【C2501】	公害防止管理論Ⅱ	[大野 香代]	秋学期	119
	【C2502】	廃棄物・リサイクル論	[鍋木 儀郎]	秋学期	120
	【C2503】	環境教育論	[曾我 幸代]	春学期	121
	【C2504】	キャリア入門	[長峰 登記夫]	春学期	122
	【C2505】	食と農の環境学Ⅰ	[西川 邦夫]	秋学期	123
	【C2506】	食と農の環境学Ⅱ	[松戸 修一]	秋学期	124
	【C2507】	食と農の環境学Ⅲ	[吉田 岳志]	春学期	125
	【C2508】	スポーツビジネス論Ⅰ	[千田 利史]	春学期	126
	【C2509】	スポーツビジネス論Ⅱ	[千田 利史]	秋学期	126
	【C2511】	実践キャリア論	[長峰 登記夫]	秋学期	127
	【C2512】	グローバル人材論	[長峰 登記夫]	秋学期	128
	【C2554】	人間環境特論(アーティストと社会貢献)	[庄野 真代]	春学期	129
	【C2555】	人間環境特論(比較行動学)	[草山 太一]	春学期	130
	【C2556】	人間環境特論(ヒトと動物の心理学)	[草山 太一]	秋学期	130
フレッシュマン	【C2600】	人間環境学への招待	[人間環境学部教員]	春学期	131
フレッシュマン	【C2602】	人間環境学への招待	[人間環境学部教員]	春学期	132
フレッシュマン	【C2700】	基礎演習	[人間環境学部教員]	秋学期	133
スキルアップ	【C2800】	情報処理基礎	[小林 信彦]	春学期	134
スキルアップ	【C2801】	情報処理基礎	[小林 信彦]	秋学期	135
スキルアップ	【C2802】	情報処理基礎	[松本 倫明]	春学期	136
スキルアップ	【C2803】	情報処理基礎	[松本 倫明]	秋学期	137
スキルアップ	【C2804】	情報処理基礎	[渡邊 誠]	秋学期	138
スキルアップ	【C2805】	情報処理基礎	[小林 信彦]	秋学期	139
スキルアップ	【C2806】	情報処理基礎	[小林 信彦]	春学期	140
スキルアップ	【C2807】	ネットワークとマルチメディア	[松本 倫明]	春学期	141
スキルアップ	【C2808】	ネットワークとマルチメディア	[松本 倫明]	秋学期	142
スキルアップ	【C2809】	統計とデータ分析	[渡邊 誠]	春学期	143
スキルアップ	【C2900】	英語Ⅰ(スキルアップ科目)	[平野井 ちえ子]	春学期	144
スキルアップ	【C2903】	英語Ⅰ(スキルアップ科目)	[板橋 美也]	春学期	145
スキルアップ	【C2909】	英語Ⅱ(スキルアップ科目)	[磯部 芳恵]	秋学期	146
スキルアップ	【C2915】	英語Ⅲ(スキルアップ科目)	[磯部 芳恵]	春学期	147
スキルアップ	【C2921】	英語Ⅳ(スキルアップ科目)	[磯部 芳恵]	秋学期	148
スキルアップ	【C2950】	テーマ別英語1(スキルアップ科目)	[板橋 美也]	春学期	148
スキルアップ	【C2953】	テーマ別英語2(スキルアップ科目)	[武貞 稔彦]	秋学期	150
スキルアップ	【C2956】	テーマ別英語3(スキルアップ科目)	[R. G. ジェイムズ]	春学期	151
スキルアップ	【C2959】	テーマ別英語4(スキルアップ科目)	[R. G. ジェイムズ]	秋学期	151
	【C3000】	研究会(A)	[草山 太一]	年間授業	152
	【C3002】	研究会(A)	[石神 隆]	年間授業	153
	【C3003】	研究会(A)	[板橋 美也]	年間授業	154
	【C3004】	研究会(A)	[杉戸 信彦]	年間授業	155

【C3005】	研究会 (A)	[岡松 暁子] 年間授業	156
【C3006】	研究会 (A)	[梶 裕史] 年間授業	157
【C3007】	研究会 (A)	[北川 徹哉] 年間授業	158
【C3008】	研究会 (A)	[内山 勝久] 年間授業	159
【C3010】	研究会 (A)	[小島 聡] 年間授業	160
【C3011】	研究会 (A)	[小島 聡] 年間授業	161
【C3013】	研究会 (A)	[後藤 彌彦] 年間授業	162
【C3014】	研究会 (A)	[関口 和男] 年間授業	162
【C3015】	研究会 (A)	[武貞 稔彦] 年間授業	163
【C3016】	研究会 (A)	[田中 勉] 年間授業	164
【C3017】	研究会 (A)	[辻 英史] 年間授業	165
【C3018】	研究会 (A)	[永野 秀雄] 年間授業	166
【C3019】	研究会 (A)	[永野 秀雄] 年間授業	167
【C3020】	研究会 (A)	[長峰 登記夫] 年間授業	168
【C3021】	研究会 (A)	[西城戸 誠] 年間授業	169
【C3022】	研究会 (A)	[西城戸 誠] 年間授業	170
【C3023】	研究会 (A)	[根崎 光男] 年間授業	171
【C3024】	研究会 (A)	[長谷川 直哉] 年間授業	172
【C3025】	研究会 (A)	[日原 傳] 年間授業	173
【C3026】	研究会 (A)	[平野井 ちえ子] 年間授業	174
【C3027】	研究会 (A)	[藤倉 良] 年間授業	175
【C3028】	研究会 (A)	[金藤 正直] 年間授業	176
【C3029】	研究会 (A)	[松本 倫明] 年間授業	177
【C3030】	研究会 (A)	[宮川 路子] 年間授業	178
【C3031】	研究会 (A)	[宮川 路子] 年間授業	179
【C3032】	研究会 (A)	[安岡 宏和] 年間授業	180
【C3034】	研究会 (A)	[渡邊 誠] 年間授業	181
【C3035】	研究会 (A)	[高田 雅之] 年間授業	183
【C3036】	研究会 (B)	[杉戸 信彦] 年間授業	184
【C3037】	研究会 (B)	[岡松 暁子] 年間授業	185
【C3038】	研究会 (B)	[梶 裕史] 年間授業	185
【C3039】	研究会 (B)	[北川 徹哉] 年間授業	187
【C3040】	研究会 (B)	[マコナキー・トロイ] 年間授業	188
【C3041】	研究会 (B)	[後藤 彌彦] 年間授業	189
【C3042】	研究会 (B)	[関口 和男] 年間授業	189
【C3043】	研究会 (B)	[武貞 稔彦] 年間授業	190
【C3044】	研究会 (B)	[田中 勉] 年間授業	191
【C3045】	研究会 (B)	[田中 勉] 年間授業	192
【C3046】	研究会 (A)	[谷本 勉] 年間授業	193
【C3047】	研究会 (B)	[長峰 登記夫] 年間授業	194
【C3048】	研究会 (B)	[根崎 光男] 年間授業	195
【C3049】	研究会 (B)	[長谷川 直哉] 年間授業	197
【C3050】	研究会 (B)	[マコナキー・トロイ] 年間授業	198
【C3051】	研究会 (B)	[吉田 秀美] 年間授業	199
【C3052】	研究会 (B)	[高田 雅之] 年間授業	200
【C3054】	研究会 (B)	[永野 秀雄] 春学期	201
【C3055】	研究会 (B)	[日原 傳] 秋学期	201
【C3057】	研究会 (B)	[谷本 有美子] 秋学期	202
【C3058】	研究会 (B)	[石神 隆] 年間授業	203
【C3059】	研究会 (B)	[安岡 宏和] 年間授業	204
【C3060】	研究会 (B)	[渡邊 誠] 年間授業	205
【C3062】	研究会 (B)	[金藤 正直] 年間授業	206
【C3130】	研究会修了論文	[人間環境学部教員] 秋学期	207
【C3200】	人間環境セミナー	[人間環境学部教員] 春学期	208
【C3201】	人間環境セミナー	[人間環境学部教員] 秋学期	208
【C3202】	インターンシップ	[人間環境学部教員]	209
【C3300】	フィールドスタディ	[人間環境学部教員]	209

HA236

行政法の基礎

後藤 彌彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国民生活が大きく行政に依存するようになった現代国家において、国民と行政との間の法律関係は行政法と呼ばれる。行政法では、私人間の利害調整に関する民事法とは異なった基礎原理の理解が必要となる。この行政法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

行政法の原理、行為形式等を理解することにより、現代国家に生きるものとして今後行政と関わる際の基本的な仕組みが習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

行政主体とその組織構造、法律による行政の原理と適正手続の確保等の原理、行政の行為形式、行政との紛争の裁断など行政法の各分野を概観する。講義形式により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	現代行政の特徴 行政法とは何か 行政の担い手
第2回	行政の組織Ⅰ	①中央政府
第3回	行政の組織Ⅱ	行政の担い手 ②地方自治体
第4回	行政作用の一般理論Ⅰ	法律による行政の原理
第5回	行政作用の一般理論Ⅱ	適正手続きによる行政の透明性の確保
第6回	行政作用の一般理論Ⅲ	情報公開 個人情報保護
第7回	行政の行為形式Ⅰ	行政処分（行政行為）
第8回	行政の行為形式Ⅱ	行政裁量
第9回	行政の行為形式Ⅲ	行政指導 要綱行政
第10回	行政の行為形式Ⅳ	行政立法 法規命令と行政規則
第11回	行政の行為形式Ⅴ	行政計画 行政契約
第12回	行政活動の実現	行政の実効性の確保
第13回	行政救済法Ⅰ	行政不服審査法 行政事件訴訟法
第14回	行政救済法Ⅱ	国家賠償法 損失補償
第15回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを通読しておく。授業内容の復習に力を入れ、テキストに判例が紹介されている場合は判例を調べる等発展的な学習をする。

【テキスト（教科書）】

開講時指定 行政法の改正が頻繁に行われるため、できるだけ最新のものを教科書とする。教科書によっては、授業計画の順序を変更することがある。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的事例、条文をあげ、初めて法律に接するものにわかりやすくなるように努める。

【その他の重要事項】

環境政策を実現する手段として環境法が重要ですが、今後環境法などの勉強を進める上でも、行政法の基礎知識が不可欠である。是非行政法に取り組んでほしい。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA236

民事法Ⅰ

花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ:市民間の法律問題

【到達目標】

到達目標:市民間の取り引きやトラブル等を解決するための法制度および、トラブル等への法的アプローチの理解を通じて、法的思考の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の概要

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考える。たとえば、お金を貸した返って来ない、貸した本を返してもらえない、買った物に傷があった、アルバイト代の遅配、等のトラブルがある。これは、普段なにげなく行っている取引から生じる問題である。また、自転車で人にぶつかって怪我をさせてしまった、ということもあろう。これは取引ではなく、市民間で生じたトラブルである。

このように、トラブルには様々なものがあり、法律問題となることも多い。このような法律問題が、どのように解決されることになるのか、民法や民法関連法を用いて検討し、それを通じて法的な考え方、法律の構造・全体を理解したい。

授業の方法

(1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、およびそれを社会問題として考えていく。また、授業の終わりに、法律問題をどう考えたか、また質問を書いていただき、次回に応えることで理解を深め、また関心を持っていたことを大切にしたい。

(2) 授業では、六法を用いる。六法の見方、調べ方、条文の探し方や読み方等も勉強する。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、関心の強いテーマを掘り下げたり、進捗をみることから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 民事法上の問題と司法制度	授業の進め方や六法について、成績評価について説明する。 その後、民事法とは何か、一般的な法律上のトラブルにどのような法律がかわってくるのか等を見る。
第2回	トラブルの解決基準となる法の体系	解決に向けて手続がどのようにとられるのか、裁判制度（民事）の全体像をみる。民事法、行政法、刑事法にもふれ、法の体系を概観する。
第3回	裁判制度（刑事）	民事上の裁判制度をより理解するために、刑事法上の裁判制度を比較・概観し、裁判員制度も概観する。
第4回	人が民法上権利主体となる時期	民法上権利義務の主体となるのはだれか、いつ主体となるか等、人と法人および、出生問題を見る
第5回	人の権利義務消滅時期	民法上、人が有する権利義務が消滅する死亡について、社会の認識や科学の進歩によってその捉え方が変化していること、臓器移植等現代的な問題を含めて、人の死亡と法律との関係を概観する。
第6回	人の死亡と法律効果	民法上、主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる（死亡・認定死亡）。また、行方不明になった人の権利義務の行方についてもみる。
第7回	代理制度について	契約を通して権利を取得したいとしても、自ら契約を締結できない場合がある。このような場合にそなえた代理制度についてみる。
第8回	取引における条件と取引期間について	取引において生じる権利義務と時間との関係はどうなっているかをみる（条件・期間・時効）

第9回	①ここまでのおまとめ。 ②個人情報について	身近なスマートフォンや携帯電話等の問題を通じて、個人情報について考える。
第10回	取引上の権利の確保方法 ①	権利を確保するための方法として、物の価値を利用する場合がある。その内容がどのようなものかを扱う。
第11回	取引上の権利の確保方法 ②	権利を確保するための方法として、保証、相殺、債権譲渡等がある。それらの方法を概観する。
第12回	契約における法律の効力を発生させない場合	契約締結前に考えていたことが契約に反映していないとか、だまされたり脅されて契約を締結した場合に、効力を発生させない場合について考える。
第13回	夫婦の問題	法律上、夫婦とはどのようにして成立するのか、各々どのような義務を負うのか等、夫婦に関する問題をみる。
第14回	死亡の際の家族の財産の行方	死亡した場合に、その財産がどのようなのか、相続問題を考える。
第15回	おまとめ	ここでは、全体のまとめをみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々とお話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

【テキスト（教科書）】

六法

【参考書】

授業の際、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（適宜課題を出しレポートを提出してもらう。また、毎回法律問題について考え提出していただき取り組みをみる（40%）、および最後に行なわれる試験（60%）で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し、自ら考えられるようになると、日常生活に応用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また、関心がもてると、難易度の高い問題でも、真剣に取り組めるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、関連問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA236

民法Ⅱ

花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ:市民間の法律問題

【到達目標】

到達目標：市民間の取り引きやトラブル等に対応する法の全体像を理解する。そして、その法の理解および、問題を法的に考え解決する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の概要

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考える。そして、具体的な問題を通して、自ら考えることをしていきたい。内容としては、民法に規定されている制度と契約法および不法行為法についてみるとともに、関連する法律問題をみる。たとえば、成年となる年齢とはどのような意味を有するのか、成年となる年齢はどのようにして決められたのか、今後変更の可能性はあるのか、未成年と成年とで法的にどのように違ってくるのか、未成年者の法律行為の問題、成年者の法律行為の問題等のように、テーマごとに検討する。その過程で、法律の役割、法的な考え方を習得していきたい。市民間には、様々なトラブルがある。具体的にどのような点が法律問題となるのか、そのような法律問題をどのように解決すべきか、民法や民法関連法も含めてみていくことになる。

授業の方法

(1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、およびそれを社会問題として考える。また、授業の終わりに質問や感想を書いていただき、次回に伝えることで理解を深め、また関心を持っていただいたことを大切にしたい。

(2) 授業では、六法を用いる。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、社会問題となっているテーマを掘り下げたり、進度をみることから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 民法法の体系、法体系の概観	まず、授業の進め方、六法、成績評価等について説明する。 次に、民法法の授業での対象、民法とは何か、民法法の中の民法について、民法の基本原則を取り上げる。また日常行われる契約について概観する。
第2回	契約責任について	契約が成立するとどのような責任が生じるのか、責任体系を概観する。
第3回	未成年者の契約について	未成年者の取引は法律上どのように考えられているかをみる。あわせて、成人年齢について考える（成人年齢決定の背景、成人年齢の変更の可能性、各種法律との関係）
第4回	成年の契約問題について	成年後見制度の概観をみる。あわせて、成年後見制度と高齢社会を考える
第5回	贈与契約を通してみる。 契約の効力が有効に発生しない場合について	契約する際に予定したこと、異なる結果となった場合の契約について考える。
第6回	契約を消滅させる場合について	賃貸借を通じて、解除と解約告知についてみる。
第7回	クーリングオフ制度について	特定商取引法等をみながら、悪質商法等の社会における問題点を考える。
第8回	リボルビング制度	リボルビング払いを通じて金銭消費貸借契約と利息について考える。
第9回	労働契約について	現代の多様な労働形態と、雇用契約、請負契約、および労働法の体系をみる。
第10回	和解契約について	自転車走行中の事故に関する事件を通じて示談することの意味を考え、和解契約と不法行為責任について概観する。
第11回	委任契約について	具体的な近隣問題に関する判例を通して、法が近隣問題にどうかかわるのかを考え、委任契約についても検討する。

第 12 回	不法行為制度	自動車事故の判例を読み、交通事故について考え、民法の不法行為制度の知識を取得する。
第 13 回	家族と法について	家族について考える。親族、夫婦、親子について、法律上どのように規定しているかをみて、家族について考える。
第 14 回	忘れられる権利について	インターネット上の契約の成立時期,SNS の諸問題,知的財産件について考える。
第 15 回	まとめ	ここでは、授業全体をまとめ、民事法の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々とお話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

【テキスト（教科書）】

六法

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（適宜課題を出しレポートを提出してもらい、また、毎回法律問題について考え提出していただき取り組みをみる（40%）、および最後に行なわれる試験（60%）で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し考えられると、日常生活に活用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また、関心をもてると、難易度の高い問題でも、真剣に取り組めるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、関連問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。また、リスク管理の重要性についても考えられるような内容にしたいと考えている。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA236

国際法 I

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法の特徴、近代国際法の特徴
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の観念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第 15 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様のやり方で行います。履修登録期間中に昨年度のアンケートの結果を掲示板に掲示します。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・国際環境協力コース

HA236

国際法Ⅱ

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海
第4回	海洋法（3）	大陸棚、深海底
第5回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第6回	個人の管轄（1）	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第7回	個人の管轄（2）	国際犯罪、国際刑事裁判所
第8回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続
第11回	紛争の平和的解決（3）	裁判的手続
第12回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動
第13回	武力紛争法規（国際人道法）（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第14回	武力紛争法規（国際人道法）（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第15回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法〔第2版〕』有斐閣、2010年。奥脇直也編『国際法条約集』有斐閣。

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選〔第2版〕』有斐閣、2011年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進めます。履修登録期間中に、掲示板に昨年度のアンケート結果を掲示します。

【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・国際環境協力コース

HA237

市民社会と政治

谷本 有美子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「市民社会」の概念は極めて多義的ですが、この講義では1990年代に台頭してきた「現代の市民社会」を中心に学びます。政府・自治体の政策形成過程と市民の参加、及びNPO・NGO（市民セクター）と政府セクターとの協働ないし緊張関係を焦点を当てながら、日本の伝統的な統治の姿を具体的に理解することを第一の目的とします。その上で、政府・自治体の政策過程への市民セクターの関与のあり方について、多元的な統治（ガバナンス）という考え方を視野に入れつつ、実践的に考えていきます。

【到達目標】

・市民が政策形成に与える影響やその手法を学ぶ
・政治・行政に関して当事者意識を持った判断や行動ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半は、市民社会と政府・自治体・国際政治の場での連携・緊張関係を具体的な事例を紹介しながら学んでいきます。

次に日本における市民社会と政府・自治体との関係性の変化を歴史的にたどりながら、政策形成過程に市民が関わる意義を検討していきます。

後半では、住民投票を伴う自治体の意思決定に関する諸課題を検討し、解決困難な国政課題にも目を向けていきます。

最後に、市民の多様性を念頭に置きながら、市民の政策形成への関わり方について多角的な側面から取り上げ、地域社会のガバナンスという問題を考察します。

授業は講義形式で行います。なお、取り扱った事例に関連して適宜リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義で扱う言葉を概説
第2回	市民セクターの活動と政府	1990年代後半からの日本の市民社会と政府との関係形成の動きを知る
第3回	市民セクターの活動と政策形成への影響	市民社会の取組みが政策形成に影響をもたらした国内の事例を検討する
第4回	市民セクターの活動と国際政治の場	グローバルに活動するNGOの動きと国際政治との関わりについて事例から学ぶ
第5回	戦後日本の市民セクターと政治（1）～「運動」の変遷～	戦後日本の市民運動の歴史と政府との関係性の変化を知る
第6回	戦後日本の市民セクターと政治（2）～「市民参加」の導入～	1970年前後に市民参加を先駆けた自治体の事例から参加の理念を学ぶ
第7回	市民セクターと自治体の政策形成～21世紀の市民参加の傾向～	1990年代半ばからの地方分権の時代に活発化した市民参加の手法を取り上げ、その傾向と課題を知る
第8回	市民セクターと自治体の意思決定（1）	市民が直接政策決定に関与しうる手段として、住民投票のしくみと制度的課題を学ぶ
第9回	市民セクターと自治体の意思決定（2）	住民投票の近年の運用事例から、諸課題を検討する
第10回	市民セクターと自治体の意思決定（3）	地域住民の意思表明と国政との相克関係を考える
第11回	市民セクターの合意形成と地域ガバナンス	市民参加の近年の新たな試みを取り上げながら、市民間の合意形成のあり方を含め、参加と地域ガバナンスに関わる諸課題を検討する
第12回	市民セクターと自治体議会	自治体議会における市民参加の試みを知る
第13回	市民社会のガバナンスを考える（1）	参加の機会を保障されていない人々の問題を事例から検討する
第14回	市民社会のガバナンスを考える（2）	税の使途選択への市民社会の関わりについて、事例を通じて考える
第15回	まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の関心分野の中から、政府・自治体あるいは国際機関等との関わりのあるトピックを見つけ出し、常にウォッチする習慣を身につけてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

授業内で必要に応じ、参考文献等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末の論述試験（80％）に、授業内の小レポート提出状況等（20％）を加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ビデオや新聞記事等を活用して、具体的な事例から考える機会を提供します。

【その他の重要事項】

地方自治論、NPO・ボランティア論及びNGO活動論を履修済か、同時期に履修することで、本講義の理解をより深めます。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース

HA237

行政学

申 龍 徹

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。現代行政の基礎概念と行政システムの理解

【到達目標】

現代社会における民主主義的原理にもとづく政治と、機能的な合理主義のための行政との関係について、政治学的に考察できる視座を身につけること。

- (1) 春学期では、学説史や行政理論のそれぞれの特徴を理解する。
- (2) 秋学期では、現実の行政の姿において問題と改革課題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義形式で進めるが、必要に応じて関連する分野の専門家を招いて議論を聞く場を設定する。毎回講義メモ（レジュメ）を配布するとともに、事前に授業支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方などを説明する。
第2回	行政学への招待	行政学の学際的なディシプリンの形成を歴史的な流れと他の学問分野との比較において解説する。
第3回	行政の誕生と福祉国家の出現	近代的な行政誕生の背景と福祉国家の出現による行政国家化現象の内容について解説する。
第4回	政府体系と役割分担	近代国家の形成における政府体系の設定と政府間の役割分担について、国際比較の視点から解説する。
第5回	行政学の理論展開	官房学をはじめ米国の行政管理論、そして行政国家以降の行政理論の展開について整理・解説する。
第6回	政治と行政の関係（政官関係）	政治と行政の関係について、政官関係論を踏まえながら解説する。
第7回	近代官僚制の成立と特徴	官僚制の概念の歴史的展開とマックス・ウェーバーの官僚制概念について解説する。
第8回	官僚制の病理現象と処方	官僚制における逆機能としての病理現象とその克服のための処方について解説する。
第9回	行政文化	現代行政の特徴を行政の文化的特徴から抽出し、政治文化や市民文化、企業文化との相違において解説する。
第10回	政府の守備範囲と行政改革	行政の守備範囲の変化と行政改革の内容について、英米の改革動向を踏まえながら解説する。
第11回	規制緩和と分権改革	1990年代の世界的トレンドであった規制緩和と分権改革の背景と内容について解説する。
第12回	政策の概念と政策類型	政策の概念定義と政策の類型論について代表的なものを取り上げ、各理論の特徴について解説する。
第13回	公共政策の政策過程	現代行政における政策過程について立案・決定・執行・評価などの各ステージについて解説する。
第14回	行政統制と行政責任	行政における統制と責任に関する理論の内容と代表的な論争を解説する。
第15回	グローバル化の中の行政	グローバリゼーションの深化の中で行政環境の変化と行政の機能転換について解説する。
第16回	日本行政学の展開	日本における行政制度の流れを学説史に基づき整理・解説する。
第17回	議員内閣制と官僚制度	議院内閣制の下での官僚制度の仕組み、政治と行政の関係について解説する。
第18回	政府の構成と意思決定過程	政府の構成と意思決定のプロセスについて解説する。
第19回	予算制度の仕組みと現況	予算制度の仕組みについて、法的な根拠、決定プロセス、その現況について解説する。

第 20 回	公務員制度の仕組み	国家公務員制度及び地方公務員制度の法的仕組みと内容、特徴について解説する。
第 21 回	日本的な人事管理の慣行	英米諸国との国際比較における日本の人事管理の慣行について解説する。
第 22 回	公務員制度改革の歴史と動向	戦後の公務員制度改革内容と現状について解説する。
第 23 回	地方分権改革と自治体改革	1990年代半ばからの分権改革の流れと主な内容、自治体の行財政改革について解説する。
第 24 回	ガバナンスと新しい公共の登場	ガバナンスの台頭と新しい公共の登場に解説する。
第 25 回	欧米にける行政改革の動向	2000年代以降の欧米諸国における行政改革のテーマや内容について解説する。
第 26 回	環境変化と行政①人口減少社会	人口減少社会の進行と行政の課題について考える。
第 27 回	環境変化と行政②災害対策	3・11のような巨大な震災や自然災害などのリスクに対応するための行政課題について考える。
第 28 回	環境変化と行政③行政サービスの未来	市場化、サードセクターの拡大などの時代的要請が強まる中での行政サービスの未来について考える。
第 29 回	行政文化の特徴と改革課題	日本の行政における文化的特徴、稟議制、官民関係などについて解説する。
第 30 回	総括	講義内容についての質問を受けながら総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の知識のみならず、新聞やテレビなどのマスコミの情報にも関心を持ち、当事者としての自覚をもつ。

【テキスト（教科書）】

特定しない。開講時に文献リストの一覧表を配布する。

【参考書】

開講時に文献リストの一覧表を配布する。

【成績評価の方法と基準】

講義内容に対する質問や事前学習などの積極性（30%）、筆記試験（春学期・秋学期ともに35%）による絶対評価

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター（パワーポイント）の使用

【その他の重要事項】

自治体論や政治学などの関連する科目との接点が多いので、なるべくあわせて受講することが望ましい。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース

HA237

国際関係論

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における平和の構築について考察する。

【到達目標】

国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第 2 回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近現代を中心に概観する。
第 3 回	冷戦期の国際関係（1）	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第 4 回	冷戦期の国際関係（2）	軍拡競争と軍縮
第 5 回	冷戦期の国際関係（3）	核兵器・原子力を巡る諸問題
第 6 回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際問題の特徴
第 7 回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第 8 回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第 9 回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第 10 回	南北問題の歴史的変遷	南北問題と南南問題
第 11 回	貧困と開発	途上国問題
第 12 回	人権	国際人権保障の困難性
第 13 回	地球環境問題	地球環境問題の特質
第 14 回	国際協力と日本の役割	国際社会における日本の取り組み
第 15 回	国際社会における課題	国際社会における諸問題と今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で行った範囲をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様に進めます。

履修登録期間中に、掲示板に昨年度のアンケート結果を掲示します。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境サイエンスコース

HA236

アメリカ法の基礎

永野 秀雄

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカに興味のある方を対象に、その法制度の基本的な特徴を講義します。憲法上の問題を中心に、統治制度や人権保障のあり方などを検討していきます。それぞれのテーマでは、興味深い判例を紹介していきます。

【到達目標】

学生が、この授業をとおして、アメリカ法の基本的な制度を理解できるようになるとともに、法律問題の解決策がひとつではなく、様々なアプローチがあることを理解できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ法の基礎を講義します。まず、導入部としてアメリカの歴史と法の発展を学びます。これに続いて、連邦制度と、独自の三権分立を学びます。その後、わが国の憲法にも大きな影響を与えて続けている人権法について、その代表的なトピックを学習します。そして、社会に出てからも役に立つ労働法、独占禁止法、契約法、不法行為法などを講義します。最後に、日本とアメリカ法の関係を一緒に考えてみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ法の歴史	植民地時代、独立革命、連邦憲法の制定、英米法の特徴
第2回	連邦制度	特に憲法、軍隊をもつ州政府について
第3回	連邦議会	連邦議会の特色、日本の議会との差異
第4回	大統領	大統領の権限、大統領府の組織
第5回	司法権	連邦裁判所、法曹、陪審制、州の司法権との関係
第6回	表現の自由	表現の自由の限界、報道の自由
第7回	集会・結社の自由、通信の秘密	これらの自由とその限界
第8回	宗教の自由	宗教の自由の限界と国教樹立の禁止
第9回	プライバシーの保護	個人、家族、ライフスタイルのプライバシー
第10回	法の下での平等（1）	人種差別の規制
第11回	法の下での平等（2）	男女差別等の規制
第12回	労働法・社会保障法	米国の社会労働法制の特徴
第13回	経済的自由とその限界	独占禁止法等の仕組み
第14回	契約法・不法行為法	米国の特色ある制度について
第15回	日本とアメリカ法	その関係性の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

松井茂記『アメリカ憲法入門（第6版）』（有斐閣、2008年）。

【成績評価の方法と基準】

定期試験により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、アメリカ法に興味を持って頂ける授業をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

HA237

地方自治論

谷本 有美子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000年の地方分権改革や平成の大合併を経て、現在の地方自治では、地域の特性を活かしつつ、自律的な自治体運営を行うことが期待されています。また、人口減少問題への対策を本格化させた政府が、自治体の「ひと・まち・しごと創生」に対する支援策を展開し始めるなど、自治体は地域経営についても積極的な取り組みが求められています。この講義では、受講生がそうした自治体の主人公の「市民 (Citizen)」として地方自治に関わる際の基礎知識を習得し、これからの地方自治のあり方について主体的に思考する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

・地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける。
・地方自治の最新の動向を、市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半の授業では、地方自治の成り立ちや歴史の変遷を知り、欧米諸国との比較を通して日本の地方自治の特徴を学びます。その後、地方自治の基本的な制度・しくみについて解説した上で現場の運用事例等を紹介しながら、市民の視点で実践的に検討していきます。

後半では、国地方を通じた事務処理体制や政府間関係の問題も取り上げ、分権型の地方自治のあり方を考察します。

それらを踏まえて、市民の政府としての自治体に必要とされるシステムについて、運用の情報を提供しながら、見識を深めていきます。

授業は講義形式で行い、内容にはビデオや新聞記事等を活用しながら地方自治の最近の動きも交えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「地方自治」と「自治」の概念	「地方自治」と「共同体の自治」との含意を概説し、講義で扱う内容を俯瞰する
第2回	欧米諸国の地方自治と日本の地方自治	日本の地方自治に大きな影響を与えた欧米諸国の地方自治制度を取り上げ、比較を通じて、日本の地方自治制度の特色を確認する
第3回	近代日本の地方自治の成り立ち	明治維新以降、戦後地方自治制度の施行までの間に規定されていた地方制度を学びながら、近代日本における国家と地方自治との関係性を確認する
第4回	戦後日本における中央集権的な地方自治	戦後憲法で保障された地方自治の意義を踏まえつつ、戦後復興期から高度成長期までの間に中央集権的に進められた制度改正や「昭和の大合併」を取り上げ、自治体に求められた役割について検討する
第5回	大都市の制度と大都市自治体による都市政策	大都市に関わる制度を概説した上で、大都市自治体が国に先駆けて取り組んだ都市政策を取り上げ、自治体による政策革新の意義を検討する
第6回	二元代表制と長のリーダーシップ	二元代表による機関対立主義を採る自治体統治機構について概説し、その特色である首長（執行機関）の優位性に着目して、自治体運営で発揮される長のリーダーシップについて考察する
第7回	自治体議会と地域政治	住民の代表として行政監視機能を果たす議会の活動を概説し、二元代表制における議会の政治的役割という観点から、議会による政策形成の可能性を考察する
第8回	住民自治を支える参加のシステム	地方自治法に定めのある住民の直接請求権や自治体が独自に定める市民参加のしくみを取り上げ、市民が主人公となる地方自治の民主主義的機能について検討する

発行日：2021/6/1

第 9 回	全国画一の政策と自治体の政策決定	対人サービスを中心とする福祉分野の特定政策を取り上げ、国・都道府県・市町村の役割分担を概説した上で、実施主体となる基礎自治体の政策決定のあり方について検討する
第 10 回	自治体財政と住民による税負担	全国的な財政調整・財源保障制度を基礎に成り立つ自治体財政の特色を踏まえつつ、住民が負担する税の側面に着目して、地方自治の受益と負担の関係性を検討する
第 11 回	2000 年の地方分権改革と政府間関係の変容	第 1 次地方分権改革を経て対等な関係に位置づけられた国と地方との政府間関係に着目し、近年の政策決定や国の関与の事例から、関係性の変容を検討する
第 12 回	平成の大合併と小規模町村	平成の大合併で市町村数は 3 分の 1 に減少し、合併の功罪にはさまざまな論議がある。ここでは合併を行わなかった小規模町村にも着目しながら、住民自治と行政サービス提供体制の問題から考察する
第 13 回	自治体の行政活動と民に広がる公共サービスの担い手	公共サービスの担い手が民へと拡大し、公民の役割分担が大きく変化する中で、自治体が果たすべき役割とは何かについて、再考する
第 14 回	都区制度と「大阪都」構想にみる大都市の住民自治	東京の都区制度と「大阪都」構想とのしくみを比較しながら、大都市地域における住民自治の機能のあり方について検討する
第 15 回	「市民の政府」たる自治体のシステム	自治体を「市民の政府」として運用するにはどのようなシステムが必要か。自治基本条例や総合計画など自治体運営の基本的なルールの活用事例を参考にしながら、今後の可能性を考えていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索するなど情報収集に努める
- ・自分の住んでいる自治体の状況を調べる
- ・日常的に地方自治に関連のありそうな新聞記事を読む習慣を身につける

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配布します。

【参考書】

- ・『ホーンブック 地方自治（第 3 版）』（北樹出版、2014 年）
- その他の参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80 %）に授業内のレポート提出状況等（20 %）を加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2015 年度より担当

【その他の重要事項】

- ・旧科目名称「地方自治論 I」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA236

憲法の基礎

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

憲法とはどのような法であるか、どのように成り立っているのかを学ぶ。憲法の基本的な構造や枠組みを理解する。日本国憲法がどのような憲法であるかを知る。

【到達目標】

現実の具体的な社会問題がどのように憲法と関連付けられているかを学び、日本における法の支配について理解することを目的とする。憲法と関連して問題となっている社会問題について理解を深めることにより、将来の社会問題を法的に分析する視点を持つことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

配布資料を使用しながらの講義形式による。
場合によっては、映像などを取り入れることもある。
シラバスは進度によって多少変更する可能性もある。
憲法の条文を暗記する必要はない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 憲法とは？	法学はどのような学問か。 憲法はどのような法律か。
第 2 回	憲法の基礎 日本国憲法の成り立ち	憲法の定義 日本国憲法の成立過程 日本国憲法の概要
第 3 回	天皇の国事行為 平和主義	天皇と国民主権 日本国憲法と自衛隊
第 4 回	統治機構①	権力の分立 選挙と政党 日本の選挙制度の問題点
第 5 回	統治機構②	立法権としての国会
第 6 回	統治機構③	行政権としての内閣 裁判所
第 7 回	統治機構④	裁判所（続き） 地方自治制度
第 8 回	統治機構⑤	地方自治制度（続き）
第 9 回	基本的人権の尊重① 基本的人権の尊重②	基本的人権概論 人権の制約 平等権
第 10 回	基本的人権の尊重③	表現の自由
第 11 回	基本的人権の尊重④	思想・良心の自由 身体の自由
第 12 回	基本的人権の尊重⑤	身体の自由（続き） 財産権
第 13 回	基本的人権の尊重⑥	社会権とは 生存権
第 14 回	基本的人権の尊重⑦	教育・労働 新しい人権 まとめ
第 15 回	試験	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事等で憲法問題に関係のある社会問題を常に意識しておくこと。
（必要がある際には、授業のときに指示します）

【テキスト（教科書）】

授業で配布する資料による。

【参考書】

芦部信喜『憲法【第 5 版】』（高橋和之補訂版、岩波書店、2011 年）
ポケット六法（有斐閣）などの六法。
その他授業の際に指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（20%）および学期末試験（80%）による。

【学生の意見等からの気づき】

前年度と同様に行う。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントや映像機器を使用する可能性もある。
講義資料として配布したものは、授業支援システム上に随時アップロードする。

【その他の重要事項】**【関連する科目・分野】**

行政法、国際法などの法律関連科目
政治学、社会制度論等の国家の組織に関わる学問

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA236

刑法の基礎

渡辺 靖明

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑法とは、端的に言えば、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律のことです。しかし、この世の中の「悪いこと」のすべてが刑法上の犯罪として処罰されるわけではありません。例えば、前日の遊び疲れで寝坊したため、授業への出席をサボるのは良くないことではありますが、これを処罰する法律はありません。それでは、刑法上処罰の対象となる「犯罪」は、いかなるもので、どのような要件の下で成立し、あるいはその成立が否定されるのでしょうか。このことを学びながら、刑法の社会における意義・役割・目的を考えることが、この授業の目的です。

【到達目標】

例えば、次の甲の行為は、犯罪として処罰されるでしょうか。警察官甲は、Vが児童乙の誘拐犯の一味であると確信し、その取調べにおいてVが誘拐犯であることを否認していたにもかかわらず、このままでは乙の身に危険が及ぶと考えて、そのアジトを自白させるため、Vに対して激しい暴行を加えて、傷害を負わせた。

甲の暴行・傷害の行為は乙を救うという「正義」のためであったから処罰すべきではないと考える人もいるかもしれません。しかし、それでは、すでに乙が殺害されていたり、Vが本当に誘拐犯ではなかったことが拷問した後判明したときはどうでしょうか。それでも甲の行為は犯罪ではなく、許されると言い切れるでしょうか。また、憲法が公務員による拷問を禁止している以上、やはり甲の行為は許されず、処罰されると考える人もいます。それでは、甲が警察官ではなく、民間企業のサラリーマンで、なおかつ乙の親だったらどうでしょうか。公務員ではないのだからと単純に割り切ったり、子を思う親の気持ちからすると許されるべきなどと感情論に任せて、拷問（他人への暴行・傷害）を許容してよいのでしょうか。

このような法的問題は、「犯罪」と「刑罰」について、また「加害者」と「被害者」との関係について、さらに「国家」「社会」と「市民」との関係などについて、多角的な視野から考える必要があります。そのためには、刑法と倫理・道徳との関係、刑罰の目的、刑法と他の法律との関係、刑法の原則及び犯罪の成立要件の基礎等を理解しておかなければなりません。この授業では、その基礎知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回ごとにレジュメを配布し、判例等の事案を素に作成した具体的な事例について検討し、各テーマごとの理解をはかります。また、その理解を深めるため、講師が適宜質問をして、それに対する受講者の回答を踏まえて、さらに解説を加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／なぜ刑法が必要なの？	倫理・道徳に反する行為と犯罪行為との関係、社会的非難と刑罰との関係などを学ぶ。
第2回	「損害賠償」と「刑罰」との違いって？	民事不法行為に対する損害賠償と犯罪に対する刑罰との違い、刑罰の目的（応報か予防か）などを学ぶ。
第3回	「法律なければ犯罪なし、犯罪なければ刑罰なし」ってどういう意味？ 一罪法定主義	例えば、学校や駅などでのスマホ等の無断の充電行為は、「財物」の窃盗に当たるかなどを例にしながら、「罪刑法定主義」の基礎を学ぶ。
第4回	「会社」も犯罪行為ができる？ 一構成要件（1）行為の主体	「自然人」のみならず「法人」も犯罪行為の主体として処罰されるかなどを学ぶ。
第5回	殺人犯人の生みの親も殺人罪で処罰される？ 一構成要件（2）因果関係	刑法上の「因果関係」（行為と結果とのつながり）について学ぶ。
第6回	何もしていないことが犯罪行為にあたる？ 一構成要件（3）不作為犯	「不作為犯」について学ぶ。
第7回	自分の身を守るために人を殺しても処罰される？ 一違法性（阻却事由）	正当防衛など「違法性」が阻却（否定）される場合について学ぶ。

第8回	別れるつもり恋人に「後から自分も死ぬから。」と嘘を言って、自殺させたら、殺人罪？それとも自殺関与罪？ 一被害者の同意	「被害者の同意」によって違法性が阻却される原理と限界等について学ぶ。
第9回	「少年」や「心神喪失者」だと、どうして処罰されないの？ 一責任	「責任能力」等について学ぶ。
第10回	「不注意」や「勘違い」で人を殺してしまったら？ 一故意・過失／錯誤	「故意」と「過失」及び「錯誤」について学ぶ。
第11回	生きている人だと思って死体の胸部を包丁で刺したら、殺人未遂？それとも死体損壊？ 一人を殺しに行くと言っている友人を励ましたら処罰される？ 一「未遂」／「共犯」	「未遂犯」及び「共犯（教唆・幫助・共同正犯・共謀共同正犯）」について学ぶ。
第12回	刑法では、生命・身体はどのように保護される？ 一個人的法益に対する罪（1）生命・身体に対する罪	殺人罪、自殺関与罪、暴行罪・傷害（致死傷）罪、過失傷害・致死罪等について学ぶ。また「胎児性致死傷」についても学ぶ。
第13回	刑法では、自由・人格はどのように保護される？ 一個人的法益に対する罪（2）自由・人格に対する罪	脅迫罪、逮捕・監禁罪、強要罪、強姦罪、名誉棄損罪・侮辱罪、業務妨害罪等について学ぶ。
第14回	いやがらせのために友人のレポートを持ち去ってすぐに廃棄したら、窃盗罪？ それとも器物損壊罪？ 一個人的法益に対する罪（3）財産に対する罪①	財産犯罪の基礎について学ぶ。また、窃盗罪・強盗罪等についても学ぶ。
第15回	未成年者が成年と偽って、酒やタバコを買っても詐欺罪？ 一個人的法益に対する罪（4）財産に対する罪②	詐欺罪、恐喝罪、背任罪、盗品関与罪、器物損壊罪等についても学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメ等に基づく予習・復習をしてください。予習の際には事例に目を通しておくと、授業の内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】

授業時に説明しますが、例えば「刑法基本講義（佐久間修ほか・有斐閣・2版・2013）」は、1冊に刑法の総論・各論の内容が収められており、事例も豊富です。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、基本的に、授業で取り上げたトピック、事例に関する小レポート7割（3～4回程度）、小テスト2割及び平常点1割で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

「具体的でわかりやすかった。」「刑法の基礎知識が身についた。」など、好意的なコメントも見られましたが、「講師の話し方が早く、授業に計画性がなかった。」とのコメントもありました。本年度は、ゆっくと落ち着いた口調を心がけ、可能な限りシラバス通りに授業が進むよう努力と工夫をしたいと思えます。また、前年度までと比べて、よりわかりやすく、多くの受講者が興味を持てる授業内容にしたいと考えています。

【その他の重要事項】

秋学期開講科目の「環境法Ⅳ」（環境刑法）の授業では、主として環境保護のための犯罪と刑罰を学びます。「刑法の基礎」を履修しておけば、「環境法Ⅳ」の授業の内容をより深く理解することができます。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA336

環境法Ⅰ

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有害物質、廃棄物、地球環境問題などわれわれのまわりには、解決をせまられている環境問題が山積する。我が国の公害・環境法の生成、現在の体系、環境法の特徴、基本理念などを学び、環境政策を考えるうえでの基礎的な到達点を把握する。

【到達目標】

環境法政策の生成、体系等の基礎を学ぶことにより、持続可能な社会に生きていくための基本が習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

高度経済成長のひずみとして現れてきた公害、自然破壊などの環境問題に対し、公害対策基本法などの公害法や自然保護法が生成した。さらに地球環境問題を迎え、環境基本法を中心とした法体系が完成した。また、大量生産大量消費から生じてきた廃棄物問題に対しては循環型社会の形成が要請される。歴史的視点に立ってこれらの環境法体系を俯瞰するとともに、環境法の基本原則・理念を学ばいわば、環境法の総論である。講義形式により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の進め方と概要
第2回	公害法の萌芽	戦前の公害問題とその対応
第3回	戦後の復興と公害法	公害防止条例と水質二法
第4回	公害事例と法Ⅰ	イタイイタイ病と鉱業法 公害裁判
第5回	公害事例と法Ⅱ	水俣病と水質二法等 公害裁判
第6回	公害事例と法Ⅲ	四日市公害とばい煙規制法 公害裁判
第7回	公害対策基本法	全総計画 新産業都市 三島沼津コンビナート計画 公害対策基本法の制定 公害14法の整備
第8回	公害国会	国立公園制度、自然公園制度の整備
第9回	自然保護法の歩み	都市生活型公害
第10回	環境法の発展	地球環境問題 環境基本法の概要
第11回	環境基本法	循環型社会形成推進基本法の概要、体系
第12回	循環型社会形成推進基本法	生物多様性基本法の概要、体系
第13回	生物多様性基本法	環境法の体系と新しい動き
第14回	近年の環境法	授業の総括
第15回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、プリントを学習する。興味をもった事例、制度を掘り下げて調べてみる。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定するテキストとプリントによる。

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による

【学生の意見等からの気づき】

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

【その他の重要事項】

この講義は、各論として環境法Ⅲ、比較環境法へ発展する。また、過去の公害経験やそれに対する対応は、詳しくは「日本公害史と法」で扱う。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA336

環境法Ⅱ

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟や、原子力施設をはじめとする嫌悪施設に関する訴訟とそのあり方を検証します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例と限界
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第14回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ
第15回	原子力施設関連訴訟等	原子力損害賠償法とその関連法、その他の嫌悪施設に関する訴訟

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

定期試験により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA336

環境法Ⅲ

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別の公害法、廃棄物法などの国内環境法の内容を学び、環境汚染を防止するための仕組みや政策を把握する。

【到達目標】

環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識が習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

公害、廃棄物、リサイクルに関連する主要な法律に関連して、これに対する法の仕組み（規制対象、規制基準、規制を遵守させる仕組み）などの概要を把握するとともに、大気汚染等の状況や廃棄物リサイクルの状況を学び、現行政策の内容と問題点を考える。講義形式により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	紛争処理と法	豊島の事例と公害紛争処理法
第2回	被害救済と法	公害被害救済法から公害健康被害補償法への発展
第3回	費用負担と法	補償法の費用負担 公害防止事業者負担法の費用負担
第4回	大気汚染防止法Ⅰ	固定発生源の規制
第5回	大気汚染防止法Ⅱ	移動発生源の規制
第6回	その他大気汚染諸法	自動車NOxPM法など
第7回	水質汚濁防止法Ⅰ	工場事業場規制
第8回	水質汚濁防止法Ⅱ	生活排水対策
第9回	その他水質汚濁諸法	瀬戸内法、湖沼法、下水道法など
第10回	地盤沈下、土壌汚染と法	地盤沈下二法 土壌汚染二法
第11回	感覚公害と法	騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法
第12回	廃棄物処理法Ⅰ	一般廃棄物
第13回	廃棄物処理法Ⅱ	産業廃棄物
第14回	リサイクルと法	容器包装リサイクル法など
第15回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、プリントを学習する。興味をもった制度を掘り下げて調べてみる。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定するテキストとプリントによる。

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による。

【学生の意見等からの気づき】

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

【その他の重要事項】

この講義は、環境法Ⅰの各論にあたる。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA336

環境法Ⅳ

長井 圓

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境保護のための法体系は、①環境民法、②環境（憲法）行政法および③環境刑法に区別される。この授業では、環境刑法すなわち「環境保護のために、刑法がどのような犯罪に対して、どのような刑罰を科すべきか」について、基礎から応用までをやさしく学ぶ。

【到達目標】

豊かな自然環境を未来の世代にも残すために、環境に有害なあらゆる行為（生産消費・環境負荷）を犯罪として処罰するならば、私たち人間は、そもそも生活できるでしょうか。また、誰もが環境犯罪者になってしまわないでしょうか。そうすると、どのような環境犯罪を処罰すべきか、またそれに対してどのような刑罰が効果的かを検討しなければなりません。そこで、この授業では、適正な犯罪処罰の基本原則および限界を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

特に、環境行政法と環境刑法との関係について理解するために、「総論」として、1. 刑法の基礎理論、2. 公害刑法から環境刑法への発展、3. 環境刑法の保護法益と経済法則、「各論」として、1. 公害刑法・公害罪処罰法および2. 廃棄物処理法（廃掃法）の判例について、分かりやすく解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 環境倫理と環境刑法	罪刑法定主義・責任主義などの刑法の特色を学び、環境保護における倫理・道徳と刑法の役割を理解する。
第 2 回	環境の法的保護における刑法の役割	環境保護のための民法・行政法・刑法の果たすべき各法的役割を理解する。
第 3 回	企業犯罪と行政刑法での法人処罰	両罰規定における行為者の処罰と事業主（自然人・法人）の処罰について理解する。
第 4 回	公害刑法および環境刑法の歴史	四大公害事件の公害対策基本法と地球環境時代の環境基本法との理論的差異について学ぶ。
第 5 回	公害刑法による生命・健康の保護	熊本水俣病事件刑事判決（環境判例百選 105 事件）における胎児性致死傷と公訴時効の問題点について学ぶ。
第 6 回	公害罪処罰法の危険犯と業務上過失傷害	日本アイロジル塩素ガス流出事件判決（環境判例百選 106 事件）における危険犯処罰・因果関係の推定を理解する
第 7 回	環境刑法の保護法益（未来世代法益）	リスク社会・執行の赤字と近代刑法の危機に直面する環境刑法の保護法益と犯罪構成要件について学ぶ。
第 8 回	環境刑法の経済法則と最終手段性	水・空気・生態系等の日常的侵害を防止するには、外部不経済を内部化する犯罪規定が必要になることを理解する。
第 9 回	廃棄物処理法の「廃棄物」概念の相対性（1）	「おから」は、食品（有用物）になることも、産業廃棄物になることもある（環境判例百選 49 事件）。
第 10 回	廃棄物処理法の「廃棄物」概念の相対性（2）	不要物として排出された「木くず」をリサイクルしても「廃棄物」にあたることもある（東京高判平成 20・4・24、同平成 20・5・19）。
第 11 回	廃棄物処理法の「不法投棄」概念の相対性（1）	産業廃棄物の「野積み」も不法投棄にあたることもある（最決平成 18・2・20 刑集 60 巻 2 号 182 頁）。
第 12 回	廃棄物処理法の「不法投棄」概念の相対性（2）（共罰的行為）	産業廃棄物の「野積み」後の「覆土」も不法投棄にあたる（東京高判 21・4・27）。
第 13 回	廃棄物処理法の「不法投棄」概念の相対性（3）	「し尿汚泥」の処理施設への投入も不法投棄にあたることもある（最決平 18・2・28 刑集 60 巻 2 号 269 頁）。
第 14 回	廃棄物処理法の不法投棄の共謀共同正犯	硫酸ビッチの処理を委託しただけでも未必の故意による不法投棄罪の共謀共同正犯にあたる（最決平 19・11・14 刑集 61 巻 8 号 757 頁）。

第 15 回 廃棄物処理法の「産業廃棄物の処理の委託」の意義 産業廃棄物を直接許可業者に委託する場合以外には委託処理違反の罪（25 条 4 号・12 条 3 項）が成立する（最決平 18・1・16 刑集 60 巻 1 号 401 頁）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り扱った事項について、時折、課題レポートの提出が求められます。

【テキスト（教科書）】

長井 圓著『環境刑法の保護法益と基礎理論』（刊行予定）。

【参考書】

『環境法判例百選』（第 2 版・有斐閣 別冊ジュリスト・2011）、町野朔（長井 圓分担執筆）『環境刑法の総合的研究』（信山社・2003）、中山研一ほか編『環境刑法概説』（成文堂・2003）。その他の新しい文献等については、授業時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

出席、数回の課題レポートの提出または小テストで総合評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

犯罪に対して刑罰がなぜ必要なのか（応報と予防）。故意・過失・責任能力がないと犯罪にならないのは、なぜでしょうか。環境保護の規定があっても、それが行政官庁によって必ずしも実施されない（執行の赤字）のは、なぜでしょうか。それには理由があります。刑法の基礎について学びつつ、環境法の理解に不可欠な知識が得られる面白い授業なので、ふるって受講して下さい。

【その他の重要事項】

春学期の開講科目として「刑法の基礎」（渡辺靖明担当）を履修した学生は、是非ともこの「環境法Ⅳ」を履修して下さい。そうすれば、さらに環境刑法への理解が深まって、楽しい授業となるでしょう。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA336

国際環境法

岡松 暁子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成（1）	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成（2）	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質（1）	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質（2）	世代間衡平、予防的アプローチ
第8回	国際環境法の性質（3）	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第9回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第10回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第11回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第12回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第13回	貿易と環境	GATT/WTOと環境問題
第14回	企業活動と環境	多国籍企業の活動と責任
第15回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005年。
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。
履修登録期間中に、掲示板に昨年度のアンケート結果を掲示する。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境サイエンスコース

HA336

比較環境法

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の環境問題の主要なテーマである環境影響評価、自動車環境対策、有害物質対策などについて、わが国と外国の取り組みを比較しつつ概観し、わが国の取り組みのあり方について別の角度から考える。

【到達目標】

環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識を習得するとともに地球社会の一員として国際的に協調して取り組む重要性を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

世界的に取り組まれている環境問題の主要なテーマである、環境影響評価、自動車排出ガス、有害物質対策、地球環境問題について、わが国の取り組みの経緯と内容、同じ問題に対する外国の取り組みの差異などを比較考察する。講義形式により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	この講義の位置づけ、概要
第2回	国際的な環境保護の歩みⅠ	産業革命期の環境法の萌芽 国立公園制度とナショナルトラスト
第3回	国際的な環境保護の歩みⅡ	原子力事故 国際会議
第4回	環境影響評価制度Ⅰ	わが国の制度とNEPA①
第5回	環境影響評価制度Ⅱ	わが国の制度とNEPA②
第6回	環境影響評価制度Ⅲ	SEA
第7回	自動車排出ガス規制Ⅰ	マスキー規制
第8回	自動車排出ガス規制Ⅱ	ディーゼル規制
第9回	自動車問題に対する新しい動き	地球温暖化対策 混雑税
第10回	有害物質対策Ⅰ	DDT等の農薬 PCBと化審法
第11回	有害物質対策Ⅱ	外国の制度 ダイオキシン REACH PRTR
第12回	有害物質対策Ⅲ	スーパーファンド法とわが国の制度
第13回	土壌汚染対策	温室効果ガス算定報告
第14回	地球環境問題 新エネルギー	RPS法、FIT法など
第15回	むすび	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリント、参考書を学習する。興味を持った制度を掘り下げて調べてみる。

【テキスト（教科書）】

プリント

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

定期試験による。

【学生の意見等からの気づき】

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

【その他の重要事項】

・旧科目名称「国際環境法Ⅱ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・国際環境協力コース

HA336

労働環境法

沼田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働するうえで、「人らしい扱い」をうけるために必要な法規制や裁判例の動向について取り扱います。

【到達目標】

1. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
2. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定レベル）を解答できるようになる。
3. さらに優秀な学生は、「労働環境法」として取り上げる労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題もある程度解答できるようになる。
4. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題に、文章で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

2008年のリーマンショックを契機に、雇用問題についての関心が高まっています。その際によくいわれるのは、「人らしい扱いを。」というものです。このことをILOでは、「ディーセントワーク」といい、その確立を大きな課題としています。労働の現場では、人とモノが有機的に結合して何かを生み出すわけですが、だからといって人は「モノ」ではありません。現代の就労モデルを念頭におく限り、1日のうちの多くの時間が労働に割かれます。であれば、労働の環境そのものも、「人らしい扱い」をうけるに相応しいものでなければなりません。

この講義では、労働するうえで、「人らしい扱い」をうけるために必要な法規制や裁判例の動向について取り扱います。

また、講義形式を基本とします。

講義では、パワーポイントを利用します。

講義内容は、受講者の問題関心や理解度に応じて、適宜変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、「労働環境法」に関する説明。	講義の進め方や評価方法の説明。「労働環境法」ととりまく構造的な概念である「労働法」の簡単な全体像の説明。
第2回	法学の基礎知識	「労働環境法」を履修するにあたって必要な最低限の法学に関する知識についての説明。
第3回	労働基準法上の規制（1）	労働基準法上の規制を守らせるための実効性確保手段を説明する。
第4回	労働基準法上の規制（2）	労働時間規制を中心とした問題を扱う。
第5回	労働基準法上の規制（3）	時間外労働について説明する。
第6回	労働安全衛生法（1）	労働者の安全衛生の確保。産業医の問題点。
第7回	労働安全衛生法（2）	安全衛生に関する規制。医師の面接指導制度の問題点。
第8回	業務命令の限界と安全配慮義務（1）	業務命令の限界について。
第9回	業務命令の限界と安全配慮義務（2）	雇用者である使用者の安全に対する配慮義務について。
第10回	労働者災害補償保険法（1） －制度概要・業務上外認定－	労災保険制度の概要。業務上の災害についての判断基準について。
第11回	労働者災害補償保険法（2） －通勤災害・労災民事責任との調整－	通勤災害などの労災保険法上のその他の問題について。
第12回	過重労働、特別な疾病	いわゆる過労死の問題を扱う。
第13回	職場の人間関係をめぐる問題（1） －セクシュアル・ハラスメント－	セクシュアル・ハラスメントの法的問題について。
第14回	職場の人間関係をめぐる問題（2） －その他のハラスメント－	職場のいじめについて。
第15回	まとめ	本講義全体を通したまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布プリントを事前に配布するので、事前に一読のこと。
2. 事前に配布したプリントに関する予習問題を、授業支援システム（オンライン）上で出題するので、指定期日までに実施すること（成績評価に関連する）。

【テキスト（教科書）】

1. 教科書は指定しない。プリント教材を使用する。
2. プリント教材は、事前に授業支援システムからダウンロードして、各自で準備をお願いする。

【参考書】

参考書が必要な場合は、講義中に適宜指示いたします。
なお、下記のサイトは「成績評価の方法と基準」に関連する。

・法学検定

<http://www.jlf.or.jp/hogaku/index.shtml>

・ワークルール検定

<http://workrule-kentei.jp/>

【成績評価の方法と基準】

1. 「試験」（40％）
期末試験として1回実施。論述形式の問題を出題する。配布プリントと自身のノートのみ参照可の予定。
2. 「小テスト」（30％）
学期中に合計2回実施する。1回の小テストで択一式の問題を出題。すべて授業支援システム（オンライン）上で実施する。試験の難易度は、公務員試験・社会保険労務士試験・労働基準監督官試験等のレベルです。
3. 「予習問題と授業中に実施する確認問題」（30％）
事前に配布したプリントに関する予習問題を、授業支援システム（オンライン）上で出題する。場合によっては、講義中に確認問題を出題することもある。これらの問題を学期を通じて実施する。問題の難易度は、ワークルール検定の初級レベルです。

4. その他

出席調査票を配布する。これを、コメントカードとして利用。コメントカードに毎回質問や意見があり、本講義に積極的にコミットしている場合には、加点要素として考慮する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を配布プリントに記載するなどして、さらに具体的なイメージを持てるような講義としたい。

【その他の重要事項】

講義内容は、受講者の問題関心や理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

HA337

自治体環境政策論 I

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、環境政策は、自治体において極めて重要な政策領域になってきている。しかもここでの環境政策は幅広い内容を有しており、自治体には総合的な政策展開がもたらされている。

この講義では、第1に、「政策型思考」を身につけるために、「政策」の概念と総合的な地域環境空間づくりをプロローグとして、次に自治体環境政策を素材としながら、公共政策の基本的な構造や体系性・総合性、政策過程について検討する。第2に、環境政策の個別領域の動向、自治体の新たな政策実践について検討する。

第3に、高度経済成長期以降の自治体環境政策の政策開発の軌跡について歴史社会的な視点を交え検討し、さらに現在の政策動向を確認しながら、これからの方向性や課題について検討する。

取り上げる個別政策領域としては、緑化・緑地保全、ヒートアイランド対策、下水道整備、廃棄物や公害に関する環境規制、公園政策、景観政策などである。この授業の目的・意義は、学生が、持続可能な地域社会の構築に重要な役割を果たす自治体の環境政策に関する基礎知識を身につけ、さらに政策型思考を身につけることで、能動的に政策問題に取り組む力を養うことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・政策構造や政策過程に関する行政学・公共政策学などの学問的なとらえ方を理解する。
- ・自治体環境政策の政策開発の軌跡に関する知識を習得し、歴史社会的な見方を理解する。
- ・自治体環境政策の動向と課題に関する知識を習得する。
- ・様々な立場の社会人（市民・生活者、地域における公務従事者、NPO 関係者、企業人など）にとって汎用性のある「政策型思考」（問題分析・問題解決型思考）を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、授業の前半ではワークショップも実施し、また適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。さらに授業で提示した論点や、各地の自治体環境政策の動向に関するリアクションペーパーの提出を数回もとめ、授業に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「政策」とは何か	自治体環境政策が公共政策であることをふまえ、「政策」の概念と基本的な構造について検討し、この講義の導入とする。
第2回	政策の体系性と総合性	政策の基本構造をふまえて、自治体の政策体系を確認した後、政策の総合性について検討する。
第3回	自治体環境政策の体系性・総合性を考えるためのワークショップ	自治体環境政策の体系性と総合性を体感するために、政策体系のうち緑に関する部分を学生自身が作成し共有するワークショップを行う。
第4回	地域環境空間の形成と総合的なプロデュースに向けた自治体の政策的役割	地域環境空間の形成について緑地保全・緑化、川づくり、都市景観などの視点で俯瞰的にシミュレーションしながら、政策実践のケースを確認し、さらに総合的なプロデューサーとしての自治体の政策的役割を検討する。
第5回	政策過程の循環モデルと「問題の定義」	公共政策としての自治体環境政策の動態を理解するために、政策過程の循環モデルを提示した上で、初期的ステージである「公共問題の構造化」について検討する。
第6回	ヒートアイランドの問題構造と公共政策	ヒートアイランドを手がかりとして、「公共問題の構造化」について具体的に理解し、問題解決のための自治体環境政策の構造を検討する。
第7回	「政策課題の設定」と自治体環境政策	「政策の窓が開く」時である「政策課題の設定」の局面について、NPO・NGOの役割、環境正義、市民参加との関連性をふまえながら検討する。

第8回	「政策立案」と自治体環境政策における政策選択・政策責任	政策立案過程における政策手段の選択について説明した上で、自治体環境政策における「二重の不確実性」と政策責任について検討する。
第9回	自治体環境政策の手段類型とポリシーミックス	自治体環境政策の手段類型を検討し、さらにポリシーミックスの重要性について言及する。
第10回	自治体環境政策の表現形態	自治体環境政策は、行政計画、条例などのローカル・ルール、予算など多様な表現形態をとることを確認しながら、環境基本計画や環境条例の動向などに言及する。
第11回	政策実施と自治体の環境規制	政策過程における政策実施の局面の重要性を確認した上で、産業廃棄物や公害などに関する自治体の環境規制について検討する。
第12回	政策実施と地域の環境創造	地域の「環境創造」に関する政策実施について、公園政策を中心として検討する。
第13回	第1世代の自治体環境政策と現代の「環境再生」	高度経済成長期において「生活環境の防衛」を主たる目的として登場した第1世代の自治体環境政策の政策開発について、当時の社会情勢と現代への示唆をふまえながら検討する。さらに、今日の「環境再生」の時代における自治体環境政策の方向性について検討する。
第14回	第2世代の自治体環境政策と現代の景観政策	1960年代後半から80年代において、地域環境空間の質の重視を目的として登場した第2世代の自治体環境政策の政策開発について、「環境政策の多次元化」という文脈で、当時の社会情勢を踏まえながら歴史的町並み保全を中心として検討し、さらに現代の景観政策の動向と課題について言及する。
第15回	アーバンデザインと現代の都市政策	第2世代の自治体環境政策の時代からはじまったアーバンデザインについて検討し、地域の持続可能性という視点から、現代の都市政策の課題について言及する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は以下の授業時間外の学習を行う。
- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
 - ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
 - ・リアクションペーパーを作成する。
 - ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読む。
 - ・講義で言及した自治体環境政策に関連する報道などの情報収集に努める。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

【参考書】

- ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
 - ・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009年。
 - ・『自治体環境行政法（第6版）』第一法規、2012年。
 - ・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。
- 上記以外の参考文献は、開講時および授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（90%）+リアクションペーパーによるミニレポート（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・人間環境学部で地域の政策を学ぶ学生の要望に対して、この授業を通して伝えることができたようです。また自治体環境政策のみならず自治体について知識を得る機会になったようです。
- ・配布するレジュメの目的と利用方法、パワーポイントとレジュメの関係性は初回に説明しましたが、この点の説明を適宜行うように留意したいと思います。
- ・話のスピードの緩急にさらに留意したいと思います。
- ・リアクションペーパーの活用を含め対話型授業をある程度取り入れていきますが、さらに工夫をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影する。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
- ・「地域環境共生コース」の関連科目をあわせて履修することも推奨します。
- ・「自治体環境政策論Ⅰ」から「自治体環境政策論Ⅱ」へと内容を連続させているので、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。
- ・旧科目名称「地方自治論Ⅱ」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA337

自治体環境政策論Ⅱ

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自治体環境政策論Ⅰ」の各論として、「自治体環境政策論Ⅱ」では、「持続可能な地域社会」とは何かということを考えながら、そのような社会を構築するための自治体環境政策と自治体の政策全体について総合的に検討する。「自治体環境政策論Ⅰ」で提示する政策の歴史的發展モデルにあるように、今日の自治体環境政策は多次元化している。さらに「持続可能性」という概念をふまえるならば、「持続可能な地域社会」を構築するための自治体政策では、ほぼ全ての政策領域を含む包括性が重要であり、「持続可能な自治体政策」「持続可能な地域政策」といった言い換えが可能である。「自治体環境政策論Ⅱ」では、第1に、「持続可能な地域社会」の概念構成、社会像、政策規範（政策原則）について説明した上で、「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説、都市的地域と非都市的地域（農山村、漁村等）のそれぞれの持続可能性、多元的な主体による「協治」といえるマルチステークホルダー・プロセスにおける自治体の政策責任、自治体間の政策協調・政策連携、などについて検討する。グローバルな自治体環境政策については、「自治体環境政策論Ⅰ」で述べた第1世代、第2世代に続く第3世代の政策として、地球環境問題に対応する自治体の政策動向を取り上げる。第2に、「持続可能な地域社会」に向けた自治体の総合政策について、トリプル・ボトムラインといわれる「持続可能性」の多面性（環境、社会、経済）と「環境政策統合」の視点から検討する。第3に、具体的な政策展開として、「持続可能な地域社会」に関する都市的地域と非都市的地域のそれぞれの取り組みについて、海外と国内の動向を検討する。さらに自治体環境政策の個別テーマのうち、循環型社会の構築と都市緑地の保全を取り上げる。

この授業の目的・意義は、学生が人間環境学部に在籍中に、何度もふれるであろう「持続可能な地域社会」という言葉の意味を理解し、あるべき社会像をイメージしながら、能動的に具体的な政策問題に取り組む力を養うことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・「持続可能な地域社会」にかかわる概念と政策規範・政策原則を理解する。
- ・持続可能性からみた自治体環境政策・自治体政策全般の動向と課題に関する知識を習得する。
- ・様々な立場の社会人（生活者・市民、地域における公務従事者、NPO関係者、企業人など）にとって汎用性のある「政策型思考」（問題分析・問題解決型思考）を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。さらに授業で提示した論点や、「持続可能な地域社会」に向けた各地の政策動向に関するリアクションペーパーを数回ともめ、授業に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	台頭する政策シンボルとしての「持続可能な地域社会」と政策規範	この講義の導入として、様々なシーンで台頭してきた「持続可能な地域社会」という政策シンボルとともに、この言葉に結びつく政策規範としての「持続可能性・持続可能な発展」の概念を再検討する。
第2回	「持続可能な地域社会」の多様性と過疎地域の持続可能性リスク	地域の多様性（大都市から過疎地域まで）をふまえた「持続可能な地域社会」への社会像の多様性を確認しながら、「変容」と「存続」という2つの方向性を提示し、さらに過疎地域の持続可能性リスク（非持続可能性）について検討する。
第3回	政策規範としての「グローバル」言説と自治体政策	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考しながら、政策規範として再構成する。
第4回	「グローバル」な時代における第3世代の自治体環境政策	「グローバル」な時代において、地球環境問題（IPCC 第5次報告をふまえた地球温暖化への「緩和策」と「適応策」など）に対応する第3世代の自治体環境政策について検討する。

第5回	「持続可能な社会」への多元的責任共有の論理、地域間責任共有の論理と自治体の政策責任・政策協調・政策連携	「環境ガバナンス」に大きくかわる多元的な主体（自治体、市民、企業、NPOなど）による責任共有とマルチステークホルダー・プロセス、地域間の責任共有と自治体の政策責任、自治体間の政策協調・政策連携について検討する。
第6回	持続可能性の多面的構成（トリプル・ボトムライン）と「持続可能な地域社会」への政策規範・政策課題	トリプル・ボトムラインといわれる持続可能性の環境的側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成を確認しながら、「持続可能な地域社会」に向けた包括性・統合性という政策規範について、地域における具体的な政策課題とともに検討する。
第7回	「環境政策統合」と自治体政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」を構築するために多様な政策領域を視野に入れる「環境政策統合」の考え方と、具体的な政策実践について検討する。
第8回	「持続可能な都市」の提唱とトレンド	「持続可能な都市」に関するヨーロッパの提唱と動向、国内への政策波及について検討する。
第9回	「持続可能な都市」への政策実践	「持続可能な都市」に関する政策実践について、公共交通政策を中心として検討する。
第10回	「持続可能な都市」と長期的な都市の持続可能性リスクの回避	「持続可能な都市」というコインの裏側にある災害、人口減少社会などの長期的な都市の持続可能性リスクとその回避について検討する。
第11回	過疎地域の持続可能な発展政策と地域環境	過疎地域の持続可能な発展政策について、「内発的發展」の論理を再考しながら適用し、さらに地域環境資源を活用した先進ケースについて検討する。
第12回	過疎地域の持続可能な発展政策と地域間連帯	過疎地域の持続可能な発展政策について、生態系サービスの考え方に基づく地域間連帯モデルを提示し、都市自治体との協力関係を強化していく方向性について展望する。
第13回	循環型社会と自治体の政策責任	循環型社会への移行に関する自治体の政策責任について理論的に整理した上で、家庭系一般廃棄物の有料化や容器包装リサイクル法などに関する政策動向について検討する。
第14回	「地域循環圏」の提唱と自治体環境政策の多様性	「地域循環圏」という政策原則の提唱について検討した上で、地域特性に応じた自治体環境政策による圏域構築の可能性について展望する。
第15回	都市自治体の「緑の保全」政策の構造と里地・里山保全のための参加型政策実践	都市自治体の「緑の保全」政策に関する法制度や政策メニューなどの構造を概観した上で、里地・里山保全に関する参加型政策実践のケースについて検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 学生は以下の授業時間外活動を行う。
- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
 - ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
 - ・リアクションペーパーを作成する。
 - ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読む。
 - ・講義で言及した自治体環境政策や持続可能な地域社会に関する報道などの情報収集に努める。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

【参考書】

- ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
 - ・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009年。
 - ・『自治体環境行政法（第6版）』第一法規、2012年。
 - ・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。
- 上記以外の参考文献は、開講時及び授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（90%）+リアクションペーパーによるミニレポート（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・全国の事例について、ほぼ毎回、地方紙の記事をまとめて配布し紹介しましたが、最新動向を理解する方法として役だったようです。
- ・対話型授業をある程度取り入れていますが、講義内容の伝達とのバランスに留意しながら、さらに工夫していきたいと思えます。
- ・パワーポイントを利用していますが、視覚的な見やすさと学生の集中力の維持のバランスについて、さらに工夫していきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配布資料以外の情報をスクリーンで投影する。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
- ・「地域環境共生コース」の関連科目を合わせて履修することも推奨します。

・「自治体環境政策論Ⅰ」から「自治体環境政策論Ⅱ」へと内容を連続させていますので、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA336

日本公害史と法

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国は殖産興業政策のもとで明治時代から鉱害や産業公害に対応してきたが、戦後経済成長期にそのスケールを増して被害を引き起こした。この授業では、これらの産業公害に対する企業の対応、行政の対応、法の生成、役割を学ぶ。

【到達目標】

我が国は明治時代から現代に至るまで様々な公害に関する経験をしてきた。この経験を学び伝えることが、持続可能な社会の構築へ向けて生きる我々にとって重要である。また、この経験は他の分野の環境政策や今公害に苦しむ途上国に適用することも可能になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

我が国が経験してきた鉱害や産業公害について具体的事例に関して企業の対応、行政の対応、法の生成、役割を学ぶ。その内容は単に公害環境法の歴史ではなく、日本公害史であるとともに産業史の側面を有している。この授業は環境法Ⅰの高度科目であり、講義ののち学生からの意見、感想、質問を求めることにより講義と研究会の中間形態を目指している。このため、受講者は環境法Ⅰを受講済みであるものを優先し、かつ最大27人の人数制限を設ける。（多数の場合他の講義の受講状況等により選考する）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	この講義の位置づけ 概要
第2回	殖産興業政策	たたら製鉄 富岡製糸場等 財閥 三井、三菱 倉敷
第3回	紡績	足尾銅山
第4回	鉱業と鉱害1	別子銅山
第5回	鉱業と鉱害2	小坂鉱山
第6回	鉱業と鉱害3	日立鉱山
第7回	石炭と鉱害	筑豊炭坑 三池炭坑
第8回	製鉄と公害	八幡製鉄等 北九州の公害
第9回	自動車	トヨタと日産
第10回	都市公害	大阪、東京のばい煙 浅野セメント
第11回	東京の都市形成	後藤新平
第12回	電気化学工業	野口遵
第13回	化学工業	水俣病、新潟水俣病
第14回	石油化学工業	コンビナート公害 水島、徳山等
第15回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントを学習する。興味をもったテーマを掘り下げて調べてみる。

【テキスト（教科書）】

プリント

【参考書】

全般にわたるものはない。個別テーマに関しては授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度とレポート（公害事件とその対応に関するもの）

【学生の意見等からの気づき】

学生間の意見交流の機会をふやす

【その他の重要事項】

受講者多数の場合は、初回授業において受講者を選考するので初回授業に必ず出席すること。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA336

アメリカ環境法

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカ環境法の基本を学びます。アメリカ環境法には、優れた環境影響評価、土壌汚染対策、自然保護に関する法制度があります。その一方で、大気汚染の防止については、世界的潮流から距離を置いています。このような特徴を学びます。

【到達目標】

社会に出て、国際的な影響力のあるアメリカ環境法に関係する業務に向き合ったときのために、基本的な理解力をつけることを目指します。また、アメリカ環境法の特徴を学ぶことで、わが国の環境法を考えるとときに、比較して検討できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ環境法を講義します。まず、その概要をみた後、アメリカが公害問題にどのように対応してきたかを学びます。これに続いて、環境影響評価、大気・水・土壌といった個別の法規制について検討していきます。そして、現在注目を集めている自然保護とエネルギーに関する法制度を学習します。また、特徴のある州法を例に挙げて議論します。最後に、軍に対する環境法規制を考えてみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ環境法の概要	連邦政府と州の環境法、政府機関や環境NGOの果たす役割
第2回	アメリカ環境法の歴史	環境規制の始まりと現代的展開
第3回	連邦環境政策法（1）	環境影響評価の仕組み
第4回	連邦環境政策法（2）	具体的事例の検討
第5回	大気汚染防止法	規制内容と具体的訴訟
第6回	水質汚濁防止法	規制内容と具体的訴訟
第7回	土壌汚染対策に関連する規制	スーパーファンド法等
第8回	廃棄物・化学物質に関する規制	資源保護回復法等
第9回	自然保護（1）	海、河川、湿地等の保護
第10回	自然保護（2）	森林の保護・国立公園制度
第11回	自然保護（3）	絶滅危惧種等の保護
第12回	エネルギー法	化石エネルギー、核エネルギーと法、自然エネルギーと法
第13回	コモンローと環境法	州法で特徴のある環境規制
第14回	軍と環境法	軍に対する国内外での環境規制
第15回	自然災害と住民保護	自然災害による損害から住民を救済する法制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

諏訪雄三『アメリカは環境に優しいのかー環境意思決定とアメリカ型民主主義の功罪』（新評論、1996年）、畠山武道『アメリカの環境保護法』（北海道大学図書刊行会、1992年）。

【成績評価の方法と基準】

定期試験により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

動画等を用いたわかりやすい授業をこれからも実施していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

HA337

エネルギー政策論

菊地 昌廣

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギー利用による地球温暖化や、多様なエネルギー資源供給による価格の変動などがもたらす社会問題と経済問題に如何に対処すべきか、我々の生活の基盤となるエネルギーを如何に安定確保すべきか等の課題を踏まえて、将来のエネルギー政策を国際的、国内的視野に立って議論する。

【到達目標】

- ①エネルギーの基本的技術構造の説明能力を習得する。
- ②社会構造とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ③国内政治とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ④エネルギー需給構造について国際的要因の説明能力を習得する。
- ⑤エネルギー政策立案時の視点や立案のポイントを理解する。
- ⑥質疑応答・討論によりエネルギー問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

エネルギーに関する基本的な要素を理解した後、社会問題とエネルギー利用に関連した課題、国内政治とエネルギー需給に関連した課題、エネルギーの国内需要と供給に関連する国際的な課題を議論する。最後にエネルギー政策立案の考え方を習得する。

90分授業の最初の80分を講義に当て、残りの10分程度を受講生と質疑応答を行うことにより講義内容の理解を深める。講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義内容の概観	授業のテーマと到達目標等本講義の意義について説明する。また、現在のエネルギー利用の実態と付帯する社会問題、経済問題について概括する。
第2回	エネルギー消費と産業構造	GDPとエネルギー消費の関係等、社会生活とエネルギーとの係わりについて解説すると共に資源から利用可能な状態までのエネルギーライフサイクルとエネルギー利用の産業構造について議論する。
第3回	エネルギー資源と供給メカニズム	国際的なエネルギーの需給バランスについて資源別に解説すると共に、各エネルギーの供給メカニズムや利用時のエネルギー損失について議論する。
第4回	省エネルギーとエネルギーミックス（再生可能エネルギー）	エネルギー利用効率向上のための省エネルギー対策と化石燃料に依存しない持続可能な再生可能エネルギーの活用について議論する。
第5回	新たなエネルギー資源	シェールガス、シェールオイル、メタンハイドレードなど新エネルギーの分野のエネルギー資源確保問題について議論する。
第6回	エネルギー安定供給（エネルギーセキュリティ）	エネルギー政策の一つの要素であるエネルギーセキュリティ問題について、歴史的経緯や考慮すべき要素を議論する。
第7回	公共財としてのエネルギーとエネルギー価格構成要素	電力を含むエネルギーは公共財としての側面を有しており、国民に安定的な電力供給体制構築のためのエネルギー価格を構成する要素を議論する。
第8回	エネルギー税制	国家がエネルギー政策を推進するためには、その資金が必要であり、資金確保のための適切な税制とその用途、活用法の実態を議論する。
第9回	エネルギー利用とリスク	地球温暖化から派生する気候変動や食糧問題等を踏まえて、エネルギーを国民に安心安全な環境で提供するために配慮すべきエネルギー利用形態とそのリスクについて議論する。

発行日：2021/6/1

第10回	国際戦略としてのエネルギー需給問題	資源小国である我が国は海外からの供給を前提としていることから、原油価格変動に注視している状況にあり、世界のエネルギー戦略について議論する。
第11回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法令	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に現在のエネルギー関連法令について議論する。
第12回	エネルギー政策立案のメカニズムと政策の方向性	エネルギー基本計画策定、実施関連法令立案等具体的なエネルギー政策を立案するためのメカニズムを紹介すると共に今後の方向性について議論する。
第13回	エネルギー産業を介した地方創生方策	エネルギー基本計画により再生可能エネルギーなどの活用の活性化が推進されており、このような産業を介した地方創生のための方策について議論する。
第14回	将来のエネルギー需給予測と消費展望	将来の内外のエネルギー需給予測を世界各国の経済発展との関連で解説すると共に、将来展望について議論する。
第15回	講義内容のレビューと質疑応答	これまでの講義内容をレビューし質疑応答を行うことにより講義内容の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事業日前に次回講義で使用する資料を授業支援システムを介して配信する。受講生は、授業支援システムへ登録し、資料の受領が行えるようにしておくこと。受講日までにその内容をよく予習し、授業後半の質疑応答に応じられるように活動することを求める。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【参考書】

本講義を受講するに当たって、以下の文献を推奨する。

- 1) 十市 勉 (2005) 『21世紀のエネルギー地政学』(産経新聞出版)
- 2) 小池康郎 (2011) 『文系人のためのエネルギー入門』(勤草書房)
- 3) 三浦隆利、他 (2008) 『エネルギー・環境への考え方』(養賢堂)
- 4) 藤原淳一郎 (2010) 『エネルギー法研究』(松岳社)
- 5) エネルギー・経済統計要覧、日本エネルギー経済研究所 (2012)
- 6) その他、エネルギー白書等政府刊行物

【成績評価の方法と基準】

平常点：10点（ただし出席率70%以上）
期末試験結果90点（論述式試験による）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター及びパソコン

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA337

地球環境政治論

横田 匡紀

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みや京都議定書などの事例により理解して行くことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員として持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

- ・ポスト京都議定書などを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境 NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベル多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

京都議定書の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？地球環境問題への解決に向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。この講義では、グローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題など）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地球環境政治論総論	地球環境政治とは何か
第2回	地球環境政治へのアプローチ（1）	地球環境政治の見方：リアリズムとリベラリズム
第3回	地球環境政治へのアプローチ（2）	地球環境政治の見方：コンストラクティヴィズム
第4回	地球環境政治へのアプローチ（3）	グローバル・ガバナンスとは何か
第5回	地球環境政治のメカニズム（1）	地球環境レジーム形成のメカニズム
第6回	地球環境政治のメカニズム（2）	地球環境レジーム間の相互関係
第7回	地球環境政治のメカニズム（3）	地球環境政治のアクター
第8回	地球環境政治のメカニズム（4）	地球環境政治と国内政治
第9回	地球環境政治の 이슈（1）	グローバルとローカルとの相互関係
第10回	地球環境政治の 이슈（2）	環境リージョナリズムの動向
第11回	地球環境政治の 이슈（3）	安全保障の緑化
第12回	地球環境政治の 이슈（4）	地球環境政治とジェンダー
第13回	ポスト京都議定書の国際枠組み（1）	全体像の把握
第14回	ポスト京都議定書の国際枠組み（2）	グローバル・ガバナンスからみた問題点
第15回	地球環境政治の展望	地球環境政治の将来の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の各項目について理解できるようにしておく

【テキスト（教科書）】

宮脇昇・庄司真理子編『新グローバル公共政策』晃洋書房、2011年

【参考書】

亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010年

亀山康子・高村ゆかり編『気候変動と国際協調』慈学社、2011年
 山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論 新版』有斐閣、2011年
 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013年
 三船恵美『基礎から学ぶ国際関係論』泉文社、2013年

【成績評価の方法と基準】

レポート類の提出を前提とし、筆記試験の結果で評価する

【学生の意見等からの気づき】

学生のペースに配慮すること

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いています。
 進度により講義内容を変更することがあります。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境サイエンスコース

HA333

地域協力・統合

大中 一彌

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時間：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパという概念の由来から説きおこし、20世紀中葉における統合の制度化までの歴史を学習する。

【到達目標】

地中海やアフリカ大陸、またロシアや中東地域を含むユーラシア大陸といった隣接地域との交流も念頭に置きながら、時事問題として取り上げられることの多いヨーロッパ統合の問題を、より包括的、原理的な視点において考える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業支援システムをつづじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事、基本的な用語の説明	授業内容の紹介と質疑（科目選択にあたって）。地域とは？ 経済統合の諸段階。統合をめぐる諸仮説
2	何が問題なのか：世界の中心としてのヨーロッパ？	主要なトピックの概説① (17-19世紀 ウェストファリア体制、産業革命、市民革命)
3	支配と人の移動	主要なトピックの概説② (植民地支配、冷戦とその終結終わり、EU域外からの避難民)
4	文明の重なりあいとしてのヨーロッパ	古代における「ヨーロッパ」という用語の誕生から中世まで
5	主権国家間・文明間の対抗 → 平和論の発生	中世におけるキリスト教の制度化と主権概念の成立、周辺地域との関係
6	フランス革命～19世紀のヨーロッパ統合思想	人民主権とナショナリズム、産業資本主義の勃興
7	19世紀末～1920年代のヨーロッパ統合思想	エンジェル、E・H・カー、ブリアン、シュトレゼマン
8	1930年代～第二次世界大戦終結までのヨーロッパ統合構想	人格主義、機能主義、ハイエク、ナチス、ヴェントターネ宣言、大西洋憲章、モネのアルジェ構想、チャーチル
9	第二次世界大戦直後のヨーロッパ、および統合の胎動	難民の大量発生、ボツダム会議のヨーロッパとアジアへの影響、ドイツ問題（ザール、ルールの扱い）マーシャル・プラン、ヤルタの屈辱、統合機運の増大
10	シューマン宣言と各分野（農業、軍事）における統合	マンホルト構想、フリムラン・プラン、朝鮮戦争、プレヴァン・プラン
11	「不戦」と「冷戦」の間 1950-58年	ECSCの成立、政治共同体、防衛共同体の不成立。メッシーナ会議、EECとユーラトムの成立。対英関係、対植民地の関係、ブレトンウッズ体制のゆらぎ
12	脱植民地化と西ヨーロッパ 1958-69年	ベルリン危機、キューバ危機、アフリカの年、黒人公民権運動、フーシェ・プラン、ドゴールとハルシュタイン、ルクセンブルクの妥協
13	通貨問題という茨の道 1969-79年	米ソ緊張緩和、ドル危機、「トンネルの中の蛇」
14	主要なトピックにかんする振り返り	ヨーロッパにおける移民のプレゼンス、「要塞ヨーロッパ」
15	まとめ	学生発表（希望者のみ）含む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・前半の授業回で取り上げるヨーロッパの概念の変遷についての説明は、文明論の古典的な素材からの抜粋からなっています。ぜひそうした古典のテキストに親しむ機会を作ってください。

・中盤以降の授業回で論ずる、第2次世界大戦以降のヨーロッパ統合については、今日国際情勢の背景となっています。ぜひ新聞やニュースなどをつづじて最新のヨーロッパ情勢に触れるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

遠藤乾編『原典 ヨーロッパ統合史 史料と解説』名古屋大学出版会、2008年。

【参考書】

金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史—人物を通して見たあゆみ』有斐閣、1996年。

ジェラルド・ノワリエル『フランスというつば』法政大学出版局、2015年（予定）。

エティエンヌ・バリバール『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』平凡社、2006年。

【成績評価の方法と基準】

・小テストの受験【全員必須。ただし多くは授業支援システム上で授業外実施】45%

・学生による発表、運営への協力【希望者のみ】10%

・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】10%

・レポート【希望者のみ】35%

【学生の意見等からの気づき】

前半の授業回では、とくに高校や大学1年時の学習との橋渡しを意識しています。

【学生が準備すべき機器他】

・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることができる。

・Twitter上で質問を受け付ける。@kazouille

【その他の重要事項】

・シラバスを熟読してください。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース、環境サイエンスコース

HA336

国際法 I（教職）

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象範囲
第2回	国際法の基本原理	国際法の特徴、近代国際法の特徴
第3回	法源（1）	条約、国際慣習法
第4回	法源（2）	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第5回	国際法と国内法の関係	論理的关系、国際法における国内法、国内法における国際法
第6回	国家・国家機関（1）	国家承認、政府承認
第7回	国家・国家機関（2）	国家承継、国家機関
第8回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第9回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第10回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第11回	国家責任法（1）	国家責任の観念、国際違法行為責任の基本構造
第12回	国家責任法（2）	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第13回	国家領域（1）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第14回	国家領域（2）	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第15回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第2版]』有斐閣、2010年。奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第2版]』有斐閣、2011年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様のやり方で行います。

履修登録期間中に昨年度のアンケートの結果を掲示板に掲示します。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・国際環境協力コース

HA336

国際法Ⅱ（教職）

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	海洋法 (1)	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第 3 回	海洋法 (2)	排他的経済水域、公海
第 4 回	海洋法 (3)	大陸棚、深海底
第 5 回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第 6 回	個人の管轄 (1)	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第 7 回	個人の管轄 (2)	国際犯罪、国際刑事裁判所
第 8 回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第 9 回	紛争の平和的解決 (1)	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第 10 回	紛争の平和的解決 (2)	非裁判的手続
第 11 回	紛争の平和的解決 (3)	裁判的手続
第 12 回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動
第 13 回	武力紛争法規（国際人道法）(1)	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第 14 回	武力紛争法規（国際人道法）(2)	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第 15 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進めます。
履修登録期間中に、掲示板に昨年度のアンケート結果を掲示します。

【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・国際環境協力コース

HA238

ミクロ経済学 I

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学は、個人や企業が利己的な動機で経済活動をしたとき、それが経済全体にどのような影響を与えるかを分析する分野である。利己的動機に経済を委ねたとき、希少な資源である労働や資本が無駄にされることはないのか（失業とは労働という資源の無駄遣いである）、あるいは公正な所得を得ることができるのか、こうした問題を考えるのが講義の目的である。

【到達目標】

需要曲線・供給曲線とその背後にある消費者行動・生産者行動について学び、現実の様々な経済現象や政策の効果を分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義による。随時関連資料を配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義のガイダンス。
第 2 回	ミクロ経済学の考え方	理論と実証、機会費用、埋没費用の考え方など。
第 3 回	貿易と比較優位 1	経済主体の相互依存関係と貿易について、比較優位の概念を用いて考える。
第 4 回	貿易と比較優位 2	前回に続き、経済主体の相互依存関係と貿易について、比較優位の概念を用いて考える。
第 5 回	需要曲線と供給曲線	需要曲線と供給曲線とは何なのか考える。また関数やグラフの見方について解説をする。
第 6 回	市場均衡	市場均衡はどのようにして決まるのか、どのような性質を持つのか考える。
第 7 回	価格規制と税金 1	政府による価格規制や税金の効果を、需要曲線や供給曲線を用いて考える。
第 8 回	価格規制と税金 2	前回に続き、政府による価格規制や税金の効果を、需要曲線や供給曲線を用いて考える。
第 9 回	市場の効率性：消費者余剰と生産者余剰 1	消費者余剰と生産者余剰の概念を学び、市場の効率性について考える。
第 10 回	市場の効率性：消費者余剰と生産者余剰 2	前回に続き、消費者余剰と生産者余剰の概念を学び、市場の効率性について考える。
第 11 回	需要曲線と効用最大化 1	需要曲線についてより深く考察する。消費者の効用最大化問題から需要曲線を導く。
第 12 回	需要曲線と効用最大化 2	前回に続き、需要曲線についてより深く考察する。消費者の効用最大化問題から需要曲線を導く。
第 13 回	供給曲線と利潤最大化 1	供給曲線についてより深く考察する。生産者の利潤最大化問題から供給曲線を導く。
第 14 回	供給曲線と利潤最大化 2	前回に続き、供給曲線についてより深く考察する。生産者の利潤最大化問題から供給曲線を導く。
第 15 回	総括	本講義の総括と「ミクロ経済学Ⅱ」の案内。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さらなる学習のための参考文献を適宜指示する。

【テキスト（教科書）】

大瀧雅之 『基礎からまなぶ 経済学・入門』 有斐閣

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末に講義内容と自ら講義で獲得したものを 4000 字以上でまとめたレポートで評価する (100 パーセント)。

【学生の意見等からの気づき】

2015 年度より担当。

【【関連の深いコース】】

エコ経済経営コース

HA238

ミクロ経済学Ⅱ

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不完全競争市場での理論を学ぶ。外部性と環境、独占市場、寡占市場や公共財と環境などの経済現象を、需要曲線、供給曲線やゲーム理論を用いて分析する。

【到達目標】

不完全競争市場での経済行動やその結果起こる資源配分の歪みについて学び、現実の様々な経済現象や政策の効果を分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義による。必要資料は随時配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義のガイダンス。
第2回	「ミクロ経済学Ⅰ」の復習	完全競争市場での理論、特に需要曲線や供給曲線を用いた部分均衡分析を復習する。
第3回	一般均衡分析概説1	一般均衡分析について概説する。
第4回	一般均衡分析概説2	一般均衡分析について概説する。
第5回	外部性と環境1	外部性のある市場での取り引きとその対処法について、環境を例に考える。前回に続き、外部性のある市場での取り引きとその対処法について、環境を例に考える。
第6回	外部性と環境2	前回に続き、外部性のある市場での取り引きとその対処法について、環境を例に考える。
第7回	独占市場1	独占市場での価格付け、資源配分の歪みについて考える。
第8回	独占市場2	前回に続き、独占市場での価格付け、資源配分の歪みについて考える。
第9回	ゲーム理論1	ゲーム理論の基礎を学ぶ。
第10回	ゲーム理論2	前回に続き、ゲーム理論の基礎を学ぶ。
第11回	寡占市場1	ゲーム理論を用いて寡占市場、特にクールノー競争とその帰結について考える。
第12回	寡占市場2	前回に続き、ゲーム理論を用いて寡占市場、特にクールノー競争とその帰結について考える。
第13回	公共財と環境1	公共財とは何か、また公共財の最適な供給について、環境を例に考える。
第14回	公共財と環境2	前回に続き、公共財とは何か、また公共財の最適な供給について、環境を例に考える。
第15回	総括	本講義の総括とさらなる学習への案内。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さらなる学習のための参考文献を適宜指示する。

【テキスト（教科書）】

大瀧雅之 『基礎からまなぶ 経済学・入門』 有斐閣

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末に4000字以上で、講義の内容また講義で自分が新たに獲得したものを整理してまとめたレポートの提出を求める。これにより評価する（100パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

2015年度より担当。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

HA238

マクロ経済学Ⅰ

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この二十年余りの日本経済の動向を、世界の動きを意識しながら、データに基づいて理解することが、講義の目的である。

【到達目標】

急速な人口減少（少子・高齢化）を受けて、今後の日本の経済政策及び産業構造がいかにあるべきかを理解する。同時にこれは諸君の将来にも深刻にかかわってくる重要な問題である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実際のマクロ経済の動きを理解するには、ある程度の経済理論に関する知識が必要であるが、それは都度、数式を全く用いずに解説するので安心して講義に参加してほしい。使用するデータは、毎回プリントにて配布する。そして、講義のまとめとしてして下記のテキストを読んでもらうことを義務付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代日本経済の抱えている問題を概観する。
第2回	人口減少と日本経済（その1）	今後の急速な人口減少社会で、起きうる経済問題を理解する。
第3回	人口減少と日本経済（その2）	日本経済の財政事情と人口減少社会の関係を理解する。
第4回	人口減少と日本経済（その3）	年金問題と人口減少社会の関連を理解する。
第5回	人口減少と日本経済（その4）	インフラストラクチャーの整備と人口減少社会の調和を考える。
第6回	雇用の非正規化を考える（その1）	企業のガバナンス構造の在り方（企業とは何か）から、雇用の非正規化を考える。
第7回	雇用の非正規化を考える（その2）	海外直接投資との関連で、雇用の非正規化のメカニズムを理解する。
第8回	雇用の非正規化を考える（その3）	若者の失業率がなぜ高いかを理解する。
第9回	雇用の非正規化を考える（その4）	企業のイノベーションと雇用の非正規化の関連を考える。
第10回	現代日本と世界経済（その1）	現代日本の経済力を客観的に把握する。
第11回	現代日本と世界経済（その2）	基軸通貨としてのドルの将来を考える。
第12回	バブル経済と現代日本	1980年代後半のバブル経済が、現在の経済に与えている影響を解説する。
第13回	「構造改革」と現代日本経済	「失われた20年」は本当か？
第14回	現代日本の金融政策（その1）	インフレはなぜ発生するかを理解し、かつそれが重税であることを認識する。
第15回	現代日本の金融政策（その2）	為替レートと財政・金融政策の関連を最近の事例に基づき理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを講義の前半までで、読了し、自分の考え方をまとめて置くこと。

【テキスト（教科書）】

大瀧雅之著 『平成不況の本質：雇用と金融から考える』、岩波新書、2011年

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末に講義内容と自分の新しく学んだことをまとめたレポートを、4000字以上で提出することが義務である。それによって成績を評価する。なお学生諸君の自覚と積極的な講義参加を重視する立場から、テストや出欠確認は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

初回の講義で、日本経済の直面している諸問題について、オーヴァービューする。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

HA238

マクロ経済学Ⅱ

大瀧 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マクロ経済学Ⅰで学んだことをもとに、マクロ経済学の考え方を把握する。

【到達目標】

マクロ経済学をミクロ経済学の応用として理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

マクロ経済学では、ミクロ経済学には登場しない貨幣が重要な役割を果たす。現実の貨幣経済とミクロ経済学が対象とする物々交換経済では、経済に対する見方がどのように変化するかを、平易に解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (1)	「少子・高齢化」が経済に与える影響を復習する
第2回	イントロダクション (2)	「財政危機」が経済に与える影響を復習する。
第3回	イントロダクション (3)	「海外直接投資」が経済に与える影響を復習する。
第4回	貨幣の機能 (1)	貨幣が経済において果たしている役割を理解する。
第5回	貨幣の機能 (2)	物価水準がどのように決定されるかを理解する。
第6回	貨幣の機能 (3)	景気の繁閑を決定する有効需要と財政・金融政策との間にどのような関係があるかを理解する。
第7回	貨幣の機能 (4)	インフレーションがなぜ起きるかを理解する。
第8回	貨幣の機能 (5)	デフレーションがなぜ発生し、それがいかなる弊害をもたらすかを理解する。
第9回	経済政策はなぜ必要か (1)	理想的な物々交換経済では経済政策が不要であること（アダム・スミスの「神の見えざる手」）を理解する。
第10回	経済政策はなぜ必要か (2)	現実の貨幣経済では経済政策がなぜ必要となるかを理解する。
第11回	経済政策はなぜ必要か (3)	国債とは何かを理解し、経済政策に限界があることを知る。
第12回	為替レート・經常収支と日本経済 (1)	為替レートがいかなる経済要因に左右され、それが国内経済に与える影響を理解する。
第13回	為替レート・經常収支と日本経済 (2)	基軸通貨のもとでの変動レート制の仕組みを理解し、アメリカ経済と日本経済の関連を考える。
第14回	為替レート・經常収支と日本経済 (3)	対外直接投資が為替レートや日本国内の雇用に与える影響を考える。
第15回	日本経済の将来	これまでの講義を踏まえて、日本経済の将来像とそれのあるべき姿を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回講義に備えてテキストの対応部分を読んでくることを義務付ける。

【テキスト（教科書）】

『基礎からまなぶ経済学・入門』、大瀧雅之、有斐閣、2009

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末に講義の内容をまとめ、自ら新しく学んだことを論理的にまとめたレポートを、4000字以上で提出することを求める。これで成績を評価する。期末テストは実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

講義の最初の三回で、マクロ経済学Ⅰで学んだ内容を、「少子・高齢化」・「財政危機」・「海外直接投資による産業空洞化」を中心に復習する。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

HA239

現代企業論

長谷川 直哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済社会システムにおける企業活動の意義・役割を理解することは経営学の基本です。本講義では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解し、社会的器官としての企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（ナレッジマネジメント、コーポレートガバナンス等）に関する基本理論と事例を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方
第2回	経営とは何か	講義の全体像
第3回	企業とは何か	株式会社の発展プロセス
第4回	製品・サービスの提供	市場における優位性の獲得
第5回	株式会社の仕組みと課題	株式会社は誰のものか
第6回	大企業の機能と専門経営者	所有と経営の分離
第7回	企業の大規模化と組織の変革	規模の利益と効率化
第8回	経営管理の理念と機能	企業統治のあり方
第9回	日本の経営の構造	マネジメントの実践
第10回	ITと企業競争力	日本の経営の成果と課題
第11回	マーケティング	IT活用と経営変革
第12回	製品開発戦略	市場・顧客の変化への対応
第13回	コーポレート・ファイナンス	製品開発のプロセス
第14回	財務情報の開示	企業の資金調達と投資管理
第15回	経営分析の手法	財務諸表の読み方
第16回	企業価値とは何か	財務データに基づく企業分析
第17回		企業価値の構成要素（財務・非財務）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけてどのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

井原久光『テキスト経営学—基礎から最新の理論まで第3版』ミネルヴァ書房、2008年
柴田和史『ビジュアル株式会社の基本（第3版）』日本経済新聞社、2006年
武藤泰明『ビジュアル経営の基本』日本経済新聞社、2002年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

HA239

ビジネスヒストリー

長谷川 直哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター、DVD

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦前・戦後の日本経済の発展をリードした代表的な企業家の活動について説明します。過去から現在に至る企業および企業家活動の展開を振り返ることで、企業と社会の関係性や企業の社会的責任（CSR）の変遷について学びます。併せて、就職先企業の選定について役立つ情報・知識を提供します。

【到達目標】

現代企業の発展プロセスを理解し、企業が長年培ってきた強み・弱み、企業理念、CSRの取り組み等を理解する能力を高めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、わが国の代表的な企業や企業家のケースを取り上げて解説します。また、外部講師による特別講話を行う予定です。講義にはパワーポイントを使用し、必要に応じてDVD等を視聴します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ビジネスヒストリーを学ぶ意義と講義の全体像について
第2回	会社企業の設立	渋沢栄一
第3回	日本版CSRの原点	大原孫三郎（クラレ） 伊庭貞剛（住友財閥）
第4回	社会起業家の原点	金原明善
第5回	キリスト教倫理に基づく人道主義経営	波多野鶴吉（ゲンゼ） 武藤山治（カネボウ）
第6回	発明からビジネスへ	豊田佐吉（トヨタ自動車） 鈴木道雄（スズキ）
第7回	相互会社による生命保険事業	矢野恒太（第一生命）
第8回	バイオベンチャーの原点	高峰譲吉（三共製薬）
第9回	私鉄・百貨店ビジネスの原点	小林一三（阪急電鉄）
第10回	大衆消費社会の出現	松下幸之助（パナソニック）
第11回	町工場からグローバル企業へ①	本田宗一郎・藤沢武夫（本田技研工業）
第12回	町工場からグローバル企業へ②	井深大・盛田昭夫（SONY）
第13回	地方企業からの発展	石橋正二郎（ブリヂストン）
第14回	ベンチャー企業の躍進	立石一真（オムロン） 稲盛和夫（京セラ）
第15回	大企業のリストラクチャリング	樋口廣太郎（アサヒビール）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業のホームページに掲載されている「企業の歴史」などをウォッチし、各企業が生き残りをかけてどのような取り組みを行ってきたのかを考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

宇田川勝、生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣、2011年
法政大学産業情報センター/宇田川勝編

『ケースブック 日本の企業家活動』有斐閣、1999年。

法政大学産業情報センター/宇田川勝編

『ケーススタディー 日本の企業家史』文真堂、2002年。

法政大学イノベーション・マネジメント研究センター/宇田川勝編

『ケーススタディー 戦後日本の企業家活動』文真堂、2004年

法政大学イノベーション・マネジメント研究センター/宇田川勝編

『ケーススタディー 日本の企業家群像』文真堂、2008年

【成績評価の方法と基準】

期末試験 : 100%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを中心に、分かりやすい講義を行います。

HA239

経営学入門

金藤 正直

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、各企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、理論的内容だけでなく、企業の実践的取組みについても取り上げるために、企業がどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、各講義内容に関連する企業の取組みやモデルといった身近な事例を説明に加えるとともに、新聞・雑誌記事等を配布し、その解説を行う。さらに、資格試験の過去問題に基づいた例題を実際に解いていくことにより、経営学への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。
第2回	経営学とは何か	経営学の目的および意義と、企業が行う経営の全体像について説明する。
第3回	企業と経営 企業の諸形態	企業・会社の概念の諸形態に関する講義を通じて、企業にはさまざまな形があることを説明する。
第4回	経営戦略の策定プロセス 全社戦略	経営戦略の概念、特徴、策定方法とともに、その中の「全社戦略」について説明する。
第5回	事業戦略	事業別の戦略である「事業戦略」について説明する。
第6回	機能別戦略	部署別の戦略である「機能別戦略」について説明する。
第7回	経営戦略の展開方向性	企業の実践的取組みを考察するとともに、その結果と第4～6回までの講義内容を比較検討し、企業が策定すべき経営戦略について提案する。
第8回	経営組織の基本形態	経営組織とは何か、また、その基本形態について説明する。
第9回	経営組織の応用形態	第8回の講義内容に基づいて、経営組織の応用型について説明する。
第10回	経営組織の展開方向性	企業の実践的取組みを考察するとともに、その結果と第8～9回までの講義内容を比較検討し、企業が編成すべき経営組織について提案する。
第11回	経営管理の仕組み①－経営機能と管理機能－	経営機能と管理機能について説明し、企業経営を管理（マネジメント）していく方法を理解する。
第12回	経営管理の仕組み②－ヒトの管理－	企業内で行われている「人」の管理方法について説明する。
第13回	経営管理の仕組み③－モノの管理－	製品製造で行われている材料や仕掛品等の管理方法について説明する。
第14回	経営管理の仕組み④－カネの管理－	企業が経営戦略の策定、経営組織の編成、経営管理をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計の基礎基本について説明する。
第15回	経営管理の展開方向性	企業の実践的取組みを考察するとともに、その結果と第11～14回までの講義内容を比較検討し、企業が実施すべき経営管理について提案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加型（双方向型）や Q&A 形式の講義を実施しますので、講義中に、積極的に参加・発言していくためにも、講義前後は、テキストだけではなく、関連する他の著書や新聞・雑誌記事等を読んで、講義内容の理解に努めてください。

【テキスト（教科書）】

経営能力開発センター（2013）『経営学検定試験公式テキスト ①経営学の基本』中央経済社。

【参考書】

講義中にいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

- ・石井晴夫・樋口徹（2014）『組織マネジメント入門』中央経済社。
- ・亀川雅人・鈴木秀一（2011）『入門経営学 第3版』新世社。
- ・上林憲雄・奥林康司・團泰雄・関本浩矢・森田雅也・竹林明（2007）『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣ブックス。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・平常店（出席、リアクション・ペーパーの提出）（20％）
- ・討論やクイズへの参加（10～20％）
- ・確認テスト（10～20％）
- ・期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

- ・ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事等も配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

- ・エコ経済経営コース

HA239

環境経営と会計

金藤 正直

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計とは、特定の経済主体が行った活動状況を定量的に測定し、この結果を情報利用者に伝達するための情報システムである。会計の領域には、ミクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メゾ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の3つに分類される。そこで、本講義では、ミクロ会計のうち、企業を対象とした会計（企業会計）を体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業による経営あるいは環境経営の取組みと会計との関係を考慮に入れながら学習していくために、企業やその経営者における会計の役割や重要性が理解でき、また、会計固有の計算技法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、専門的で難解な用語・表現を Q & A 形式を多用しながら平易に説明し、また、例題に基づく学習を行うことにより、会计学への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。
第2回	「会計」とは何か	企業経営や環境経営における会計の目的や役割について説明する。
第3回	会計の基本的技法	会計を支える技法（簿記）の手続きとその内容について説明する。
第4回	簿記の構成要素①	簿記の構成要素のうち、資産、負債、純資産について講義する。
第5回	簿記の構成要素②	簿記の構成要素のうち、収益および費用について説明する。
第6回	取引と勘定	帳簿記入の対象（取引）とその処理方法について説明する。
第7回	仕訳と転記 仕訳帳と総勘定元帳	取引の仕訳から仕訳帳までの転記方法と、仕訳帳から総勘定元帳までの転記方法について説明する。
第8回	試算表と精算表 決算と財務諸表	試算表と精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書および貸借対照表の作成までの流れとその方法について説明する。
第9回	「原価」の計算技法	原価計算の目的、計算の流れとその方法、また、原価の定義や種類について説明する。
第10回	費目別計算①	材料費の計算方法について説明する。
第11回	費目別計算②	労務費、経費の計算方法について説明する。
第12回	製造間接費の計算	製造間接費の計算や処理方法について説明する。
第13回	単純個別原価計算	製品の個別受注生産形態に使用される原価計算の方法について説明する。
第14回	製造原価報告書 原価計算と貸借対照表および損益計算書の関係	製造原価報告書（製造原価明細書）の構造とともに、原価計算と第8回で学習した貸借対照表および損益計算書との関係について説明する。
第15回	環境経営と会計	これまでの学習内容に基づいて、環境経営を支援する環境会計の仕組みについて説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加型（双方向型）や Q&A 形式の講義を実施しますので、講義中に、積極的に参加・発言していくためにも、講義前後は、テキストだけではなく、関連する他の著書や新聞・雑誌記事等を読んで、講義内容の理解に努めてください。

【テキスト（教科書）】

鈴木一道（2012）『会計学 はじめの一步』中央経済社。

【参考書】

講義中にいくつか紹介しますが、講義外に自主学習を行う方のために次の著書をあげておきます。

・山崎雅教（2014）『簿記 はじめの一步』中央経済社。

・高橋賢（2009）『テキスト 原価会計』中央経済社。

・千代田邦夫（2014）『新版 会計学入門－会計・監査の基礎を学ぶ－（第3版）』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。

・平常店（出席、リアクション・ペーパーの提出）（20％）

・討論やクイズへの参加（10～20％）

・確認テスト（10～20％）

・期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

・ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。

・必要に応じて新聞・雑誌記事等も配布します。

・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

・エコ経済経営コース

HA238

公共経済学

小田 圭一郎

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学の基礎理論に基づき、公共政策を分析するための基本的フレームワークを身につけること。

【到達目標】

以下の事項の理解：

- ・厚生経済学の基本定理
- ・公共財の効率的配分
- ・外部性の市場的解決方法
- ・環境税と排出権取引の同等性
- ・逆選択モデルの基本

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学の復習を行った後、公共政策の必要要件（市場の失敗（公共財、外部性）、情報非対称性問題（逆選択）等）、及び、その解決方法（外部性の内部化、メカニズムデザインの初歩等）について学ぶ。またこれらに基づき、環境政策等の典型事例の分析を行う。なお、授業計画は、参加学生のバックグラウンド、関心分野等にに応じて適宜修正する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	公共経済学の概観と授業の進め方
第2回	ミクロ経済学①	最適化問題の定式化
第3回	ミクロ経済学②	厚生経済学の基礎
第4回	ミクロ経済学③	市場の失敗
第5回	公共財①	定義・効率的配分条件
第6回	公共財②	リンダール均衡、クラークメカニズム
第7回	ゲーム理論	ゲーム理論の初歩
第8回	外部効果①	定義、コースの定理
第9回	外部効果②	市場的解決方法
第10回	環境政策①	環境問題の定式化
第11回	環境政策②	環境税と排出権取引
第12回	公的企業	自然独占と規制
第13回	情報非対称性問題①	情報非対称性問題の一般的考え方
第14回	情報非対称性問題②	環境政策における逆選択問題の定式化
第15回	全体の復習	重要論点のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ミクロ経済学の初歩についての学習

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

初回授業時に指示

【成績評価の方法と基準】

試験または課題提出

【学生の意見等からの気づき】

基礎となる諸概念について直観的な説明を行う。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

HA239

簿記入門Ⅰ・Ⅱ

大下 勇二

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2~4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ・Ⅱでは日商簿記3級程度を共通の目標としているが、このクラスでは、特に2年次以上の学生向けに3級程度の簿記の基礎を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおこなって習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

通年	回	テーマ	内容
	第1回	簿記会計の基礎	簿記の役割、簿記の種類について解説します。
	第2回	資産・負債・純資産(資本)(1)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産(資本)について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
	第3回	資産・負債・純資産(資本)(2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産(資本)について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法を学びます。
	第4回	収益・費用	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
	第5回	簿記上の取引	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
	第6回	仕訳(1)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
	第7回	仕訳(2)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。仕訳帳への記入練習を行います。
	第8回	勘定記入	勘定記入 仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。取引から仕訳、その勘定口座への転記の作業を習得します。
	第9回	帳簿組織	帳簿 帳簿の種類と役割から、組織組織を学習します。
	第10回	試算表の作成	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
	第11回	決算手続き(その1)(1)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
	第12回	決算手続き(その1)(2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
	第13回	決算手続き(その1)(3)	決算手続き(その1)および決算手続き(その2)で学んだ内容を前提に、精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。

第 14 回	現金・預金の記帳	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。
第 15 回	総括	第 14 回までの学習内容に関する総合問題に取り組みます。
通年		
回	テーマ	内容
第 16 回	商品売買の記帳 (1)	3 分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第 17 回	商品売買の記帳 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。
第 18 回	売掛金・買掛金の記帳	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳、貸倒れの処理を練習します。
第 19 回	手形取引の記帳	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、為替手形の仕組みと種類、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第 20 回	その他の債権・債務の記帳	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・借受金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第 21 回	有価証券の記帳	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第 22 回	固定資産の記帳 (1)	固定資産の取得、減価償却について学習します。
第 23 回	固定資産の記帳 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、固定資産の売却の処理について学習します。
第 24 回	税金の記帳	個人企業の税金、費用として認められる税金、費用として認められない税金、費用・収益に関係のない税金の処理を学習し、源泉徴収制度の仕組みを学びます。
第 25 回	営業費の記帳	その他の営業費に関する勘定の特徴と記帳方法を学習します。
第 26 回	資本の記帳	個人企業の資本金、引出金の処理について学習します。
第 27 回	決算手続き (その 2)(1)	決算整理の意味、貸倒引当金、有価証券の評価替えを中心に、決算整理の処理を学習します。
第 28 回	決算手続き (その 2)(2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品残高の整理を中心に、決算整理の処理を学習します。
第 29 回	決算手続き (その 2)(3)	棚卸表の作成から 8 けた精算表の作成、帳簿の締切りおよび財務諸表の作成練習を行います。
第 30 回	総括	総合練習問題に取り組みます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、毎授業の最後に、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。

【テキスト (教科書)】

大下・福多・神谷・筒井著『簿記講義ノート』白桃書房

【参考書】

日商簿記検定試験問題集

【成績評価の方法と基準】

基本的には、春学期・秋学期の定期試験、小テストの結果および仕訳トレーニングの解答の状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

仕訳トレーニングの問題を毎回学生に解答してもらい、授業内容の理解度を確認しながら、授業を進めて行きます。

【その他の重要事項】

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

HA338

環境経済論 I

内山 勝久

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の視点から見た環境問題の捉え方を講義します。環境問題はさまざまな経済活動に伴って発生していることから、環境と経済の関係について体系的に理解し、環境問題解決のためにはどのような対処方法があるのかを検討します。

【到達目標】

環境問題について経済学的側面から考える際に必要となる基礎的で重要な概念・枠組みを習得することを目指します。さらに習得した事項を現実の問題に適用できるような応用力も養成したいと考えています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。最初に環境経済学の学習に不可欠なツールであるミクロ経済学の基礎的な概念を習得した後、市場経済の問題点と環境問題発生メカニズムの関係、最近注目されている環境問題解決のための経済的手段など、環境経済学の標準的なトピックスについて基礎的事項を解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、および環境問題と経済活動の関係について
第 2 回	ミクロ経済学の復習 (1)	需要と供給の概念
第 3 回	ミクロ経済学の復習 (2)	限界概念、および消費者余剰と生産者余剰
第 4 回	ミクロ経済学の復習 (3)	パレート効率性について
第 5 回	環境問題の原因 (1)	外部性と市場の失敗
第 6 回	環境問題の原因 (2)	公共財と市場の失敗
第 7 回	環境問題の原因 (3)	共有資源の利用と管理について
第 8 回	環境政策の目標・手段・主体	環境政策の目的とそれを実現するための目標設定と手段、実施主体について
第 9 回	環境政策の考え方 (1)	規制的手段の考え方
第 10 回	環境政策の考え方 (2)	環境税の考え方
第 11 回	環境政策の考え方 (3)	補助金の考え方
第 12 回	環境政策の考え方 (4)	デポジット制度の考え方
第 13 回	環境政策の考え方 (5)	当事者交渉による環境問題解決の考え方とコースの定理について
第 14 回	環境政策の考え方 (6)	排出権取引の考え方
第 15 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

使用する概念・道具はその都度解説しますが、「ミクロ経済学」、「公共経済学」等を履修済み、または並行して履修していると理解が深まると思われる。また、授業の記憶が鮮明なうちに復習することを奨励します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介しますが、授業全体を通じては以下の書籍が参考になります。

・R. K. ターナー他（大沼あゆみ訳）、『環境経済学入門』、東洋経済新報社、2001 年。

・栗山浩一・馬奈木俊介、『環境経済学をつかむ（第 2 版）』、有斐閣、2012 年。

【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するために、期末に筆記試験を実施します（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な言葉で丁寧な説明を心がけます。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・環境サイエンスコース

HA338

環境経済論 II

内山 勝久

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済論 I に引き続き、環境問題と経済活動の関係について体系的に理解し、環境改善のために必要な方法論を経済学の視点から検討します。さらに環境経済論 I で採り上げなかったいくつかのトピックスについても紹介します。

【到達目標】

環境問題について経済学的側面から考える際に必要となる基礎的で重要な概念・枠組みを習得することを目指し、さらにそれらを応用する力を獲得することも視野に入れます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

引き続き、環境経済学の標準的なトピックスについて基礎的事項を講義形式で解説します。とくに環境経済論 II では自然資源の最適利用などの資源経済学の基礎、環境をどのように評価するのかに関するいくつかの手法などを中心に学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境経済論 I のレビューと環境経済論 II の概観
第 2 回	環境問題と貿易	貿易が環境問題に与える影響、環境政策が貿易に与える影響について
第 3 回	経済発展と環境	持続可能な発展の概念、および環境クズネット曲線の議論について
第 4 回	再生可能資源の最適管理 (1)	漁場の経済学 (1)
第 5 回	再生可能資源の最適管理 (2)	漁場の経済学 (2)
第 6 回	再生可能資源の最適管理 (3)	森林の経済学
第 7 回	非再生可能資源の最適管理	鉱物資源の経済学
第 8 回	環境の価値	環境の経済的価値、評価の活用について
第 9 回	環境の価値評価 (1)	顕示選好法による便益評価方法
第 10 回	環境の価値評価 (2)	表明選好法による便益評価方法
第 11 回	費用・便益分析	費用・便益分析の考え方、割引率の考え方について
第 12 回	リスクと不確実性	環境問題とリスク・不確実性の考え方について
第 13 回	廃棄物問題	廃棄物管理の経済的手法について
第 14 回	生物多様性	生物多様性の重要性と保全手法について
第 15 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「環境経済論 I」の履修を前提とします。また、使用する概念・道具はその都度解説しますが、「ミクロ経済学」、「公共経済学」等を履修済み、または並行して履修していると理解が深まると思われる。また、授業の記憶が鮮明なうちに復習することを奨励します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介しますが、授業全体を通じては以下の書籍が参考になります。

・R. K. ターナー他（大沼あゆみ訳）、『環境経済学入門』、東洋経済新報社、2001 年。

・栗山浩一・馬奈木俊介、『環境経済学をつかむ（第 2 版）』、有斐閣、2012 年。

【成績評価の方法と基準】

理解度を確認するために、期末に筆記試験を実施します（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な言葉で丁寧な説明を心がけます。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・環境サイエンスコース

HA339

環境経営論 I

金藤 正直

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経営とは、企業や自治体等の組織が、環境保全を考慮に入れた戦略あるいは政策を策定し、それに基づいて組織を編成し、全体管理していく一連の行為である。環境経営論 I・II の講義では、環境経営を経営学的視点と会計学的視点に分類し、それぞれの視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。なお、本講義では、経営学的視点から環境経営（あるいは CSR 経営）を学習する。

【到達目標】

本講義では、日本企業で現在実践されている環境経営（あるいは CSR 経営）における方針（戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を、経営学的視点から明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、日本企業で実践されている環境経営（あるいは CSR 経営）の取組みを、環境報告書あるいは CSR 報告書と、これらの内容を分析・評価できる調査集計表や評価シートを利用しながら理解することを旨とする。また、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞や雑誌等の記事を配布し、そうした取組みへの理解をさらに深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方、評価について説明する。
第 2 回	環境経営の全体像①	企業が行っている経営と比較しながら、環境経営の目的、役割、仕組みを説明する。
第 3 回	環境経営の全体像②	環境経営の取組内容を分析・評価できる環境報告書（あるいは CSR 報告書）調査集計表と評価シートについて説明する。
第 4 回	環境経営戦略①	企業が策定している環境経営戦略の特徴を、経営学的視点から説明する。
第 5 回	環境経営戦略②	企業の実践的取組を調査集計表や評価シートを用いて分析・評価する。
第 6 回	環境経営戦略③	第 4 回と第 5 回の講義内容を比較検討しながら、企業が策定すべき環境経営戦略を提案する。
第 7 回	環境経営組織①	環境経営戦略を実現していくための組織体制の特徴を、経営学的視点から説明する。
第 8 回	環境経営組織②	企業の実践的取組を調査集計表や評価シートを用いて分析・評価する。
第 9 回	環境経営組織③	第 7 回と第 8 回の講義内容を比較検討しながら、企業が編成すべき環境経営組織を提案する。
第 10 回	環境経営管理①	環境に関する国際規格（ISO14001 等）を用いたマネジメントシステムを、経営学的視点から説明する。
第 11 回	環境経営管理②	企業の実践的取組を調査集計表や評価シートを用いて分析・評価する。
第 12 回	環境経営管理③	第 10 回と第 11 回の講義内容を比較検討しながら、企業が実施すべき環境経営管理を提案する。
第 13 回	環境経営の現状と意義	環境省の報告書や統計資料を用いて、環境経営の現状を明らかにするとともに、そのメリット・デメリットについて検討する。
第 14 回	環境経営の全体像③	これまでの講義に基づいて、企業が将来実施すべき環境経営の取組みについて議論し、検討する。
第 15 回	企業の社会的責任（CSR）経営	環境経営と比較しながら CSR 経営の特徴を説明するとともに、統計資料を用いて、日本企業の取組状況を明らかにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加型（双方向型）や Q&A 形式の講義を実施しますので、講義中に、積極的に参加・発言していくためにも、講義前後は、関連する著書や新聞・雑誌記事等を読んで、講義内容の理解に努めてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、「経営学の基礎知識」があれば、講義内容を比較的容易に理解することができます。

【参考書】

【著書】

- ・経営学検定試験協議会（2013）『経営学検定試験公式テキスト① 経営学の基本』中央経済社。
- ・石井晴夫・樋口徹（2014）『組織マネジメント入門』中央経済社。
- ・㈱日立製作所地球環境戦略室（2009）『日立インスパイア環境経営』東洋経済新報社。
- ・谷達雄（2012）『リコーの先進事例に学ぶ 環境経営入門』秀和システム。

【URL】

- ・経済産業省「環境報告書プラザ」(<http://www.ecosearch.jp/ja/>)。

【成績評価の方法と基準】

- 本講義の成績は次の 4 点に基づいて評価します。
- ・平常点（出席、リアクション・ペーパーの提出）（20 %）
 - ・討論やクイズへの参加（10～20 %）
 - ・確認テスト（10～20 %）
 - ・期末試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

- ・ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事等も配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・環境サイエンスコース

HA339

環境経営論Ⅱ

金藤 正直

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、会計学的視点から、環境経営論Ⅰで学習した環境経営（あるいはCSR経営）の取組成果を環境会計（あるいはCSR会計）を用いて定量的に把握し、ステイクホルダーに開示していく方法を、会計学的視点から明らかにし、習得することができる。

【到達目標】

本講義では、日本企業で現在実践されている環境経営（あるいはCSR経営）の取組成果を環境会計（あるいはCSR会計）を用いて定量的に把握し、ステイクホルダーに開示していく方法を、会計学的視点から明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、日本企業で実践されている環境会計（あるいはCSR会計）の取組成果を、環境省、経済産業省、GRI（Global Reporting Initiative）から公表されているガイドラインや、環境報告書あるいはCSR報告書とその内容を分析・評価できる調査集計表や評価シートを利用しながら理解することを目指す。また、必要に応じて新聞や雑誌等の関連記事を配布し、そうした取組をより詳細に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方、評価について説明する。
第2回	環境経営と環境会計	環境会計の定義と基本的機能とともに、環境経営との関係についても説明する。
第3回	環境会計情報①	環境省環境会計ガイドラインに基づいて、環境保全コストの定義、内容、測定方法について説明する。
第4回	環境会計情報②	環境省環境会計ガイドラインに基づいて、環境保全効果および経済効果の定義、内容、測定方法について説明する。
第5回	環境会計情報③	企業の実践的取組を調査集計表や評価シートを用いて分析・評価する。
第6回	環境会計情報④	第3・4回と第5回の講義内容を比較検討しながら、企業が把握すべき環境会計情報を提案する。
第7回	環境経営分析①	環境省環境会計ガイドラインに基づいて、環境経営分析指標の利用方法と種類について説明する。
第8回	環境経営分析②	企業の実践的取組を調査集計表や評価シートを用いて分析・評価する。
第9回	環境経営分析③	第7回と第8回の講義内容を比較検討しながら、企業が利用すべき経営分析指標を提案する。
第10回	環境会計情報の利用方法	環境省環境会計ガイドラインに基づいて、環境会計の内部管理・外部報告の利用方法について説明する。
第11回	環境会計の現状と意義	環境省の報告書や統計資料を用いて、環境会計の現状を明らかにするとともに、そのメリット・デメリットについて検討する。
第12回	日本企業における環境会計の展開方向性	これまでの講義内容を整理しながら、将来導入すべき環境会計について議論し、検討する。
第13回	CSR会計①	環境会計と比較しながらCSR会計の特徴について説明する。
第14回	CSR会計②	CSR報告書を用いて、日本企業におけるCSR会計の取組事例を説明する。
第15回	統合報告の取組状況	統合報告（制度情報＋任意情報）の定義、開示内容、事例、有効性について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加型（双方向型）やQ&A形式の講義を実施しますので、講義中に、積極的に参加・発言していくためにも、講義前後は、関連する著書や新聞・雑誌記事等を読んで、講義内容の理解に努めてください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、「会計学の基礎知識」があれば、講義内容を比較的容易に理解することができます。

【参考書】

【著書】

- ・千代田邦夫（2014）『新版 会計学入門－会計・監査の基礎を学ぶ－（第3版）』中央経済社。
- ・河野正男・八木裕之・千葉貴律（2013）『サステナビリティ社会のための生態会計入門』森山書店。

【URL】

- ・経済産業省「環境報告書プラザ」(<http://www.ecosearch.jp/ja/>)。

【成績評価の方法と基準】

- 本講義の成績は次の4点に基づいて評価します。
- ・平常点（出席、リアクション・ペーパーの提出）（20％）
 - ・討論やクイズへの参加（10～20％）
 - ・確認テスト（10～20％）
 - ・期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

- ・ワードおよびパワーポイントベースの資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事等も配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・環境サイエンスコース

HA339

環境経営実践論 I

花田 正明

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：木 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀ゼロ成長時代の国際的循環型経済社会を指導的に支えて行くフレッシュな人材となることを目的とし、経済社会活動における真の環境問題とは何か、経営上でエコバランス、エコエフィシエンスを重視した継続的改善を伴った解決策をどのように推進すればよいかを考える。

【到達目標】

1. 国際的基本ツール ISO14001（環境マネジメントシステム規格）の意図と基本概念を理解し、環境配慮経営は持続可能な経済社会への貢献につながる背景・理由を説明できる。
2. 実在企業を題材として環境影響評価と予防・継続的改善を実践的な PDCA の基礎的仕組に適用できる。
3. 環境マネジメントシステムにおいてそれを補完・支援するライフサイクルアセスメント、環境ラベル、環境コミュニケーション、環境会計、社会的責任・コンプライアンス等の国際規格 ISO 上の位置づけ、目的・意図を明確にし説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

持続可能な環境経営実践モデルや ISO14000 シリーズ規格（環境マネジメントシステム規格シリーズ）を理解しやすく図表化して授業を行うとともに、基礎演習では、実在企業の環境経営方針や環境汚染問題を事例にしたグループ討議、実在企業の製造プロセスを使って著しい環境側面特定と環境影響評価を行うグループ演習・発表によって上記目標に到達できるようなものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境経営の基本概念	歴史的背景を踏まえて環境配慮経営にサステナビリティ経営上の必要性及び位置づけを認識し、現代の経営では CSR が求められることを理解する。
第 2 回	地域的環境汚染問題（公害問題）と地球環境問題	循環型社会に国際的経済社会システム変換の必要性（地域的環境汚染問題と地球環境問題の原因と対策）を考える。
第 3 回	ISO14000 シリーズ規格の意図と基本概念	国際共通の環境経営基本ツールである ISO14000 シリーズ規格の意図と基本概念を理解する。
第 4 回	環境経営における基本原則	ISO14001 規格に基づき、環境経営の基本原則である「環境側面」「環境影響」「環境パフォーマンス」を考える。
第 5 回	基礎演習 1	実在企業の環境方針と環境汚染の事例に基づいて、環境中の土イオンセンティブを与える原因と影響・結果を実践的に考える。
第 6 回	基礎演習 1	基礎演習 1 についてグループ討議を行った結果を発表・総括する。

第 7 回	環境経営システムを補完するライフサイクルアセスメントと環境適合設計	環境経営システムを補完するライフサイクルアセスメント（LCA）とエコデザインを ISO14001 と 9001 との関係で考える。
第 8 回	環境ラベルと環境コミュニケーションの位置付け	産業界における環境ラベルと環境コミュニケーションの位置付けと必要性を具体的事例に基づいて考える。
第 9 回	環境経営システムの実効性と環境会計	ライフサイクルアセスメントと環境ラベルと関連してマテリアルフロウコスト会計と環境会計ガイドラインの共通性と目的を理解する。
第 10 回	環境影響評価と環境パフォーマンス指標	環境目的・目標に基づく実施計画と環境パフォーマンス指標に基づく監視・測定・評価の一連の流れを理解する。
第 11 回	基礎演習 2	実在企業を題材として環境側面を洗い出しその環境影響分析・評価をグループ討議する。
第 12 回	基礎演習 2	グループ討議による成果を発表し、全体討議によって著しい環境側面・環境影響は何かを特定する。
第 13 回	環境経営実践上のコンプライアンス	環境経営に係るコンプライアンス（法規制、条例、企業倫理に基づく自主的規制等）と法令遵守を考える。
第 14 回	環境改善の内部監査及び ISO14000 シリーズ規格の要点	環境経営を継続的に改善するための内部監査及び補完・支援するための ISO14000 シリーズ規格の要点を理解する。
第 15 回	環境経営実践ケーススタディ	日本の代表的企業を事例として環境経営実践のカギをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

可能な限り新聞の経済社会記事を読む。新聞を読む習慣を持ち、それを活かして授業・演習・討議を通じて考える力を養う。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回授業時に学習テーマに沿った資料および関連新聞記事を配布し解説する。

【参考書】

堀内行蔵・向井常雄「実践環境経営論」東洋経済新報社 2006 年

【成績評価の方法と基準】

事前課題レポート 50%（事前に提示する環境経営実践課題に関するレポートを最終授業日に提出する）
基礎演習の成果 25%（事前検討・役割発揮・発表内容）
平常点 25%（ふだんの授業・質疑応答への係わり、積極的な問題意識提起）

【学生の意見等からの気づき】

具体的な環境経営実践モデルを授業で提示する。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

HA339

環境経営実践論Ⅱ

花田 正明

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々変化する政治経済社会問題と環境経営は密接な相互作用の関係にあり、そのために事業機会リスクをマネジメントすることは持続可能な環境経営を実現して行く上で重要な課題となる。

授業では、本年改正予定の ISO14001（環境マネジメントシステム規格）は環境と経済の両立からさらに社会的側面にも立脚したトリプルボトムラインと統合マネジメントに進化することを理解し、春学期「環境経営実践論Ⅰ」の応用編として改正 ISO14001 の目的・意図を考えながら環境経営実践のためのリスクマネジメント、サプライチェーンマネジメント、コンピタンシーマネジメントを事例を通して学習する。

【到達目標】

1. 環境経営の持続可能性と環境マネジメントシステムの必要性について再認識し、環境経営にプラス・マイナスのインセンティブをもたらす有益・有害な事業機会リスクのマネジメント手法を事例に基づいて実践的に適用することができる。
2. サプライチェーンマネジメントやコンピタンシーマネジメントは、その重要性において環境マネジメントシステムとどのようにかわってくるのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

環境経営の事業機会リスクマネジメントの実践的分析・評価、有効性を PDCA サイクルと関連づけて理解しやすく図表を多用しながら、授業・演習・討議を通じて上記目標に到達するような授業とする。演習では、改正 ISO14001 の考え方を利用して、ある業界におけるモデル事業会社について、外部環境（脅威と機会）と内部環境（強みと弱み）は何か、事業遂行上の環境影響やリスク（負の側面）と環境に配慮した新たな事業機会創出や事業プロセス改善（正の側面）、そのため求められる組織・体制、課題・解決策をグループ討議する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境経営の基本概念	環境経営の基本概念及び国際的基本ツールである新旧 ISO14001 規格の意図と基本概念を考える（春学期講義レビューと課題補充）。
第 2 回	環境経営の必要性	ゼロ成長時代に求められる健全な企業ビジョン・理念に基づく環境経営の必要性をライフサイクルと統合マネジメントの視点で考える（春学期講義レビューと課題補充）。
第 3 回	環境経営リスクマネジメント概論 1	基本的マネジメントサイクル PDCA を展開するために改正 ISO14001 が要求する「組織の状況の把握」と「脅威と機会に伴うリスクへの取組み」について考える。
第 4 回	環境経営リスクマネジメント概論 2	経営にプラス・マイナスインセンティブをもたらす有益または有害な事業機会リスクについて考える。

第 5 回	ISO31000（リスクマネジメント規格）	改正 ISO14001 との関連において ISO31000（リスクマネジメント規格）に基づくリスク要素の特定とその環境影響のリスク評価を考える。
第 6 回	演習 1（事業リスク要素とその環境影響評価）	ある業界のモデル事業会社について経営を取り巻く状況（内部・外部環境）と事業リスク要素（環境側面/活動上の土諸要素・側面）について考える。
第 7 回	演習 1（発表と討議）	演習 1 の結果の各グループ発表と討議
第 8 回	リスクマネジメントにおける分析・評価	演習 1 の結果を振り返り、リスクマネジメントにおける実践的な分析・評価のあり方を PDCA サイクル及びポートフォリオマネジメントと関連づけて考える。
第 9 回	環境経営実践におけるリスクマネジメント事例	具体的リスクマネジメント事例をもとに環境経営実践を考える。
第 10 回	サプライチェーンマネジメントの考え方と重要性	経営におけるサプライチェーンマネジメントは環境経営実践の基点となること、および真の環境問題はどこにあるのかを考える。
第 11 回	環境経営におけるコンピタンシーマネジメント	環境経営に求められる人材レベルのコンピタンシーマネジメント（実績・力量主義経営）の基本と組織レベルのコア・コンピタンス経営の重要性を考える。
第 12 回	演習 2（リスクマネジメント事例演習）	演習 1 のモデル事業会社の経営上・環境上の具体的なリスクを特定し、事業機会創出・事業プロセス改善案をグループ討議で考える。
第 13 回	演習 2（続き）	モデル事業会社について求められる組織・体制、課題・解決策についてグループ討議で考える。
第 14 回	演習 2（結果の発表と討議）	演習 2（結果の発表と討議）
第 15 回	まとめ	全体授業の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

可能な限り新聞の経済社会記事を読む。新聞を読む習慣を持ち、それを活かして授業・演習・討議を通じて考える力を養う。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回授業時に学習テーマに沿った資料および関連新聞記事を配布し解説する。

【参考書】

堀内行蔵・向井常雄「実践環境経営論」東洋経済新報社 2006 年

【成績評価の方法と基準】

- 50% 事前課題レポート（事前に提示する環境経営実践課題に対するレポートを最終授業日に提出する）
- 25% 演習の成果（事前検討・役割発揮・発表内容）
- 25% 平常点（ふだんの授業・質疑応答への係わり、問題意識提起）

【学生の意見等からの気づき】

P D C A と関連したリスクマネジメントの具体的な企業事例を考える。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

HA339

CSR 論 I

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR (Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任) や Business Ethics (経営倫理) に関する基本的理論と世界的な潮流を理解し、サステナブル (持続可能な) 社会において求められる企業の役割と企業に所属する個人の職業倫理のあり方について理解を深めることめざします。

【到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」にめぐって生じる諸問題に対する理解を深めめことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想の展開を概観します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や CSR および個人の職業倫理について検討していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	企業の機能と役割 株式会社の発展と企業倫理	日米欧における株式会社の発展プロセスと企業倫理の変遷
第 3 回	近代産業の勃興と経済倫理 I -見えざる手と道徳哲学	『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性
第 4 回	近代産業の勃興と経済倫理 II -功利主義思想	産業革命の勃興と企業倫理
第 5 回	近代産業の勃興と経済倫理 III -資本主義の精神と倫理	近代資本主義の思想的背景
第 6 回	特別講義 I 企業担当者による講話	詳細は開講時に提示
第 7 回	企業社会の論理と倫理-社会的責任のマネジメント	社会的器官としての企業
第 8 回	資本主義の危機と変容	資本主義経済の進展と市場の失敗
第 9 回	新自由主義 vs 第三の道	新自由主義の思想と限界 第三の道と新しい公共
第 10 回	CSR の胎動	新自由主義への反動と CSR の胎動
第 11 回	日本社会の企業倫理と CSR ①	日本における企業倫理・社会的責任の萌芽
第 12 回	特別講義 II 企業担当者による講話	詳細は開講時に提示
第 13 回	日本社会の企業倫理と CSR ②	日本の経済成長と CSR の生成
第 14 回	成熟化社会の到来と CSR	成熟化した社会における CSR の本質
第 15 回	CSR の世界的潮流	グローバル社会における CSR の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある企業の経営理念や CSR 報告書を読み、企業がどのような価値観を持って発展し CSR 活動を行っているのか調べて下さい。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

R.L. ハイブルローナー（松原隆一郎ほか訳）『入門経済思想史』筑摩書房、2001 年

武田晴人『日本人の経済観念』岩波書店、1999 年

佐和隆光『成熟化社会の経済倫理』岩波書店、1993 年

谷本寛治『責任ある競争力 - CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の理解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【関連の深いコース】

エコ経営コース・国際環境協力コース・環境文化創造コース・環境サイエンスコース

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR 論Ⅰで学んだことを踏まえ、現代社会において企業が直面する社会的課題について検討します。CSR に関心が高まっている背景には、社会が必ずしもよい方向に進んでいないという認識を人々が抱いているからにはかなりません。企業と社会の間に存在する様々な矛盾を解消するための仕組みとしての CSR について理解を深めることをめざします。

【到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」にめぐって生じる諸問題に対する理解を深めめことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

サステイナブルという言葉が現代社会のキーワードとして提示され、様々な社会的課題の解決を目指すソーシャルビジネス（社会的企業）の活動も注目されています。本講義では、CSR に関する理論やケースを取り上げ、企業経営における CSR の意義とサステイナブル社会で求められる企業像を検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス CSR の基本概念 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	わが国企業社会の倫理観	共同体組織と公共性
第 3 回	CSR / Business Ethics の潮流	日米両国における CSR の認識と実践
第 4 回	CSR コミュニケーション	ステークホルダーとの対話 CSR 報告書を読み解く
第 5 回	CSR の制度化	ISO26000 について
第 6 回	外部講師による特別講義Ⅰ	企業・NPO のゲストスピーカーによる講話
第 7 回	企業戦略と CSR の相克	企業戦略と CSR & Business ethics はトレードオフなのか
第 8 回	ステークホルダー・コミュニケーション	持続可能性報告と CSR コミュニケーション
第 9 回	外部講師による特別講義Ⅱ	企業・NPO のゲストスピーカーによる講話
第 10 回	欧州の CSR 戦略①	EU 圏における CSR 政策の変遷
第 11 回	欧州の CSR 戦略②	EU 圏における CSR の関心事と政策動向
第 12 回	CSR 金融① 社会的責任投資とは何か	CSR と社会的責任投資（SRI）の関係性
第 13 回	CSR 金融② 環境格付と投資収益率	非財務的要素と企業価値の関係
第 14 回	CSR 金融③ SRI ファンド	SRI ファンドの実態
第 15 回	ソーシャルビジネス	企業と NPO の協働

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では 1,000 社程度の企業が CSR 報告書を発行しています。本講義で習得した知識を活かして、CSR 報告書を読み解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

谷本寛治『責任ある競争力ー CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年
谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社、2003 年
岸田真代編『NPO× 企業 協働のススメ』パートナーシップサポートセンター、2012 年
岸田真代編『企業が伸びる地域が活きる：協働推進の 15 年』パートナーシップサポートセンター、2013 年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート： 30 %
期末試験： 70 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の理解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・環境文化創造コース・環境サイエンスコース

HA338

途上国経済論 I

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本のかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

【到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況(1)：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第 5 回	途上国社会・経済の概況(2)：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況(3)：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況(4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済(1)：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第 9 回	主要国／地域の社会と経済(2)：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第 10 回	主要国／地域の社会と経済(3)：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジア NIES の一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える

第 11 回	主要国／地域の社会と経済(5)：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第 12 回	主要国／地域の社会と経済(6)：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第 13 回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える
第 14 回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じて社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困を撲滅できるのか、という問いを概観する。
第 15 回	まとめ：途上国経済（特にアジア経済）の発展と先進国経済（特に日本）との関わり	講義全般の復習を行うとともに、日本と途上国と呼ばれる国や地域との関係を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

【参考書】

グラボウスキー他（2008 年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007 年）『アジア経済読本（第 4 版）』（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度に引き続き講義が単調なものとならないように求める声があったことから、学生の集中力を高めるための工夫やメリハリをつけることを考えていく。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものとスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

HA338

途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

【到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し ウ) 南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：途上国経済を見る目	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観。
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況(1)：中国(1) 社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、社会主義経済から資本主義経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況(2)：中国(2) 持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況(3)：インドー目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況(4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済(5)：タイー東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでも NIES に続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国／地域の社会と経済(6)：ベトナムー戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済の一角として名乗りを上げる過程を概観する。
第10回	主要国／地域の社会と経済(7)：ブラジルー南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国／地域の社会と経済(8)：南アフリカーアパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国／地域の社会と経済(9)：ボツワナー資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。

第13回 世界経済を動かす「金融」 リーマンショックや通貨危機など、現代の世界経済に大きな影響を及ぼすのはモノではなく通貨である。「金融」という観点から世界経済の構造を概観する。

第14回 国際経済の中の域内協力 ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。

第15回 まとめ：途上国経済および世界経済の未来 講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度に引き続き講義が単調なものにならないように求める声があったことから、学生の集中力を高めるための工夫やメリハリをつけることを考えていく。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

HA338

国際経済協力論 I

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。この講義では、国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得を目指す基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や仕組みについての理解を深めるための講義を進める。

必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力とは。	国際経済協力とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第2回	国際社会と経済協力の歴史(1) (1945年～1960年代)：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の経済協力の取り組みについて概観する。
第3回	国際社会と経済協力の歴史(2) (1970年～1980年代)：経済協力への失望と変化の兆し	経済協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第4回	国際社会と経済協力の歴史(3) (1990年代～現在)：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化における経済協力の位置づけを概観する。
第5回	日本の経済協力の歩み(1)：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の経済協力で与えた影響について理解する。
第6回	日本の経済協力の歩み(2)：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950年代～1970年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第7回	日本の経済協力の歩み(3)：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて1980年代～2000年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第8回	経済協力の仕組みと方法(1)：無償資金協力と技術協力を中心に	日本の経済協力の仕組みと現状(特徴)につき、統計資料などをもとに理解する。特に無償資金協力と技術協力の概略と特徴を知る。
第9回	経済協力の仕組みと方法(2)：円借款(有償資金協力)を中心に	日本の経済協力の仕組みと現状(特徴)につき、統計資料などをもとに理解する。特に日本の経済協力の特色である、円借款(有償資金協力)の概略と特徴を知る。
第10回	経済協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の経済協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府(「官」)ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第11回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ(1)：経済成長と人間開発	経済協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様子を、具体的な戦略(アプローチ)の変遷を通じて理解する。

第12回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ(2)：持続可能な開発と環境	環境をめぐる問題が経済協力の分野でとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
第13回	経済協力の評価と効果をめぐる議論	これまでの経済協力には効果はあったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
第14回	日本が経済協力を行う理由	日本は途上国への経済協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。
第15回	まとめ：いままぜ国際協力なのか	講義全般の復習を通じて、国際社会や日本の経済社会状況の変化と経済協力の関係をあらためて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

斎藤文彦(2005年)『国際開発論』(日本評論社)
 勝間靖編著(2012年)『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』(ミネルヴァ書房)
 牧田東一編著(2013年)『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』(学陽書房)
 外務省(毎年発行)『日本の国際協力』(ODA 白書)

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

講義が一方通行の単調なものとならないことを希望するコメントがあった。受講人数による制約はあるが可能な範囲で学生が参加できる形式での講義を考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

HA338

国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。この講義では、国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力をを行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による経済協力(1) NGO(NPO)と市民社会	近年、経済協力において主たるアクターとなっている NGO(NPO)の活動について概観する。
第4回	新たな主体による経済協力(2) 民間企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、経済協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第5回	新たな主体による経済協力(3) 南々協力および新たな援助国の登場	開発途上国同士の経済協力の取り組みや、従来の先進国（援助国）とは異なる新興援助国について紹介する。
第6回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第7回	人間の安全保障と国連ミレニアム開発目標	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第8回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	経済協力と紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第9回	アフリカ(1)：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第10回	アフリカ(2)：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第11回	フェア・トレード(1)：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第12回	フェア・トレード(2)：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第13回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。

第14回 地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を中心に

第15回 まとめ：なぜ国際経済協力が必要なのか

気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
秋学期の講義でとりあげた各トピックをあらためて概観するとともに、様々な協力が必要とされる背景について理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

【参考書】

斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）
外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

映像の多用はおおむね好評であるが、一方で映像が長いと集中が阻害されるとの声もあった。映像を利用するしないにかかわらず、講義が単調なものにならないように、学生の集中力を高めるための工夫やメリハリをつけることを考えていく。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

HA339

環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを具体的に考える素材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギーや省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察が出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討することで理解を深めていく。

【到達目標】

環境ビジネスと総称される多様な企業活動について、総合的な理解を深め、主要な分野についてビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れると同時に、各分野を徹底するツールとしてファイナンスの視点を学ぶことにより、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、その市場規模や構成、雇用などといった巨視的な視点を押さえると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、生物多様性保全など主な各論テーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。特に、金融という視点を重視し、ファイナンスの考え方、基本的な分析ツールを習得することにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、グループ毎に事例分析とプレゼンを行い、教員からのフィードバックを通じたプレゼンテーション能力の涵養にも努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第3回	環境と金融①	近時注目を集める環境金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第4回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRRなどの考え方、キャッシュフロー表の構成や見方などを取り扱う。
第5回	環境と金融③／プレゼンチーム分けとミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第6回	ケース1：再生可能エネルギービジネス1	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第7回	ケース1：再生可能エネルギービジネス2	前回の続き。
第8回	ケース2：省エネビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCO、HEMS／BEMSなどを学びながら、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第9回	ケース3 リサイクルビジネス1／企業分析①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、容器包装や金属など具体的な事例を踏まえて成功モデルを探る。なお、今回から第13回目まで5回に亘り、分析・プレゼンを実施する予定。
第10回	ケース3 リサイクルビジネス2／企業分析②	前回の続き。

第11回	ケース4：土壌汚染対策ビジネス／企業分析③	法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。
第12回	ケース5：水ビジネス／企業分析④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第13回	ケース6：生物多様性保全ビジネス／企業分析⑤	生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、生物多様性保全ビジネスについて考える。
第14回	まとめ	これまでの議論を総合的に振り返り、再度、環境ビジネスの基本的な性格とこれに対するファイナンス的なアプローチをレビューする。
第15回	試験	本講義の理解度を確認するため記述式の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、企業のWebサイトなどを通じて、様々な形で展開されている環境ビジネスの実像との接点を常に持つように心がけ、問題意識を持って授業に臨むこと。また、講義では極力振り返りを重視して知識の定着に心がけるが、受講生も復習を重視するようにして下さい。なお、本講義では、受講生をチーム分けし、割り当てられた企業の環境ビジネスについて分析・プレゼンしてもらいます。過去の受講生の多くが、この経験が有用であったと評価しています。課外での分析・プレゼン資料作成作りにも積極的な参加が望まれます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システムを通じて配布する。講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずにプリントアウトして持参するようにして下さい。

【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト
http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html
 このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業の一環として行うプレゼンへの参加とその貢献度と平常点等（30%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションのチーム編成について、受講生の学年等に偏りが出ないように留意するとともに、講義の中でチームメンバーが顔合わせを行う機会を設けるなど、その後のチームワークの円滑化を図る。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

チームによる分析・プレゼンは5件を想定しているが、受講者数に応じて増減する可能性がある。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

HA240

現代社会論 I

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「現代社会を人間行動の視点から考える」

【到達目標】

この講義では人間の行動ないし行為のメカニズムについて理解し、現代社会の諸現象を分析する思考法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

はじめに人間の行動を考えるための「枠組み」を取り上げ、いくつかの基礎概念について解説する。次に、「人はなぜこのように行動し、あるいは行動しないのか」を課題として、行動を形づくる要因について、いくつかの研究を紹介しながら考える。さらに、環境問題や都市問題という現代社会の社会問題を、「行動の集積」という視点からとりあげ、その生起してくるメカニズムを論じる。また、このような問題の解決はいかにして可能か、についても受講生からアイデアを募集し、検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」とはなにか？	「人々の共同生活」としての社会を個人の行動というミクロな観点から考察する意図を説明する。
第 2 回	人間行動を考える枠組み (1) 欲求と規範	「欲求」・「規範」概念を解説し、研究事例を紹介する。人間に行動を起こさせる動因とそれを規制するものとは何か。
第 3 回	人間行動を考える枠組み (2) 地位と役割	「地位・役割行動」概念を解説し、研究事例を紹介する。行為者間の相互作用のプロセスを理解する。
第 4 回	人間行動を考える枠組み (3) 社会関係と行動の文脈	「社会関係」概念を説明し、行動の生じる「コンテキスト」の理解を深める。
第 5 回	行動と文化 (1) 「文化」とは何か	行動に形を与えるものとしての「文化」概念を、伝達・学習・共有の側面から捉える視点を解説する。
第 6 回	行動と文化 (2) 文化の伝承と変化、文化のダイナミズム	文化を、ダイナミックなものとして考え、伝統の継承と文化の変容を取りあげる。
第 7 回	行動と文化 (3) 文化相対主義とエスノセントリズム	文化を見る目を相対化することの意味を「自民族中心主義」的文化理解と対比して学ぶ。
第 8 回	情報と行動 (1) 「予言の自己成就」	情報とそれへの反応により「意図せざる結果」が生じるメカニズムを取り上げ、事例を検討する。
第 9 回	情報と行動 (2) 「予言の自己破壊」、情報は行動を変えるか	行動のコントロールは可能であるか、「警鐘を鳴らす」ことの有効性について解説する。
第 10 回	「社会的ジレンマ」(1) 「共有地の悲劇」、私益と公益	合理的な個別利益追求行動がもたらす結果についてハーディンの「共有地の悲劇」を取りあげ説明する。
第 11 回	「社会的ジレンマ」(2) 「社会的ジレンマ」のメカニズム	ジレンマゲームを紹介、行動主体間の選択とその結果について事例をあげながら説明する。
第 12 回	「社会的ジレンマ」(3) 「囚人のジレンマ」と相互信頼	「囚人のジレンマ」研究を通して行動主体間の「信頼」の構築について考える。
第 13 回	環境配慮行動を考える、意識は行動を生み出すか	環境「意識」は環境「行動」につながるか？ という問題を提起。研究事例を紹介する。
第 14 回	環境配慮行動を促進する仕組みづくり	環境配慮行動を促す仕組み作りは可能かを考察する。
第 15 回	まとめ－人間の行動が社会をつくる	社会を人間の社会行動の集積として考える意義を取りあげ、講義の目標を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定のテキストは用いないが、トピックスごとの参考文献のリストを配布するので関連箇所を読んでおくこと。また、講義時に課題を出すのできちんと提出すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

藤村正之,2014,「学ぶヒント」弘文堂
 西澤・渋谷,2008,「社会学をつかむ」有斐閣
 山本・佐藤ほか,2013,「社会学ワンダーランド」サイエンス社
 土場・篠木,2008,「個人と社会の相克」ミネルヴァ書房
 山岸俊男,2000,「社会的ジレンマ」PHP 研究所
 このほか開講時に文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による。また講義時に数回「スタディ・クエスチョン」を行い評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を増やします。質問メモの作成回数を増やします。

【その他の重要事項】

あらゆる環境問題は「社会」の中で起こっています。私たちがどのような「社会」を作っているのか考えることはこの学部での学習の基礎となります。社会学的思考法を身につけ、柔軟で多様な見方からさまざまな社会問題を考えてみよう。

【関連の深いコース】

すべてのコースの基礎となる科目です。

HA240

現代社会論Ⅱ

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：土2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「現代日本社会の変動をとらえる視点」

【到達目標】

本講義の目標は、1960年代以降を中心に戦後日本社会の変動プロセスを各種社会統計によって跡づけ、社会諸領域の変動が相互に関連して生じていることを理解することにある。また、講義を通して長期統計データの検索法・利用法および読解力を身につけることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「社会の何が変化するのか？」という問いから始め、長期社会統計データを用いて変化の様相を知るやり方について説明した後、産業化・少子高齢化などいくつかの領域における変化を詳しく取り上げる。常識的に述べられる「社会の変化」を疑い、本当に変化しているのか、何が変化を促進し阻害する要因であるのか、ある領域における変化が別の領域における変化とどのように関連しているのか、などの問いに答えることを課題として進める。講義では統計資料を配付し、データがどのように得られたのか、データに見られる変化を読み取る方法について解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス。	講義ガイダンス。社会を変動という視点から考える意味を理解する。
第2回	社会変動とは何か	社会の何が変化するのか、変化を何によって捉えるか。
第3回	近代化・産業化	1960年代以降の日本社会の変動。近代化とは何か。産業構造の変化。工業化と公害問題。高度産業社会とはどのような社会であるのかという問いを考える。
第4回	経済成長と豊かな社会	経済成長をとらえる指標とは。「豊かな社会」の成立とその帰結。
第5回	生活と仕事の変化①	労働力率の変化を性別・年齢別に検討し、われわれの働き方の変化と生活様式のかかわりを論じる。
第6回	生活と仕事の変化②	産業構造の転換に伴う従業上の地位の変化。雇用労働の進展と職業構造の変化。
第7回	生活と仕事の変化③	女性の働き方の変化とライフサイクル。女性労働のM字型カーブとその要因とは。
第8回	生活と仕事の変化④	高齢化と産業社会。高齢者と仕事、その現状と将来像。
第9回	生活と仕事の変化⑤	働き方の変化と家族生活、世帯構成における変化。
第10回	人口の変化①	人口転換とは。人口数と構造の変化。
第11回	人口の変化②	少子・高齢社会の出現。人口の年齢構成の変化とその要因。合計特殊出生率とは。未婚率の上昇の要因。
第12回	人口の変化③	出生率・死亡率の変化。自然増加率の推移。人口減少社会の到来、なぜそれが問題なのか。
第13回	人口の変化④	少子高齢化を国際比較から考える。産業化の程度と人口構造の関連について。
第14回	環境問題と社会の変化	我々はいかなる社会を作ってきたのか、作っていくのか。環境問題と社会。
第15回	まとめ	社会変動の相互連関。社会を見る目の重要性。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計資料を配布するので、そこからどのような変化を読み取ることができるか、その変化がどのような要因と関連しているか、など事前に学習しておくこと。講義時にスタディクエスチョンとして文章化して提出を求めます。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

井上・伊藤編,2008,「社会の構造と変動」世界思想社

赤川学,2004,「子どもが減って何が悪い！」筑摩書房

金子 勇,2002,「少子社会」ミネルヴァ書房

国立社会保障・人口問題研究所「人口の動向 2014年版」厚生統計協会

(財)矢野恒太記念会「データで見る県勢」

この他開講時に詳しい文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による、また講義時に数回スタディ・クエスチョンを行い評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

スタディ・クエスチョンに疑問・質問を記載する欄を設けます。

【その他の重要事項】

ここで取りあげる社会の変化は半ば常識化しているものです。それはホント？、当たり前を考えてよいのだろうか？、「常識」を疑い、「実証する」を合い言葉に学びます。

【関連の深いコース】

すべてのコースの基礎となる科目です。

HA240

現代社会論Ⅲ

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「現代社会における家族と地域の変動を考える」

【到達目標】

この講義では、「地域社会」そしてそこに暮らす人々が作る「家族」のここ半世紀の変化に関して各種社会統計を用いて考察することを目標とする。マチとムラがどのように変動してきたか、なぜそのような変動が生じたのか、論理的・実証的に考える能力を身につけることをめざす。もちろん、基礎的な概念・枠組みの正確な理解を得ることも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

地域社会をどのような視点から考えるか、高度成長期にムラからマチへの人口移動が生じた経緯を長期社会統計によって跡づけ、その結果生じた過疎・過密の問題をとりあげる。また、そのプロセスの中で見られた生活スタイルの変化を「家族・世帯」の視点から取り上げる。

変化がなぜ生じ、その変化は社会の他の領域における変化といかなる関連を持つのか、社会統計についての解説を交え、変化を読み取る方法の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」を考える視点	「社会」とは何だろう。人々の共同生活としての社会。社会はどのようにとらえられてきたか。
第2回	家族とは？	社会集団としての家族の構造と機能。
第3回	家族の変化をとらえる方法	家族と世帯。世帯統計から変化を捉える。世帯類型。
第4回	核家族化と小家族化	核家族とは何か。核家族化は進展しているか？世帯員数の減少とその要因。
第5回	少子高齢化社会における家族	人口の高齢化と家族生活の変化。高齢者単独世帯・夫婦のみ世帯の増加。
第6回	家族機能の変容	家族は必要でなくなるか？家族機能の社会機能への委譲。機能の喪失か純化か。
第7回	家族が生活する地域の変動	「地域社会」という概念。地域社会という概念で何を考えようとしているか。
第8回	都市とは？	都市をとらえる視点。都市の形態と機能。都市の魅力。
第9回	産業化・工業化と都市化	経済成長と人口移動。産業構造の変動と人々の居住域の移動。
第10回	離村向都現象	ムラからマチへ。都市化の進展をもたらす要因。「社会増加率」の推移からみる。
第11回	都市への人口集中	都市の拡大と過密。都市問題の発生。
第12回	都市的生活様式とその拡大	都市的生活スタイルの登場と地域社会。非都市域へ浸透する都市的生活様式。
第13回	農山村地域の変貌	過疎と高齢化、後継者難、農山村の変化の背景を見る。
第14回	農業と地域の諸問題とその解決	「限界集落」の実態と新たな動き。
第15回	まとめ	地域社会と家族の変化の関連。地域と家族の将来像を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計資料を配布するので、そこから読み取れる事柄を整理しておく。スタディクエスチョンで課題を示すので事例や関連情報を集めておく。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

進見音彦,2012,「現代日本の地域分化」東信堂
 森岡・望月,2011「新しい家族社会学」培風館
 藻谷ほか,2013,「里山資本主義」角川書店
 森岡清志,2012,「都市社会の社会学」放送大学教育振興会
 小島・西城戸編,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房
 ＊このほか開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

定期試験による、また講義時に数回「スタディ・クエスチョン」を行い評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

質問タイムを設け、質問票提出の回数を増やします。

【関連の深いコース】

すべてのコースの基礎となる科目です。

HA240

NPO・ボランティア論

川崎 あや

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：水3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPO（民間非営利組織）によって、これまで主に行政セクターが担うものだと考えられていた「公益」や「公共」を、市民セクターが担うようになりつつあります。市民は、NPOにボランティア等で参加することで、社会に働きかけ、市民的公共性を創出する担い手となります。

この授業では、現代社会の様々な課題と、その課題に取り組むNPOについて、さまざまな側面から理解を深め、市民社会のあり方や方向性について考えます。

【到達目標】

- ・NPOとボランティアについて理解を深める。
- ・NPOの存在意義や、NPOが活動する上での課題について問題意識をもつ。
- ・今後の市民社会はどのような方向に進むべきか、また市民一人ひとりが、社会とどのように関わるべきかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います。
- ・毎回、リアクションペーパー（感想・質問）を任意で提出してもらいます。質問については、次週の授業でコメントします。
- ・受講生の中で、NPOの活動経験者等には、適宜、報告してもらう時間をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目標、内容、進め方 ・受講者の関心調査
第2回	NPOとは何か	・「NPO」の意味と意義 ・NPOとボランティアの関係 ・NPOとNGO
第3回	市民社会の変遷とNPO	・日本における市民社会の歴史 ・NPO・市民活動の変遷
第4回	NPOの社会的役割～事例を通して①	・映像でさまざまなNPOの活動事例（子育て、介護、生活困窮者支援、国際協力等）を見ながら、NPOの社会的役割を考える。
第5回	NPOの社会的役割～事例を通して②	第4回と同じ
第6回	NPO法人制度	・NPO法の制定過程 ・他の法人制度との比較 ・NPO法人の要件 ・公益法人制度改革
第7回	NPOの組織運営	・NPOの組織特性 ・市民の多様な関わり方 ・組織の構成要素 ・企業等との違い
第8回	NPOとボランティア	・NPOにおけるボランティアの役割 ・ボランティアとして参加することの意義
第9回	NPOの財政	・NPOの財政規模 ・財源の多様性と特性
第10回	NPOと寄付税制	・NPOにとって寄付とは ・認定NPO法人制度 ・寄付税制・寄付金控除
第11回	働く場としてのNPO	・雇用・就労の場としての可能性と課題 ・NPOの就労実態 ・NPOの職域
第12回	社会変革の担い手としてのNPO	・ニーズの社会化とNPOの役割 ・実践型政策提案と運動型政策提案
第13回	NPOと行政	・自治体のNPO支援施策 ・行政とNPOの協働
第14回	NPOと企業、ソーシャルビジネス	・NPOと企業の協働 ・ソーシャルビジネスとNPOの関係
第15回	補足とまとめ	・授業の振り返りや補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前後に、テキストの該当ページをよく読んでおくこと。各回のレジュメ（パワーポイント資料）は、WEBに掲載しておくので、欠席の場合も、各自でレジュメとテキストで授業内容を理解しておくこと。

各自で、関心のある分野のNPOの事例などを、インターネット等で調べたり、実際に活動に参加してみることをお勧めする。

【テキスト（教科書）】

「市民社会とNPO」 かながわ女性会議発行 600円

【参考書】

「知っておきたいNPOのこと基本編」 日本NPOセンター発行 500円

【成績評価の方法と基準】

定期試験（論述。教科書等の持ち込み可）を実施。論述では、①授業内容を的確に理解しているか、②自分自身の意見や問題意識が述べられているか、③考えを整理してわかりやすく論じられているか、を重視して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

DVD、PCプロジェクター（パワーポイント、インターネット接続）

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA240

フィールド調査論

西城戸 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな社会調査の基本的な考え方、多様な方法について講義することで、社会調査を行うための基本的な知識、技術を修得を目指す。

【到達目標】

この講義は、社会科学の基本的な考え方を学び、社会調査の一連の流れと、社会調査の課題、調査倫理について修得することを目的としている。また、同時にメディアリテラシーの基礎を学ぶことを目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会調査に関する基本的な知識、技術についての講義が中心であるが、内容に応じて、受講者個人の作業、グループにおける作業も同時に実施する。最終的に、方法論の観点から実証研究を評価し、さらにリサーチデザインの設計を試みる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（受講者の選抜等も含む）	本講義の内容についてのガイダンスと、受講者の選抜等を実施する。
第2回	社会調査とは何か（1）社会調査の概要	なぜ、社会調査が必要なのか、社会調査とは何か、その概要を講義する。
第3回	社会調査とは何か（2）問題関心と「問い」	社会調査前に考える、問題関心や「問い」の考え方を講義する。
第4回	社会調査とは何か（3）社会調査のための情報収集	先行研究や既存データのレビューを行うための情報収集の実習を行う。
第5回	社会科学の方法の基礎（1）－「説明」「記述」	「説明」「記述」という社会調査によって得られる知見について講義する。
第6回	社会科学の方法の基礎（2）－「因果関係」「仮説」	「因果関係」とは何か、仮説とは何か、について講義する。
第7回	量的調査入門（1）	サンプリング調査の原理について講義する。
第8回	量的調査入門（2）	調査票調査の一連の作業内容について講義する。
第9回	量的調査入門（3）	ワーディングの演習を実施し、仮説から調査票を作る作業を行う。
第10回	量的調査入門（4）	仮説と調査票の作成する作業を行う。
第11回	フィールドワーク入門（1）	フィールドワーク（質的調査）の概要を講義する。
第12回	フィールドワーク入門（2）	インタビューのさまざまな技法について講義する。
第13回	フィールドワーク入門（3）	聞き取りデータから論文を作成するまでの手法（KJ法による論文の構想）について講義する。
第14回	映像教材から方法論を学ぶ	映像教材から調査手法の実際について学ぶ。
第15回	2つの方法論の整理	量的、質的調査の方法論の整理し、社会調査の方法論のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容に関する復習を行い、次回の講義内容に備えること。また、課題に対して個人的な作業を求める。

【テキスト（教科書）】

宮内泰介, 2004, 『自分で調べる技術 市民のための調査入門』岩波アクティブ新書.
高根正昭, 1979, 『創造の方法学』講談社現代新書.
佐久間充, 1984, 『ああダンプ街道』岩波新書.

【参考書】

山中速人編, 2002, 『マルチメディアでフィールドワーク』有斐閣
森岡清志編, 2007, 『ガイドブック社会調査 第2版』日本評論社.
佐藤郁哉, 2006, 『フィールドワーク 増訂版』新曜社.
大谷信介ほか, 2005, 『社会調査へのアプローチ 第2版』ミネルヴァ書房.
盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.
玉野和志, 2008, 『実践社会調査入門——今すぐ調査を始めたい人へ』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、講義中の課題提出（30%）、最終レポートの提出（50%）

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであり、なかなか改善しづらいが、改めてお詫びしておきたい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってはPCを用いることがある。その際には事前に貸し出しをしておくか、自前で準備しておくこと。

【その他の重要事項】

本講義の定員は30名である。受講希望者は第1回目の講義で決定する。在学中に社会調査の実践を行う予定がある者を優先する。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA240

フィールド調査論

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会調査の方法」を学ぶ

【到達目標】

この講義の目標は、①「社会調査」の考え方、調査計画、調査法、報告作成法など、調査に必要とされる知識・技法を身につける、②調査結果の見方、調査の限界と問題点、調査における倫理などを学ぶ、である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会調査の考え方、調査で何が分かり何が分からないかなど「調査」することの意味や限界について論じ、社会調査の基礎的理解をはかる。調査法のいくつかを取り上げ、各方法が持つ利点と欠点を検討する。調査計画の建て方の解説を行った後、①面接調査法、②調査票調査法について調査事例を紹介しながら、各調査法のプロセスを検討する。特に②については実際に「調査票」の作成を少人数グループで行う。また、調査には必ず「対象者」がおり、その協力なくしては実施が不可能であることに触れ、調査と調査者の倫理に関して講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス	講義ガイダンス。「社会調査」とは何か、調査における妥当性と信頼性について。
第2回	社会調査の目的と意義－調査で何がわかるか	社会調査の定義と調査の前提。調査するとわかるのか、調査の限界。リサーチリテラシーを高める意義。
第3回	調査の方法	課題を提示、調べ方のグループ討議（GW 1）を行う。
第4回	調査を計画する	社会調査のプロセス。調査デザイン、実査、分析、報告。（GW 2）
第5回	調査法の類型	参与観察法・面接調査法・質問紙調査法の解説。
第6回	参与観察法	参与観察による調査の事例、実施可能性、対象者（集団）の選定と技法。
第7回	面接調査法①	指示的面接法と非指示的面接法、調査事例に見る調査プロセスの実際。（GW 3）
第8回	面接調査法②	面接調査における留意点、メリットとデメリット。
第9回	質問紙調査法①	悉皆調査と標本抽出調査、サンプルサイズと抽出法。
第10回	質問紙調査法②	調査票の配布と回収方法の類型。各方法のメリットとデメリット。
第11回	質問紙調査法③	調査票の構成、フェイスシート、回答選択肢の作成法。
第12回	質問紙調査法④	質問文作成法、ワーディングの注意点。（GW 4）
第13回	質問紙調査法⑤	調査票作成実習。（GW 5）
第14回	質問紙調査法⑥	調査票作成実習。（GW 6）
第15回	よりよい調査を目指して－調査者の倫理－	GW 発表。集計法など残された課題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中にグループワークを行います。課題を分担して授業前に準備してくることを求めます。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

宮内泰介,2004,「自分で調べる技術」岩波書店
 大谷ほか編,2013,「新・社会調査へのアプローチ」ミネルヴァ書房、
 玉野和志,2008,「実践社会調査入門」世界思想社
 佐藤郁哉,2006,「フィールドワーク」新曜社
 このほか開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

①定期試験、②レポート（調査票の作成）、③講義時に行うグループ作業（GW）への参加度と作業成果物も評価の対象とする。出席も重視します。

【学生の意見等からの気づき】

調査票作成実習の時間数を増やします。

【その他の重要事項】

2014年度より履修学年を「1年次から」に変更しました。
 受講者の制限（30名まで）をします。希望者が多い場合は抽選とします。グループワークを行いますので、欠席しないことが受講条件です。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA240

フィールド調査論

傅 凱儀

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的社会調査の基本的な技法を学ぶ。社会調査は質的調査と量的調査に大別されるが、近年質的調査の役割が大きくなっている。質的調査は多岐にわたる。人に対するインタビュー、日記などのテキスト分析、人々の会話の分析など、量的調査が対象としない情報を分析する。本講義は、人間と集団を調べ、記録し、分析するための、さまざまな種類の質的調査法について学ぶ。

【到達目標】

この授業の目標は質的社会調査の考え方、調査技法、調査のプロセス、調査倫理についての知識を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

質的社会調査に関する知識、技法についての講義が中心であるが、受講者の個人的な作業も同時に実施し、リサーチデザインの設計を試みる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、評価基準などについて説明する
第2回	社会調査法概説（1）	社会調査の意義と目的について講義する
第3回	社会調査法概説（2）	質的社会調査の考え方、質的調査と量的調査の関係について講義する
第4回	調査技法（1）	フィールドワークの発展とデータ収集の手法について講義する
第5回	調査技法（2）	参与観察法とアクション・リサーチについて講義する
第6回	調査技法（3）	ワークショップの手法と実践について講義する
第7回	調査技法（4）	インタビューの種類と実践について講義する
第8回	中間試験	これまでに学習した内容の理解度を確認する
第9回	分析技法（1）	ライスヒストリー分析の手法と研究例を紹介する
第10回	分析技法（2）	会話分析と内容分析について講義する
第11回	分析技法（3）	質的データのコンピュータ・コーディング、デキゴトバナシ比較分析について講義する
第12回	調査のプロセス（1）	調査の企画からデータ素材の収集までのプロセスについて説明する
第13回	調査のプロセス（2）	データの作成から論文の執筆までのプロセスについて説明する
第14回	代表的な研究例	質的社会調査の代表的な研究を紹介する
第15回	総論	質的調査の調査倫理について講義し、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容に関する復習を行い、次回の講義内容に備えること。

【テキスト（教科書）】

授業の進み具合を見て適時指定する。

【参考書】

谷富夫・山本努編著、2009、『よくわかる 質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房
谷富夫・山本努編著、2010、『よくわかる 質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房
ウヴェ・フリック著、小田博志、他訳、2011、『新版 質的研究入門－（人間の科学）のための方法論』春秋社
佐藤郁哉著、2006、『フィールドワーク 増訂版 書を持って町へ出よう』新曜社
佐藤郁哉著、2002、『フィールドワークの技法 問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社
菅原和考編、2006、『フィールドワークへの挑戦－（実践）人類学入門』世界思想社
小田博志著、2010、『エスノグラフィー入門（現場）を質的研究する』春秋社

【成績評価の方法と基準】

授業への参与度（30%）、中間試験（30%）、期末レポート（リサーチデザイン）（40%）

【学生の意見等からの気づき】

2015年度より担当。

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。授業では受講者の積極的な参加を求める。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA240

社会統計論

藤本 隆史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、そのような調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際に統計ソフトを使ってデータ集計の方法を学習する。

【到達目標】

調査計画からデータ分析に至るまでの統計調査における一連のプロセスを理解する。データ分析においては、クロス集計の方法など基礎的な統計処理の手順を習得する。統計解析ソフトで集計していると、ただ手順に従って結果を出すだけになりがちだが、集計の目的（何を比べているのかなど）や集計の意味（どのようにしてその集計が行われているのかなど）を理解した上で適切な集計を行えるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

統計処理の仕組みの説明を行い、それに基づいてデータの集計を行う。データの集計には、主に統計解析ソフトの SPSS を用いるが、統計処理の過程を確かめるために、エクセルによる計算も行う。基礎的なデータ処理の手法を中心とし、高度な統計処理は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う
第 2 回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第 3 回	データとは何か	データの種類や、統計データの収集方法（手順）などを学ぶ
第 4 回	データセットの作成	データの入力方法や、SPSS で外部データを読み込む方法を学ぶ
第 5 回	基礎統計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第 6 回	データの加工	正規分布の考え方と、値の再割り当てなどデータの加工の方法を学ぶ
第 7 回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方と作成方法を学ぶ
第 8 回	統計的検定について	統計的検定の考え方を理解する
第 9 回	カイ 2 乗検定	クロス集計表を使った離散変数間の関連の測定方法を学ぶ
第 10 回	平均値の差の分析	分散分析など平均値の差の分析方法を学ぶ
第 11 回	相関係数と回帰分析	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第 12 回	エクセルによる統計処理	ピボットテーブルなどエクセルによる統計処理の方法を学ぶ
第 13 回	集計結果のまとめ方	SPSS の集計結果をワードやエクセルで利用・加工する方法を学ぶ
第 14 回	まとめ	統計データの収集から分析に関する手順などを整理する
第 15 回	試験	統計調査のプロセスや分析の手順に関するペーパーテストを行う（授業内試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

SPSS やエクセルを使った集計方法などを復習する。

【テキスト（教科書）】

講義時に適宜紹介する。

【参考書】

講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回、授業内で作業した結果を提出してもらう。データ分析に関する複数の課題（統計処理の基礎的な計算・集計および結果の読み方）の提出を求める。また、学期末に統計調査のプロセスやデータ分析に関するペーパーテストを行う。

【学生の意見等からの気づき】

分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

【その他の重要事項】

パソコンの基礎的な操作方法を習得していることを前提として授業を進める。また、受講希望者が多い場合には抽選となるので、第 1 回目の授業には必ず参加すること。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA240

ファシリテーション論

三田地 真実

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2~4年/2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題に限らず、社会的な問題に関わろうとする際に、単独で問題を解決できるということはほとんどなく、多くの場合、そこにかかわる多くの利害関係者（ステークホルダー）の間でいかにうまく話し合いを持ち、最適解を見出すための「合意形成」をもたらす必要がある。

その際に、単に人が集えば「意味ある場」になるのではなく、綿密な準備とその場への適切な関わりが不可欠である。本授業では、「意味ある場」とは何か？ そういう「場」を作っていくためには、具体的にファシリテーターとしてどのような心構えと技が必要なのかについて学んでいく。具体的な目的は以下の通り。

1. 話し合いを始め、様々な場をデザインし、マネジメントするためのノウハウである「ファシリテーション」についての基礎的な知識・技能を獲得すること。
2. 実際にファシリテーションを行う、「ファシリテーター」として行動できること。

【到達目標】

本演習を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り：

- (1) 「場づくり」のそもそもの意味を理解することができる（「意味」「意義」を考える）
- (2) コミュニケーションの基礎を体得できる（言語・非言語行動の両方を含む）
- (3) 場づくりの基本的な技法を実施することができる（準備、実施、フォローアップの各段階における基本的な技法）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ファシリテーションは実際に話し合いやワークショップの場でどのように実践するかが問われる。そのため、本授業は講義だけではなく、演習を随所に織り交ぜながら進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出、課題に応じたレポートの提出（随時）がある。また最終プレゼンテーションは、グループプロジェクトとして行うので、授業外での打ち合わせ・準備が必須となる。授業全体がアクティブ・ラーニングとして構成されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・「意味ある場づくりとは何か？」 ・ファシリテーターとしての3つの行動キーワード ・「Why（根拠）」、「プロセス」、「安心・安全な場」
第2回	ワークショップ体験（自己紹介ワーク）	・何気なく行っている自己紹介という活動をファシリテーションの視点で見直す ・問いかけの重要性について考える
第3回	ワークショップ体験（アイスブレイク）	・異なる複数の場を体験して、外で何が起きているか、自分の中で何が起きているのか「プロセスを見る」
第4回	コミュニケーションの基礎	・ファシリテーターには必須のコミュニケーションの基礎について演習を行い、プロセスを振り返る（プレゼンテーション概論を含む）
第5回	ファシリテーションの基礎	・ファシリテーションの基本の3つの段階、準備・本番・フォローアップについて学ぶ

第6回	ファシリテーションの準備（1）	・時間のデザインである、プログラムデザインを「プログラムデザイン曼荼羅図」というツールを用いて行う演習をする
第7回	ファシリテーションの準備（2）	・空間のデザインである場づくりと、基本の10ステップについて学ぶ
第8回	ファシリテーションの本番に向けて（1）	・10ステップ演習、ライブレコーディング他のスキルを学ぶ
第9回	ファシリテーションの本番に向けて（2）	・再度、一対一のコミュニケーションを見直す ・行動の基礎である、応用行動分析学（ABA）の概論について学ぶ
第10回	ファシリテーションの本番（1）	・意味ある場とするためには、参加者の行動変容が図られるものでなければならぬことを理解する ・行動計画の書き方
第11回	ワークショップのプレゼンテーション	・ワークショップの総仕上げ
第12回	ファシリテーションの本番（2）	・グループにてワークショップを実施（第1回）
第13回	ファシリテーションの本番（3）	・グループにてワークショップを実施（第2回）
第14回	ファシリテーション全体のまとめと振り返り	・ファシリテーション全体の振り返り「意味ある場づくりのために」ワークショップ実施
第15回	まとめと未来に向けて	・ライフヒストリー曼荼羅ワークショップによる、授業の学びの未来への発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の文献・資料講読（事前準備として）
- ・グループ・プレゼンテーションの事前準備として、グループで授業外に集まっての話し合いや準備活動（相当数の時間を必要とする。必須）
- ・様々な場面の観察実習など

【テキスト（教科書）】

- ・「ファシリテーター行動指南書」（三田地真実、ナカニシヤ出版、2013）

【参考書】

- ・中野民夫（2003）「ファシリテーション革命」、岩波アクティブ新書
- ・三田地真実（2007）「特別支援教育 連携づくりファシリテーション」、金子書房
- ・三田地真実（2014）「社会的・環境的变化に応じたキャリア教育」、星槎大学教員免許状更新講習センター（編著）『共生への学び—先生を応援する教育の最新事情』、130-142、ダイヤモンド社
- ・三田地真実（2012）「『共生』は目の前の人を真に理解するところから—ライフヒストリー曼荼羅図を描く・聴くことの意味—」、星槎大学共生科学研究会（編）『共生科学研究序説』、101-121、なでしこ出版

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：約60%（毎回、出席カードの代わりにの振り返りシートへ記入する）
- ・最終グループプレゼンテーション：約40%（グループ、個人での提出物も含む）

【学生の意見等からの気づき】

講義と演習を交えた授業展開については、大変好評であった。今後は、グループ演習の方法をさらに思考力・チーム力を必要なものに発展させ、学生の主体的な関わりを増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・ファシリテーションは、環境問題に留まらず、人間が集う場をどのようにして意味あるもの、つまりそこに参加している人にとって「参加してよかった」と思えるような場にしていくかについての具体的なノウハウを提供してくれるものです。職場内、あるいは家庭内の人間関係を見直すことにも十分役立つ内容と思います。
- ・なお、本講義は、受講希望者が多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

初回授業についての連絡は、「学部掲示板」に行いますので、掲示板をよく読んでから出席してください。

・旧科目名称「人間環境特論（ファシリテーションの基礎）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連するコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA358

地域形成論

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、新時代における人々の生活の基盤としての地域空間の形成、すなわち「サステイナブルで豊かなコミュニティの形成」というテーマについて、具体的かつ総合的に考えていく。

【到達目標】

人間と環境の時代の「地域プランナー」となるための基礎として、まずは基本的なセンスと柔軟な考え方、そして骨太の方向感覚を身につけることを第一の目標とする。その上で、問題発見から問題解決に至るプロセスについていくつかのケーススタディを通し、具体的な見方や対応力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

地域空間の形成として、国土開発、地方開発、都市開発、まちづくりを対象とし、基本的な考え方、計画手法、制度、政策等について論じる。各回とも、なるべく具体的な国内外の事例を対象としてとりあげ、実際の問題に触れる。また、まちづくりプロジェクトや地域おこしプロジェクトの創案なども試みるにより、実践的な企画能力も養成する。授業は、常に問題発見、問題提起からはじめ、様々なソリューションを考えていく形での、思考の訓練に重点を置いて進めていく。授業は講義形式で進めるが、授業内演習として、問題提起に対する自分の考えをまとめるなどの数分間のミニペーパーを作成し提出することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域形成論の学び方 「地域プランナーの『地域を見る眼』」
第2回	地域のシステム考現学(1)	具体的な地域現象のメカニズムの考察 (例)「『混雑現象』はなぜ起こるのか」
第3回	地域のシステム考現学(2)	具体的な地域現象のメカニズムの考察 (例)「『集中と分散』の動きの諸原因」
第4回	地域の具体的課題の事例(1)	広域事業と地域問題の葛藤・市民参加 (例)「『東京外環環状道路』の建設」
第5回	地域の具体的課題の事例(2)	一極集中問題への対応、政策的議論 (例)「『首都機能移転』の議論の経緯」
第6回	日本の国土形成の歴史(1)	戦後の国土開発と地域開発の流れ (例)「旧『全国総合開発計画』の歴史」
第7回	日本の国土形成の歴史(2)	近世の地域環境と現代における復元 (例)「『庭園の島・日本』の復元」
第8回	地域の総合的事例研究(1)	「沖縄の地域社会と経済」を考える (例)「沖縄の経済と『非貨幣経済』」
第9回	地域の総合的事例研究(2)	「沖縄の開発と環境」を考える (例)「『新石垣空港』建設と環境問題」
第10回	日本の現代的な地域課題(1)	過疎地域・中山間地域問題とその挑戦 (例)「『地域主義』と『内発的発展論』」
第11回	日本の現代的な地域課題(2)	中心市街地問題と活性化への努力 (例)「『まちなか再生』まちづくり」
第12回	地域プロジェクト企画(1)	地域プロジェクト、創案と評価 (例)「『環境都市』『観光地域』構想」
第13回	地域プロジェクト企画(2)	地域プロジェクト、創案と評価 (例)「『臨海部埋立地』の利用構想」
第14回	地域デザインへの新視点(1)	人間と環境の時代の都市・地域開発 (例)「『エコ・コミュニティ』への道」
第15回	地域デザインへの新視点(2)	空間から場所へ、計画論の再考 (例)「『土着性』『地霊』『場所愛』」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じた自主的な調査や見聞を推奨する。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。毎回、講義時に資料プリントを配布する。パワーポイントによる映像資料も多用する。

【参考書】

基本的なものに関しては第1～2回目に紹介する。各回の内容に関連するものはそれぞれ授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（参照不可）70%、平常点（授業内でミニペーパーの提出ほか）30%

【学生の意見等からの気づき】

授業外の学習活動が比較的少ない。これを活発にするため適宜ホームワークも課することとする。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA338

地域経済論

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の豊かさや活力の経済的側面について基礎的な分析から応用的な問題や政策まで幅広く論じる。特に、地域の産業について詳しく触れるとともに、地域の経営についても考えていく。

【到達目標】

地域経済に関する、基礎的理論、実際問題、政策について理解し、地域経済への基本的な見方を習得することを目標とする。また、いくつかの具体的な企画能力を身につけることももう一つの目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

地域の発展を考えると、地域の環境的側面や社会的側面に加えて、経済的側面をとらえることが不可欠である。この授業では、地域の経済構造、産業立地、社会資本整備を中心に理論上の整理を行うとともに、実際面での諸問題を論じる。また、地域の産業連関、自治体の産業政策、立地企業の動向、地域活性化の動きなど各地のケーススタディも行い、実際の地域経済問題に対する分析能力とともに企画立案能力を養う。授業は講義が主体であるが、簡単な演習として毎回授業内で、数分間のミニペーパーを作成提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域経済とは何か、地域経済論の学び方
第2回	地域経済の分析・基礎(1)	地域人口分布、人口移動、地域所得構造
第3回	地域経済の分析・基礎(2)	地域産業立地、産業クラスター、地域集積
第4回	地域経済の分析・実際(1)	首都圏の事例分析、例「シブヤ圏の解剖」
第5回	地域経済の分析・実際(2)	海外地域の事例分析、例「シリコンバレー」
第6回	地域発展と産業(1)	ICT産業集積を考える、世界のICTクラスター
第7回	地域発展と産業(2)	地域インテリジェンスと地域産業の関係
第8回	地域発展と産業(3)	地域と観光、観光産業の系譜、地域観光開発
第9回	地域発展と産業(4)	地域と集客、イベント・博覧会・テーマパーク
第10回	地域経済と地域経営(1)	地域の情報・経済装置、地域経済活性化
第11回	地域経済と地域経営(2)	地域プロジェクトメイキング、企画の進め方
第12回	地域経済と地域経営(3)	地域プロジェクトの投資採算計算とその評価
第13回	地域経済と地域経営(4)	地域プロジェクトのファイナンス、手法と実際
第14回	地域と社会経済(1)	地域環境の経済分析、事業の社会的費用便益分析
第15回	地域と社会経済(2)	地域コミュニティビジネス、地域マクロエンジニアリング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初めに全体の流れ、および、学習の仕方を説明する。また、各回の最後に、次回もしくは次々回のテーマの概略を説明する。これらにもとづいて、各回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

また、本授業では、授業内演習のほかに、復習として、より深く考えるための演習型宿題を課すことがある。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。毎回、講義時に資料プリントを配布する。

【参考書】

第1回目に基本的な参考書を紹介する。また、各回講義時にテーマに応じた参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（参照不可）70%、平常点（授業内でのミニペーパーの提出ほか）30%

【学生の意見等からの気づき】

板書をなるべく多くして、ノートテイキングを容易にしていく。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA340

地域福祉論

宮脇 文恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域福祉の理念とその展開について学ぶ。
2. 自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
3. 地域において、誰もが仲間はずれにされないための、コミュニティソーシャルワークとソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

【到達目標】

人が、自分が暮らしたい地域において、自分らしく生きるためにどのような支え合ったらよいか、地域福祉の理念とその援助方法について学び、履修者自らが地域住民として、援助職として、ボランティア活動者として地域において活動を主体的に展開していくための基礎的な力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

これまで日本の福祉施策は、課題を抱えた人を福祉施設に入居させてきたが、今後は、専門的なサービスを利用しつつ、地域において、家族や地域住民に支えられながら暮らしていくことの実現が目指されている。本講義では、そのために、地域福祉とは何か、地域の様々な社会資源の活用法とその開発について理解し、地域においてお互いを支え合っていくための方法を学び、自らも社会資源として地域福祉に参画していく基盤を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認
第2回	地域福祉とは何か	地域福祉に関する論を解説し、現代社会における地域福祉の理念を学ぶ
第3回	地域福祉の歴史	欧米・日本における地域福祉の歴史をとりあげる
第4回	街に生きる人々(1)	障害のある人、高齢者を中心としてとりあげ、街に生きる意義を学ぶ
第5回	街に生きる人々(2)	子ども、生活困窮者を中心としてとりあげ、街に生きる意義を学ぶ
第6回	地域福祉の主体形成と福祉教育～福祉教育の内容～	住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成、福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点
第7回	地域福祉の推進主体(1)～社会福祉協議会、社会福祉法人～	地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ
第8回	地域福祉の推進主体(2)～NPO、民生委員・児童委員、保護司～	地域福祉を推進するNPO、地域の期待される人材について学ぶ
第9回	地域福祉計画	地域福祉の主体形成、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ
第10回	コミュニティソーシャルワーク(1)～考え方、展開とシステム～	個人を大切にすることを出発点に、地域において援助するあり方を学ぶ
第11回	コミュニティソーシャルワーク(2)～方法、チームアプローチ～	コミュニティソーシャルワークの実践事例についてとりあげる
第12回	地域福祉推進における住民参画(1)～意義と目的～	地域はそこに住む住民自らがつくるもので、その参画の方法、留意点を学ぶ
第13回	ボランティア活動の意義と実際	ボランティアの起源、その意義と活動の実際について学ぶ
第14回	ソーシャルサポートネットワーク	地域に暮らす個人を支え合う社会資源のつながりについて学ぶ
第15回	まとめ	総括、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終了時に、毎回アクションペーパーを記入します。視聴覚教材を多用し、その際に、合計2～3回、レポートを執筆します。

高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。

【テキスト（教科書）】

くさか里樹『ヘルプマン!』第11巻、第12巻、第25巻（講談社）
その他、適宜資料を紹介していく。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席率（遅刻は授業開始後20分まで受付、退室は欠席とみなす）30%、テスト30%、課題提出（正当な理由のない遅延は受け付けない。応相談）20%、授業態度（飲食・携帯電話操作・他の授業のための学習や読書などの内職は不可とし、発見し次第減点とする）20%。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】

DVD、ビデオなどを多用する。

【その他の重要事項】

毎回、授業についてリアクションペーパーを記入していただき、そのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番を入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。

皆さんが学習主体です。地域福祉は、まっぴり实现するものではなく、「自らがつくなっていく」ものです。今後、自分がどこでどう暮らしたいか、どんな地域社会にしたいか、ということ、授業を通して共に考え、より良い方法を模索していければと思います。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA340

地域コモンズ論

傅 凱儀

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コモンズ論を軸に、地域社会における自然環境・資源の共同利用や共同管理のあり方について学ぶ。

【到達目標】

コモンズ論における諸概念を理解し、実践的知識を蓄積すること。地域住民レベルでの資源保全と地域共同体のあり方において幅広い視座を養うこと。身近なモノ、自然、そして環境利用・管理について、コモンズ論を踏まえて自身の考えを示すことが出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

自然資源を共同で利用・管理する組織や仕組み、及び、共同で利用・管理する資源そのものは、コモンズと呼ばれる。環境問題の解決を含めた、自然と人間の関わり方を改善する上で、有効な概念と考えられ、近年注目されている。コモンズ論の特徴は、自然環境と人間社会の相互作用に注目する点にある。この講義では、理論解説に加えて、日本と海外の現場の実例を紹介する。現代の環境問題の実践的解決方法としてコモンズ論が応用される議論を展開する。授業はテキストや資料に沿って講義形式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の進め方、学習の仕方、評価方法などについての説明をする。
第2回	熱帯林の消失	熱帯林消失の原因を概観し、熱帯林の消失をもたらしてきた森林政策の理念を問い、森林管理への住民参加の必要性を提示する。
第3回	コモンズ概念	自然資源の保全におけるコモンズ概念、実態、および有効性について概説する。
第4回	カリマンタンのコモンズ	インドネシアのカリマンタンにおける先住民の共同森林利用・管理とコモンズの変容について講義する。
第5回	生態学におけるコモンズ	エコロジカル・フットプリントを通じて地球の環境容量の利用実態を把握し、人間活動が環境に与える負荷を減らすにはコモンズの役割を考える。
第6回	広義の経済におけるコモンズ(1)	健全なエコロジーが支える経済における「実在としての経済」、「経済の共的な部門」などの概念を把握し、地域自立におけるコモンズの役割について講義する。
第7回	広義の経済におけるコモンズ(2)	同上。
第8回	コモンズとしての海	沖縄の先地住民におけるサンゴ礁の自治的管理について講義する。
第9回	日本の入会林野	日本の近世以降の入会林野の歴史を概観する。
第10回	今も生きる日本のコモンズ	歴史を生き抜き、現在も存在し続けている日本のコモンズの事例（草原、里山、里道など）を紹介する。
第11回	アフリカの資源利用・管理(1)	ナイジェリアにおける石油産業の歴史的展開と問題点について講義する。
第12回	アフリカの資源利用・管理(2)	ナイジェリアにおける遊牧民と農耕民の互恵的な資源利用関係について紹介する。
第13回	イギリスの高地コモンズ	イギリスにおけるコモンズの囲い込みと保全に関する歴史的展開について概説する。
第14回	米国で展開するコモンズ論	米国で展開された共有的資源管理における「悲劇のコモンズ」、「コモンズの長期存立条件」の論説について講義する。
第15回	補足とまとめ	今まで行った講義の要点の確認と必要があれば補足を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前によく読むこと。

【テキスト（教科書）】

授業の進み具合を見て適時指定する。

【参考書】

多辺田政弘著『コモンズの経済学』学陽書房、1990年
井上真・宮内泰介編『コモンズの社会学：森・川・海の資源共同管理を考える』新曜社、2001年
室田武・三俣学『入会林野とコモンズ：持続可能な共有森』日本評論社、2004年
井上真著『コモンズ思想を求めて—カリマンタンの森で考える』岩波書店、2004年
三俣学・森本早苗・室田武編『コモンズ研究のフロンティア：山野海川の共的世界』東京大学出版会、2008年

【成績評価の方法と基準】

コメントカード兼出席票 50%、期末試験 50%（受講者数によってはレポート）を総合して評価する。期末試験の受験は必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

2014年度より担当。アンケート結果を参照の後、可能な範囲にて改善に取り込む。

【その他の重要事項】

英語資料を利用することがある。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA358

都市環境論 I

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【その他の重要事項】

旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における都市の形成、すなわち、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論 I では、まず、いくつかの具体的側面からそのイメージを構築する。

【到達目標】

新しい時代の都市づくりのプランナーに必要な、基本的センスとしての方向感覚を身につけることを目標とする。特に、都市環境論 I では、都市問題への興味と探究心を深め、自律的な課題発見と学習ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

都市環境に関わるいくつかの側面から基本的な考え方を探っていく。秋学期の都市環境論 II で総合的なプランニングの議論へと進むが、その準備段階としての位置づけである。授業では国内外の都市環境（居住、交通、自然、景観、歴史など）について、様々な事例をとりあげ映像や資料を多用し、考えながらイメージを形づくっていく。思考訓練のために、ほぼ毎回、事業の最後にミニペーパーを作成提出。また、身近な事例調査を含むホームワークも課する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	都市環境論の視点と方法、および、学び方について
第 2 回	都市の住まい：住宅地開発の系譜（1）	英国における田園都市の建設、その背景と展開
第 3 回	都市の住まい：住宅地開発の系譜（2）	日本、米国他における住宅地開発の歴史、方向性
第 4 回	都市の自然：緑地空間の形成と保全（1）	都市における緑地空間の価値、都市構造との関係性
第 5 回	都市の自然：緑地空間の形成と保全（2）	日本における公園など都市内緑地空間の課題と展望
第 6 回	都市の水と水辺：水環境と水辺空間（1）	都市の形成と水の関わり、大都市の水辺、水環境
第 7 回	都市の水と水辺：水環境と水辺空間（2）	世界の都市における水辺空間整備の現状と方向性
第 8 回	都市の記憶：歴史遺産の保存と活用（1）	都市の歴史遺産、街並み、その保存、活用、変化
第 9 回	都市の記憶：歴史遺産の保存と活用（2）	世界の都市における歴史遺産保存の現状と方向性
第 10 回	都市の美しさ：都市景観とその論争（1）	都市の美しさへの視点、景観を巡る議論、改善手法
第 11 回	都市の美しさ：都市景観とその論争（2）	国内外における都市景観に関わる争いのケーススタディ
第 12 回	都市の優しさ：バリアフリー・UD対応	バリアフリー、ユニバーサルデザインの考え方と方策
第 13 回	都市の移動：都市交通の問題と対策（1）	都市基盤としての道路整備のあり方、自動車対策
第 14 回	都市の移動：都市交通の問題と対策（2）	都市基盤としての都市交通のあり方、新しい動き
第 15 回	都市の総合的な計画に向けて	都市のダイナミズムと制御、都市再生ビジョン、都市環境論 I のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回到全体の流れと学習の仕方を説明する。また、毎回の最後に次回のテーマを略説する。これにもとづき毎回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。講義時にプリントを配布、講義では映像資料も多用する。

【参考書】

多岐にわたるため、各回講義時に参考となるものをいくつか紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（参照不可）70%、平常点（授業内でのミニペーパーの提出、ホームワークレポートほか）30%

【学生の意見等からの気づき】

ノートをしっかりとれるよう、講義のスピードを若干ゆっくりにし、板書もなるべく多くする。

HA358

都市環境論Ⅱ

石神 隆

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【その他の重要事項】

旧科目名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における都市の形成、すなわち、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論Ⅱでは、同Ⅰでの個別的な各側面の学習を踏まえ、基本的かつ総合的な議論を進めていく。

【到達目標】

この授業では、都市環境論Ⅰでの目標に加え、新しい都市づくりプランナーに必要な、都市環境問題への対応や政策を含めた、プランニングに関する基本的な知識と感覚を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

都市環境問題への総合的なテーマによる現状の把握と分析をするとともに、実践的な課題についても、各種の理論、法規、技法を含め、都市環境の改善に必要な基本的事項について説明し議論をしていく。理解確認のために、ほぼ毎回、授業の最後にミニペーパーの作成提出をする。また、ミニ研究的なホームワークを課することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	都市づくりの歴史、都市の持続可能性に関する基本的な考え方
第2回	都市と地球環境問題（1）	都市構造と地球環境負荷の関係性、低減への諸課題
第3回	都市と地球環境問題（2）	都市の土地利用、成長管理、コンパクトシティの議論と実際
第4回	都市の災害と安全対策（1）	都市における自然災害、人為災害の歴史と対応
第5回	都市の災害と安全対策（2）	都市における自然災害、人為災害の減少への方策
第6回	都市の計画制度（1）	日本の都市計画関連法規、開発規制、建築制限
第7回	都市の計画制度（2）	都市マスタープランと土地利用計画、各地の例
第8回	都市の計画技法（1）	市街地再開発事業、土地区画整理事業など市街地整備手法
第9回	都市の計画技法（2）	都市憲章や市民参加など都市づくりの自主的なあり方
第10回	都市のリノベーション（1）	安全で快適な都市への再生修復、各種の再生技法、各地の事例
第11回	都市のリノベーション（2）	都市の自然回復、流域圏の発想、デザイン・ウィズ・ネイチャー
第12回	都市デザインの新潮流（1）	都市のエコロジカルデザイン、ニューアーバニズム
第13回	都市デザインの新潮流（2）	都市のアイデンティティ、パナキュラー（風土性）、隠された意志
第14回	都市の持続可能性に向けて	子供のためのデザイン、複雑な社会における新しいプランニングのあり方
第15回	都市の総合的な計画に向けて	総集編および都市プランナーへの道

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回到全体の流れと学習の仕方を説明する。また、毎回の最後に次回のテーマの概略を説明する。これにもとづき各回とも毎回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。なお、具体的な実感を得たり、分析・企画能力を向上させるために、テーマに応じての自主的な調査や見聞を推奨する。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。講義時にプリントを配布、講義では映像資料も多用する。

【参考書】

多岐にわたるため、各回講義時に参考となるものを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（参照不可）70%、平常点（授業内でのミニペーパーの提出、ホームワークレポートほか）30%

【学生の意見等からの気づき】

ノートをしっかりとれるよう、講義のスピードを若干ゆっくりし、板書もなるべく多くする。

HA358

都市デザイン論

田中 大助

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市を形成する建築物の最小単位は住宅である。その住宅の設計を授業のテーマに都市環境や住環境の要素を理解し、都市デザインに対する主観をひとりひとりに自覚してもらうことを目標とする。

【到達目標】

自分の考える住宅がイメージできて表現できるようになることを授業の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心に行うが、講義を元に学生がテーマを決めて作品（住宅の設計）を残すものである。

講義中の課題と最後の作品は文字のみによる表現でなく、図版・絵・グラフなど視覚言語を多用する表現が要求されるため、プレゼンテーション能力も養われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：都市デザインと建築デザイン	都市を構成する建築・土木建造物の紹介と、授業で行う住宅の位置づけを行う
第2回	「棲む」と「住む」の違い	生息する（巢）ことと生活する（家）ことの違いを説明し、人間社会にのみ存在する住宅文化について認識する
第3回	住宅設計における建築家（アーキテクト）と建築技師の違い	建築家と建築技師の違いについて説明し、建築家の役割の中で人文系の内容の多いことを理解してもらう
第4回	建築と空間・動線	住宅の中の人間の行動パターンとその行動に伴う必要最小空間を理解する
第5回	住空間の単位空間（1）（玄関）	第1回目の課題を出題する 玄関の日本の住宅文化に果たす役割を理解してもらう
第6回	住空間の単位空間（2）（居間・食堂・寝室・書斎・子供部屋）	第2回目の課題を出題する 居間などの日常生活空間について説明する
第7回	住空間の単位空間（3）（台所・風呂・便所・階段）	台所など水場について説明する 第3回目の課題を出題する
第8回	住環境の物理要素（熱・光・水・風）	住宅の外部環境の要素が建物や生活とどのように関わっているのか説明する
第9回	住空間の構成要素（基礎・床・壁・屋根など）	住宅を形作る要素と外部環境・内部環境との関係を説明する 第4回目の課題を出題する
第10回	ユニバーサルデザインについて	これからの社会でユニバーサルデザインの必要性などについて説明する 第5回目の課題を出題する
第11回	住宅事例の紹介（1）	プロの建築家による実際に建てられた住宅の紹介
第12回	住宅事例の紹介（2）	前年までの学生の作品を紹介する
第13回	課題質疑応答	各人の決めた課題テーマに対する取り組み方の指導をオープンで行う
第14回	作品提出	作品の発表と講評を学生全員で行う
第15回	総括	習得事項の整理および確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマが住宅の設計なので普段の日常生活を観察するだけで、授業の内容が十分に復習できるし、授業終了後も人間の日常生活を観察する癖をつけることによって、それぞれの人々に最適な生活空間はどんなものであるか考えるようになることを希望する。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。

【参考書】

「建築設計基礎編－建築デザインの製図法から簡単な設計まで－」「建築設計応用編－独立住居から集合住宅まで－」武者英二ほか著 彰国社

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題と最後に提出する住宅設計による総合評価。

出席点・ペーパーテストなどはない。出席して講義を聴かないと課題に取り組めないで、課題と作品によって全て判断できる。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料が多すぎるとの指摘が毎年あるので、適宜最小限必要なものに留めて配布する。

【その他の重要事項】

課題の量は多く、課外でかなりの時間を必要とするので、かなり大変であるがやる気があれば充実した授業になる。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA340

環境社会論 I

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境社会学は、「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」に大別されるが、両者を概観しながら、環境/環境問題を調査研究するための理論と方法論を習得し、「理論」と「実証」の往復という環境社会学の基本的なスタイルを学ぶ。

【到達目標】

本講義では、社会的な視点から人間の行動と「環境」との関係のあり方について学び、環境社会学の基本的なアプローチを習得することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

社会的なアプローチの特徴を紹介した後、環境社会学の諸アプローチを概観する。戦後日本の環境問題の歴史を振り返りながら、環境問題の構造を把握することによって、「加害-被害構造論」「受益圏・受苦圏」「社会的ジレンマ論」について講義する。続いて、人々の生活と水とのかかわりという点に着目しながら、「生活環境主義」「近い水・遠い水」「河川管理の変遷と生活と水との関わり」「技術と災害、災害文化の形成と伝承」といったトピックスについて講義する。最後に環境社会学の方法論と環境社会学の意義について述べ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会学/環境社会学とは何か？(1)	社会的なアプローチの概要について講義する。
第2回	社会学/環境社会学とは何か？(2)	環境社会学の2つのアプローチに関する概要を講義する。
第3回	日本の環境問題の歴史とその構造(1)	人間社会と環境の関係の変化を把握した後、第二次世界大戦以前までの日本の環境問題の歴史について概説する。
第4回	日本の環境問題の歴史とその構造(2)	戦後日本の環境問題の歴史について、環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について概観する。
第5回	日本の環境問題の歴史とその構造(3)	日本の環境問題の歴史を踏まえて、加害-被害論と、被害構造論について講義する。
第6回	受益圏と受苦圏(1)：概念の定義とその適用	受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
第7回	受益圏と受苦圏(2)：事例研究	受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
第8回	環境破壊と社会的ジレンマ(1)～社会的ジレンマ論	社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
第9回	環境破壊と社会的ジレンマ(2)～事例から社会的ジレンマを考える	事例を通じて社会的ジレンマについて講義する。
第10回	環境破壊と社会的ジレンマ(3)～社会的ジレンマの類型化と解決策の条件	社会的ジレンマの解決策について、事例を通じて考える。
第11回	「水」と生活文化(1)～生活環境主義とは？	生活環境論、生活環境主義について講義する。
第12回	「水」と生活文化(2)～「近い水」「遠い水」	「近い水・遠い水」、水の総有という点から、人と水のかかわりとその変化について講義する。
第13回	「水」と生活文化(3)～河川管理の変遷	日本の河川行政、河川管理の変遷から人と水のかかわりの変化について講義する。
第14回	「水」と生活文化(4)～技術と災害、災害文化の形成と伝承	水害および水害教育という観点から、災害文化の形成と伝承を考え、今後の人と水のかかわりの方向性を考える。
第15回	環境社会学の方法論	理論と実証の往復という作業と、実践の志向性を持つ環境社会学の方法論を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれの講義の復習として、テキストや参考文献を各自で入手し、講読する。

【テキスト（教科書）】

鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房
その他、適宜、指示をする。

【参考書】

同上。

【成績評価の方法と基準】

論述式の試験(70%：持ち込み可) + 出席点、講義中に行うコメントペーパーなど(30%)

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA340

環境社会論Ⅱ

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：火2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境問題の解決に重要な市民運動、NPO・NGO、ボランティア団体の活動を「社会運動」という視点から捉え直し、社会運動から見える現代社会や社会問題（環境問題）について理解する。

【到達目標】

環境問題に関わる社会運動の多様なかたちや活動の条件、活動の意味などを理解することを目的とする。環境問題に対して住民、市民がどのように関わることが可能なのかという実践的な課題にアプローチするために、環境問題や地域問題の解決を担う新たな動きを、国家・行政が独占してきた公共性の再編と捉えた上で、地域的な共同性・公共性を構築するための市民参加の制度設計について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

はじめに「社会運動」に注目して「社会」を捉える視点について、社会学と社会運動論の関係を紐解きながら講義する。次に、リスク社会である現代社会における社会運動の意義、可能性について述べる。続いて社会運動が社会問題を立ち上げるという側面を議論した後、なぜ人々が社会運動に参加するのか（運動の承認論）、どのように社会運動を展開するのか（資源動員論、フレーミング論）という点を解説し、さらに社会運動のさまざまな形とその変化を捉える視点を提示しながら、「社会運動とは何か」という根本的な問いに答える。最後に戦後日本の社会運動のマクロな動態を、政治体との関連が議論した後、反原発運動、脱原発運動を事例として、環境運動の新たな展開と市民参加、地域的公共性に関する議論を展開し、現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力について考えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会運動から社会が見える	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、「社会運動」を議論する必要があるのかという点について講義する。
第2回	社会学と社会運動	社会学の歴史を、社会運動の観点から、その概略を講義する。
第3回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（1）	「リスク（社会）」をキーワードに、現代の環境問題と環境運動を位置づけについて講義する。
第4回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（2）	チェルノブイリ原発事故と反原発運動を事例として、リスク社会における環境運動について講義する。
第5回	環境問題の設定者としての環境運動：社会問題の構築論	社会構築主義に依拠しながら、環境（社会）問題の設定者としての環境（社会）運動の役割について講義する。
第6回	なぜ環境運動に関わるのかー運動参加の承認論（1）	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第7回	なぜ環境運動に関わるのかー運動参加の承認論（2）	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第8回	運動のさまざまな形とその変化（1）	社会運動のさまざまな形態を紹介し、社会（環境）運動の外延を広げることによって、現代社会の運動への理解を深める。
第9回	運動のさまざまな形とその変化（2）	さまざまな形態の社会（環境）運動とその形態の変化について、生活クラブ生協を事例にして論じる。
第10回	どのように環境運動を展開するのか（1）：資源動員論	どのように運動を展開するのかという点について、資源動員論を紹介しながら講義する。
第11回	どのように環境運動を展開するのか（2）：フレーミング	「フレーミング」という観点から、運動への潜在的な参加者を集める方法について議論する。
第12回	環境運動と政治	イベントデータを用いたマクロ分析によって、戦後日本の社会（環境）運動と政治との関連について講義する。
第13回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（1）	日本における再生可能エネルギーの導入、普及と環境運動の展開について講義する。

- 第14回 再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（2）
市民風車運動・事業を事例として、再生可能エネルギーの普及と環境運動の可能性について論じる。
- 第15回 現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力
講義のまとめとして、現代社会における社会運動の潜勢力と可能性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に参照した文献の講読。

【テキスト（教科書）】

大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人（編著）『社会運動の社会学』有斐閣（2004年）

【参考書】

西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）（できれば教科書として購入することが望ましい）
丸山康司・西城戸誠・本巢芽美（編著）『リスクと地域資源管理からみた再生可能エネルギー（仮題）』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験と、コメントシートもしくは追加レポートで評価する

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA340

環境社会論Ⅲ

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像資料を用いて具体的な事例を提示し、環境（自然）と地域の持続性に関する「環境と社会」の社会学的な議論（応用編）を展開する。

【到達目標】

本講義の目的は、日本国内の事例を中心に取り上げながら、環境（自然）と地域の持続性に関する議論について、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生といったキーワードへの理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

理論的な論点の提示と事例検討を繰り返し、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生といったキーワードへの理解を深める。なお、映像資料を用いるが、映像資料に対しては要約、コメント等をその都度求める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境と地域の持続性を考える視点(1)	環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容を振り返りながら、環境・地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第2回	合意形成とレジティマシー(1)：「海は誰のものか」	人と自然がかかわる際の、自然環境をめぐる価値や意味の共有を巡る課題を、合意形成とレジティマシーという観点から講義する。
第3回	合意形成とレジティマシー(2)：市民参加とレジティマシー	合意形成やそのレジティマシーを巡る、市民参加のあり方について講義する。
第4回	生業・半栽培・資源管理(1)：コンブの森から考える	生業とそれを支える伝統的な生態学的な知識に着目し、昆布漁を事例として資源管理のあり方を考える。
第5回	生業・半栽培・資源管理(2)：半栽培から資源管理へ	生業および半栽培という観点から資源管理のあり方について講義する。
第6回	生業・半栽培・資源管理(3)：生態系サービス	生態系サービスという概念から、人と自然のかかわりについて講義する。
第7回	自然再生と順応的管理(1)：コウノトリと地域再生	兵庫県豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生
第8回	自然再生と順応的管理(2)：獣害問題と順応的管理	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第9回	過疎問題と地域社会(1)：過疎と「核」の受容	北海道幌延町の核廃棄物処理施設の誘致問題を事例として、過疎地域における核の受容の背景について講義する。
第10回	過疎問題と地域社会(2)：「核」への抗議と運動文化	核廃棄物処理施設誘致の反対運動の展開を見ながら、過疎地域の地域再生や、地域の持続性に関して議論する。
第11回	再生可能エネルギーと地域社会(1)	再生可能エネルギーの地域社会への普及のための、さまざまな「社会的しかけ」に関して講義する。
第12回	再生可能エネルギーと地域社会(2)	風力発電に対する反対運動も含めて、再生可能エネルギーの地域社会への受容性について講義する。
第13回	負の遺産と地域再生(1)：炭鉱社会の盛衰・夕張を事例として	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第14回	負の遺産と地域再生(2)：炭鉱遺産によるまちづくりの展開	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第15回	環境・地域社会のサステイナビリティと「当事者性」を考える	環境・地域社会のサステイナビリティについてまとめながら、「当事者性」という観点から環境・地域の持続性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義内容の復習と、環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容の関連づけを随時、行ってほしい。また、映像教材に対するコメントを求める。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求『環境の社会学』有斐閣（2009年）
西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）
宮内泰介編『半栽培の環境社会学』昭和堂（2009年）

【成績評価の方法と基準】

講義中に映像資料等に対するリアクションペーパー（小レポート）の提出を求める。また、学期末に筆記試験（受講者数によってはレポート）を課す。

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【その他の重要事項】

本講義は、環境社会論Ⅰ、Ⅱの履修後の受講を想定している。履修制限は行わないが、環境社会論Ⅰ、Ⅱの応用編としての位置づけであることを前提に履修されたい。ただし、2014年度は担当者はサブディカルのため、環境社会論Ⅰ、Ⅱは非常勤講師が担当した。よって、2015年度の環境社会論Ⅲは、2014年度環境社会論Ⅰ、Ⅱの受講者に配慮する。なお、環境社会論Ⅰ、Ⅱを未修の者は、2015年度に受講されたい。

旧科目名称「人間環境特論（環境と地域の持続性を考える）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA340

労働環境論 I**長峰 登記夫**

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「仕事を通して労働環境を考える」

【到達目標】

本講では、仕事や雇用に関連した基礎的知識の習得をめざす。労働環境を考える前提としての基本的な雇用問題、すなわち就職から入社後の賃金や昇進、昇給、教育訓練、退職、転職、労働組合など、仕事や雇用に関する基本的な概念や現象を理解できるようになることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

就職、教育訓練、昇進、失業、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する様々なトピックを取りあげる。雇用の一般理論や労働組合、非正規雇用等の個別具体的なトピックも取り上げる。また、新聞記事などを利用して、その時々話題になっているアプトゥデータな諸問題をも随時紹介しつつ、現実への理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論入門	労働環境論では何を学ぶのか、なぜ学ぶのか等について考える。
第2回	雇用・処遇システム	日本の雇用システムの特徴と諸外国との違いについて基本的な知識を得る。
第3回	学校から職場へ	大学生の就職に焦点を当て、それが過去どう変化してきたのかを見ながら、現在の問題を考える。
第4回	能力開発とキャリア	日本企業の教育訓練の特徴は何か、諸外国とどう違い、どう変わってきたのかについて学ぶ。
第5回	ライフスタイルと就業意識	労働者のライフスタイルや就業意識が、戦後初期から高度経済成長期、バブル期を経てどう変わってきたのか学ぶ。
第6回	生活時間配分	私たちの生活のなかで、仕事とプライベートな生活がどう構成され、変化してきたのかについてみる。
第7回	技術革新と仕事・職場の変化	技術は仕事の遂行方法に大きく影響する。それが時代とともにどう変化してきたのかをみる。
第8回	賃金システム	労働条件の基本をなし、きわめて複雑な日本の賃金システムについてその基本を学習する。
第9回	企業と労働組合	労働条件設定について特別な地位を認められている労働組合の機能や役割について学ぶ。
第10回	失業と転職	市場経済で失業は避けられない現象である。失業と転職、国の失業対策等について学ぶ。
第11回	仕事からの引退過程	私たちは一定の年齢に達すると仕事から引退する。その過程について学び、その後の人生設計について考える。
第12回	非典型雇用	派遣やパート等非正規雇用の増加の現状や問題点について考える。
第13回	自立的な働き方	ベンチャーも含めて起業が盛んな今日、企業に雇われない働き方も働き方の1つとしてある。その現状について学ぶ。
第14回	日本的雇用慣行のまとめ	日本的雇用慣行の特徴は何か、そのメリット、デメリットを含め総合的に評価する。
第15回	試験	試験によって本講義の理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

より効率的に講義が理解できるよう、事前にテキストの関連する章を読み、理解できなかった箇所を再度読み返し、疑問点を確認し質問する。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方〔改訂版〕』有斐閣ブックス、2012年。

【参考書】

テキストでカバーできないテーマについては、随時、プリント等で補う。

【成績評価の方法と基準】

論述式の試験により、特定のテーマについて基本的な理解ができているか、説明できているか等を評価の基準にする。

【学生の意見等からの気づき】

この科目に関連した時事的現象についてはほぼ毎時間紹介しているが、これには要望も多く今後も継続する。

【その他の重要事項】

ここで扱うテーマは、卒業して就職する限りだれもが経験するようなものばかりです。自分が問題に直面したときに思い出して、どうすれば解決できるか、それを考える手掛かりとなるような知識と知恵を身につけてください。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース、地域環境共生コース

HA340

労働環境論Ⅱ

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的な問題との関連のなかで労働環境への理解を深める。

【到達目標】

労働環境論Ⅰで学んだことを前提に、いくつかのトピックを取り上げ、労働環境について学ぶうえで必要な事柄についてより深い知識の習得をめざす。より具体的かつ時事的な事象を扱い、仕事や雇用に関する理解を深め、コンプライアンスに基づいた円滑な仕事遂行を可能にする労働環境をつくるにはどうすればよいか、それに必要な知識の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

就職、昇進、退職など、ライフステージに沿った雇用に関する種々のテーマについて、時事的なできごとにも触れながら学ぶ。1つのトピックにつき1～2回で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論とは何か	労働環境論とは何かについて考える。
第2回	日本的雇用慣行 1	種々の統計、図表を見ながら、日本的雇用慣行の特徴を概観する。
第3回	日本的雇用慣行 2	前週に続いて、日本的雇用慣行をどう理解すればよいか、近年の変化もふまえて学習する。
第4回	大学生の就職 1	過去に大学生の就職のあり方がどう変化し、いま何が問題になっているのか考える。
第5回	大学生の就職 2	大学生の就職と近年話題となっているグローバル人材の問題を考える。
第6回	労働環境と安全衛生 1	仕事場における安全衛生の問題について、歴史的な変遷もふまえて見ていく。
第7回	労働環境と安全衛生 2	前週の学習に基づいて、近年大きな問題となっている働く人々のメンタルヘルスを中心に考える。
第8回	労働環境と労働時間 1 (労働時間の見方、考え方)	全体的な労働時間の短縮の背後で進んでいる労働時間の二極化を中心に、労働時間について考える。
第9回	労働環境と労働時間 2 (裁量労働制と変形労働時間制)	労働の規制緩和の一環として進められてきた裁量労働制と変形労働時間制を中心に、最近のホワイトカラー・エグゼンプションをめぐる議論についても学ぶ。
第10回	労働環境とジェンダー 1	日本は毎年のように国際機関から雇用に関する女性の地位の低さを指摘されている。なぜか、その現状について学ぶ。
第11回	労働環境とジェンダー 2	前週の学習に基づいて、とくに女性管理職を取り上げ、問題点と課題について学習する。
第12回	労働環境と差別（年齢差別禁止を中心に）	年齢差別を一例として、雇用における差別問題について考える。
第13回	企業の社会的責任（CSR）	企業の社会的責任（CSR）とは何か、とくに労働の領域におけるCSRについて考える。
第14回	震災と雇用	阪神淡路大震災、東日本大震災で、一瞬のうちに多くの雇用が失われることになった。どういったことが起こり、当事者や行政等はそれにどう対処したのかについてみていく
第15回	試験	試験によって14回の学習の到達度を見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストを指示する。授業はテキストを読んでいることを前提に進めるので、事前の学習と事後の復習を必須とする。

【テキスト（教科書）】

学期はじめに関係するテキストを指示するが、いろいろな資料を使うので、特定の本をテキストとして使うことはしない。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方〔改訂版〕』有斐閣ブックス、2012年。

【成績評価の方法と基準】

論述式の試験により、それぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、内容理解に関連する基本的な設問を提示し、学生が勉強しやすいようにする。

【その他の重要事項】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をもう少し掘り下げて勉強する。長時間労働や過労死、メンタルヘルス、女性差別など、ふだん新聞等でも取り上げられている問題を扱う。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース、地域環境共生コース

HA340

NGO活動論

中村 玲子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NGOはNon-governmental organizationの略。GO(Government)の対極にあり、GOの方針や施策を監視し、必要に応じて是正すると同時に、GOの手の届きにくい社会のすきま（ニッチ）を、先取的に発見し、必要な対策をGOに代わって実現していくパートナーとしても重要な役割をもつ。

NGO活動の核は「参加」である。活動の現場は世界中にあり、その内容や手法もさまざま。ラムサール条約、生物多様性条約、気候変動枠組条約など、地球環境を守るための国際条約の誕生や履行には、NGOによる発見、提言、具体的な活動が大きく寄与している。とくにグローバルな環境問題の解決に、「国家」の概念にとらわれないNGOの役割重要性を増しているは欠かせない。NGO活動に主体的に参加する人が増えれば、社会を変えてゆることができる。

授業では、講師自らが環境NGOを創設・運営し、アジアの湿地を舞台にシンポジウムの開催や子ども環境教育を実践してきた経験をベースに、環境分野におけるNGO活動を中心に、実践的NGO論を展開する。受講者ひとりひとりが、NGO活動にコミットする意識をもつことを目標としている。

【到達目標】

受講者が、NGO活動の役割、意義、その効果や楽しさを理解し、自分で新しいNGO活動をつくりだす意識をもつことを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義のほか、NGOの現場から外部講師を招いての事例研究や、とディスカッションを活用する。適宜、社会・環境時事問題を取りあげて、地球環境問題への意識を育てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらい、内容、進め方。 NGOとは。NGOとNPO。なぜNGO活動が必要か。
第2回	国際NGOとローカルNGO	種類、規模、使命、活動分野、役割分担と連携。
第3回	国際条約とNGO	ラムサール条約、ワシントン条約、生物多様性条約など国家間の取り決めである地球環境条約とNGOのかかわり。
第4回	活動事例研究（国際NGO）	国際的に活躍する主要な地球環境NGOの活動について。IUCN、WWFなど。
第5回	活動事例研究（国際NGO）	国際的に活躍する主要な地球環境NGOの活動について。FOE、グリーンピースなど。
第6回	活動事例研究（日本のNGO）	日本に基盤をおきながら、国際的に活動する環境NGOについて。解説と検証。
第7回	活動事例研究（日本のNGO）	日本に基盤をおきながら、国際的に活動する環境NGOについて紹介。
第8回	活動事例研究（途上国のNGO）	中国、韓国、タイ、マレーシアなどの現状とNGO活動の事例。
第9回	活動事例研究（途上国のNGO）	バングラデシュ、インド、ネパールなどの現状とNGO活動の事例。
第10回	NGOと企業	これからの企業との協力のかたち。パートナーシップ、CSRなど。
第11回	NGOのマネジメント	NGOの経営は、企業より複雑系。ボランティア、会員、理事会、サポーター、スポンサーなどのマネジメントについて。
第12回	NGOの活動資金	多様な助成金の存在。地球環境基金、経団連自然保護基金、GEF、企業の基金などの紹介と活用。
第13回	NGO活動のつくり方	自分でNGOを創るにはどうするか。
第14回	NGOとODA	開発途上国支援におけるNGOと政府の協働について。JICA、KOICA、SIDAなど事例に。

第15回 補足とまとめ

これまでの授業の補足、まとめ。レポート提出期限。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考資料を配布し、授業までに読んできてもらうことがある。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜、紹介。場合によっては配布する。

【参考書】

授業内で適宜、紹介。

【成績評価の方法と基準】

出席率とレポート提出を合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

事前に参考資料等をできるだけ配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、OHPなど。

【その他の重要事項】

関連の深い科目

NPO・ボランティア論

【関連の深いコース】

国際環境協力コース

HA327

地域環境ケーススタディ I

船戸 修一

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

農山村の現状と課題について考える。

【到達目標】

農山村の現状や課題を理解するだけでなく、その問題解決策まで考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、「地域」を「農山村」に絞り、農山村の根幹的産業である農林業や農山村の集落の現状と課題について理解することを目標にする。さらに、その学習だけでなく、その問題解決までも構想できるようになることも目標にする。本授業では、テキストとして、①日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）、②日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）を使い、毎回、それぞれ1章分を受講生に発表してもらい、その解説と説明をしたうえで、全員で討論を行う。なお、本授業は「食と農の環境学Ⅱ」を履修していることを受講条件とし、またゼミ形式を導入するため受講者の定員を30名程度にする。もし受講希望者が定員超過する場合は、第1回目の授業でテストを行い、その成績上位から受講生を選抜する。テスト問題は「食と農の環境学Ⅱ」の内容から出題する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価を説明する。
第2回	テキストの輪読・発表・討論(1)	『むらの社会を研究する』の「村落空間」をとりあげる。
第3回	テキストの輪読・発表・討論(2)	『むらの社会を研究する』の「都市化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「むらにとっての資源とは」をとりあげる。
第4回	テキストの輪読・発表・討論(3)	『むらの社会を研究する』の「農業の近代化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「集团的土地利用」をとりあげる。
第5回	テキストの輪読・発表・討論(4)	『むらの社会を研究する』の「過疎化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「水をめぐる排除と協同」をとりあげる。
第6回	テキストの輪読・発表・討論(5)	『むらの社会を研究する』の「縮小化する世帯・家族と家の変化」、『むらの資源を研究する』の「森林問題と林野資源の可能性」をとりあげる。
第7回	テキストの輪読・発表・討論(6)	『むらの社会を研究する』の「今、農村家族の問題は何か」、『むらの資源を研究する』の「日本における農政の変遷と地域政策」をとりあげる。
第8回	テキストの輪読・発表・討論(7)	『むらの社会を研究する』の「農山村の開発に伴う環境破壊」、『むらの資源を研究する』の「農業技術と自然」をとりあげる。
第9回	テキストの輪読・発表・討論(8)	『むらの社会を研究する』の「自然環境と歴史環境の保全活動」、『むらの資源を研究する』の「近代農法の成果と限界」をとりあげる。
第10回	テキストの輪読・発表・討論(9)	『むらの社会を研究する』の「農村女性とパートナーシップ」、『むらの資源を研究する』の「有機農業をめぐるむらのコンフリクト」をとりあげる。
第11回	テキストの輪読・発表・討論(10)	『むらの社会を研究する』の「担い手としての高齢者」、『むらの資源を研究する』の「農村の多元的価値を『引き出す』ツーリズムを目指して」をとりあげる。
第12回	テキストの輪読・発表・討論(11)	『むらの社会を研究する』の「限界集落論からみた集落の変動と山村の再生」、『むらの資源を研究する』の「農業共同化の背景と生産組織の展開」をとりあげる。

第13回	テキストの輪読・発表・討論(12)	『むらの社会を研究する』の「戦後農政の展開とむら」、『むらの資源を研究する』の「家族構成の変化と兼業化」をとりあげる。
第14回	テキストの輪読・発表・討論(13)	『むらの社会を研究する』の「農業者として生きる都市住民の転身」、『むらの資源を研究する』の「農の経営から地域経営へ」をとりあげる。
第15回	テキストの輪読・発表・討論(14)	『むらの社会を研究する』の「定年帰農と新たな農村コミュニティの形成」、『むらの資源を研究する』の「農村女性起業とエンバワメント」をとりあげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業内容について復習しておくこと。また次回の授業で内容も読んで、予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）

日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）

【参考書】

参考文献は、授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（出席回数、発表内容、討論への参加姿勢など）を50%として評価する。さらに学期末に課すレポートを50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ形式で授業を進めるため、なるべく多くの履修学生の意見に耳を傾けたいと考えている。

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA327

地域環境ケーススタディⅡ

後藤 純

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まちづくり（＝コミュニティ・デザイン、コミュニティ・プランニング）がテーマです。日本は少子高齢社会に突入していますが、住みよいまちをつくるには、住民やコミュニティの構成員が自らのリソースを提供して行うまちづくりが必要です。これまでは、行政が単独で計画をつくってききましたが、これからは行政だけでなく、住民自治組織、企業等が連携できるフレームワークづくりが重要です。本授業ではまちづくり（＝コミュニティ・デザイン）の方法論を学ぶとともに、コミュニティ・デザインに関する理論、技術、制度について基礎知識を獲得し、理解を深めます。

【到達目標】

まちづくり（コミュニティ・デザイン、コミュニティ・プランニング）を形成する理論、技術、制度について基礎知識を習得すること。これを元に身近なまちづくりの事例を調査分析し、望ましい解決策を検討すること。これらをレポートにまとめ習得したことを発信することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

もはやゼロから都市を形成していくことは不可能です。既に先人が創りこんできた制度及び空間の上に、現在の都市が形成されており、これを再び地域に住む人々が解釈・再解釈して次の時代の制度及び空間を構築していきます。本授業では2030年の超高齢社会を念頭におきながら、都市における参加・協働のまちづくり実践について考えます。

これからの日本社会を支える皆さんには、特に（1）まちづくりの基礎的な制度や空間を読み解くポイントを学んでいただき、次に（2）市民・住民の地域に対する意思やニーズを把握するポイントについて学んでいただきます。また（3）課題解決・地域形成のためにどのような社会経済的実現方法が考えられるのか、具体ケースをみながら、考えていきます。（4）本授業では各人調査テーマを一つ決め、講義で学んだことを踏まえつつ、（1）～（3）に注意して、自ら問いを立てて、自ら解決策を検討していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、単位の取り方などを説明します。
第2回	2. コミュニティ・デザインの歴史と方法	基礎的なことを学びます。
第3回	超高齢社会の課題とまちの変化	2030年に向けてまちがどう変わるのかを考えます。
第4回	まちづくり（コミュニティデザイン）の歴史的展開	1960年代～今日までのまちづくりの歴史を学びます。
第5回	まちづくりにおける主体論、主体形成及び組織形成の理論と技術	まちづくりの主体、しゅた形成、組織形成の理論について考えます。
第6回	まちづくりと住民参加、協働の理論、新しい公共性	参加、協働がなぜ必要なのかを考えます。
第7回	レポート中間報告	成果報告に向けてレポートの中間報告を行います。
第8回	まちづくりの事例分析1	空き家の活用と地域共生の家づくり支援事業について学びます。
第9回	まちづくりの事例分析2	住民自治型協働のまちづくりについて学び、コミュニティ、自治組織の再編について考えます。
第10回	まちづくりの事例分析3	震災復興のまちづくりから見る現在の都市づくりの課題を考えます。
第11回	まちづくりの仕組みを考える	最終レポートに向け、これまでの事例分析を踏まえ、各自の考えるまちづくりの仕組みについて議論します。
第12回	まちづくりの事例分析4	高齢者の生活を最期まで支える地域包括ケアのまちづくりについて考えます。
第13回	まちづくりの事例分析5	諸外国のまちづくりとの比較を通して日本のまちづくりの特殊性を考えます。
第14回	成果発表1	半期の調査研究成果の報告会
第15回	成果発表2	半期の調査研究成果の報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・都市、地域、まちに興味を持ってください。

・都市におけるコミュニティ・デザインの実践には、これといった教科書がありませんので、上記のことに興味を持ちつつ自分で問いを立てて自分で答えを導き、様々な人と議論を通して合理的な判断をしていく思考訓練を心がけてください。

・そのためには、講義で言及したまちづくりの事例を実際に見学したり、関連する情報の収集に積極的に努めてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しませんが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付します。

【参考書】

- ・2030年超高齢未来、東洋新報社
 - ・超高齢社会、中央経済社
 - ・住民主体の都市計画—まちづくりへの役立て方、学芸出版社
 - ・新時代の都市計画- 市民社会とまちづくり、ぎょうせい
- その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は最終回でのプレゼンテーションとレポートで評価します（100%）。なお評価されるレポートは、教員、本授業の出席者との対話を通して生産されるものです。講義に常時出席していただくとともに、積極的なディスカッションを期待します。

【学生の意見等からの気づき】

少人数でディスカッションをしながら進めたいとの意見がありました。授業はディスカッションの時間を多くとりながら進めたいと思います。受講のモチベーションが維持できるように、わかりやすく進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影します。

【その他の重要事項】

定員は最大30名です。受講希望者が多数の場合には、第1回目の授業で選抜を行います。学ぶことともに、考えることの多い授業にしたいと思います。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA322

災害政策論

中川 和之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害大国日本において、近年から、歴史的な災害まで振り返り、為政者による政策、人々の助けあい、そして日本の災害文化まで敷衍しながら、どのような災害政策が求められているのかを、共に考える。

【到達目標】

- ①災害とは何かを、事例から学ぶ
- ②現状の政策の背景と発展を学ぶ
- ③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。
- ④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを発見する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本列島は、これまでの地球の歴史を1年としたら、最も最近の1日でできた若い列島だ。だからこそ「災害大国」となるが、古くからさまざまな災害対策や支え合いが、この列島に生きてきた私たちの祖先を支えてきた。社会の高度化や高齢化は、災害に対するぜい弱性を生む。大地動乱の時代に入ったとも言われる日本。そこで、これからの人生を生きていくのが君たちだ。災害対策は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマだが、限られた資源の中で、どのような備えと構えをとっていけばいいのか。誰かが正解を与えてくれるわけではない。君たち自身が考えていくことでもある。授業では、まず、近年の実災害への対応策から、現実の諸制度の役割と経緯を知る。また、社会のアクターの視点から現在の状況と与えられている役割を考える。備えから、応急対応、復興までの時系列から、災害政策の現状の知る。その上で、めざすべき社会のあり方と、制度のあり方をともに考えたい。できるだけ、参加型の授業をしたい。また、中間的にレポートを何度か書いていただきながら、進めていこうと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明。災害とは何か？災害から守るべきこととは何か。なぜ災害政策が求められるのかを概説。災害時に向き合うジレンマを実感するゲームを体験し、皆さんと、問答をしながら災害政策の意義を考える。
第2回	自然現象と災害=社会的な制度を考える前提としての理科1	1500万年前に誕生した新しい大地の日本列島にある肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象=人がいたら災害と言われる現象によって形づくられた。私たちが、なぜ災害で被災してしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのか。30年前には教科書にも載っていなかった「プレートテクトニクス説」が、もたらしたコペルニクスの展開と、社会の認識とハレーションなども含めて、「理科」的な話をベースに、これから考えていく「社会」の問題を考えるベースを押さえる。私たちが、なぜ災害で被災してしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのか。30年前には教科書にも載っていなかった「プレートテクトニクス説」が、もたらしたコペルニクスの展開と、社会の認識とハレーションなども含めて、「理科」的な話をベースに、これから考えていく「社会」の問題を考えるベースを押さえる。 皆さんの出身地や身近な場所についての、簡単なワークシートに、記入してもらおう。

第3回	身近な景観と災害=理科2	3回目の授業の事前課題として、皆さんの出身地や身近な場所について、いくつかの指定したWebサイトの情報を元に、簡単なワークシートを作成してもらおう。授業では、それを元に、グループディスカッションを行いたい。身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを全員で考察する。
第4回	東日本大震災後の近年の災害と法制度	東日本大震災以降に発生した災害について現状を確認。どのような政策が実行され、何が課題だったのかを振り返る。 広島土砂災害、御嶽山噴火災害、26年2月の雪害、平成25年台風第26号災害、平成24年7月九州北部豪雨、平成23年7月新潟・福島豪雨、23年度、24年度の連続豪雪、東北地方太平洋沖地震と一連の地震などを事例とする。 首長たちの経験談をもとに、グループディスカッションを行う。
第5回	東北地方太平洋沖地震と東日本大震災1	東北地方太平洋地震が、いかにして東日本大震災になったかを、2回に渡って、振り返り、現状も確認する。地震直後に自分で感じたことを、グループで共有するグループディスカッションを行う。
第6回	東北地方太平洋沖地震と東日本大震災2	東北地方太平洋地震が、いかにして東日本大震災になったかを、2回に渡って、振り返り、現状も確認する。復興まちづくりの現状や、福島原発事故による長期避難など、未だ継続している大震災に、どう対応していくべきなのかを、グループディスカッションで考える。
第7回	阪神大震災から、東日本大震災まで	都市の直下型地震の持つ破壊力と、現代社会のぜい弱性を浮き彫りにした1995年1月の兵庫県南部地震をきっかけに、日本の災害対策は、大きく見直された。2000年の省庁再編によって発足した内閣府(防災)が、平時からの備えから応急対策までの大枠が作られていった。被災者には「毛布とオニギリ」が当たり前だった災害救助から、暮らしを建て直していく場としての避難所や福祉避難所が制度化。要援護者支援の制度化、住まいを失った世帯への支援制度の創設。土砂災害対策としての私権制限など、実災害を重ねながら、どのように現行の制度が形づくられてきたかを知る。
第8回	第2次大戦前後の災害から阪神大震災前まで	無謀な戦争で都市部が焼土となった日本。敗戦前後の南海トラフの地震と、相次ぐ直下型地震は、桁違いな戦災という人災の中で、十分、顧みられなかった。その後、戦災復興とともにハード対策も進み、1959年の伊勢湾台風の後には、大規模な災害がない時期が続き、高度成長と共に、日本の防災に対するの神話が生まれつつあった。戦後に制定された災害救助法が災害の基本法だった時代から、伊勢湾台風後に災害対策基本法が制定された意味を知る。また、仮説としての東海地震説によって作られた「大規模地震対策特別措置法」の意義と問題点を知る。
第9回	歴史時代から戦前まで	天才・菅原道真が9世紀に受けた国家公務員試験の問題が「地震を弁ず」というぐらい、自然災害は古来から政策課題であった。江戸時代以前の歴史時代の災害救援制度や、災害に対する受け止め方の変遷。日本人の宗教観や哲学、文化に内包する自然災害についても考えながら、明治維新から敗戦までの、日本国政府としての災害対策の変遷と実災害を知る。日本のハード防災の原点となった、1891年の濃尾地震や1923年の関東大震災による建築基準法や都市計画、防火対策の強化。1888年の磐梯山噴火と赤十字史上世界初の災害救援なども振り返る。

- 第10回 東日本大震災後の制度改正を学ぶ 東日本大震災の教訓を踏まえ、災害対策基本法の改正が2013年6月に行われた。基本理念が初めて盛り込まれ、要支援者対策や防災教育、町内会単位での「地区防災計画」の法定化などが初めて盛り込まれた。災対法と表裏の国土強靱化法も含めて、これから求められる災害法制度について概観する。広島土砂災害後の土砂災害防止法の改正、活火山法の改正についても理解する。
- 第11回 想定首都直下地震と南海トラフの地震 国難とも言われる2つの大地震について、科学的に分かっていることと、対策の現状と、今後、社会に求められていることを知る。
それぞれ、出身地などにわかれて、グループディスカッションで、どう備えていくかについて議論する。
- 第12回 災害報道・災害情報 かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのかも考えたい。
できればメディア関係者のゲスト講師を招いて、学生とも対話しながら、考えたい。
- 第13回 市民防災・ボランティア この国で避けられない自然災害の前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。すべて、自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力が鍵になる。ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割をともに考える。
できれば、災害ボランティア関係者のゲスト講師を招いて、学生とも対話しながら、考えたい。
- 第14回 災害と恵み・ジオパーク 文部科学省の生きる力を育む防災教育(2013)には、「自然には恩恵と災害の二面性があることを児童生徒が意識できるようになることを期待する」とある。私は、地震・火山の学会によるこどもサマースクールでは、基本理念として「災害と恵みの両面がある自然の本質を専門家と共に実感する」という活動を1999年から行ってきた。2008年からは、大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。これらの活動の現状を知ること、危険性だけを強調して、自分の地域が嫌いになり、また考えなくなる脅しの防災の限界を見据え、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
試験に必要な準備を授業中に伝える。
- 第15回 めざすべき社会と災害 これまでの授業で学んだことをベースに、授業時間中に試験(レポート)を書いてもらう。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

自らの出身地や、現在の住居地が、過去にどのような災害に遭ってきたのか、その災害が今はその地に何をもたらしているのか、身の回りを再確認して欲しい。さらに、この授業を受ける以上、日ごろから災害に関する情報やニュースに関心を持って読んで欲しい。

【テキスト(教科書)】

授業では、PPTや論文を使用するが、その資料を毎回、授業サイトに事前掲載する。

【参考書】

自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画は、授業課題で必読となりますので、早い段階で読んでおいて下さい。内閣府防災情報のページ、被災自治体のホームページ、学会関係のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

平常評価 40%、授業中のレポート評価 20%、期末試験(授業中レポート) 評価 40%

【学生の意見等からの気づき】

好評だったクロスロードの実施の他、授業中の相互のディスカッションや、外部講師とのディスカッションの時間を多くしたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、プロジェクタ、コピー

HA319

科学技術社会論

託問 直樹

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術は、内在するルーティーンやパラダイムに従って独自に発展する性格をもつと同時に、社会に埋め込まれた知識生産活動であるので社会と相互作用を行う。科学技術活動のアウトプットが社会に多大な（正負両面の）影響を与える一方で、科学技術の側も社会条件の制約を受ける。科学技術と社会は相互に影響しながらお互いを形成していく—共進化していく—と見ることが出来る。この共進化のプロセスを解明し、その問題点を社会に呼びかけていくことが、科学技術社会論の一つの使命である。

本授業では、こうした科学技術と社会の相互作用を理解するために有用となるキー概念を学び、それらの概念を用いて具体的に科学技術社会現象を理解する訓練を行う。

【到達目標】

科学・技術と社会との関わりを理解するために有用となる重要概念を理解し、それらを用いて具体例事例を理解する能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

科学技術社会論の様々な重要概念がコンパクトにまとめられている優れたテキスト—平川秀幸著『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す』、NHK 出版生活人新書、2010年）をベースとし、各章ごとに、内容の解説を行う。

それとともに、主要な概念と事例について、学生との質疑応答・ディスカッションを行う。ディスカッションを活性化するために、テキストの各章について当番を複数決めておく（回答担当当番および質問担当当番）。当番になった者は、講師や他の学生からの質問に答えられるように準備してきてもらう。また、毎回、コメントシートに感想・意見・質問を書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方の説明。
第2回	科学・技術と社会（概論）（つづき）	科学・技術と社会（概論）。科学と技術におけるルーティーン（パラダイム）の形成、自己再帰的な発展、パラダイムから外に出る（ヘテロな発展）、社会に埋め込まれた活動としての科学技術、ほか。
第3回	現代科学技術の履歴と功罪（テキスト対応箇所：第1章「輝かしく陰鬱な1970年代という曲がり角」）	1960年代における科学技術に対する期待の高まり、1970年代以降における科学技術に対する認識の変化、公害問題、核問題、ほか。
第4回	科学技術のガバナンス（その1）（テキスト対応箇所：第2章「統治」から「ガバナンス」へ）	統治とガバナンス（舵取り）の違い、科学技術の舵取りをどう行うか、なぜ舵取りが必要か（間接民主主義の問題、シングルイシューへの市民の関与、ユーザー主導のイノベーション、参加型イノベーション、双方向コミュニケーション、ほか。ディスカッション。
第5回	科学技術のガバナンス（その2）	舵取りの制度的仕掛け：市民参加型テクノロジーアセスメント・コンセンサス会議・市民陪審、シナリオワークショップ、サイエンスカフェ、ほか。ディスカッション。
第6回	科学技術の切れ味・限界・副作用（その1）（テキスト対応箇所：第3章「科学技術は「完全無欠」か」）	「地震予知は困難」と認めた科学者たち、水俣病における完璧主義（行政と裁判における確実な科学的証拠の要求）、実験室の科学的成果から「ファインアルアンサー」への長い道のり、ほか。ディスカッション。
第7回	科学技術の切れ味・限界・副作用（その2）	「すでに知られている無知」（“Known Unknowns”）と「まだ知られていない無知」（“Unknown Unknowns”）、想定外にどう対処するか、理想化に伴う不確実性、枠組みの功罪、理想系と現実系とのギャップ、ほか。ディスカッション。

第8回	科学技術の切れ味・限界・副作用（その3）—特別追加メニュー：科学技術の諸前提を見直す	(1) その変数、本当に存在しますか？—変数結節の問題 (2) 科学法則における“Ceteris Paribus”（「他の条件が等しければ」）と“Ceteris Absentibus”（「他に妨げるものがなければ」） (3) エンジニアリングにおけるバウンダリー設定の功罪 (4) 確率論・統計学はモデル・フィッティング（当てはめ）に過ぎないか？
第9回	科学技術の社会における作用（その1）（テキスト対応箇所：第4章「科学技術と社会の深い関係」）	科学技術と社会のかかわりをどう見るか、「共生」という考え方、研究開発の国家総動員体制、科学技術は価値中立か、人工物に埋め込まれた政治性、アーキテクチャの権力（環境管理型権力）。ディスカッション。
第10回	科学技術の社会における作用（その2）	「緑の革命」の光と影、「技術—社会パッケージ」、社会的作動条件への不適合、フレーミング（問いの立て方、問題のとらえ方）の失敗、「技術の囲い込み症候群」、利益構造について考える、貨幣と市場の役割をどう評価するか、ほか。ディスカッション。
第11回	科学技術とリスク（その1）（テキスト対応箇所：第5章「科学の不確実性とどうつきあうか」）	リスク論争で問われるものは？、調べる人が変わればデータも変わる、価値基準と変数結節、挙証責任はどちらにあるか、リスク容認の基準、遺伝子組み換え作物の事例、リスク容認基準を左右する政治的社会的理由、ほか。ディスカッション。
第12回	科学技術とリスク（その2）	事前警戒原則（予防原則）、欧州における組み換え作物規制が意味するもの、問いの立て方（フレーミング）次第で結論が大きく変わる、価値中立性を再定義する、偽陽性と偽陰性、過剰規制とコストのトレードオフ、さまざまなメリット・デメリットのポートフォリオを作成しておく、ほか。ディスカッション。
第13回	科学技術問題を理解し関与するための術（テキスト対応箇所：第6章「知ることと、つながること」）	どうやって科学技術問題に関わるのか、「一人一人の心がけ」でよいのか、具体的なすべを身につける、科学技術を理解するための術（不自然な省略を見抜く、言及されていないことこそ重要、見せ球・吊り球にも注意）、知的協働のアクションチャート（第1条～第5条）、信頼できる資料の見つけ方、ほか。ディスカッション。
第14回	科学技術イノベーションへの市民参加（その1）（テキスト対応箇所：第7章「知を力にするために」）	市民参加型イノベーションの例：エイズ患者とエイズ活動家による治療法のイノベーション、Community-based Research、ほか。ディスカッション。
第15回	科学技術イノベーションへの市民参加（その2）	科学が問えない問いを問う、問題の可視化、フレームそのものを作る、参加型テクノロジーアセスメント（復習と再論）、サイエンスショップという仕掛け、科学的認識が難しい問題に取り組む：ソーシャルキャピタル（人間関係資本）・ローカルノレッジ（暗黙知）、ほか。ディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキスト（平川秀幸著『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す』（NHK 出版生活人新書））の該当箇所を事前に読んできてもらう。（全員）
・授業時間中に理解を深めるためディスカッションの時間を適宜とるが、ディスカッションを活性化するために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者には、講師や他の学生からの質問に答えられるように準備してきてもらう。

【テキスト（教科書）】

平川秀幸『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す』、NHK 出版生活人新書、2010年。

【参考書】

必要に応じて、参考になる文献やウェブサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（出席および質疑応答への参加）60%、期末レポート40%。
・期末レポートの概要：
テキストから好きな箇所を選び、要約した後、評価を下してもらう。A4用紙5枚程度。なお、評価を下すに当たっては、必ず他者の意見を引用してから自分の意見を述べてもらう。

【学生の意見等からの気づき】

・前年度にも増して、理工系の知識がなくても充分理解できるよう徹底する。

・人文社会系の概念についても、ところどころ高度な概念が登場して難しく感じたという意見があったので、わかりやすく伝わるように一層の工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講師による内容解説の際には、スライド（PowerPoint 等）を使用する。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA340

社会開発論

秋吉 恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、経済成長が貧困削減には必ずしも結びつかないことが明白となり、社会開発への関心が高まっている。社会開発とは、貧しい人びと、社会的に弱い立場にいる人びとが経済的利益のみならず政治参加や社会的な権利などを獲得することである。本講義では、これら社会開発の中でも、人びとが様々な資源を利用しながら、よりよい生活を作り上げていくプロセスに注目する。

【到達目標】

本講義では、社会開発についてのいくつかの理論的立場、具体的にはケイパビリティ論や社会的投資論など、について基礎的な知識を得る。これら基礎知識を元に、人びとが主体となってよりよい生活を追及する上で、私たち自身に何が出来るのか、考える視点を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、社会開発とは何かについて、歴史的経緯も踏まえて概説する。次に、日本や途上国の事例を用いて、人々が生活向上を達成している場（地域）と、そこでの相互交流、さらにそこから生まれる支援的な政策環境について紹介する。最後に、社会開発に自分たちがどう関わるのかについて、考察を深める機会を作る。

講義では映像資料や現場視察を用いて、多くの学生にはなじみのない日本や途上国の現場を理解する一助とする。授業後には、コメントシートもしくは授業支援システムを通じて、授業で取上げた理論や事例に関わる問い集め、次の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容、教員紹介、社会開発とは何か、本講義で取上げるテーマについて全体像を紹介する。
第 2 回	社会開発とは何か	社会開発に関わる歴史的経緯を、経済開発政策と社会福祉政策の二つの政策に注目して概説する。社会開発の意義を感じるために経済開発ゲームを実施する。
第 3 回	東日本大震災と日本の地域課題	東日本大震災によって顕在化した日本の地域における過疎高齢化等の社会問題を学ぶ。
第 4 回	被災者が主体となる生活再建：津波の爪あとを乗り越える	東日本大震災の半島部被災地における、住民、NPO、学生団体による生活再建への取り組み事例から、「社会開発」について考える。
第 5 回	日本で生まれた新たな貧困問題	生活保護世帯の増加やホームレスの若年化、子どもの貧困、難民高校生など、多様化しつつある日本の貧困問題を学ぶ。
第 6 回	貧困問題への取り組み	日本における貧困とは何か？ 新たな視点で貧困問題に取り組む人々の事例から、「社会開発」について考える。近隣での現場視察の可能性あり
第 7 回	貧困問題に取り組む NPO を創ろう	これまで学んだ日本の貧困問題に対して、支援したい対象者の課題に取り組む NPO を創るワークショップ
第 8 回	途上国農村部の貧困問題	世界の貧困者の 4 割が暮らす南アジアの農村部が抱える諸課題を学ぶ。
第 9 回	ミルク生産者が作った国の酪農政策：プロセスラーニング	インドにおいて、ミルク仲買人による搾取に反発した生産者が村レベルで酪農協同組合を作り、加工・販売・購買まで手がけて生活を改善した事例から、「社会開発」を考える。
第 10 回	剥奪とエンパワーメント	酪農開発を例に、南アジアの貧困などの社会課題がどのようにして生まれているのか、その問題解決に向けた理論を学ぶ。
第 11 回	社会開発の主体と場	酪農開発を例に、社会開発のプロセスを起す行為主体、お互い影響し合いながら変容していく支援の場、はどこかを具体的に考える。

第12回	途上国都市部の貧困問題	経済成長に伴い、仕事を求めて農村部から都市部へと移住する途上国住民の、居住に関わる社会課題を学ぶ。
第13回	都市貧困地区の子どもたちへの取り組み	ストリートチルドレンや家事使用人として働く少女などを支援してきたNGOの取り組みから「社会開発」を考える。
第14回	社会開発の枠組み：人びとがよりよい生活を創る支援	これまで見てきた、人びとが主体となって、よりよい生活を創り上げる上で効果的であった支援を、政策、地域、支援者の3つの視点で整理する。
第15回	本科目全体を振り返る	授業の中で紹介した事例や中間レポートで学生が取り上げた事例をもとに、本科目全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に提示する授業テーマに関連する参考図書や参考文献を、事前/事後に参照し、理解を深めること。授業後に提出する、授業支援システムへのコメントに反映させることを期待する。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布する。

【参考書】

佐藤寛ら（2007）『テキスト社会開発一貧困削減への新たな道筋』日本評論者セン・アマルティア（1999）池本幸生ら訳『不平等の再検討：潜在能力と自由』岩波書店
二木立ら（2008）『福祉社会開発学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

定期試験：60%
中間試験：14%
各講義に対するコメント提出&平常点:26%

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートや昨年度授業における学生からの声を受けて、現場の状況を学生がイメージしやすいよう、映像を利用した状況説明を、授業開始の早い段階でさらに丁寧に行っていく。また、現場視察の機会を、授業時間内に大学との往復時間も加味した形で実施する方向性で検討していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業では主にスライドを使用する。授業で使用した配布資料は、授業支援システムに掲載する。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース

HA332

グローバルコミュニティ

荒川 裕子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のグローバル化が一段と進むなか、世界のさまざまな情報をキャッチしたり多様な人々とのコミュニケーションを図るうえで、英語の使用はもはや不可欠のものとなっています。この授業では、アイデンティティ、文化、コミュニティ、まちづくり等、「ライフキャリア」の領域に関わるキーワードにそって、さまざまなトピックスのもとに英語で情報を検索する・文献を読んで理解する・自己を表現する、といったスキルを身につけます。

【到達目標】

初年次の終わりにまでに修得した英語力をもとに、学生各自が自らの関心事や専門性によって、更なる英語の読解力・表現力を身に付けていきます。「ライフキャリア」に関連した英語文献（新聞・雑誌記事、統計資料、論文、ウェブページなど）に数多く触れることによって、速読の訓練を積むとともに、この分野でよく用いられるさまざまな単語や表現にも慣れていきます。英語というツールを実践的に用いることによって、各自のキャリア形成における可能性を広げていくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、受講生自身の問題意識に即して英文の文献を探し、それを読み込み、自分の考えを英語で表現する、といったプロセスを通して、外国語をより身近なものにしていきます。外国語の習得には自己の強い関心と積極的な参加が必要です。受講生は、特に優れた語学力は必要としませんが、授業への積極的な参加と、予復習におけるたゆまぬ学習の積み重ねが求められます。なお、参加型の授業の性質上、必要に応じて受講者数に制限を設ける場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンス	授業の進め方、必要な辞書等について説明（受講希望者数に応じて簡単なテストを行う場合がある）。
2	英語による自己紹介	自身が関心のある領域やテーマについて英語で紹介する。
3	情報検索①	英文の HP やデータベースの活用方法を学ぶ。
4	情報検索②	英文の HP やデータベースの活用方法を学ぶ。
5	文献講読①	指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
6	文献講読②	指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
7	文献講読③	指定した文献の講読・ディスカッションを行う。
8	文献購読④	指定した文献の購読・ディスカッションを行う。
9	テーマの設定①	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明する。
10	テーマの設定②	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明する。
11	英語によるスピーチ①	各自のテーマに基づいてスピーチ・質疑応答を行う。
12	英語によるスピーチ②	各自のテーマに基づいてスピーチ・質疑応答を行う。
13	英語によるスピーチ③	各自のテーマに基づいてスピーチ・質疑応答を行う。
14	ディスカッション	スピーチの内容を基に全体で議論を行う。
15	まとめと振り返り	学習の成果と課題について検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学の学習は時間を要します。授業外においても、課題文献の講読の予習や短い英文エッセイの執筆などのホームワークが適宜課されます。

【テキスト（教科書）】

特に定めませんが、適宜プリントを配布します。原則として毎時間、英和・和英辞書を持参してください。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

発行日：2021/6/1

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（ホームワークの成果、ディスカッションなど）：60 %
学期末の記述試験：40 %

【学生の意見等からの気づき】

これまでは主として文献講読と英作文（および添削）に時間を費やしてきましたが、本年度はさらにスピーチの機会もできるだけ多く設けたいと考えています。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA335

開発教育

福田 紀子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた開発即ち社会のより良い変化に取り組むための教育は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。本年は「人道支援の国際基準」のなかでも世界の現場で取り入れられている「The Sphere Project(スフィア・プロジェクト)」の基本理念や運営姿勢に関するテキストを読みます。またその背景や基本概念の理解のために汎用されている参加型アクティビティを経験し、人権尊重の為の「参加」「学習」について考えます。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、人権、参加とエンパワメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 平和／暴力、多文化主義、ジェンダー等、人間理解と共生に必要な概念を自分の生き方からし方、社会の現実と関連させながら理解する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、当日配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担していただく回数複数あります。授業は講義と参加型アクティビティ、学生の発表（ファシリテーション）で進めていきます。その中でのディスカッションは日本語で行います。何をどのような枠組で思考するのか、そのことから何を学んだのかを重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation -Wants, Needs, Rights -Education as Human Rights -Participation & Empowerment	〈この授業の進め方〉 教育・学習・人権に関わる文書や文言を通してこの授業で捉えたい概念を概観します
2	Humanitarian Response History & Background	人権にかかわる世界の大きな流れを世界の合意文章からとらえ、基本的な視点を理解します。
3	Humanitarian Response -For whom and Why?	人道支援を必要とする状況とはどのようなものでしょうか。シミュレーションで考えます。
4	The Sphere Project -Whole Structure & Background	スフィア・プロジェクトの全体を概観し、なぜ支援に国際基準が求められるのか、背景を考えます
5	Sphere's cross-cutting theme & Focus groups ①/Minority & Vulnerability	スフィア横断的テーマ①災害時に特に弱い立場になりやすいのはどう言う人々か。 人権でとりあげるマイノリティと脆弱性の高い人々について考えます
6	Sphere's cross-cutting theme & Focus groups ②/Children	スフィア横断的テーマ② 子どもとはどのような配慮と必要があるのか、子どもの権利条約等から考えます
7	Sphere's cross-cutting theme & Focus groups ③/Gender	スフィア横断的テーマ③ 東日本大震災の実情から日本のジェンダーの課題を知ります
8	Sphere's cross-cutting theme & Focus groups ④/Gender Sensitive Response	スフィア横断的テーマ④ 避難所で起るジェンダーや配慮の必要な事態とは何か。シミュレーションで対応策を考えます。
9	Humanitarian Charter-The Body of the Sphere Project	スフィアの中心的理念、行動の根拠となる「人権憲章」「行動規範」を知ります。
10	Protection Principle-The Brain of the Sphere Project	スフィアの行動指針ともいえる「権利保護の原則」を学びます
11	Core Standards- For designing the fair effective process on the project management	支援事業がどのような分野や内容であれ、必ず必要な公正なマネジメント。「コア基準」から考えます。

12	Additional Background of Sphere ①-Peace and Violence	さまざまな支援活動、問題解決のための前提として、「暴力」と「平和」の枠組を平和教育から学びます。
13	Additional Background of Sphere ②-Conflict Resolution and Management	どのような活動にも必ず起る「対立」についてどのようにまなぶことができるのか、学校教育で用いられるモジュールから学びます。
14	Additional Background of Sphere ②-Participation	なぜ「参加」が問われるのか。誰の参加がどのようにされるべきなのかを考えます。
15	participatory evaluation	この授業のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた整理と発表の準備が必要となります。日常に起こる国際的な出来事や身近な社会の課題に関心を持って情報を得ておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。毎回教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

The Sphere Project-Humanitarian Charter and Minimum Standards in Humanitarian Response
The Good Enough Guide-Impact Measurement and Accountability in Emergencies
Do It Justice!-A Youth Activists' Guide to Organizing Groups and Education for Change (OXFAM Canada)
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)
『ワールドスタディーズ-教え方学び方ハンドブック』『人権教育ファシリテーターハンドブック（基礎編・発展編・実践編）』『参加型で考える12のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

出席と各回授業のふりかえりシート、授業への参加の様子、個人／グループでの発表と成果物（模造紙作業やワークシート）、レポート

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感や疑問も自分の中で保持し他者に問いつける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。

【その他の重要事項】

災害時の支援としての「国際基準」は日本ではまだ医療や一部の防災関係者の中で認識されている程度です。しかし、あらゆる活動にグローバルな文脈があり影響があることを前提に、与えられた場での公正で人権尊重に基づく行動は、あらゆる公務活動、市民活動に求められるものだと思います。「参加」も重要なテーマの一つであるこの授業では、分担した資料のプレゼンテーション、ファシリテーションをはじめ、授業への出席を重視します。部活等の欠席の理由は特に考慮しませんので、規定の出席確保を前提に授業に望んで下さい。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA229

西欧近代批判の思想

越部 良一

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、西欧の近代とその思想に批判的に対峙する西洋の哲学思想をテーマとする。授業の中心となる視点は、西洋近代への批判を、人間を超えた存在（イデア、神など）の尊重と、人間中心主義に対する批判として把握することである。

【到達目標】

西欧近代のいくつかの哲学思想を把握し、それへの批判がいかなる考え方によるのかを理解し、説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。まず、西洋思想の源泉であり、古典であって、近代西欧批判の視点を提供するものとして、古代ギリシャのプラトンの哲学と聖書（キリスト教）の思想を取り上げ、次に近代西洋の代表的思想として、功利主義、デカルト、ヘーゲルなどをみていく。そのうえで、そうした近代思想と批判的に対峙するものとして、キルケゴール、ニーチェなどの思想をみてゆきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	西欧近代思想の特徴とその批判	西洋近代の特徴など、この講義の全体の概観。
第2回	プラトンの思想Ⅰ	プラトンの魂と正義の考え方について。
第3回	プラトンの思想Ⅱ	プラトンの民衆制批判の考え方について。
第4回	聖書の思想	イエスにおける人間と神の関係について。
第5回	功利主義の思想	ベンサム、ミルの功利主義の基本的な考え方。
第6回	デカルトの思想Ⅰ	デカルトの「我思う、ゆえに我あり」等について。
第7回	デカルトの思想Ⅱ	デカルトの人間中心主義的な思考について。
第8回	ヘーゲルの思想Ⅰ	ヘーゲルにおける絶対者と人間精神の一致について。
第9回	ヘーゲルの思想Ⅱ	ヘーゲルの歴史観について。
第10回	マルクス主義の思想	マルクス主義の人間中心主義について。
第11回	キルケゴールの思想Ⅰ	キルケゴールのヘーゲル批判。
第12回	キルケゴールの思想Ⅱ	キルケゴールの現代批判。
第13回	ニーチェの思想Ⅰ	ニーチェのニヒリズム論について。
第14回	ニーチェの思想Ⅱ	ニーチェの大衆批判。
第15回	試験	筆記（論述）試験を行う予定である。定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等に注意すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解説書や概論ではなく、自分で興味を持った授業でとりあげる思想家の著作（むろん翻訳でよい）に少しでも接することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて、思想家の言葉を引用したプリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％くらい）と期末試験（60％くらい）によって成績を評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

近代日本は西欧近代の影響を大きく受けているのだから、学生諸君は、授業では取り上げないとはいえ、今の日本の思想状況と照らし合わせる視点を持つとよい。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA229

仏教思想

関口 和男

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教のさまざまな思想を概観して、東洋的な考え方の特質をじっくり学び、それによって、わたしたちのものの見方を決定する思惟構造の相違を認識する。

【到達目標】

西欧的思考法とは異なる東洋的な思考を身につけることによって、自分を見直す力を養い、複眼的な視点を身につけ、身の回りの諸問題に対して様々なアプローチができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業計画にある通り、インド初期仏教の成立から密教への道程を中心に授業を行います。参加する学生諸君との質疑応答をできるだけ入れて、ユニークな講義形式をとっていくつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	仏教思想を学ぶ今日的意義	西洋的な思考とは全く異なる仏教の思想がもたらす新たな視点について考える。
第2回	初期仏教思想史の概観とゴータマ・ブッダの生涯	巷にあふれる誤った仏教史・仏教思想史を正し、初期インド仏教史を概観する。
第3回	ゴータマ・ブッダの思想（Ⅰ）四諦説	四諦（四つの真理）について学び、それらを「無明」という視点から総括する。
第4回	ゴータマ・ブッダの思想（Ⅱ）五蘊説	西洋的な主観や自我の観念との相違を明らかにする。
第5回	初期仏教の基本概念－苦・無我・無常－	アーガマ経典類が説く苦・無我・無常について考える。
第6回	説一切有部の教説の意義	いわゆる有部の思想を概観し、それが仏教思想史において果たした役割を考える。
第7回	大乘仏教の興起（Ⅰ）仏塔崇拜集団・アショーカ王の事績	いわゆる大乘仏教とは、何かをその形成過程から考える。
第8回	大乘仏教の興起（Ⅱ）十方世界観の形成と諸仏・菩薩論	同上
第9回	大乘仏教の理論的展開（Ⅰ）中観の思想	ナーガルジュナの中観の思想を概観する。とくに、「空」の観念を徹底的に考える。
第10回	大乘仏教の理論的展開（Ⅱ）唯識の思想	唯識の内容とその現代性について考える。
第11回	大乘仏教の理論的展開（Ⅲ）如来蔵の思想	いわゆる大乘仏教の思想的な柱である「如来蔵」思想の意味と意義を明らかにする。
第12回	インド密教の形成とその特質	密教についての正しい理解のために、その形成過程を学ぶ。
第13回	チベット仏教の史的概観	チベット仏教とは、そもそも何か、史的側面から学ぶ。
第14回	チベット仏教の思想	チベット仏教の思想的特質を考える。
第15回	中国・日本の仏教の特質	とくに、日本の仏教とは何か、上記の講義を振り返りつつ考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今まで皆さんが、当たり前として受け取ってきた仏教行事や説法などを整理して、授業に臨むこと。新聞の文化思想芸術関係の記事を精読し、そこに現れてくる現代社会の精神的な病巣を認識しておくこと。

【テキスト（教科書）】

原則として用いません。

【参考書】

授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末に実施されるテストの結果によります。

【学生の意見等からの気づき】
もっと積極的に質問することを望みます。

【関連の深いコース】
全てのコースのベースとなる科目です。

HA231

日本詩歌の伝統

日原 傳

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」「漢詩（絶句）」の実作を体験する機会も設ける。

【到達目標】

- ・「俳句」「短歌」「漢詩（絶句）」の定型詩としての規則を理解する。
- ・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に活用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。
- ・主だった季語の季節を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを設けて、日本の詩歌の作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者には毎回定型詩の実作を提出してもらう。提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	俳句と俳諧	俳句の約束事～定型・季語・切字、発句と俳句／実作（俳句）
第2回	季語と季題	歳時記の世界／実作（俳句）
第3回	切字と取り合わせ	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」、俳句と川柳／実作（俳句）
第4回	座の文学Ⅰ	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第5回	座の文学Ⅱ	正岡子規の場合／実作（俳句）
第6回	座の文学Ⅲ	句会と吟行、俳句を読むということ／実作（俳句）
第7回	短歌と俳句	短歌と俳句の違い、言葉遊び／実作（短歌・俳句）
第8回	漢詩の格律	絶句の構成法（起承転結）、平仄、押韻、二四不同二六対、粘法などの説明／実作（漢詩）
第9回	漢詩を作る	漢詩鑑賞／実作（漢詩）
第10回	正岡子規の俳句革新	『俳諧大要』より、「写生」について／実作（俳句）
第11回	高濱虚子とその弟子たち	鑑賞（ホトトギスの俳人たち）／実作（俳句）
第12回	自由律俳句・新傾向俳句・新興俳句	鑑賞（自由律俳句・新傾向俳句・新興俳句）／実作（俳句）
第13回	前衛俳句・現代俳句	鑑賞（前衛俳句・現代俳句）／実作（俳句）
第14回	国際俳句	鑑賞（国際俳句）／実作（俳句）
第15回	青春俳句	鑑賞（青春俳句）／実作（俳句）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自作の俳句（毎回3句ほど）を作り、持参する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）

山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）

平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）

藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）

片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版）

日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）

佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）

Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）

馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）

岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

石川忠久『漢詩を作る』（大修館書店）

鷲野正明『はじめての漢詩創作』（白帝社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度・提出作品）と最終レポートによって評価する。

発行日：2021/6/1

【学生の意見等からの気づき】

提出された実作を素材とし、どう推敲したらよいか一緒に考える時間を多くとりたい。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース

HA230

比較演劇論 I

平野井 ちえ子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なもの」とは何か？比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。受講希望者多数の場合、選抜を行なう可能性もあるので、第1回目の授業には必ず出席してください。

【到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、非常に密度の高い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、受講希望者多数の場合、選抜を行ないます。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第3回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第4回	何もない空間	能やギリシャ悲劇の舞台づくりを対象として、観客の想像力について考えます。
第5回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、屋体くずしなど、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第6回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第7回	歌舞伎のせりふ	聞かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第8回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能を、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察します。
第9回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。
第10回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（1）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第11回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（2）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第12回	日本人の余情と旅情 一道の美学—	日本の伝統芸能における「旅」の表現について考えます。
第13回	日本人と自然	歌舞伎の季節感を学びます。庭園や盆栽など、人工の自然美にも言及します。
第14回	総括	春学期の学習内容の復習。期末試験の予告。
第15回	期末試験（記述式）	14回までの講義内容について理解度・知識定着度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の講義範囲については、必ず下読みをして参加してください。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要です。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示します。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBS プリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書

【成績評価の方法と基準】

【平常点】40%

出席・参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します）。ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出していただきます）。

【期末試験】60%

参照不可の記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

BT0309教室使用。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース

HA230

比較演劇論Ⅱ

平野井 ちえ子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なもの」とは何か？比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。受講希望者多数の場合、選抜を行なう可能性もあるので、第1回目の授業には必ず出席してください。

【到達目標】

春学期授業「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・討論・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、受講希望者多数の場合、選抜を行ないます。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演	平成中村座海外公演について考察します。
第3回	劇場とは何か	観客の想像力と芸能の「場」について考察します。
第4回	スペクタクルの役割：歌舞伎を中心として	古典歌舞伎とスーパー歌舞伎のスペクタクルについて考察します。
第5回	ジャンル横断的考察（1）	歌舞伎・能・文楽、そして落語（1）。古典芸能の各ジャンルに共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第6回	ジャンル横断的考察（2）	歌舞伎・能・文楽、そして落語（2）。古典芸能の各ジャンルに共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第7回	ジャンル横断的考察（3）	歌舞伎・能・文楽、そして落語（3）。古典芸能の各ジャンルに共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第8回	ジャンル横断的考察（4）	歌舞伎・能・文楽、そして落語（4）。古典芸能の各ジャンルに共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第9回	翻案劇とは何か	明治期のシェイクスピア受容を初めとして、ジャンルとしての翻案劇のあり方を考察します。
第10回	翻案劇と翻訳劇	シェイクスピアの作品を中心として、現代における翻案と翻訳のあり方を考察します。
第11回	東西の残酷シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。
第12回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を軸として、演劇におけるリアリズムと様式表現について考えます。
第13回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。
第14回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察のまとめ。
第15回	期末試験（記述式）	14回までの講義内容について理解度・知識定着度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の講義範囲については、必ず下読みをして参加してください。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要です。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示します。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 一日本人の美意識―』 TBS プリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書

【成績評価の方法と基準】

【平常点】40%

出席・参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します）。ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出していただきます）。

【期末試験】60%

参照不可の記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心ももて楽しかった」など、基本的に好評でした。ただし、学習の分量は多いので、2013年度以降の「比較演劇論Ⅱ」では、春学期の「比較演劇論Ⅰ」を受講していない学生の履修は一切認めていません。

【学生が準備すべき機器他】

B T O 3 0 9 教室使用。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース

HA230

日本美術史論

豊田 和乎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本美術史全体の流れを念頭におきつつ、その中で特に近代日本画に焦点をあわせる。各時代の美術を学び摂取することで新日本画の創造を目指した近代日本画壇の発展の歴史をたどり、近代日本画の美術史的な意義を考察するとともに、絵画に対する読解力を養う。「日本画」という、時代的、地域的に極めて限定的な絵画のジャンルが、日本美術史上どのような意義を持っているのかということ、人々の暮らしおよび社会との関係を考慮にいれつつ考察していく。

【到達目標】

史料講読などを通じて、近代日本画に関するさまざまな用語の意味を理解し、その発展の歴史に関する基礎的知識を身につけることを目指す。さらに、講義でとりあげる絵画に関する意見を表現するトレーニング（アンケート方式、数回程度実施予定）などを通して、近代日本画の読解力を養うことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、近代日本画の系譜が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、多数の近代日本画作品の画像を紹介する。さらに絵画のほかにも、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を丹念に調べる姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本美術のながれ～古代、中世	本講義の導入として、日本の絵画史の全体像を概観する。その前半として、古代、中世の日本絵画史を概観する。
第2回	日本美術のながれ～中世、近世	前回に引き続き、日本絵画史の全体像を概観する。その後半として、中世、近世の日本絵画史を概観する。
第3回	日本美術の一系譜としての近代日本画	本講義の導入として、日本美術史の中で、近代日本画の占める位置、定義や概略を学習する。
第4回	近代日本画のイメージ	引き続き導入として、現代の私達と、近代日本画との接点を考察する。
第5回	近代日本画のすがた、かたち	作品制作の際に用いられる材料や、作品の装丁方法など、近代日本画作品についての基礎的知識を共有する。
第6回	近代日本画の誕生	明治初期における「日本画」の誕生の経緯を概観する。
第7回	懐古趣味の醸成と日本画	「日本画」誕生の経緯に関連して、明治10年代における文化的な風潮や美術史の動向について考察する。
第8回	東京美術学校の開校	東京美術学校開校前後の画壇の状況を概観する。
第9回	近代日本画壇の勢力～東京画壇の新派と旧派	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、東京画壇の状況を概観する。
第10回	近代日本画壇の勢力～京都画壇	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、京都画壇の状況を概観する。
第11回	大正期の日本画壇～概観	大正期の近代日本画壇の状況を概観し、その意義について考察する。
第12回	大正期の日本画壇～再興院展と法政大学	日本美術院の再興に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第13回	大正期の日本画壇～金鈴社と国画創作協会	金鈴社と国画創作協会に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第14回	大正期の日本画壇～文、帝展の佳作	大正期の官展の変容と画壇の発展について概観する。
第15回	近代日本画の意義／まとめ	これまでの講義の内容を振り返りながら、まとめとして、日本美術史における近代日本画の意義を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、必要に応じて配布されるプリントの内容を理解することが必要となる。準備学習としては、プリントに引用されている史料等を読み、聞き覚えのない用語の有無を把握し、出来る限り意味を調べておくことなどが必要となる。

【テキスト（教科書）】

テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

【参考書】

小林忠『原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院』1979年、小学館／内山武夫『原色現代日本の美術 第3巻 京都画壇』1978年、小学館／細野正信『原色現代日本の美術 第4巻 東京画壇』1978年、小学館／高階秀爾、陰里鉄郎、田中日佐夫・編『日本美術全集 第22巻 洋画と日本画』1992年、講談社／根崎光男・監、講談社野間記念館、財団法人野間文化財団・編『美のながれ ― 講談社野間記念館名品図録』2005年、財団法人野間文化財団。このほか、講義に関連のある美術展覧会等の情報とともに、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（試験期間中）の成績による。期末試験では、近代日本画に関する基礎的知識と、近代日本画作品を解説する力との、それぞれの修得の到達度を問うこととなる。

【学生の意見等からの気づき】

講義の各回において、できるだけ多くの近代日本画作品の画像を紹介していきます。

【その他の重要事項】

・講義では、場合によっては、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上は、それら用語も丹念に調べるなど、積極的に参加することを期待します。
・旧科目名称「日本美術の系譜」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース

HA230

西洋美術史論

板橋 美也

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスのジャポニスム—日本がどのように眺められてきたのか

【到達目標】

近年、日本のアニメや食べ物、ファッションなどが海外で大きな注目を集めています。こうした海外での日本の事物に対する高い関心は、19世紀半ばの日本の開国直後にも、ジャポニスムという形をとって存在していました。この時期、様々な欧米諸国との通商関係の成立とともに、多くの人や物が日本から流れ出し、特に日本の美術工芸品が欧米で大きな注目を集めました。そして、欧米諸国の芸術家たちは、自分たちの創作活動のインスピレーションの源の一つとして日本の美術工芸品を眺め、また、その時々自分の支持する美術思想を正当化するべく日本の美術工芸品について論じたのです。本講義は、このジャポニスムという現象が1860年代から1930年代までのイギリスでどのような変遷を遂げ、その中で日本がどのように眺められてきたのかを考えます。そうすることで、1860年代から1930年代のイギリス美術・デザインの諸潮流とジャポニスムの変遷について理解すること、ある文化が他文化の諸要素を取り入れるときに生じる異文化間交流のあり方について自分の考えを述べるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、「日本美術」の諸要素をイギリスの芸術家たちが取り入れた際に前提としていたイギリス側の背景（美術潮流）を解説します。そのうえで、その美術潮流に身を置いていた芸術家・批評家による「日本美術」観を、彼らの発表した文章や作品を通して考えます。また、講義内容を踏まえて自分の考えを簡潔にまとめたリアクション・ペーパーを授業時に随時書いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ジャポニスム前史	シノワズリーからジャポニスムへ
第2回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（1）	デザイン改革運動の背景説明
第3回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（2）	Christopher Dresser その他の「日本美術」観を分析
第4回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（1）	ゴシック・リヴァイヴァルの背景説明
第5回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（2）	William Burges その他の「日本美術」観を分析
第6回	唯美主義におけるジャポニスム（1）	唯美主義の背景説明
第7回	唯美主義におけるジャポニスム（2）	James McNeill Whistler その他の「日本美術」観を分析
第8回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（1）	アーツ・アンド・クラフツ運動の背景説明
第9回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（2）	Frank Morley Fletcher その他の「日本美術」観を分析
第10回	1910年日英博覧会（1）	日本政府による「日本美術」の表象
第11回	1910年日英博覧会（2）	日英博覧会の「日本美術」展に関する当時の批評家たちの文章を分析
第12回	モダニズムにおけるジャポニスム（1）	モダニズムの背景説明
第13回	モダニズムにおけるジャポニスム（2）	Roger Fry その他の「日本美術」観を分析
第14回	民芸運動をめぐる日英交流（1）	民芸運動の背景説明
第15回	民芸運動をめぐる日英交流（2）	Bernard Leach その他の「日本美術」観を分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントと授業中にとったノートをもとに、毎回授業後によく復習をしておいてください。

【テキスト（教科書）】

プリントを適宜配布します。

【参考書】

世田谷美術館編、『JAPANと英吉利西（いぎりす）日英美術の交流 1850-1930 展』、世田谷美術館、1992年

谷田博幸、『唯美主義とジャパニズム』、名古屋大学出版会、2004年
小野文子、『美の交流—イギリスのジャポニスム』、技報堂出版、2008年

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

スクリーンに映し出した作品を鮮明に見せようとする、黒板前の照明を暗くせざるを得ません。板書はあくまで講義の中で出てきたキーワードを書き出しているだけなので、基本的には話をよく聞いて各自ノートをとってほしいと思います。ノート作りは、自分が聞いたり読んだりした内容をまとめる訓練になるはずですよ。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース

HA229

生命の現在と倫理

鶴岡 健

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、「生きること」「いのち」を最優先のキーワードとして成立する生命倫理学を中心に据えて展開する。そこで、「ただ生きること」と「よく生きること」の乖離が、先鋭なかたちで顕著になりつつある現代社会の現状（遺伝子操作・脳死・安楽死・生殖補助医療技術など）に対して、プラトンの生命論という原理的地平から考察する。現代倫理学の基本的概念（人格・自律・自己決定・ケア）の論議を素材にして「主体的に生きるとは、いかなることか」を学ぶ。

【到達目標】

生命倫理学における基礎的概念を正しく理解し、自分でも使えるようにする。インフォームド・コンセント、クオリティ・オブ・ライフ、出生前診断、生殖補助医療について技術面、法律面における現状を正しく理解する。そしてそれらがいかなる倫理的問題を含んでいるかを把握する。その上でその問題を受講生は、自らの問題として考え、判断し、その結論をどのように実行するかといった能力の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に「いのち」とは、どのようなものなのかを、プラトンの生命観から原理的考察をします。その上で bio(生命)ethics(倫理学)の成立と歴史を学ぶことにします。その後は、生命倫理学で取り扱う問題群を、個別に授業計画に沿って講義します。

この分野の技術革新は日進月歩で進むので、その都度、資料をプリントして配布し、VTR・DVD・NIE などを用いて学ぶことにします。人数によってはグループで議論を、また大教室の場合は意見の記述(レポート)を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と学び方
第2回	「生命とは何か」	プラトンの生命観から遡源
第3回	「bioethicsの歴史」	米国における bioethics の成立と日本への輸入と現状
第4回	「健康と病気」	健康の定義をめぐる議論と病気の定義をめぐる議論
第5回	「エイジング」	高齢者介護の問題
第6回	「高齢社会と生命の質」	クオリティ・オブ・ライフとサンクティティ・オブ・ライフ
第7回	「パーソン（人格）論」	パーソン論の内容とそれに伴う問題点
第8回	「自己決定権の限界」	インフォームド・コンセントと患者の自己決定権
第9回	「自律（autonomy）の倫理」	自律と弱いパターナリズムの共存の可能性
第10回	「生殖補助医療技術をめぐる倫理的問題」	生殖補助医療技術の原則とは何か
第11回	「脳死と臓器移植」	臓器移植の現実的諸問題
第12回	「積極的安楽死と消極的安楽死」	安楽死の分類と治療停止問題
第13回	「ケアの倫理」	ターミナル・ケアの現実とその意味
第14回	「生命倫理学の課題」	その現状とそれへの要請
第15回	期末試験	論述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、今、現実社会で起きている生命倫理問題を提題して、受講者一人ひとりがどのように対処すべきかを自分で考える必要があります。そのためさまざまな事例研究の課題を出すので、そのレポートの提出が義務づけられます。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。講義時に資料プリントを配布します。

【参考書】

参考書は、その都度の授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加を重視します。出席は最低でも8回以上が必要です。試験は、期末試験を1回、レポートは、1～2回を課します。出席点と平常点で30%、期末試験で50%、レポートで20%、それぞれの配点を合計して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の私語についての苦情の意見がありました。極力注意します。それでも授業妨害をする少数の私語をする学生は、授業の出席を禁じます。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA229

環境倫理学

鶴岡 健

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代倫理学の基本的な学説の流れを学ぶ。そこで環境倫理学が、どの立場に立脚しているのかを明らかにする。そして環境倫理思想がどのように成立し、発展していったのかを、さまざまな思想家の環境倫理思想を取り上げて検証する。

【到達目標】

さまざまな環境倫理学の思想内容や立場を理解することによって、偏在した一方的な環境倫理思想に捕らわれることなく、広範で総合的な環境倫理思想の視野を形成し、環境倫理を考える上での理論的支柱の陶冶をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

環境倫理学は、「人間中心主義と人間非中心主義」という二項対立図式のなかで成立した。そして人間中心主義からの脱却と人間非中心主義の主張とその検討により、人間以外の生命（生物）や生態系に対する配慮とそれらの権利（自然権）付与へと議論が展開する。この授業では、環境倫理思想の歴史を学び、その学説史の把握に努める。その基盤に立ち環境倫理をダイナミックに広範に捕えて、新たな「環境倫理」を展望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学的な倫理学について学ぶ	規範倫理学・記述倫理学・メタ倫理学の概要
第 2 回	持続可能な社会を追求する環境倫理学	環境倫理学の基本概念
第 3 回	人間中心主義の立場に立つ環境倫理学	自然保護から環境主義へ
第 4 回	人間中心主義克服の潮流	人間非中心主義の環境倫理
第 5 回	パトス中心主義	自然中心主義における感覚・感受性の意義
第 6 回	生命中心主義	あらゆる生命の内在的価値とそれへの倫理的配慮
第 7 回	生態系中心主義	生態系全体の道徳的価値の保護
第 8 回	環境プラグマティズム	環境倫理の実践的な公共哲学への志向
第 9 回	環境正義の思想	環境正義による公平な分配と社会的弱者の救済
第 10 回	環境倫理における動物解放論	シンガーとレーガンの「動物の権利」論
第 11 回	土地倫理	レオポルドの「土地倫理」思想における全体主義
第 12 回	ディープ・エコロジー	生命圏の中での全生命体平等主義の思想
第 13 回	エコフェミニズム	「リベラル・カルチュラル・ソーシヤル・ソーシャリスト」のエコフェミニズムの思想
第 14 回	道徳的多元論と道徳的一元論	価値一元論と価値多元論の対立点とその批判根拠
第 15 回	現代環境倫理は何をめざすべきか	エコロジー的な持続可能な環境社会システムの構築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で取り扱う環境倫理思想の基本文献を授業時に提示します。それを読み込んでおくことが、必要です。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。講義時に適宜、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、その都度の授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加を重視します。出席は最低でも 8 回以上が必要です。試験は、期末試験を 1 回、レポートは、1～2 回を課します。出席点と平常点で 30 %、期末試験で 50 %、レポートで 20 %、それぞれの配点を合計して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の私語についての苦情の意見がありました。極力注意します。それでも授業妨害をする少数の私語をする学生は、授業の出席を禁じます。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA329

環境哲学基礎論

関口 和男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境哲学とは、文字通り、環境について哲学すること、環境問題や日常生活の中であまり疑問に感じないことに目を向けて、批判的に考え抜くことである。

【到達目標】

現実の環境問題なるものは、その強い倫理的要請のゆえに、環境そのものについて考え抜くことをなかなか許さない状況にある。だがこのままでは、3・11以降の社会の現状に対応することができず、環境に関する論議はいつまでたっても、うわべだけの皮相的なものにとどまらざるを得ないと思われる。そこで当講義では、あえて環境政策的思考を避けて、環境そのものを徹底的に考え、そこに何を見出すことができるのか、受講生の諸君と体験していきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

内容が哲学的なので、できるだけゆっくと優しく、双方向的な質疑応答を重視するので、一方的な講義にはしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現在の環境問題のおかれている思想状況について	3・11以降の環境運動の在るべき姿とは何かを考える意味を明確にする
第2回	「考える・哲学する」とはどういうことか。	思惟・判断・行為について説明し、「考える」ことの重要性を理解する。
第3回	環境哲学とは何か。	従来のような環境思想の長所・短所を明らかにし、これからの環境哲学の意味を明かにする。
第4回	基礎作業Ⅰ 意識と環境① 環境の仮説的定義づけと人間の観念	まず、環境という観念は何を意味するのかを考える。
第5回	基礎作業Ⅰ 意識と環境② 「わたし」と環境の相互作用	環境という意識が、どのように「わたし」に出来るか、そのプロセスを考える。
第6回	基礎作業Ⅰ 意識と環境③ 「わたしたち」と環境の相互作用	同上
第7回	基礎作業Ⅱ 空間と環境世界① 空間とは何か。	環境という観念の持つ空間性とは何かを考える。
第8回	基礎作業Ⅱ 空間と環境世界② 環境世界の仮想実在性について	仮想実在性という観念を通じて、環境世界の世界性を明らかにする
第9回	基礎作業Ⅲ 時間と環境世界① 時間とはなにか。	人間存在を根源的に規定する時間意識について考える。
第10回	基礎作業Ⅲ 時間と環境世界② 時間の世界性とは何か。	時間意識と環境世界との関係を、哲学的な観点から考える。
第11回	基礎作業Ⅳ 社会と環境世界① 共同体とは何か。	共同体と環境世界との関係を考える。
第12回	基礎作業Ⅳ 社会と環境世界② 正義とは何か。	共同体の正義と環境世界の正義と相異性について、昨今の「正義論」を参考にしつつ考える。
第13回	環境哲学がはらむ哲学的諸問題①	なぜ、いま、環境哲学なのか、という視点から諸問題を抽出する
第14回	環境哲学がはらむ哲学的諸問題②	同上
第15回	総括：環境とは何か。	人間環境学における環境哲学の位置について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に重要なのは、新聞の政治・経済・国際を毎日読んでおくこと。そのほか、哲学史関係の本を読むこと。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。毎回、プリントを配布します。

【参考書】

講義中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末のテストによる。

【学生の意見等からの気づき】

質問はなるべく、授業時間中にするように。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA333

日本環境史論 I

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近世日本の人間社会と自然環境

環境歴史学は、人間と環境との関係性を歴史的に考究する学問である。この講義では、人間と自然の関係を歴史的に問うだけでなく、人間が自然と交流してきた歴史的産物としての環境についても学ぶ。

【到達目標】

この授業を通して、日本の環境史を理解するのに必要なさまざまな学習スキルの習得と、歴史資料の読解などによって得られた歴史事実を論理的に組み立てる思考力を養える。また、現在の環境問題解決に資する歴史的教養を身につけることができるとともに、情報源の把握や情報の価値判断の知識・技術の習得により、情報収集・分析力に関する就業力を養える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として講義形式で行なう。このため、講義の内容に応じてリアクションペーパーを提出してもらうことがある。

本講義は、人間と自然とがどのような関係を築いてきたのかを、近世社会を事例に、自然利用と自然破壊、環境思想、動物保護と動物駆除などの面から考えていく。特に、人と自然との相互作用ばかりでなく、自然を取り巻く人間社会のありようを軸に据える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	歴史学と環境	歴史学の特質と環境についての概括的な知識を学ぶ
第2回	人間の暮らしと山林利用	人間が山林をどのように利用し、その関係を築き暮らしてきたのかを多面的に学ぶ
第3回	山林荒廃と人間社会への影響	近世社会の山林荒廃の要因を地域の多様な事例を通して学ぶ
第4回	環境思想と自然	近世の環境思想は、山林荒廃の論理をどのように説き、どうすべきであったと説いているのかを学ぶ
第5回	山林保護政策の諸相①	幕府・諸藩による山林保護政策を学び、その地域性を理解する
第6回	山林保護政策の諸相②	各地域の歴史のなかで培われた山林保護の多様なあり方を学ぶ
第7回	植林政策の諸相と問題点	各地域で実践された植林政策を比較検討し、その地域性を学ぶ
第8回	共有資源の所有と利用①	山野河海の利用をめぐるの争いにおける地域慣行と幕府の裁定方針を学ぶ
第9回	共有資源の所有と利用②	山野河海の入会利用の多様なあり方と入会権の特質を学ぶ
第10回	狩猟と環境保全の関係①	幕府の放鷹制度にみられる鷹場環境保全政策と地域社会との関係を学ぶ
第11回	狩猟と環境保全の関係②	鷹狩りにみられる鳥類保護の諸相を地域事例を通して学ぶ
第12回	鳥獣害対策と地域社会	各地域の鳥獣被害と「鳥獣威し」の実態、そして領主の鳥獣害対策を学ぶ
第13回	人間と鳥獣との共生関係	人間と鳥獣との多様な関係性からみた共生のあり方を学ぶ
第14回	公害の発生とその種類	近世社会で生じた公害の多様性とその発生要因を学ぶ
第15回	公害と地域社会	領主の公害対策の特色と公害訴訟における補償のあり方を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの史料を事前に読んでおくこと。
テーマに関連する参考文献を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

環境歴史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA333

日本環境史論Ⅱ

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸の都市環境

江戸町の拡大によって生じた都市・環境問題を歴史的に把握しながら、その問題解決の取り組みを検証し、江戸の都市環境についての理解を深める。また、現在の東京の都市環境整備に資する歴史的教養を身につける。

【到達目標】

日本の環境史を理解するのに必要なさまざまな学習スキルの習得と、歴史資料の分析によって得られた歴史事実を論理的に組み立てる思考力を養う。また、現在の環境問題解決に資する歴史的教養を身につけるとともに、情報源の把握や情報の価値判断の知識・技術の習得により、情報収集・分析力に関する就業力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として講義形式で行なう。このため、講義の内容に応じてリアクションペーパーを提出してもらうことがある。

巨大都市へと拡大するにつれて、さまざまな都市・環境問題を生起することになった江戸の町では、幕府および住民がその問題解決に取り組んでいくことになるが、このなかでみられる人間社会と環境問題が織り成す諸相を多面的に紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	江戸の都市環境を学ぶにあたって	江戸町に関する基礎的知識とその都市環境の特質を学ぶ
第2回	将軍の城下町・江戸の都市化	江戸の都市化を、城郭・城下町の建設過程や人口増大などを通して、環境変化という側面から学ぶ
第3回	都市環境の変化と都市計画	江戸の都市計画を、環境思想や江戸の範囲に関する認識などの視点から学ぶ
第4回	行政と地域社会	江戸の行政組織の多様性とその特質、および問題点を学ぶ
第5回	町の運営と地域コミュニティ	江戸の町の運営のあり方と職域にみられるコミュニティのありようを学ぶ
第6回	市民生活と住環境	住民の住環境の歴史の変遷を通して、身分による差別のありようを学ぶ
第7回	市民生活と衣食環境	衣食の規制やそれにかかわる消費物資の生産と周辺地域との関係性を学ぶ
第8回	物直し産業の発達	物直し産業の業態に注目しながら、それぞれの運営組織の特質について学ぶ
第9回	物直し産業の歴史的評価	物直し産業の発達要因と物質循環のあり方を通して、その社会的意味合いを学ぶ
第10回	ゴミ問題の発生とその対策①	ゴミの歴史、ゴミ問題の発生と住民生活との関係について学ぶ
第11回	ゴミ問題の発生とその対策②	幕府のゴミ対策とその問題点、そして市民のゴミ意識を学ぶ
第12回	火事と防災対策①	火災都市といわれる江戸の火事の実際と幕府の消防組織の特質を学ぶ
第13回	火事と防災対策②	江戸町方における消防組織と多様な防災対策について学ぶ
第14回	信仰・娯楽と行動文化①	江戸の住民生活と信仰・娯楽との関係性を学ぶ
第15回	信仰・娯楽と行動文化②	江戸の癒し空間としての名所のありようを行動文化の視点から学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んでおくこと。

テーマに関連した参考文献を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

【参考書】

『環境』都市の真実（根崎光男著、講談社＋α新書、2008年）

そのほか、必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

環境歴史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がける。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA333

ヨーロッパ環境史論 I

辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ都市の環境史

【到達目標】

ヨーロッパの都市の歴史的発展を、その景観、住民の生活世界や、自然環境との関係などから理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパの都市を対象として、都市の景観および都市内部での住民の生活世界、それを取り巻く自然環境との関係について、空間・緑・防災・衛生という4つの観点から、特徴のある事象をいくつかとりあげて解説していく。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような画像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論：ヨーロッパ都市の環境史について	環境という観点からヨーロッパ都市の歴史を考える際に重要な概念・方法論を紹介する。
第2回	<都市と空間>その1 中世都市	古代都市から中世都市への変化と、中世都市独特の景観について。
第3回	<都市と空間>その2 近世都市	近世になると強大な権力を手にした君主は、都市空間の造形に取り組んだ。それが都市の生活にもたらした影響を分析する。
第4回	<都市と空間>その3 都市計画と近代都市	19世紀を迎えて国家権力の主導する大規模な都市改造／拡大の事業が各国でおこなわれた。
第5回	<都市と空間>その4 現代都市の変容	20世紀前半から後半へ、都市景観をめぐる考え方の変化と、生活空間の変化を関連づける。
第6回	<都市と緑>その1 都市と公園	緑地や公園など、都市の中に管理された自然を作り出す試みについて、その思想や実践の歴史を探索する。
第7回	<都市と緑>その2 都市と食	人口が密集する都市に食糧を供給するという問題はいかにして対処されたのか。ヨーロッパの食の歴史の中に位置づける。
第8回	<都市と緑>その3 都市と観光	19世紀から都市住民の余暇活動は観光という形で都市の外に向けられた。新たに成立した都市と外部の自然との関係を論じる。
第9回	<都市と防災>その1 都市を襲った災害	火災や地震といった災害は、いかに都市を破壊したのか、そこからどのように復興がおこなわれたのか。そしてそこから引き出された教訓とは。
第10回	<都市と防災>その2 警察・消防の歴史	災害から都市をどのようにして守るのか。その思想と組織の発展を、担い手である都市住民の変化と関連づけて論じる。
第11回	<都市と防災>その3 空襲の脅威	20世紀を迎え、主として航空機の発達により戦争は新たな次元を迎える。新たな空中からの脅威に都市はどのように対応しようとしたのか。
第12回	<都市と衛生>その1 都市と上下水道の発達	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水と都市の関わり方の歴史。
第13回	<都市と衛生>その2 都市と河川	河川の近くに立地し、それと密接な関わりを保った都市は多い。橋や運河、河川交通といった水運の面から都市を考える。
第14回	<都市と衛生>その3 都市と海	海辺に位置し、港を持つ町は、内陸の都市に比べて特殊な発展を遂げた。そうした港町や港湾都市を舞台として、遠距離交通の歴史を考える。

第15回 まとめ 都市史と環境史 環境という視点が歴史研究にもたらすものは何かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

【テキスト（教科書）】

レジュメを配布する。

【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論I）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA333

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「弱者」の包摂と排除の社会史

【到達目標】

社会のなかには、さまざまなかたちの「弱者」がいる。病気・貧困・高齢・障害・失業などの理由により、通常の生活を送ることができず、時には自力で生計を維持できなくなった人々である。社会的「弱者」は、往々にして社会の周縁に追いやられ、差別や迫害を受ける場合もある。しかし、同時に彼らに保護し救助の手をさしのべることは、時代と地域を問わず、つねに社会の大きな関心事であった。「弱者」とはどのような人たちで、なぜ排除されるのか、また誰がどのような手段で彼らを救助するのか、そのあり方は、それぞれの社会状況を反映して、時代とともに大きく変化してきた。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、ヨーロッパ社会において、こうした「弱者」の社会からの排除と、その救助を通じた包摂が、どのようにおこなわれてきたのか、中世のキリスト教会による慈善活動から現代の社会福祉制度にいたるまで検証してみたい。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれのトピックに関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入 「弱者」の社会史について。	いま、社会的な「弱者」を問題にすることの意義について。
第2回	キリスト教精神と道徳	キリスト教道徳が、慈善というかたちでいかに社会のなかでセイフティーネットの役割を果たしていたか。
第3回	中世における排除のあり方	乞食、ジプシー、「ライ病患者」、ユダヤ人など中世社会から排除された人々の姿を紹介する。
第4回	中近世の包摂の制度	救貧法や貧民救済制度を例に、救助と一体となった規律化の試みについて考える。
第5回	産業革命による社会の変化	18-19世紀の工業化は社会の秩序を揺るがし、それまでの排除と包摂のあり方を一変させた。
第6回	弱者の団結	新たに出現した工業労働者たちは、その弱い立場のゆえに団結し、やがてマルクス主義の影響下に自らを組織化していく。
第7回	近代市民社会と包摂の制度	都市内の弱者の包摂に、市民社会はどのような制度を持って取り組んだか。
第8回	社会福祉制度の始まりと発展	19世紀後半から国民国家の強化を背景に国家が主導して国民の生活を保障する制度が構築されていく。
第9回	総力戦と福祉国家	第1次世界大戦、世界大恐慌、第2次世界大戦とつづく非常事態は、各国の社会福祉制度の発展にどのような影響を与えたか。
第10回	福祉国家と黄金時代	1950年代後半から1960年代の高度経済成長下で、ヨーロッパ各国の社会福祉制度はその最盛期を迎える。
第11回	社会主義という可能性	ソ連など社会主義経済のもとでの社会保障のあり方を考える。
第12回	福祉国家の動揺と再編	1970年代以来、景気の停滞を受けて各国は産業構造の変化への対応と貧困の克服のための新しい取り組みを開始した。
第13回	新自由主義と「新しい中道」	1990年代半ばから2000年代に架けて試みられた社会民主主義の新展開を分析する。
第14回	多文化社会における排除と包摂	複雑な社会問題を生じさせている外国人移民とホスト社会の葛藤について。

第15回 社会的包摂へのヨーロッパの道 ヨーロッパの「弱者」への取り組み経験の語るもの、そして現代日本への教訓とは。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

【テキスト（教科書）】

レジュメを配布する。

【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA235

環境人類学 I

安岡 宏和

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【テキスト（教科書）】

資料を配付する。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

6000～8000字程度の課題ペーパー。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境文化創造コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生態系のなかの人間」

環境人類学Ⅰ～Ⅲでは、人類史・世界史・地域史という3つの異なる時間軸と空間スケールを意識しながら、人間と自然の関係を探求するための人類学的アプローチを学ぶ。環境人類学Ⅰでは、生態系のなかで人間が他の動物とどう異なっているのか、その諸特徴をどのような過程で身につけるようになったのかについて、生態学・人類学の基礎的知見をおりませつつなされる、ホミニゼーション・出アフリカから世界各地における農耕文化複合の発達と伝播までの人類史についての講義をとおして、人類史的スケールのなかで現代社会の諸問題を把握するちからを身につける。

【到達目標】

- (1) 人類史における定住化とドメスティケーション（栽培化・家畜化）の意義を説明できる。
- (2) ながらく人類史・世界史の主たる舞台であったアフロ・ユーラシアにおける農耕・牧畜の諸類型を整理し、それらの特徴を説明できる。
- (3) 人間と自然の関係をめぐる現代的問題を、人類史的スケールの変化のなかに位置づけて論点を提示することができる。
- (4) 生態系のなかの「ヒト」が、他の動物とどのように異なることによって「人間」でありえているのかについて、自分の考えを述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

映像資料を随時活用しながら講義をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する。
第2回	ヒトとは何か？ (1)	近縁の霊長類と比較しながら、ヒトの生態と社会の特徴について講義する。
第3回	ヒトとは何か？ (2)	ヒトの出アフリカと世界進出、それにとまなう生態・社会の変化について講義する。
第4回	ヒトとは何か？ (3)	ヒトを「人間」たらしめる「文化」とは何かについて、「自然」と対比しながら講義する。
第5回	人類史における定住革命	人類史を画期したもっとも重要な「革命」の1つである定住革命について講義する。
第6回	ドメスティケーション (1)	ドメスティケーション（栽培化・家畜化）にかかわる遺伝学の基礎を講義する。
第7回	ドメスティケーション (2)	ドメスティケーション（栽培化・家畜化）にかかわる生態学の基礎を講義する。
第8回	アフロ・ユーラシアの農耕文化 (1)	西アジアから地中海地域で発達した麦作農耕文化について映像をまじえて講義する。
第9回	アフロ・ユーラシアの農耕文化 (2)	東南アジアで発達した根栽農耕文化について映像をまじえて講義する。
第10回	アフロ・ユーラシアの農耕文化 (3)	西アフリカやインドで発達した雑穀農耕文化について映像をまじえて講義する。
第11回	アフロ・ユーラシアの農耕文化 (4)	東アジアに展開した照葉樹林文化について映像をまじえて講義する。
第12回	アフロ・ユーラシアの農耕文化 (5)	東～東南アジアで発達した水田稲作文化について映像をまじえて講義する。
第13回	アフロ・ユーラシアの牧畜文化 (1)	ヨーロッパからアジアで発達した牧畜文化について映像をまじえて講義する。
第14回	アフロ・ユーラシアの牧畜文化 (2)	アフリカで発達した牧畜文化について映像をまじえて講義する。
第15回	総括	講義内容をふまえ、現代世界における人間と自然の関係をめぐる諸問題について人類史的視座から見取り図を提示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提示した文献を読むこと。

HA335

環境人類学Ⅱ

安岡 宏和

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：春学期 | 曜日・時限：木1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「グローバル環境史と世界システムのなかのアフリカ」
環境人類学Ⅰ～Ⅲでは、人類史・世界史・地域史という3つの異なる時間軸と空間スケールを意識しながら、人間と自然の関係を探求するための人類学的アプローチを学ぶ。環境人類学Ⅱでは、熱帯／温帯、湿潤地域／乾燥地域、アフロ・ユーラシア／「新大陸」といった対比を補助線としながらグローバルな環境史を俯瞰したうえで、16世紀以降、変動する世界システムのなかでアフリカの位置づけがどのように変遷し、それが現代アフリカの社会のあり方と人びとの暮らしにどう影響してきたかについて学ぶ。

【到達目標】

- (1) 熱帯／温帯、湿潤／乾燥、アフロ・ユーラシア／「新大陸」といった対比のなかで、環境条件の差異と、それにともなう人間の生活・文化・社会・歴史のちがいを説明できる。
- (2) 16世紀以降に加速した「世界の一体化」のプロセスにおいて、環境条件や人間と自然の関係における地域差がどのように影響しながら現代世界が形成されたかを説明できる。
- (3) 現代アフリカにおける人間と自然の関係をめぐる諸問題の論点を、世界的スケールの視座のもとで日本や欧米、他の大陸の状況と対比しながら提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

映像資料を随時活用しながら講義をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する。
第2回	文化の多様性と文明の発展(1)	世界各地の農耕文化の発達と伝播の概要について講義する。
第3回	文化の多様性と文明の発展(2)	人類学の基本的視座である「文化の相対性」について講義する。
第4回	文化の多様性と文明の発展(3)	文化の相対性をふまえつつ、文明発展の地域差をどう理解すべきかについて講義する。
第5回	ユーラシア温帯地域の環境史(1)	文明発展の歴史的中核地域であったユーラシア温帯地域の特徴について、熱帯と対比しながら講義する。
第6回	ユーラシア温帯地域の環境史(2)	文明発展の歴史的中核地域であったユーラシア温帯地域の特徴について、湿潤地域と乾燥地域を対比しながら講義する。
第7回	ネオ・ヨーロッパの形成(1)	ネオ・ヨーロッパとよばれる地域の地理的特徴と住民構成の歴史性について講義する。
第8回	ネオ・ヨーロッパの形成(2)	ネオ・ヨーロッパが形成される過程で重要な役割をはたした病原菌と人間の関係について講義する。
第9回	ネオ・ヨーロッパの形成(3)	ネオ・ヨーロッパが形成される過程で重要な役割をはたした動植物と人間の関係について講義する。
第10回	近代世界システム(1)	近代世界システムの形成と拡大について具体例をまじえながら見取り図を提示する。
第11回	近代世界システム(2)	近代世界システムの理論的な枠組を講義する。
第12回	世界システムのなかのアフリカ(1)	アフリカの自然環境と諸民族の概要を講義する。
第13回	世界システムのなかのアフリカ(2)	植民地化前のアフリカについて世界システムにおける位置づけを意識しながら講義する。
第14回	世界システムのなかのアフリカ(3)	植民地化後のアフリカについて世界システムにおける位置づけを意識しながら講義する。

第15回 総括

講義内容をふまえ、現代アフリカにおける人間と自然の関係をめぐる諸問題について世界史的視座から見取り図を提示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提示した文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

資料を配付する。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

6000～8000字程度の課題ペーパー。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境文化創造コース

HA335

環境人類学Ⅲ

安岡 宏和

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【成績評価の方法と基準】

6000～8000字程度の課題ペーパー。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境文化創造コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「森の民のエスノグラフィーから紐解く人間と自然の関係」

環境人類学Ⅰ～Ⅲでは、人類史・世界史・地域史という3つの異なる時間軸と空間スケールを意識しながら、人間と自然の関係を探求するための人類学的アプローチを学ぶ。環境人類学Ⅲでは、アフリカ熱帯雨林に住むピグミー系狩猟採集民のひとつであるバカ・ピグミーをとりあげ、かれらの狩猟および森林資源利用に焦点をあてたエスノグラフィーについての講義をとおり、フィールドワークの成果をもとにして人類学的課題にとりくむプロセスを学ぶ。

【到達目標】

- (1) アフリカ熱帯雨林に住んでいるピグミーの生活と文化を、人類の多様性的一端としての確に位置づけたうえで、その特徴を説明できる。
- (2) 自分や身近な人のふるまいや出来事を、自然と人間の関係、とりわけ資源の獲得と流通にかかわる人類学の考え方や理論をもちいて解釈することができる。
- (3) 個別具体的なフィールドの人々の理解（地域スケール）から一般抽象的な人類の理解（人類史スケール）へ、という人類学のアプローチにそくしたかたちで、自らの問題意識を構構することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

映像資料を随時活用しながら講義をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する。
第2回	アフリカの自然と歴史	アフリカの自然と歴史、そこに住む諸民族の概要を講義する。
第3回	「ピグミー」とは誰か？	ヨーロッパにおける「ピグミー」観の変遷、およびピグミーの「発見」について講義する。
第4回	ピグミーと農耕民（1）	アフリカ熱帯雨林の生態環境および諸民族の生活の概要を講義する。
第5回	ピグミーと農耕民（2）	ピグミーと農耕民の相互依存と相互忌避の関係について講義する。
第6回	狩猟採集社会の特徴（1）	さまざまな狩猟採集社会の多様性と共通点について講義する。
第7回	狩猟採集社会の特徴（2）	平等主義社会としての狩猟採集社会について講義する。
第8回	バカ・ピグミーの狩猟	バカ・ピグミーの生活一般の特徴と狩猟の概要を講義する。
第9回	ゾウ肉食のタブー（1）	バカ・ピグミーにおけるゾウ肉食のタブーの概要と、機能主義的解釈について講義する。
第10回	ゾウ肉食のタブー（2）	ゾウ肉食のタブーの背景にあるバカ・ピグミーの〈生きる世界〉について講義する。
第11回	ゾウ肉食のタブー（3）	ゾウ肉食のタブーへの象徴論的アプローチについて講義する。
第12回	〈交換〉と人間社会（1）	〈交換〉＝モノのやりとりの基本類型として、シェアリングと贈与交換について講義する。
第13回	〈交換〉と人間社会（2）	〈交換〉＝モノのやりとりの基本類型として、再分配と市場交換について講義する。
第14回	〈交換〉からみる人間と自然（1）	〈交換〉と〈自然〉という観点から人間社会を捉える視座について講義する。
第15回	〈交換〉からみる人間と自然（2）	人類史における人間と自然の関係の変遷について〈交換〉を切り口として講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提示した文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

資料を配付する。

【参考書】

授業中に提示する。

HA328

環境表象論 I

概 裕 史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心はどう捉えるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。「文化的景観」は、もとは手付かずの「自然景観」に対して、人間の暮らしが創った地表のすがたを指す地理学用語です。1990年代、ユネスコがこれに新たな意味づけをして世界遺産の登録基準として採用して以来、エコな地域形成に資する概念として注目が高まっています。典型的には「自然と人間の共同作品」といえるような農林水産業の景観などを思い浮かべるとよいですが、手付かずの自然であっても、古来、宗教上の聖地として自然が守られてきた場所、古典文芸の「名所」として大事にされてきた場所の眺めなどは、人間が意志的に守ってきた「文化的景観」とみなします。また、都市や鉱工業・交通に関する景観も含まれます。そして「景観」の構成要素は可視の有形物に限定されません。「無形」の要素や「五感」で感受される要素も含まれ、このような「目に見えない部分」が価値の本質となる場合が多いことに特色があるといえます。「景観」とは、本質的には見た目ではなく、心の中に結ばれる像である、ということを知り、持続可能性豊かな「景観」とはどのようなものなのか、を考えるのに「文化的景観」は好適です。

【到達目標】

- ・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できること。
- ・「景観」は見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながるが多いということに気付くこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPT や OHC（書画カメラ）を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみるのがメインではないと思って下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「景観」とは何か 導入的説明
第 2 回	ユネスコの「世界遺産」事業概説	併せて国内の世界遺産を紹介
第 3 回	「文化的景観」導入の経緯	「自然遺産」「文化遺産」のはざま
第 4 回	ユネスコによる「文化的景観」の定義・内容	「環境」、持続可能性重視の新視点
第 5 回	日本の対応	「文化財保護法」の新文化財として導入の経緯
第 6 回	「文化的景観」保全の多面的効用	文化庁種別Ⅰ類（農林漁業の持続可能性豊かな土地利用の景観）を例として「センス・オブ・プレイス」も併せて
第 7 回	「景観」・「風景」・「原風景」	
第 8 回	近江八幡から学ぶべきこと	国内の新文化財「重要文化的景観」第 1 号
第 9 回	文化庁種別Ⅱ類の具体例と意義（1）	宗教・信仰の聖地として守られてきた場所
第 10 回	文化庁種別Ⅱ類の具体例と意義（2）	古典文芸の「名所」として守られてきた場
第 11 回	Ⅱ類の拡大解釈—その場にはないもの、見えないものが作り出す魅力	文学作品、映画、アニメが創る作品舞台の魅力／「ことば」が景観を創る／心の中のイメージの重要性 など
第 12 回	生きて変化する文化財として（1）	「五感」で体感される周期変化
第 13 回	生きて変化する文化財として（2）	「伝統」の非固定性／「有機的に進化する」景観
第 14 回	「伝統」継承のための階層的発想	観光文化、エコツーリズムの可能性
第 15 回	無形文化尊重の潮流／概念発展の可能性	視覚のみから「五感」へ／鉱工業や都市の産業・生活に関わる景観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。

【テキスト（教科書）】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

【参考書】

梶裕史「『文化的景観』の特質と可能性」（小島聡・西城戸誠編『フィールドから考える地域環境』第 5 章、ミネルヴァ書房、2012）ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験。他に、授業マナーも影響する場合あり。授業の初回または 2 回目に、授業マナーについて等諸注意を書いたプリントを配布します。このプリントの内容を守れない人は成績に響くでしょう。

【学生の意見等からの気づき】

私語への厳しい注意についてはおおむね好評ですが、時にそのために授業が中断して（当然ながら）雰囲気が悪くなる場合があります。しかし大教室で常時静粛な授業環境を確保する効果があるため、方針は変えません。また、「雑談」「余談」のなごり話のときは別です。休憩的な意味合いもありますので、くつろいで、その話題に関連して適度に隣の友人と話したり、笑ったりして楽しんでください。要は、真剣に話しているときもくつろぎの時間も、私と一対一で向き合っている感覚で聴いてもらうのがベストと思います。

また、写真等をたくさんお見せしますが、専用の時間を設けるというかたちではなく、見ながら講義していきます。室内に照明のついたままの状態で見えるため、鮮明さの点で見にくい場合もあるかと思いますが、画像は補助的な情報提供にすぎず、授業の理解に差し支えることはありません。

【学生が準備すべき機器他】

PPT、PHC(書画カメラ)等

【その他の重要事項】

- ・「環境文化創造コース」に最も関連する授業です。日本の伝統文化を広義の環境政策の視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。
- ・旧科目名称「環境表象論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA328

環境表象論Ⅱ

梶 裕史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「五感」が形づくる表象・風景：「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（=心の中に結ばれる像）の諸相と、環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】

・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できること。

・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「文化的景観」については、「環境表象論Ⅰ」のシラバス参照。表象論Ⅰと連続性が強いので、まずその概要の復習から入り、その後は便宜的に世間一般の五分類に沿って、項目を設けます。授業計画各回のテーマは視覚・聴覚中心にみえますが、特に「音風景」の中で嗅覚・触覚・味覚の話題も盛り込んでゆきます。「五感」はふつうは本人がリアルタイムに実体験する感覚を指し、これによる表象は「知覚表象」「感覚表象」などと呼ばれますが、持続可能な地域づくりには、「記憶表象」「想像表象」と呼ばれる類で、かつ個人を超えた地域の集団的な心意に関わるものが重要と考えて、クローズアップしてゆきます。そしてその資料として、日本の伝統的な文学や民間伝承を紹介する時間も多くとる予定です。

授業の形式は、ふつうの講義形式。表象論Ⅰ同様、現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、Ⅰに引き続き、視覚的画像をみるのがメインではなく、むしろ春学期以上に「目に見えないもの」を重視した内容になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：「五感」のエコロジーと文化的景観	「環境表象論Ⅰ」の概要の復習も兼ねて
第2回	日本の「いろ」の話（1）	日本文化における色彩、配色の特色
第3回	日本の「いろ」の話（2）	日本文化における「色づかい」の二面性
第4回	日本の「いろ」の話（3）	3回のまとめ。日本人にとって「いろ」とは何か
第5回	光と影・闇（1）	「光環境」・灯りに配慮したエコなまちづくり
第6回	光と影・闇（2）	「エコ」の視点からの陰翳・闇の魅力と重要性
第7回	音の風景とは何か	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論（1）
第8回	日本人の「風景を聴く」伝統	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論（2）
第9回	環境省「残したい日本の音風景100選」を窓口に（1）	「自然」の音風景の具体例
第10回	「残したい日本の音風景100選」を窓口に（2）	生き物に関わる音風景の具体例
第11回	「残したい日本の音風景100選」を窓口に（3）	生業や交通などに関わる具体例。において、触覚・味覚との融合感覚。
第12回	「残したい日本の音風景100選」を窓口に（4）	伝統祭事に関わる具体例。において、触覚・味覚との融合感覚。
第13回	方言をめぐって（1）	音風景の一種として、地域文化の核である地域のことに注目
第14回	方言をめぐって（2）	同上
第15回	まとめ	「文化的景観」の中身の把握やその活用、五感の視点が重要であることの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。

【テキスト（教科書）】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

【参考書】

環境表象論Ⅰに同じ。

【成績評価の方法と基準】

期末試験。他に、授業マナーも影響する場合あり。（授業の初回または2回目に、授業マナーについて等諸注意を書いたプリントを配ります。このプリントの内容が守れない場合は、成績に響くでしょう。）

【学生の意見等からの気づき】

授業環境については、環境表象論Ⅰとはほぼ同様です。内容面で、五感のなかで「嗅覚」「触覚」「味覚」について独立した話は出来ませんでした。授業の概要にも記した通り、各回のなかになにそれらの身体感覚要素も盛り込んで話していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

PPT等

【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様とします。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA253

自然環境科学の基礎（化学）

藤倉 良

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：土1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。ここでは、今後の環境の学習に役立てられるように高校の化学を復習します。

【到達目標】

高等学校で履修する化学を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を受講するときに必要な、基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

化学反応の理論を問題演習とおして解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第1章 物質を構成するミクロな世界	原子の構造と性質
第2回	第2章 ミクロな世界から日常世界へ	分子間力、結晶
第3回	第3章 物質のもつエネルギー	化学反応とエネルギー
第4回	第4章 反応の進行をきめるもの（1）	ポテンシャルエネルギー
第5回	第4章 反応の進行をきめるもの（2）	化学平衡
第6回	第5章 酸塩基反応と酸化還元反応のしくみ（1）	酸塩基反応
第7回	第5章 酸塩基反応と酸化還元反応のしくみ（2）	酸化還元反応
第8回	第6章 電池、電気分解のしくみと応用（1）	電池
第9回	第6章 電池、電気分解のしくみと応用（2）	電気分解
第10回	第7章 有機化合物の分類と種類	有機化合物の構造と性質
第11回	第8章 有機化学反応のしくみ	求核反応と求電子反応、置換反応と付加反応
第12回	第9章 油脂、タンパク質、糖類	グリセリン、脂肪酸、アミノ酸、糖類
第13回	第10章 現代生活と化学（1）	肥料、合成高分子化合物
第14回	第10章 現代生活と化学（2）	化学物質と環境
第15回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回分のテキストをあらかじめ読んでおいてください。授業の最後10分程度は、その日の確認テストを行います。

【テキスト（教科書）】

福岡智人『忘れてしまった高校の化学を復習する本』中経出版

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎授業時に実施する確認テスト（10分程度）（50%）と期末試験（50%）の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2015年度は前年度と担当者が異なります。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA267

自然環境科学の基礎（生物学）

宮川 路子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：木1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、高校の生物学の知識を基本としながら、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。
学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。
講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。
第3回	血液について	ビデオ鑑賞 血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。 呼吸器の病気。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。 心臓について。 血管について。 循環器系の病気。
第6回	消化器（1）	消化器を構成する器官。 口腔、食道、胃、腸 消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞
第7回	消化器（2）	肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞
第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について
第10回	生殖	生殖の仕組み ビデオ鑑賞
第11回	神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第12回	感覚・知覚	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚
第13回	感覚・知覚	視覚について ビデオ鑑賞
第14回	発達	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞
第15回	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。
関連の話題についての知識を収集する。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に授業内試験を行う。持ち込みは不可。

【学生の意見等からの気づき】

本シラバス作成時点では2014年度のアンケート結果を受領していないため、受領後にアンケート結果を反映させた授業改善を行うものとする。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA268

自然環境科学の基礎（生態学）

高田 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係を理解する学問です。生態学の基礎を学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、生き物を中心とした自然の仕組みについて基本的な知識を身に付けることを目的とします。

【到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①野生生物の生活と生存戦略
- ②様々な生態系の特徴と仕組み

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「動物と植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「個体群と群集の生態」、「主な生態系の特徴と機能」、「生態系をめぐる諸課題」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態	日本の鳥類相、鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係
第3回	種子の散布	様々な散布形式、動物と植物の相互作用
第4回	進化と適応	適応とは、進化と自然選択、適応のための様々な生存戦略
第5回	動物の行動生態(1)	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第6回	動物の行動生態(2)	昆虫の不思議、シカとカモシカ
第7回	森林生態系	森林の仕組みと機能、物質の循環、クマとブナ
第8回	淡水生態系	河川・湖沼の生物と生態系、水生昆虫と魚類、ため池の環境
第9回	湿原生態系	湿原と泥炭、生態系を支える仕組み、特異な生物相
第10回	島嶼生態系	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第11回	海洋と沿岸生態系	海から陸への物質輸送、サケと海洋環境、サンゴ礁
第12回	生態学を取り巻く諸問題(1)	絶滅とレッドリスト、貴重種保護の事例
第13回	生態学を取り巻く諸問題(2)	外来種問題、諸外国の実情と取り組み
第14回	生物多様性	生物多様性とは、生態系サービス
第15回	まとめ	これまでの復習、野生生物との共生に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境論Ⅳ（秋期）は本講義をより深めたものとなっていますので、併せて受講することが望ましいです。保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、時々感想や質問を記述してもらうことがあります。本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA221

自然環境論 I

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の現在の自然環境を、人間社会（暮らしや産業、文化）との関わりのなかで時空間を行き来しつつ見つめなおす。

【到達目標】

自然環境（気候や地形、水循環など）の地域的差異とそのメカニズム、歴史的な変遷の概要を把握し、人間社会が自然環境に左右される側面を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

われわれをとりまく自然環境は地域ごとに個性と必然性を有し、変化を繰り返して現在に至っている。「水や空気のように」あたりまえの存在ではない。自然地理学のアプローチを通じ、強く連関しあう自然界の諸要素を系統的かつ平易に解説する。講義形式。身近な自然環境の具体像を含むスライドも活用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	自然環境と人間社会	環境決定論・環境可能論・その後、自然地理学、自然災害
第2回	大気のはくみ・大気大循環	地球のエネルギー収支、ハドレー循環等、偏西風等
第3回	海洋のはくみ・海洋大循環	表層循環・深層循環、潮汐と潮流
第4回	気候要素・気候因子・気候区分	気温・降水・風、緯度帯・海流・地形、ケッペンの区分・アリソフの区分
第5回	日本列島の気候	気団と海流、めぐる四季、偏西風の蛇行、エルニーニョ・南方振動、都市気候、暦と二十四節気
第6回	編年法・古環境復元法	第四紀、年輪、考古、放射性炭素年代、火山灰、花粉、珪藻
第7回	グローバルな気候変動と海水準変動	氷期と間氷期、酸素同位体比、メカニズム、昨今の地球温暖化
第8回	固体地球のはくみ・プレートテクトニクス	プレートとは、プレート境界、火山フロント・中央海嶺・ホットスポット
第9回	地震と火山噴火	島弧-海溝系、プレート境界・活断層、大地震の長期予測、火山噴火
第10回	地形をつくる力・地形のスケールと成り立ち	外的営力、内的営力、外来作用、地形種
第11回	日本列島の地形と地質	現在の地形形成環境、日本列島の成り立ち、鉱物資源
第12回	水	水のかたち、収支・循環・滞留時間、地下水、水利用、都市の水循環
第13回	土壌	因子、土壌型、日本の土壌、世界の土壌、砂漠化
第14回	植生・動物	自然植生、現存植生、潜在自然植生、植生遷移、動物分布と成り立ち、外来種・絶滅種
第15回	人間社会が自然環境に及ぼす影響	自然環境の保全、地球環境問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。また、自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

図上作業（授業内容と対応・授業時間内に実施）（20%）と期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA221

自然環境論Ⅱ

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いかなる社会も土地の個性に根ざして成り立っている。本講義では「湿潤変動帯」日本列島の地形的個性を見つめなおし、人間社会との関わり合いを再認識する。

【到達目標】

大地の個性と成り立ちを知って土地が変貌する必然性を受容し、土地条件や土地利用といった視点から人間社会のあり方を考える素養を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

生活の舞台である大地。「動かざること大地の如し」ともいわれるが、実際には河川氾濫や地殻変動などの変化プロセスを通じて成立してきた。その実態について、背景となる自然的要素を総合的に鑑みつつ、主に地形学のアプローチから理解を深める。講義形式。野外調査の生データを含むスライドも活用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	土地と人間社会・東京の自然史	土地条件、土地利用、自然災害、1923年大正関東地震と東京中心部の地形・土地条件・歴史
第2回	日本列島の自然環境の概要	湿潤変動帯といわれる所以
第3回	外的営力・内的営力のメカニズムと地域性	太陽エネルギーと重力、地球内部の熱と重力、地域性
第4回	地図・空中写真・DEM	測地系、地図投影法、縮尺、等高線、航空写真、衛星画像、DEM（数値標高モデル）、地形判読
第5回	GISとGPS	GIS（地理情報システム）・GPS（全球測位システム）
第6回	山地の隆起と解体	山のすがた、風化と侵食、山地形成論、水河地形
第7回	河川地形の成り立ちと土地利用	扇状地、氾濫原、三角州、土地利用
第8回	海岸地形の成り立ちと土地利用	砂浜海岸、岩石海岸、サンゴ礁海岸、土地利用
第9回	段丘地形の成り立ちと土地利用	河成段丘、海成段丘、グローバルな気候変動と海水準変動、地殻変動、土地利用
第10回	変動地形の成り立ち	活断層、地震性隆起、1703年元禄関東地震、1923年大正関東地震
第11回	火山地形の成り立ち	マグマの組成、噴火様式
第12回	海底地形の成り立ち	大陸棚、陸棚斜面、プレート境界、大洋底、海底火山
第13回	段丘面と地殻変動	段丘面の編年、関東ローム層、段丘面に基づく隆起量の見積もり
第14回	関東平野の地形発達史と古地理	丹沢山地、多摩丘陵、下末吉台地、武蔵野台地、立川面、沖積低地、縄文海進、江戸期以降のまちづくり
第15回	人間社会が土地に及ぼす影響	歴史時代の地形改変、鉄穴流し、切土盛土問題、砂漠化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。また、自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

図上作業（授業内容と対応・授業時間内に実施）（20%）と期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA221

自然環境論Ⅲ

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の自然環境を大きく特徴づける「変動地形」。その成り立ちを知り（とくにプレート境界と活断層について）、地震発生環境の地域的個性、そして人間社会のあり方を見つめなおす。

【到達目標】

変動地形と古地震の調査法を学んだ後、日本列島各地の変動地形について、海外の事例を参照しつつ地域的差異・メカニズム・歴史的要因の概要を理解し、地殻変動の必然性を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本列島はプレート境界に近く地殻変動が顕著であり、変動地形がよく発達する。これらは大地震発生と密接に関わって成立しており、地震災害はわが国の宿命ともいえる。本講義では主に変動地形学のアプローチを通じ、日本列島の地形的枠組みや地震発生環境の理解をはかる。講義形式。国内外における地殻変動の具体像を示すスライドも活用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本列島の地形環境の概要	プレートテクトニクス、島弧-海溝系
第2回	変動地形と地震発生環境	地形のスケールと種類、地形をつくる力、変動地形、プレート境界・活断層
第3回	変動地形と古地震の調査法	地形調査、地質調査、物理探査
第4回	歴史地震	歴史記録、文献史料（文献資料）、時代性
第5回	地形の調べ方	空中写真の実体視判読、GISとDEM
第6回	プレート沈み込み帯・プレート衝突帯	インドネシア、ヒマラヤ・チベット
第7回	活断層	サンアンドレアス断層、北アナトリア断層
第8回	2011年東北地方太平洋沖地震	概要、メカニズム、地殻変動
第9回	千島海溝～日本海溝	分布、歴史地震、超巨大地震、地殻変動
第10回	相模トラフと神縄・国府津-松田断層帯	分布、歴史地震、地殻変動、首都直下地震
第11回	南海トラフと富士川河口断層帯・琉球海溝	分布、歴史地震、地殻変動、日向灘
第12回	1995年兵庫県南部地震	概要、メカニズム、地震の歴史
第13回	東北日本の変動地形と活断層	北海道～下北半島、日本海東縁、糸魚川-静岡構造線断層帯、立川断層帯
第14回	西南日本の変動地形と活断層	中部山岳地域、飛騨・美濃、近畿三角帯、中国地方、四国の中央構造線断層帯、九州
第15回	地殻変動と地震災害	日本列島の地震発生環境

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。また、自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

図上作業（授業内容と対応・授業時間内に実施）（20%）と期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と思考力に加え、基礎力や応用力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

エネルギー論 I

北川 徹哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【関連の深いコース】
環境サイエンスコース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

【到達目標】

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. 現代のエネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーの定義と歴史、世界のエネルギー情勢
第2回	エネルギーの資源、流通、消費	1次エネルギーと2次エネルギー、各種資源の輸入と流通、各種エネルギーの消費動向
第3回	エネルギーに関連する量、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第4回	熱とエネルギー	エネルギー保存とジュールの実験
第5回	熱力学の法則	サイクルとは何か、熱力学第1・第2・第3法則
第6回	カルノーサイクルと熱効率	カルノーサイクルの構成、サイクルがする仕事と効率
第7回	エントロピー	エントロピーとは何か
第8回	熱エネルギーの移動	エントロピーと熱との関係、エントロピー増大の法則
第9回	熱から電力への変換	水の性質、発電のためのサイクル
第10回	電力の需要と供給	送電・配電、電力の需給バランス
第11回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第12回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第13回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第14回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分
第15回	原子力発電の安全性と国際組織	多重防護、スクラム、原子力安全委員会、国際原子力機関

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておく和良好的。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位、第4回：ジュールの実験、第5～8回：前回の講義内容の見直し、第9回：水の性質、第10～13回：我が国の電力会社と発電所、第14回：原子力の時事問題、第15回：我が国の地震

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）：各種エネルギーの特性に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。

試験（50%）：各種資源とエネルギー利用形態、エネルギーと社会との関係などの知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

内容が難しいとの感想がありました。ほとんどの学生さんが楽しく受講しています。わからないところは遠慮なく質問してください。

【その他の重要事項】

エネルギー分野は広範囲な内容を含み、楽しく学べます。物理・数学的な内容もありますが、焦点を絞って取り上げます。わからないところは、どんどん質問しましょう。

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

HA219

地球科学史 I

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代の科学的地球観（地質学）の登場以前の略画的地球観の歴史を概観する。

【到達目標】

略画的地球観を非科学的として否定的に取り扱うのではなく、今日の我々の日常的な地球に対する見方・考え方に大きな影響を与えているものとして理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

神話的世界の自然観を概観し、古代ギリシアの自然哲学的な地球観・自然観から、キリスト教的な世界観を経て、中世・ルネサンス期の西欧世界の地球観を明らかにし、17世紀の科学革命期から18世紀の地球像を詳述することによって、略画的地球観の重要性を明らかにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	古代世界の自然観	天地創造神話
第3回	古代ギリシアの地球観(1)	ミレト学派からプラトン
第4回	古代ギリシアの地球観(2)	アリストテレスとリュケイオンの弟子たち
第5回	ヨーロッパ古代・中世前半の地球観	キリスト教世界の教父たち
第6回	中世・ルネサンス期の地球観	大航海時代と世界地図の製作
第7回	科学革命期の地球観(1)	デカルトの『哲学原理』(1644)の地球論
第8回	科学革命期の地球観(2)	ステノの『プロドロムス』(1669)の科学的地球観
第9回	科学革命期の地球観(3)	ライプニッツの『プロトガイア』(1691)啓蒙主義の時代の地球観
第10回	18世紀の地球観(1)	ビュフォン：デカルト的地球論から近代地質学への移行期
第11回	18世紀の地球観(2)	ヴェルナー：近代地質学誕生前夜の火成説
第12回	18世紀の地球観(3)	ハットン：近代地質学誕生前夜の火成説
第13回	地質学と聖書	火成説対水成説：玄武岩論争
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球観の歴史

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験を中心にして総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース・環境サイエンスコース

HA219

地球科学史 II

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地質学の誕生から地球科学・地球惑星科学へ至る道を検証して、地球科学の現状を明らかにする。

【到達目標】

地震学を含めて地球科学の可能性と限界を歴史的観点から理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

18世紀末からプレートテクトニクス誕生までの200年間、それぞれの時代の人々が地球表層の岩石圏というもともとも基本的な自然環境をどのように理解しようとしてきたのかを、人が本当に地球をかけがえのない星として理解するためのに必要な科学のあるべき姿とは何かを念頭に置きながら説明していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	地層と化石	スミスとキュヴィエ：岩相層序学から生（化石）層序学へ
第3回	地質学の原理	ライエルとバックランド：洪水主義対河川主義：激変主義と斉一主義
第4回	地層と時代	Dinosaurus（恐竜）の発見と時間の発見
第5回	地質学と進化論	地質学者ダーウィンの『種の起源』(1859)
第6回	地球の年齢	ダーウィンとケルビン卿：地球年代論争：地質学対物理学
第7回	19世紀末の地質学	ジュース：地球冷縮説：先駆的なグローバル・テクトニクスの登場
第8回	20世紀前半の地質学	シュティレ：地層斜造山論：グローバル・テクトニクスの完成
第9回	地球科学の誕生	地質学と物理学と化学：アイソトプシイ説と地震学
第10回	大陸移動説(1)	生物地理学と地質学
第11回	大陸移動説(2)	ヴェーゲナーの大陸移動説
第12回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命(1)	大陸移動説の復活：海洋底拡大説
第13回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命(2)	プレート・テクトニクスの登場
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球科学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験を中心にして総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース・環境サイエンスコース

HA250

気候変動論 I

松本 倫明

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことがらを深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。また、この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	気候変動研究の歴史	気候変動（とくに地球温暖化）がどのように理解されてきたか、その歴史を概観する。温室効果の発見、キーリング曲線、IPCC など。
第 3 回	地球温暖化の概要（1）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第 4 回	地球温暖化の概要（2）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第 5 回	地球温暖化の概要（3）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第 6 回	地球の構造	地球の構造と元素組成を学びながら地球全体を概観する。
第 7 回	大気構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第 8 回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第 9 回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第 10 回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第 11 回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気窓、アルベド、温室効果など。
第 12 回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第 13 回	放射平衡	大気多層モデルによって温室効果の理解を深める。
第 14 回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第 15 回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかで指示をする。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境サイエンスコース

HA214

気候変動論Ⅱ

松本 倫明

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境サイエンスコース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。

秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても解説する。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	平均気温の変化（1）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第3回	平均気温の変化（2）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第4回	温室効果ガス（1）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第5回	温室効果ガス（2）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第6回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第7回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第8回	雪氷	水河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第9回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第10回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。
第11回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。
第12回	古気候学	様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。
第13回	気候変動をとりまく動き	地球温暖化の周辺の動向について考える。懐疑論についても考察する。
第14回	緩和策・適応策	地球温暖化に対する緩和策と適応策を簡単に紹介する。
第15回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかで指示をする。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

HA316

自然環境政策論 I

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論 I（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論 II（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の 2 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれてきた主な保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「科学的調査に基づく保管理」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第 2 回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第 3 回	陸水域をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第 4 回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第 5 回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第 6 回	貴重種の保護	リッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第 7 回	外来種問題	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第 8 回	日本の自然環境保全政策(1)	自然公園、自然環境保全地域、狩猟制度と鳥獣保護区
第 9 回	日本の自然環境保全政策(2)	種の保護法、鳥類や海獣に関する事例
第 10 回	日本の自然環境保全政策(3)	林業・河川管理・水産業と自然環境保全
第 11 回	日本の自然環境保全政策(4)	野生生物の保護管理、シカとサルの事例
第 12 回	里山問題	里山の特徴、なぜ生物は多様か、里山の変貌
第 13 回	生物多様性	生物多様性とは、生物多様性からの恵み、劣化損失の危機と保全
第 14 回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、エコアップ、日本や諸外国における自然再生事例
第 15 回	まとめ	これまでの復習、政策の果たす役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を広げよう努めます。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論 I（春期）と II（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人には自然環境科学の基礎（生態学）（春期）と自然環境論 IV（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・国際環境協力コース・環境サイエンスコース

HA316

自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み、並びに国際条約による保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国におけるユニークな保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化
第2回	日本人と自然	日本における動物・水・森林と人との関わり
第3回	環境影響評価(1)	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価(2)	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第5回	計画・指針による自然環境保全	生態学と環境計画、環境管理計画・環境基本計画、自然環境保全指針
第6回	法によらない保全メカニズム	土地のもつ社会性、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ(1)	フランスの地方自然公園とエコミュゼ
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ(2)	イギリスのナショナルトラスト、シビクトラスト、グラウンドワーク
第9回	海外の自然環境政策に学ぶ(3)	欧州農業環境政策、マネージメントアグリーメント、環境支払い、ドイツのピオトープ
第10回	国際的な取り組み(1)	ラムサール条約、世界遺産条約、生物多様性条約
第11回	国際的な取り組み(2)	ワシントン条約と象牙問題の事例
第12回	観光と自然環境保全	エコツーリズム、インタープリテーション、管理型観光と自主型観光
第13回	地域自然資源の活用	自然の価値を高める経済的循環事例、野生生物を生かした取組事例
第14回	自然資源を活用した新たな国際的取り組み	世界農業遺産、ジオパーク
第15回	まとめ	これまでの復習、総合的視点にたった政策ガバナンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を広げよう努めます。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人には自然環境科学の基礎（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・国際環境協力コース・環境サイエンスコース

HA315

環境科学Ⅰ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第2回	大気汚染・その1（第1章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第3回	大気汚染・その2（第1章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道（第2章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽（第2章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁（第3章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壤汚染（第3章）	工場排水の処理、土壤汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭（第4章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音（第4章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第10回	廃棄物・その1（第5章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物・その2（第5章）	産業廃棄物
第12回	リサイクル（第5章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第13回	有害物質とリスク（第6章）	有害の意味、リスクの意味と大小
第14回	基準の決め方（第6章）	環境基準と排出基準
第15回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します。受講生がおおむね100名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA315

環境科学Ⅱ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響、国際交渉
第6回	気候変動・その3（第8章）	京都議定書、京都メカニズム
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境大気汚染（第9章）	酸性雨の化学、影響、光化学オキシダント
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境の評価（第12章）	環境アセスメント、L C A、環境ラベル
第13回	環境と貿易	貿易は環境に悪影響を及ぼすか？
第14回	国際環境協力	G A T T、W T O
第15回	まとめ	開発援助の環境配慮、環境O D A 全体のとりまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します。受講生がおおむね100名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター

HA315

環境科学Ⅲ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、さまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造
第9回	土壌（2）	土壌の機能
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	遺伝資源	遺伝子の多様性、名古屋議定書
第12回	金属（1）	銅、鉄、アルミニウム、鉛
第13回	金属（2）	レアアース、レアメタル
第14回	世界の資源消費	人口増加、経済発展と資源消費
第15回	まとめ	今後の資源利用のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するレジュメを使って復習してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【その他の重要事項】

・旧科目名称「人間環境特論（天然資源の科学）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座においては、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

各種の健康問題の実情を学び、学生が取るべき健康行動について考えていく。たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、何が問題なのかを知り、どのような飲酒習慣を身に付けていくべきかを考える。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学 I～Ⅲの内容は若干重複することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え
第 2 回	予防医学の基本的概念	予防医学の基礎について
第 3 回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第 4 回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患
第 5 回	ライフスタイルと生活習慣病③	生活習慣病の予防について
第 6 回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第 7 回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み、
第 8 回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病 禁煙について
第 9 回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について
第 10 回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について ビデオ
第 11 回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会 健康問題
第 12 回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題について 高齢者虐待
第 13 回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第 14 回	感染症	性感染症・食中毒
第 15 回	授業内試験	試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

期末試験を最終講義日に授業内で行う。持ち込みは不可。原則として出席はとらないが、感想文などを求めることがある。

【学生の意見等からの気づき】

大人数のため、おしゃべりがうるさいことがあるが、適宜注意をして静かに講義が進められるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

HA381

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【学生の意見等からの気づき】

大人数の講義のため、騒がしいことがあったが、適宜注意を促して静粛な環境で講義を進められるように努力する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育を上げさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、さらには対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。日本の医療の現状について学び、患者としての受療行動を考える。また、生命倫理の諸問題について取り上げ、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について、特に近年社会において注目されている各種保健の問題点について学習する。

さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康
第9回	母子保健・学校保健	母子保健・学校保健 就労女性の母性保護 ワークライフ・バランス
第10回	社会保障	社会保障制度について
第11回	生命倫理①	日本の医療制度 医の倫理 医療崩壊
第12回	生命倫理②	患者と医師の権利と義務 安楽死・尊厳死
第13回	生命倫理③	医療訴訟 遺伝子関連問題
第14回	生命倫理④	遺伝病、色覚異常 終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第15回	授業内試験	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に復習を行う。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込み不可。原則として出席はとらないが、講義への参加確認として、アンケート、感想文などの提出を求めることがある。

HA381

衛生・公衆衛生学Ⅲ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。現在、わが国においては年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えており、精神的な問題を抱える人の数が大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では、とくに精神関連の話題を取り上げ、メンタルヘルスについての幅広い知識を身につけていく。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようになることを目指す。精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除いて行くことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキスト、配布資料、パワーポイントを用いながら講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺の現状
第3回	メンタルヘルスケア②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスケア③	快適職場について
第5回	メンタルヘルスケア④	ストレスについて こころの健康を保つために
第6回	精神障害	睡眠障害 よい睡眠をとるために
第7回	精神障害	気分障害
第8回	精神障害	新型うつ病
第9回	精神障害	摂食障害
第10回	精神障害	心身症、PTSD
第11回	精神障害	統合失調症
第12回	精神障害	不安障害
第13回	精神障害	心身症、摂食障害
第14回	精神保健	まとめ
第15回	授業内試験	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に復習を行う。新聞をよく読む。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込みはテキストのみ可。原則として出席はとらないが、講義への参加確認として、アンケート、感想文などの提出を求めることがある。

【学生の意見等からの気づき】

他人数の講義のため、騒がしいことがあるが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【関連の深いコース】

地域環境共生コース

HA361

エネルギー論Ⅱ

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

元来、エネルギーは自然を源として自然に帰ってゆくという循環の輪の中にあった。再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは、環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである。本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ、開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について、我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく。

【到達目標】

1. エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる。
2. 各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる。
3. 再生可能エネルギーの効率、環境負荷低減効果、課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題とエネルギー	エネルギーの環境対策（電力を中心に）
第2回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは、新エネルギーの種類
第3回	水資源	水資源の循環、河川の性質
第4回	水力発電	水力発電の種類と仕組み、中小水力発電
第5回	海水の動きを利用する発電	波力、潮力、潮流・海流による発電
第6回	風と風車	風車の種類と性能、風がもつエネルギー、発電用風車の仕組み
第7回	風力発電	風況、パワーカーブ、発電量予測、風車と音
第8回	太陽光の特性、太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー、太陽電池セルとシリコン
第9回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類、フィード・イン・タリフ
第10回	太陽光の熱、太陽熱発電	太陽熱の熱利用、太陽熱発電の種類と仕組み
第11回	バイオマス	バイオマスの種類と分類、バイオマスの賦存量
第12回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題、バイオマスエネルギーの利用事例
第13回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱発電、海洋温度差発電
第14回	燃料電池	EVとFCV、燃料電池の仕組みと種類、家庭用燃料電池、水素インフラ
第15回	エネルギー貯蔵	エネルギー貯蔵方法の種類と特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておくこと。第1回：エネルギーのCO₂換算、第2回：再生可能エネルギーの種類、第3～5回：水の高さ・速さとエネルギーの関係、第6～7回：風力発電の時事問題、第8～10回：太陽光・太陽熱利用の時事問題、第11～12回：バイオマス利用の時事問題、第13回：地球内部と海洋の構造、第14回：エコカーの時事問題、第15回：回生と蓄電

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）：各種再生可能エネルギーの利用方法に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。試験（50%）：各種再生可能エネルギーの仕組みや原理、環境問題への貢献などに関する知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

板書が読みにくいとのコメントをいただきました。気をつけたいと思います。

【その他の重要事項】

再生可能エネルギーには話題が豊富です。また、再生可能エネルギーのほとんどは、実は昔からあったということを実感して欲しいと思います。

HA314

大気と社会 I

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球を覆っている大気は地球の規模から見ると、薄い膜のようなものである。その薄い膜の中で大気は動き、人は生活している。人にとって大気は生存するために必要なものであると同時に、時には強い気流となって襲いかかってくる存在であり、またある時は心地良さをもたらすものでもある。大気と社会 I、II においては、大気の動きと人間、社会、都市との関係について多角的に学ぶ。大気と社会 I においては、気流の性質と社会への影響を中心に講義する。

【到達目標】

1. 大気運動現象の性質を説明できる。
2. 大気をもたらす社会リスクを説明できる。
3. 人間生活圏における気流の流れ方を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会にとっての大気	大規模大気循環、人の生活圏の気流、強風の要因
第 2 回	台風	台風のエネルギー、台風の発生と移動
第 3 回	局地風	陸海風、オロシ、ダシ、フェーン
第 4 回	竜巻、ダウンバースト	竜巻の構造、フジタスケール、マクロ・マイクロバースト
第 5 回	気流による社会の被害	強風による都市、交通、インフラ、文化財などの損壊
第 6 回	大気観測	大気観測方法
第 7 回	気流の統計的性質（1）	平均風速、瞬間最大風速、最大風速
第 8 回	気流の統計的性質（2）	再現期間、風速の超過確率・非超過確率
第 9 回	気流の統計的性質（3）	再現期待値、T 年最大値
第 10 回	地表面性状と気流	地表面の粗度、風速の高度分布
第 11 回	気流の周期性と評価時間	風速のスペクトル、風速の長周期変動、10 分間平均
第 12 回	気流の乱れ	風速の短周期変動
第 13 回	渦、風の息	カルマン渦の性質、風速変動と渦の重なり
第 14 回	騒音と大気	音の強さ、風騒音、空振
第 15 回	生活と大気	強風による生活障害、高層建物とビル風

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておく。第 1～4 回：大気・天候・強風に関する時事問題、第 5 回：気流災害の事例、第 6 回：風向風速計、第 7～9 回：確率統計の基礎的な用語、第 10 回：べき乗、第 11～13 回：周期あるいは周波数、第 14 回：音の大小・高低、第 15 回：ビル風

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（100%）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題を通じ、到達目標 1～3 の習得度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レポートが多いとの意見がありました。レポートは 2 回あるいは 3 回ほど課していますが、レポートで評価している科目なので、この程度の回数はやむを得ません。

【その他の重要事項】

大気の動きと社会に関する話題を分野横断的に取り上げます。本講義を受講することにより、気象や都市の見方が変わると思います。

旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境 I）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境サイエンスコース

HA314

大気と社会Ⅱ

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気と社会Ⅰに引き続き、大気と人間、社会、都市との関係について網羅的に学ぶ。大気と社会Ⅱにおいては、大気と人の生活環境との関わりを中心に重点をおいて講義する。

【到達目標】

1. 大気運動による物質輸送と社会との関係について説明できる。
2. 都市独特の気象と大気の動きとの関係を説明できる。
3. 人間生活で利用している気流について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気と人間環境	人の暮らしと大気
第2回	汚染物質の大気拡散	大気汚染物質の種類、広域大気汚染、気温と大気汚染
第3回	ストリートキャニオン	沿道大気汚染、大気汚染の環境基準
第4回	ヒートアイランド	ヒートアイランドの性質
第5回	クリマアトラスと風の道	気候情報に基づく都市の環境計画、風の道をつくるには
第6回	飛砂、風食	地表層土砂の挙動、風紋、飛砂対策、砂漠の拡大
第7回	黄砂の飛来	ダストストーム、黄砂の発生源、黄砂の飛来性状
第8回	スギ花粉の飛散	スギ花粉の性質、花粉の観測方法、スギ花粉飛散状況と天候
第9回	住居環境と気流（1）	室内の汚染物質、換気
第10回	住居環境と気流（2）	通風、温冷感
第11回	火災と大気	延焼と市街地火災、火災旋風、火災の熱と大気
第12回	鉄道・自動車と大気	車両の転覆限界、強風による交通マヒ・事故、鉄道の運行規制
第13回	スポーツと大気	スポーツエアロダイナミクス、スポーツにおける気流対策
第14回	農作物と大気	受粉と気流、光合成と大気、農作物の倒伏、塩害
第15回	損害保険と大気	自然と損害保険、天候デリバティブ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の内容を事前に学習しておくといい。第1～3回：大気汚染物質の種類、第3～5回：都市の気候、第6～8回：砂粒子の大きさと形、第9～10回：屋内の空気管理、第11回：地震の2次災害の種類、第12回：列車や自動車の形状・構造、第13回：揚力、第14回：受粉、第15回：大気関連災害の損害保険額の規模

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（100%）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題を通じ、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生さんからは、おおむね好評でした。

【その他の重要事項】

大気と人の生活に関する様々な話題を取り上げますので、楽しんで受講してください。

旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース・環境サイエンスコース

HA249

自然環境科学の基礎（物理学）

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：物質とエネルギーの理解から環境問題へ

本科目では、日常のありふれた現象を眺めることにより、物理学は、(1) 我々の生活に密接に関連していること、そして (2) 環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、を「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような（難しい？）式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を「自然法則」に照らして理解する必要がある。この授業の目的はその3つの内容を理解するための基礎的事項を学習することにある。

【到達目標】

物質とエネルギーに関する内容について、物理学的な知識が環境問題を考察するための基礎であることが理解できるようになることを目標とする。なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

視聴覚教材や実験のデモンストレーションを見ながら学習していく。文系の学生、物理を苦手としている学生にわかりやすい授業となるように留意したいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。なぜ物理は環境問題を考察するための基礎となるのか？
第2回	スピードガンで測ろう1 (落下するボールの運動と力学、シミュレーション付)	運動の法則と何か？ エネルギーとは何か？ 位置（高さ）と運動（速度）の間のエネルギー変換について。
第3回	スピードガンで測ろう2 (振り子運動・放物運動と力学、シミュレーション付)	エネルギーは保存される。ジュール（J）、ワット（W）などの基本単位の超入門。人間はエネルギー的に約100Wの電球と同じ、など。
第4回	熱とエネルギーを理解しよう1 (エネルギーの種類と変換、地球に降り注ぐ太陽エネルギーの大きさを測る)	異なった形態のエネルギーと変換について。温度とは？ 比熱とは？ cal と J について。太陽定数の大きさと地球-宇宙の間のエネルギー収支を知ろう。
第5回	熱とエネルギーを理解しよう2 (気体の性質、エンジンなどの熱機関の原理を理解する)	気体の圧力、体積、温度などの関係（ボイル・シャルルの法則）を理解する。気象現象の考察。熱機関（熱から仕事への変換）と熱効率について。
第6回	熱とエネルギーを理解しよう3 (熱の伝わり方を見る、金属棒を伝わる熱+空気の流れにより伝わる熱+電気ストーブによる加熱)	伝熱の3形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は？ 人間活動と熱との関係は？
第7回	物質の三態と状態変化を調べよう1 (水の融解・水の蒸発と潜熱、地球上に存在する水の役割について)	物質の三態（液体、固体、気体）の存在を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は？ 生命体維持における水の役割は？
第8回	物質の三態と状態変化を調べよう2 (水の密度と膨張率+氷の密度と浮力、氷の融解現象について)	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇は海面上昇に関係しているのか？ 氷山の融解は海面上昇の原因なのか？

第9回	波の性質を知ろう (横波と縦波を観察する、自然の中に現れる様々な波を調べる)	横波と縦波、周期と振動数（周波数）、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波や海波などの理解。
第10回	電気回路の性質を調べてみよう (電流、電圧、抵抗の超入門、抵抗線を通る電流による熱発生（ジュール熱）について)	乾電池、導線、抵抗などによる回路作りとオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。抵抗率とは？ 電力系統網における送電ロスに熱に転化する。
第11回	磁石を使って電気を作ろう&電池を使って磁石をつろう (電界と磁界について、モーターと発電機の原理を知る)	モーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か？ 可視光線、赤外線、紫外線、電波、X線なども電磁波の仲間。
第12回	原子・分子を理解しよう (原子の構造とエネルギー、核分裂と原子力発電のしくみについての超入門)	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq（ベクレル）とSv（シーベルト）などについての解説。原子力発電とウラン、セシウム、プルトニウムなどについて。
第13回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう1 (水と湯の間の熱移動+水中に落とされたインク拡散などの現象からエントロピーの概念へ)	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から空間全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解。
第14回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう2 (LED電球と白熱電球の熱発生について)	なぜLED電球は白熱電球に比べて省エネなのか？ エネルギー変換にはロス（損失）が伴う。エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動のエントロピー的解釈超入門。
第15回	総括	授業内容をまとめ、環境問題と物理学との関係について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業時に作成したノートを復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します。出席は取りません。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

様々な現象についての教材や実験のデモンストレーションをプロジェクターに映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をしないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお勧めします。本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA215

環境モデル論 I

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「地球」と「人為」を考える
 モデルとは自然界や人間社会などで起きている現象、そこに働いている法則、様々な対象間の相互関係等を分析しそのエッセンスを人間にとって分かりやすく表現したものである。環境問題を考察するには、地球システムと人間活動の特徴を理解しそれらの関連性を分析することが必要である。地球上に生じる環境問題はどのような自然法則に支配されて（制約を受けて）いる結果なのか？ 本科目では物質とエネルギーという観点から「地球システム」と「人為」の特徴を把握し、それらを「定常開放システム」としてモデル化する。ライフサイクルアセスメントやエコロジカルフットプリントなどの具体的な指標（手法）についても触れることにより人間活動の特徴を調べていく。本科目の内容を通して眺めてみると、物質とエネルギーは量的に保存されるが質的に劣化する（空間的に拡散する）という特徴を意識することが環境問題を考察するための「鍵」となっていることが理解されるであろう。本科目は「物質循環」や「持続可能」という問題を科学的に捉えるための基礎という位置づけにもなっている。

【到達目標】

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。地球システムとその上で行われている人間活動の特徴を科学的に考察するための背景を知ることが目標である。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業としたいと考えている。画像、映像などのビジュアルな教材等をできるだけ使用しながら進めていく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明について。関連する他の科目（自然環境科学の基礎（物理学）、統計とデータ分析、環境モデル論 II など）の概要と本科目との関連性についての解説。
第 2 回	玩具「水飲み鳥」はどのようなモデルなのか？	資源として「水」を飲み、排出物として「水蒸気」を大気中に拡散させる水飲み鳥の運動のメカニズムについて。水という物質の「量の保存」と「質の劣化」についてのイメージをつかむ。そこには地球システムならびに人間活動の特徴が凝縮している。孤立系と開放系そして定常とは？
第 3 回	地球というシステムを眺める（宇宙から微生物までを考えると）	太陽と地球そしてエネルギーを概観する。太陽定数と地球のエネルギー収支。光合成のメカニズムと炭水化物（糖）。生態系と炭素・窒素などの物質循環。水の大循環と地球の放熱。生物（生産者、消費者、分解者）は物質循環に対してどのような役割を担っているのか？
第 4 回	物質と人為を考える（人間活動による物質とその移動について）	工業製品等の生産とその消費活動のプロセスを例にして、資源の採取から廃棄処分に至る過程を考察する。物質はどのように変化し最後はどこに行くのか？ 廃棄物を焼却処理すると減量化するが、はたして物質は消えて無くなったのか？
第 5 回	エネルギーと人為を考える（人間活動によるエネルギーの変化とその移動について）	エネルギー資源の採取から変換、利用に至るプロセスを考察する。エネルギーはどのように変換され、最後はどこに行くのか？ エネルギーは消費されると消えて無くなるものなのか？

第 6 回 自然の法則と環境 1

熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。これらの法則は「地球システム」、「人為」とどのように関係しているのか？ エントロピーとは何か？ エクセルギーとは何か？ 環境系のモデルとしての定常開放系について。熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。エントロピーが増大するとはどのようなことか？ ゴミ捨て場はエントロピーのたまり場。エントロピー増大の結果としての環境問題について。

第 7 回 自然の法則と環境 2

第 8 回 ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る人為の熱力学 1

人間活動の特徴をLCAの立場から考察する。ライフサイクルとは何か？ インベントリ分析、システム境界などの解説。物質・エネルギーの保存則と拡散則はLCAではどのように表現されているか？

第 9 回 ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る人為の熱力学 2

製品やサービスに対する環境影響評価の具体例を用いて考察する。資源採掘、加工・変換、運搬、消費（使用）、廃棄、回収、処分などのプロセスと物質・エネルギーの流れについて。

第 10 回 エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る 1

人間活動による環境負荷の大きさをエコロジカルフットプリント指標で測る。資源消費・廃棄物等排出の量と土地面積への変換について。野菜の室内栽培（野菜工場）の環境負荷はどれくらいなのか？ 露地栽培とはどちらが負荷は少ないのか？

第 11 回 エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る 2

人類のエコロジカルフットプリントの増大と地球の扶養力について。地球は今ここで行われている人間活動を支え扶養する力（容量）を持っているのか？

第 12 回 持続可能性への考察 1

資源量と廃棄物を受け取る空間の有限性（地球の有限性）と成長の限界について考察する。自然界における物質循環と人工的な物質循環の考察。クローズド・ループ・インダストリは存在するのか？ ゼロエミッションは可能なのか？ そもそも永久機関は存在するのか？ エントロピー増大則に伴う「壁」について。

第 13 回 持続可能性への考察 2

玩具「水飲み鳥」再登場。広い空間では動き続ける水飲み鳥だが、狭い空間に置くと動きが止まる。しかしその狭い空間でも工夫すると動きが持続する。エントロピーの増大と廃棄、そして循環と持続の考察へ。環境系のエッセンスを分析しモデルする。参加者による総合討論を行う。講義内容をまとめる。

第 14 回 総括 1

第 15 回 総括 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により判定します。授業時には出席は取りません。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をしないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論 II」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「自然環境科学の基礎（物理学）」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することもお勧めします。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA215

環境モデル論Ⅱ

渡邊 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「循環」と「持続」を考える
 本科目では持続可能とは何か？という問題を自然科学的な観点からより具体的に考えることをテーマとする。自然界にはおいては物質・エネルギーは保存されているが、様々な現象はこの保存則だけによって支配されているわけではない。物事が進むにはその方向（時間の矢）があり、それらは拡散する（言い換えるとエントロピーは増大する）という特徴を持っている。系を持続可能とするためにはこの増大したエントロピーを廃棄し続ける必要がある。持続という言葉はシステムの時間経過に対する不変性（安定性）を意味するものであり、その問題を考察するためには対象系の状態遷移の様子（時間発展、ダイナミクス）を調べるのがひとつのアプローチであろう。本科目では、自然界において観察されているいくつかの現象や具体例を眺めてみることにより定常開放システムが持続していくための条件等を探ることとする。そのため比較的容易に理解できるシステムダイナミクス（SD）手法を習得し様々な系のダイナミクスをシミュレーション体験する。フィードバック機構とその役割、時間遅れの影響などについて理解を深める。さらには持続可能というテーマに対しエントロピー増大則などを含めた熱力学的考察をおこなう。

【到達目標】

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。自然界で観察されている幾つかの現象を再現しそれを分析する力を身につけることを目標としている。またエントロピーの概念を習得し、物質循環などの問題に結び付けて考察ができるようになることも目標のひとつである。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大方理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業としたい。情報教室を使用し、特に EXCEL を利用することが多くなる。授業では、ほぼ毎回 EXCEL についての演習を行う時間を設ける予定である。EXCEL をより高度利用したいと考えている方にとっても有意義な内容となるであろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第2回	情報教室の利用のしかた	情報実習室環境の説明と各種ソフトウェア+ネットワークの利用のしかたについて
第3回	EXCELラーニング	表計算機能、グラフ機能、データベース機能の使用法を習得する。
第4回	システムダイナミクス（SD）入門1	様々な問題の構造とその分析、原因と結果の因果関係の分析、シナリオの描画、モデルの検証などについて。SDで使用される記号とフローの描き方。レベル（ストック、状態）とレート（流量、フロー（流れ）、情報、コンバータ、ソース、システム境界等の概念と計算手法の習得。
第5回	システムダイナミクス（SD）入門2	具体例をもとにしてSD計算をEXCEL上で体験する。正と負のフィードバック（因果関係）ループの理解。その構造がシステムに与える影響（効果）を調べる。それにより「持続する」を考察する。
第6回	システムダイナミクス（SD）入門3	具体例をもとにしてSD計算をEXCEL上で体験する。時間遅れの構造とそれがシステムに与える影響（効果）を調べる。それにより「持続する」を考察する。

第7回 成長の限界1

ローマクラブ「成長の限界」（1972）とSDによる世界モデルの紹介。人口、食糧、工業生産、資源消費量などの成長とその限界について。幾何級数成長（指数関数的成長）のメカニズムを銀行預金、利子返済などの簡単な例で体感する。

第8回 成長の限界2

細菌増殖モデルとそのシミュレーションについて。限られたスペースで増殖する細菌の増殖曲線（S字型曲線、ロジスティック曲線）にこめられた成長と限界のメカニズムの分析。細菌数増加と残されたスペース（栄養）の減少との関係について。

第9回 成長の限界3

喰う者と喰われる者（例えばウサギとヤマメコ）に関する個体数変動のダイナミクスについて。ロトカ・ヴォルテラによる捕食と被捕食（2体）の競合関係と正・負フィードバックの効果の分析。自然界が持っている持続性のメカニズムをSDにより解析する。喰う者喰われる者の拡張としての多体間の個体数変動のダイナミクスについて。3体、4体間の競合と持続性をSDにより解析する。

第10回 成長の限界4

複雑系とカオス理論について。決定論と確率論、初期値敏感性（バタフライ効果）と予測（不）可能性、ロジック写像とリターンマップなどの理解。決定論カオス（非線形力学）と環境問題との関係性を考察する。複雑系とフラクタルについて。自己相似性、フラクタル次元などの理解とグラフィックスによる描画。自然界においてフラクタル構造はなぜ出現するか？などを考察する。株価の変動、地震のエネルギーなどもフラクタル分布。

第11回 複雑系の世界1

本科目で見てきたダイナミクスの特徴を熱力学的側面から浮き彫りにする。フィードバックと時間遅れ、多体間の競争・競合、非線形力学等のメカニズムとエントロピー論との関連性について。

第12回 複雑系の世界2

ローマクラブ「成長の限界」（1972）、「限界を超えて」（1992）、「成長の限界 人類の選択」（2004）をどのように読むか？ ナチュラール・ステップ「ナチュラール・チャレンジ」（1998）の言う持続可能な社会のための条件をどのように解釈するか？

第13回 循環と持続を考える1

講義内容をまとめ、レポートの出題を行う。

第14回 循環と持続を考える2

第15回 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。出席状況を重視し、これと最終授業時に提出するレポートの内容を勘案して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報教室を利用します。受講にあたっては皆さんのパソコン経験の有り無しは問いません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をしないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論Ⅰ」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的立場づけとして「自然環境科学の基礎（物理学）」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することもお勧めします。本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA222

自然災害論

杉戸 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなり科目です。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「いつ」「どこで」「何が」起こり得てその地がどうなるのか。人間社会は「その時」にどう備えるか。実例やメカニズム、リスクを検証し、災害の自然的・社会的背景をさぐる。

【到達目標】

自然災害を決定づける要因を俯瞰し、自然界がもたらすハザードや社会基盤の脆弱性といった側面から災害と正しく向き合う視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

災害をもたらす自然現象をなくすことはできない。東日本大震災を経験しつつあるいま、リスクに配慮した防災力の高い地域社会の構築に向け、多角的なアプローチが急務である。本講義ではハザードの実態やまちづくりのハード面に関わる現状を解説する。講義形式。災害調査現地データを含むスライドも活用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然災害のとらえ方	自然界のもたらすハザード、人間社会の脆弱性、防災の考え方
第2回	実際の自然災害：地震災害1	東日本大震災、阪神・淡路大震災、地殻変動、地震動、切土盛土問題
第3回	実際の自然災害：地震災害2	建物、耕作地、道路鉄道網、ライフライン、電話網、工場、学校・病院等、文化財
第4回	実際の自然災害：気象災害	紀伊半島豪雨災害、東海豪雨災害、河川氾濫、内水氾濫
第5回	地震災害のメカニズムと将来予測1	地震の長期評価、地盤増幅率、キラールバルス、長周期地震動
第6回	地震災害のメカニズムと将来予測2	液状化、地震火災、津波
第7回	火山災害のメカニズムと将来予測	噴火予測、火砕流、火山泥流、山体崩壊、溶岩流、噴石、火山灰
第8回	気象災害のメカニズムと将来予測	豪雨と積乱雲、竜巻、落雷、台風、大潮、大雪
第9回	土砂災害のメカニズムと将来予測	斜面崩壊（表層崩壊・深層崩壊）、地すべり、土石流、岩屑なだれ
第10回	防災気象情報	長期予測と直前予測、伝達手段、担い手、気象警報、緊急地震速報、噴火警報、避難指示等、災害対策基本法
第11回	災害と土地利用	災害危険区域、移転促進区域、土砂災害警戒区域、活断層直上、適応と退却
第12回	災害と社会基盤	耐震化、不燃化、建築基準、治山、砂防、治水、避難場所、避難所
第13回	災害の歴史・災害経験の継承	2011年東北地方太平洋沖地震と869年貞観地震、2004年中越地震と1847年善光寺地震、災害地名、震災遺構
第14回	ハザードマップのこれから	行政からみたハザードマップ、地域住民からみたハザードマップ、地域防災計画、防災教育、地域コミュニティ
第15回	自然災害の激化とその背景	地球温暖化、都市集中、人口減少、高齢化率上昇、まちづくり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関わる文献等を参照して準備学習および復習を行う。また、自然環境、自然災害、防災、まちづくり、災害の歴史といったキーワードを意識し、時の話題や映像等に積極的に触れる。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

HA316

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解し、人間活動との持続的な調和を探索していくには、科学の視点が欠かせません。本講義では、様々なスケールで自然環境の仕組みや歴史を捉えるとともに、人間活動による影響軽減に向けて保全生物学、景観生態学、フィールド科学からのアプローチの重要性を理解し、人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物の進化と地球的視野の自然環境問題
- ②保全生態学による野生生物の保護と管理
- ③景観生態学とフィールド科学の実際
- ④人間活動と自然資源との関わりとそのあり方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「生物進化の概要」、「食料資源としての野生生物」、「保全生態学及び環境倫理学の基礎と事例」、「アジアに見る人と自然との関わり」、「景観生態学とフィールド科学の基本と実際」、「経済活動と生物多様性」などについて学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づいて保全のあり方を考える能力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、社会と人を動かすこと
第2回	生物の進化(1)	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第3回	生物の進化(2)	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第4回	食料資源か野生動物か(1)	マグロ問題を例とした国際的・国内的な取り組み
第5回	食料資源か野生動物か(2)	ウナギ問題を例として、漁業資源の管理
第6回	保全生物学入門	カワソウを例として、保全生物学とは
第7回	地球温暖化と野生生物	気候変動による生物多様性への影響、渡り鳥などの事例
第8回	環境倫理学入門	環境倫理学とは、軋轢の事例から考える
第9回	アジアに見る人と自然との関わり(1)	熱帯泥炭地の役割と炭素管理問題
第10回	アジアに見る人と自然との関わり(2)	湿地と人との共生文化、熱帯林の生物多様性と取り巻く諸課題
第11回	アジアに見る人と自然との関わり(3)	熱帯雨林を取り巻く現状、アジアにおけるツーリズム
第12回	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット
第13回	景観生態学入門	景観生態学の基本、地理情報システムとリモートセンシング技術とその適用事例
第14回	フィールド科学の実際	湿原を例にした野外調査の実際、自然環境情報
第15回	まとめ	これまでの復習、地球科学から地域科学までのスケールダウン／アップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃接するメディアや日常生活において、自然環境に関わる情報や科学的な話題などに関心を払うよう努めます。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

本講義は応用的内容を含みますので、基礎的な知識と理解として自然環境科学の基礎（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を併せて受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、時々感想や質問を記述してもらうことがあります。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・国際環境協力コース・環境サイエンスコース

HA315

公害防止管理論 I

大岡 健三

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経営や企業の海外展開において環境は極めて重要であり、行政職を含め環境保全で国際協力する機会も増えている。当講座では水環境と産業公害の実務知識をビジュアル中心で学び、基本的な水質管理の基礎知識が理解できる人材育成をめざす。同時に、理系知識のない学生向けに公害防止管理者国家資格の取得準備のための基礎知識を分かりやすく解説する。

【到達目標】

水に関する環境キーワードを理解し、環境系学部卒にふさわしい水環境の実践的知識を基礎から習得する。米国の環境科学テーマや新聞記事も一部交えて国際レベルの環境情報も学ぶことができ、実社会において有効な環境スキルの理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

水環境の事例から実践知識を学ぶ。各論では、現地で取材した産業公害の実際、有害物質、汚染メカニズム、環境法等を理解して、環境問題の基礎を学ぶ。同時に、水質浄化技術の基礎を学ぶことによって水に関する環境保全方法を習得する。実際の企業向け教材なども適宜使用し国際レベルの最新情報にも触れる。成績評価は、授業内に行く簡単な試験と出席率で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	水俣病・イタイイタイ病から廃棄物問題、ベトナム、ネパール砒素汚染まで事例研究	現地取材した汚染実態などを写真で見えて、浄化対策及び公害防止の側面からの分析をする。関連知識の取得。
第2回	水質汚濁の現状と原因	水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を研究。
第3回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水汚染の発生メカニズムを理解する。
第4回	環境法概論および水質環境基準	環境基本法、水質汚濁防止法、土壌汚染対策法、公害防止者管理法等の概論。
第5回	環境法各論	水質汚濁防止法、廃棄物処理法の各論。違反事例も研究。
第6回	物理化学的処理法 1	処理計画及び工場排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法をわかりやすく解説。
第7回	物理化学的処理法 2	排水を浄化するための浮上分離、ろ過などの原理を学ぶ。
第8回	物理化学的処理法 3	化学処理法その他手法を学ぶ。pH調整、酸化と還元、膜分離、汚泥脱水など
第9回	生物学的処理法	排水を浄化するための好気性微生物を利用する処理法の概要を学ぶ。
第10回	生物処理法および高度処理法	排水を浄化するための活性炭利用等高度な処理法および嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説する。
第11回	有害物質処理法 1	健康に有害な重金属物質を含む排水を浄化するための処理法。
第12回	有害物質処理法 2	健康に有害な有機化合物質などを含む排水を浄化するための処理法。
第13回	水質測定法	水質測定の基礎知識と水質汚濁物質についての測定方法。
第14回	公害防止の実践	事業所における事例、ビジュアル利用による実践事例の研究。予備小テスト。
第15回	総括と試験	総括春学期習得事項の整理と小テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Web 公開されている公害防止管理者等国家試験の過去問を授業中またはホームページで使用。市販の書籍またはインターネット検索により予習復習を課すことがある。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布する予定

【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」

発行所 (社) 産業環境管理協会
「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」

発行所 (社) 産業環境管理協会
「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」

発行所 (社) 産業環境管理協会 2013年 2800円

【成績評価の方法と基準】

授業内で簡単な小テストを行い、出席率など平常点と合わせて総合点で判定する。配分は小テストが80%、平常点20%。

A+：100-90 A：89-80 B：79-70

C：69-60 D：59点以下で不合格。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の意見をアンケートで適宜提供してもらい次回授業に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントによる映像を利用

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA315

公害防止管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の健康や生活環境保全のためには、企業の生産現場における公害防止技術が必要不可欠である。

我が国は1960年代の高度経済成長期に深刻な公害問題を抱え、1970年代に環境法規の整備、環境設備への投資、処理技術開発、企業努力によってそれを克服した経緯がある。本講座では大気保全の歴史や法規制、排ガス処理技術、測定技術について基礎的知識を習得し、企業の環境管理について学ぶ。

【到達目標】

大気保全の歴史や法規制、排ガス処理技術、測定技術について基礎的知識を習得し、企業の環境管理を担う、公害防止管理者の国家資格取得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半は大気汚染の歴史、現在の大気汚染問題や汚染メカニズム、大気汚染防止法等の環境法規などの環境保全の知識を学び、後半は燃焼管理方法、排ガス処理技術、測定法等の排ガス管理・処理技術を学ぶ。授業は基本的事項を学んだ後に、例題を解く方式で理解を深める。定期試験ではなく、授業内に行う2回の試験と出席率で成績評価を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と現状	わが国及び海外の大気汚染のエピソード及びわが国の大気汚染の現状。
第2回	大気汚染のメカニズム、地球環境問題	大気汚染の発生メカニズムと地球環境問題の概要
第3回	大気汚染物質の発生源と大気拡散	大気汚染物質の発生源の種類と発生源から排出された大気汚染物質がどのように拡散して我々の健康に影響を及ぼすのか。
第4回	大気汚染による影響	大気汚染物質による人への健康及び植物への影響について。
第5回	燃料の種類と燃焼管理方法	発生源から排出される大気汚染物質の量は、燃料の種類と燃焼管理方法によってどのように異なるか。
第6回	燃焼計算	燃料と空気を燃焼させるときの空気量や発生する燃焼ガス量を求める。
第7回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術。
第8回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物の排出低減及び処理技術。
第9回	ダストの粒径分布と集じん性能	排出ガスに含まれる粒子（すす）を除去する技術を習得するための基礎知識。
第10回	ダストの粒径分布と集じん性能	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除去技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除去技術。
第11回	除じん・集じん技術	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除去技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除去技術。
第12回	硫黄酸化物の測定法	排ガス中の硫黄酸化物の測定におけるサンプリング方法及び分析方法。
第13回	窒素酸化物の測定法	排ガス中の窒素酸化物の測定におけるサンプリング方法及び分析方法。
第14回	ばいじん測定方法	排出ガスに含まれる粒子についての測定技術。
第15回	総括試験	本講座の内容を総括した試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新・公害防止の技術と法規 大気編の関連箇所を事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回の授業に補助資料を配付する。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規 大気編
発行所 (社) 産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

授業内で筆記試験を行い、総合点で判定する。

A+：100-90 A：89-80 B：79-70 C：69-60 D：59点以下で不合格

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果が出ていないので、記述できない。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・環境サイエンスコース

HA315

廃棄物・リサイクル論

鈴木 儀郎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の環境問題全体を俯瞰したうえで、それらの中でも特に重要なテーマのひとつとなっている廃棄物の処理の現状と課題やリサイクルの手法と意義などに関する基礎知識を学ぶとともに、超高齢化など将来への変化に伴って想定すべき廃棄物問題とその解決策を自ら考えようとする姿勢を身につけるための基礎として、いま「廃棄物処理はみんなの問題」と言われるのはなぜなのか、循環型社会の形成が推進されている背景事情は何なのかなどの知識を学ぶ。

【到達目標】

現実の廃棄物問題は複雑で多様で簡単には片付かない。その第一の理由は「廃棄物」の定義の難しさにあるのでまず廃棄物と有価物の差異を学ぶとともに各自の生活に身近な廃棄物がどこに運ばれどのように処理されるかを知り、処理方法のうちリサイクルはどのように位置づけられるか理解する。また廃棄物処理法と各種リサイクル法規の考え方を学ぶ。そのうえでリサイクルなど3R政策の現状と意義、今後の廃棄物対策のあり方を考えるための知識と考える力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回の講義資料をもとにして講義を進め、日常の生活、歴史と文化、法律、経済、技術などの様々な側面から廃棄物問題の基礎知識を学ぶ。毎回の出席表に各自のコメントなどを記入するリアクションペーパーを用いる方式により、廃棄物問題についての考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	全体構成と進め方 まず知っておくべき廃棄物の基本的な事実と知識（1）	講義の全体像を説明したのち廃棄物とは何かという概念整理を行い廃棄物と有価物の違いについての基礎知識を得る。
第2回	廃棄物の基本的な事実と知識（2）	自分が日常排出しているごみの処理方法について考えることを通じて廃棄物処理方法の多様さについての知識を得る。
第3回	廃棄物の基本的な事実と知識（3）	明治時代の東京、大阪や中世のパリなどの廃棄物再生利用を学びリサイクルの価値観の変化についての知識を得る。
第4回	廃棄物処理の法制度の基本	廃棄物処理法の仕組みと基本的な考え方について知識を得る。
第5回	廃棄物処理はみんなの責任	国民、事業者、自治体、国がそれぞれどのような法的責任を有しているかについて知識を得る。
第6回	一般廃棄物処理の体系	一般廃棄物処理と産業廃棄物処理との制度上の違いとその背景や実態などについて知識を得る。
第7回	産業廃棄物処理の体系	産業廃棄物処理の制度などについての知識を得る。
第8回	特別管理廃棄物の処理の考え方	PCB廃棄物を具体的に学び特別管理廃棄物制度の意義や処理方法についての知識を得る。

第9回	廃棄物処理の技術の基本的原則	安定化、無害化、減量化という過去から現在まで継続して重要である基本的原則の背景や必要性を知る。
第10回	中間処理技術	焼却などの中間処理技術について知識を得る。
第11回	リサイクル技術	エコタウンと呼ばれるリサイクル団地などを事例としてリサイクル技術について知識を得る。
第12回	最終処分技術	埋め立て技術についてその考え方や技術的背景の知識を得る。
第13回	災害環境研究と海外の廃棄物処理	仮想の都市の現状・将来の姿などの考察の前提条件を説明し、レポートを出題する。
第14回	まとめとレポートの出題	講義全体の内容をまとめるとともに、講義内容全体の理解を深めて考える力をつけるためのレポートを出題する
第15回	レポートの提出と小テスト	レポートを提出するとともに講義で得た基礎知識の理解度を確認するための小テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

より効果的に講義が受講できるように、各自が住んでいる自治体で日常どのようなごみの分別・ごみ出しをすべきなのか、自治体のホームページや回覧板などで見ておくことと良い。新聞報道等でごみ処理やリサイクルなどの記事があったら注意深く読みなぜ記事のことが起こっているのか考える訓練をしておくことと良い。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布する。

【参考書】

平成26年版図で見る環境・循環型社会・生物多様性白書
「人間とごみ」カトリヌ・ド・シルギー著 新評論
「明治日本のごみ対策」溝入茂著 リサイクル文化社
「ごみ減量 全国自治体の挑戦」服部美佐子著 丸善
「持続可能リサイクル設計入門」長井寿編著 化学工業日報社

【成績評価の方法と基準】

出席の状況、提出レポートの内容、小テストの結果により総合的に評価する。成績評価要素ごとの配分は平常点20%、レポート40%、小テスト40%とする。小テストは配布資料、ノート、参考書などの紙資料は何でも持ち込み自由だが、モバイルパソコン、スマートフォン、携帯電話などの情報機器の使用は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

各講義時間の終了時に提出してもら出席票に書き込まれる各自のコメントや質問を次回の講義に反映できるようにし、双方向の講義の実施を図る。

【学生が準備すべき機器他】

携帯電話、スマホ等を含めたすべての情報機器について講義時間中の使用は認めない。

【その他の重要事項】

- ・小テストにおいては配布する資料やノートなどの持込を可とする。
- ・旧科目名称「リサイクル論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。
- ・講義内容は入れ替えがあり得ます。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・環境サイエンスコース

HA318

環境教育論

曽我 幸代

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：木 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境破壊をはじめとして持続不可能と思える状況が深刻化・複雑化する現代社会において、人間と自然および自己と他者などの関係性を問い直すことが求められている。自分自身の「環境」について、さまざまな視点から改めて考えていく。

【到達目標】

この授業を通じて、一人ひとりが、持続不可能とも思える現状を問い直しながら、あるべき持続可能な社会像や新たな関係性を再考し、それぞれがこれからの環境教育のあり方を考えることをねらいとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

環境教育の成立とあゆみ、展開や、さまざまな環境教育実践を学び、持続可能な社会の構築にむけて、3.11以降の環境教育のあり方を考える。なお、授業では一人ひとりの意見や思いを共有するために、対話型および参加型の手法を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：環境教育と「私」	これまでの「私」の経験を振り返りながら、環境教育の意義を捉える。
第2回	環境教育の歩み	国際会議における環境教育の位置づけを確認しながら、その特徴を学ぶ。
第3回	持続可能な開発と環境教育（1）	持続可能な開発を考える前提として、自然と人間の関係性について考える。
第4回	持続可能な開発と環境教育（2）	途上国と先進国の関係を再考しながら、持続可能な開発とは何かを捉える。
第5回	持続可能な開発と環境教育（3）	国際協力の実践を通して、環境教育における社会正義について考える。
第6回	消費者としての「私」と環境教育（1）	食の営みにおける生産と「私」の関わりについて考える。
第7回	消費者としての「私」と環境教育（2）	食の営みにおける消費と「私」の関わりについて考える。
第8回	消費者としての「私」と環境教育（3）	生活における廃棄と「私」の関わりについて考える。
第9回	消費者としての「私」と環境教育（4）	生活に関わる生産・消費・廃棄のプロセスを考える。
第10回	「教育」と「私」と「環境」	私たちの教育環境について改めて問い直ししながら、教育の意義について考える。
第11回	学校における環境教育（1）	環境教育とESDの違いを探り、学校での環境教育のあり方について検討する。
第12回	学校における環境教育（2）	ホールスクール・アプローチの実践から、学校教育における「環境」を考える。
第13回	持続可能性と環境教育（1）：環境と「わたし」	「わたし」にとって環境とは何かを改めて問い、これからの環境教育について考える。
第14回	持続可能性と環境教育（2）：環境と教育	環境教育とは何かについて改めて問い直し、その重要性について考える。
第15回	持続可能性と環境教育（3）：環境と「わたし」と教育	持続可能なコミュニティを形成するために求められる環境教育のあり方を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ活動に積極的に参加できるように、人の話を聴き、考えること、「当たり前」と思っている常識を疑うこと、また思いや考えを表現していくことを日頃から練習していきましょう。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに配布する。

【参考書】

講義ごとに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、リアクションペーパー 30%、グループ活動 30%、課題レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

より専門的な知識の提供を希望する声や、グループ活動の妥当性を問う声があったため、環境教育のあり方を批判的に捉えるためのさまざまな知見を適宜提供するとともに、授業内容に沿って、個人の活動とグループ活動の機会の見直しを行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター、スクリーン、DVD

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA340

キャリア入門

長峰 登記夫

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn job careers.

【到達目標】

This class aims to give students an opportunity to study what the job career is, why they should learn it, and how it is made. By so doing, this subject will give students hints to think about their career and help them understand issues about career making and make their own career in future.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This class is run in English and basically in the form of lecture. The lecture will take up various topics in regard to career making. Students are supposed to read materials in advance, ask questions and answer the questions. Also, students will be required to make a presentation in class. A few guest speakers are to be invited. Lecturers will deal with several countries, but mainly English speaking countries.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Intorduction to career studies	What Career Studies is will be discussed.
第 2 回	Why career studies?	It will be discussed why we should study job careers.
第 3 回	Basic aspects of career making	An overview will be given of what the Government and companies see important in career making.
第 4 回	From education to occupation	Career education, training and support of students for their job seeking at the university.
第 5 回	Finding a job	The lecture will give an overview of how Japanese students and students in other countries find a job.
第 6 回	Global careers (1) how to make a global career	How and to what extent do Japanese companies employ students who wish to make a global career, including kikokusei and Japanese students studying overseas.
第 7 回	Global careers (2) global human resources	How do overseas students studying in Japan find a job in Japan?
第 8 回	Career changes and epochs in career making	Students will think about career changes and/or epochs in career making they may experience in life.
第 9 回	Women's career and its international comparison	Women's career is different from men's and the difference varies from country to country. Students will learn the present situation and why.
第 10 回	Career women in technical and professional jobs	Technical and professional jobs are jobs where men and women can make career on the relatively equal footing. Why?
第 11 回	How to make a job career (1)	Guest speaker will talk about his/her own job career.
第 12 回	How to make a job career (2)	Same as above.
第 13 回	How to make a job career (3)	Same as above.
第 14 回	Summary	Summary of the study in this class.
第 15 回	Final exam.	To check students' understanding of the lectures, students are to sit for the final examination.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are supposed to read materials carefully in advance and make clear what they cannot understand and should be ready to ask questions, answer questions asked by the lecturers or make comments on the lecturers' talk.

【テキスト（教科書）】

Reading materials are provided from time to time prior to the lecture. This class does not use a particular textbook.

【参考書】

References will be shown at the beginning of the class.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will be made in three ways; one by attendance, another by short exams and the other by a final exam or an essay. Minimum attendance required to get credits is 80%. Students will frequently have a short exam in class. Also, the final exam will be conducted in the final class or students instead may be required to submit an essay with 3,000 words.

【学生の意見等からの気づき】

Students seem to be interested in experience talks by business people.

【その他の重要事項】

Students have been learning English for many years. This class will offer challenge to learn something (job careers)in English, not to learn the English language. Never mind, just try to join us.

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

HA374

食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展段階が先進国段階に到達した現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学の立場から検討する。日本農業の現状を理解するに際して、置かれている国際的連関に基づく制約条件に留意する。

【到達目標】

農業経済学の基本的な知識を身につけるとともに、日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、論理的に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本農業及び農業政策が現在置かれている状況について、国際交渉、国内市場、農業構造、環境問題等との関係から検討する。また、農業の現場で何が起きているのか、実例を踏まえて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	プロローグー現代日本における農業問題の枠組み	先進国段階に到達した日本農業が直面している問題と取るべき政策について、理論的に解説する。
第2回	ガット・ウルグアイ・ラウンドと先進国の農政改革	1990年代以降の先進国の農政改革と、それを規定したガット・ウルグアイ・ラウンドについて解説する。
第3回	WTO・ドーハ・ラウンドの展開と国際貿易交渉の多層化	現在も継続中のWTOドーハラウンドの展開と、FTA/EPAの広がりについて解説する。
第4回	多国籍アグリビジネスとフード・ナノテクの普及	国際農産物貿易に大きな影響を与える多国籍アグリビジネスの活動と、フード・ナノテクの普及による影響について解説する。
第5回	国際農産物市場の現局面と日本の農産物貿易	国際農産物市場の現局面と、日本の農産物貿易の状況、特に食料自給率に注目して解説する。
第6回	日本経済の構造転換と米市場	日本農業において最も重要な農産物である米について、日本農業の構造転換の影響を受けた家計との関係から考察する。
第7回	「イエ」と「ムラ」	日本農業・農村の基底を性格付ける「イエ」と「ムラ」について解説する。
第8回	農業労働力の脆弱化と就農ルートの多様化	農業労働力の高齢化・引退と、新規参入者等による補充の動きについて解説する。
第9回	多様な「担い手」と農地制度改革	日本農業を支える「担い手」の経営展開と、展開経路に影響を与える農地制度改革について解説する。
第10回	中山間地域農業と都市農業	条件不利地域農業としての中山間地域農業と都市農業が抱える問題について、理論・実態から解説する。
第11回	農業と環境	農業と環境の関係について、「多面的機能論」と関わらせながら理論・実態から解説する。
第12回	食品安全問題と産直運動	BSE問題を中心とした食品安全問題の発生と、それに対する産直運動の有効性を検証する。
第13回	農業協同組合の機能と課題	農業協同組合が日本農業において果たしてきた役割と抱えている課題について解説する。
第14回	政権交代と農業政策	小泉政権から民主党、そして自民党への再政権交代を経た農政の変化を検証する。
第15回	エピローグー現代日本の農業問題	これまでの講義の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞で農業関係の記事があったら、読んでおくことをお勧めします。また、国際経済、地域経済、環境経済に関連した他の講義を合わせて履修することをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

- ①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012年（本体2,600円＋税）。
②中野一新・岡田知弘編『グローバリゼーションと世界の農業』、大月書店、2007年（本体3,000円＋税）。

【参考書】

速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002年（4,200円＋税）。

【成績評価の方法と基準】

・期末テスト100%
(受講人数によっては再検討する可能性もあります)

【学生の意見等からの気づき】

より現場に近い情報を講義に盛り込みたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する予定。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース・国際環境協力コース

HA374

食と農の環境学Ⅱ

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「農」や「食」を自然環境の仕組みや環境問題から考える。

【到達目標】

「農」や「食」が現代の自然環境の仕組みや環境問題と密接にかかわっていることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

そもそも農業は、人間の「いのち」を支える「生命産業」である。また農産物は動植物の「いのち」そのものである。しかし「近代社会＝資本主義社会」においては、農業は「金儲け」の手段となり、農産物は「金銭的価値」として見なされる。こうして「市場原理＝経済的な効率性」を求めるがゆえに、農業は自然環境への負荷を高め、環境問題を引き起こしてしまうのである。そこで、この授業では、農業・農村にかかわる諸問題をとりあげるだけでなく、私たちの生命の源であり、暮らしの根幹である「食」の現場からも考察を深め、「農＝食」という立場から自然環境や環境問題を理解し、現代日本社会を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「農」から「現代日本社会」が見えてくる	まずは農業・農村に興味をもとう！・・・現代社会において農業や農村を考える意義について学習する。
第2回	高度経済成長と戦後の農業・農村社会～『ALWAYS 三丁目の夕日』は「美しい日本」なのか？	戦後の日本農業や農村社会の変容を高度経済成長との関連で学習する。
第3回	「過疎」問題と「限界集落」の出現～『田舎に泊まろう！』では伝わらない現実とは？	過疎や限界集落の成立背景やその課題について学習する。
第4回	戦後農政と農業・化学肥料の登場～なぜレイチェル・カーソンは「春は沈黙する」と言ったのか？	戦後の農業現場で普及していった農業や化学肥料の功罪について学習する。
第5回	第5回 「WTO体制」と農業・農村の「多面的価値」～田んぼはコメだけでなく自然環境も生産している！	市場経済で取り引きされない農業や農村の価値について学習する。
第6回	食生活の欧米化と食料自給率の低下～いつから「牛丼」は国民食になったのか？	戦後の日本人の食生活の変化を高度経済成長との関連で学習する。
第7回	日本人の食生活と環境破壊～エビからアジアが見えてくる！	海外に依存する日本人の食生活が途上国の自然環境の破壊につながっていることを学習する。
第8回	ファストフード批判と「スローフード」運動～マクドナルドは食文化を破壊しているのか？	食のグローバル化に対する社会運動の意義について学習する。
第9回	農業とバイオテクノロジー～「GM（遺伝子組換え）」作物は良いの？悪いの？	遺伝子組み換え作物の普及背景やその功罪について学習する。
第10回	「BSE」の発生と食品行政の転換～なぜ食に「自己責任」を求めるのか？	BSE問題から食の安全・安心やリスクについての考え方を学習する。
第11回	「有機農業」運動の始まり～都市の消費者が農家を支える関係とは？	有機農業運動の目的や意図を理解することによって消費者の農業・農村に対する役割について学習する。
第12回	「グリーン・ツーリズム（都市農村交流事業）」の登場～「棚田オーナー制」は最先端の観光！	都市住民による農村滞在や農業体験の意義について学習する。

- 第13回 「生身の自然」から「切り身の自然」へ～バック詰めの鶏肉に「いのち」を実感できるのか？
- 自分で育てた家畜を自ら解体する活動によって現代日本の食事情について学習する。
- 第14回 「循環」型社会をめざして～生ゴミのリサイクルで野菜を作って地域をつなげる！
- 生命・物質が循環する自然生態系の中に農業の営みを埋め戻す意義について学習する。
- 第15回 まとめ～「食」が変われば「農」は変わる！
- 日本の食や日本農業・農村をめぐる諸問題を理解したうえで農業や農村の意義について再度考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

参考文献は、授業で毎回紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポートの内容を90%、授業後に課すリアクションペーパーの内容を10%として評価する。なお受講者の人数次第では、評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの授業では出席をとらなかつたため、授業を欠席する学生がいたようである。そこで積極的な授業参加を促すために、毎回ではないが、授業後にリアクションペーパーを課したいと考えている。

【その他の重要事項】

旧科目名称「人間環境特論（農と食から考える現代日本社会）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA374

食と農の環境学Ⅱ

吉田 岳志

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

農業問題を考える

【到達目標】

食料生産を担う農業・農村の現状を理解するとともに①食料自給率や食品の安全性確保の現状と課題②農業生産を支える技術の発展と課題③産業としての農業生産活動と環境保全機能の関係④地球環境問題に対応した農業生産⑤新たな農業生産の展望、等についての知識を取得し、農業問題について多面的なものの見方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

(概要)

食料自給率や世界の食料問題について紹介するとともに、これまでの我が国の農業生産の推移を技術や政策の転換に着目しながら講義します。その上で、現在の農業の主な課題である①環境保全型農業②食の安全問題（リスク分析の考え方）③遺伝子組み換え技術をはじめとしたバイオテクノロジーやITの農業への応用④地球温暖化と農業⑤生物多様性と農業等について現状と課題を講義します。

(方法)

パワーポイントを使った講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の農業	わが国で行われているさまざまな農業の形態を紹介します。
第 2 回	農業生産の推移	戦後 60 年の農業生産の推移を技術の発展や政策の推移に着目しながら講義します。
第 3 回	食料自給率	世界の食料問題、食料自給率の推移、海外との比較、食料自給率が低い要因、食料自給率向上に向けた取組等について講義します。
第 4 回	農村の現状	農業の担い手問題、農村の多面的機能、それが損なわれている現状、鳥獣害対策等について講義します。
第 5 回	食品の安全問題	様々な危害要因と食品の安全性との関係、リスク分析の考え方等を講義します。
第 6 回	農業生産資材	農業機械、農業、肥料等の農業生産資材の役割と課題について講義します。
第 7 回	持続的農業生産	環境保全型農業、有機農業等持続的農業生産方式の現状と課題について講義します。
第 8 回	バイオテクノロジーと農業Ⅰ	遺伝子組み換え技術の農業分野での活用について講義します。
第 9 回	バイオテクノロジーと農業Ⅱ	遺伝子組み換え技術以外のバイオテクノロジーの農業分野での活用について講義します。
第 10 回	生物多様性と農業	農業生産活動が生物多様性に与える負荷と生物多様性を保全する役割、国際的な取り組みについて講義します。
第 11 回	地球温暖化と農業	農業生産活動による温室効果ガス発生状況、地球温暖化防止、温暖化適用技術等について講義します。
第 12 回	技術開発・普及と知的財産の保護・活用	農業部門における技術開発・普及及び新品種等知的財産の保護・活用の仕組みと課題、IT化やロボット化等新しい農業技術について講義します。
第 13 回	震災対応問題	津波や放射能汚染の被害への対応の現状と課題について講義します。
第 14 回	国際化の進展と農業農村の展望	TPP 問題等農産物の輸入自由化問題への対応及び農業・農村の現場で起きている新しい取り組みを紹介しながら、今後の農業の展望について講義します。
第 15 回	まとめ	必要に応じて 14 回までの講義の補足を行うとともに、全体を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌、テレビ等で報じられる農業問題を見たり聞いたりしながら、疑問点や気づいた点をメモしておいてください。

【テキスト（教科書）】

毎回、講義する主な項目を列記したレジュメを配り、パワーポイントを使って講義しますので、テキストは使いません。

【参考書】

農業白書（平成 25 年度食料・農業・農村の動向）
農林水産省の HP で閲覧できます。

【成績評価の方法と基準】

出席点 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

「考え方が分かりやすかった」についての学生の評価が低いようなので、伝える情報量を少し減らして、毎回の授業の結びに、その日の講義のエッセンスを伝えるようにする。

また、昨年度と同様、講義の冒頭の時間を利用して、前回の講義に対する主な質問（出席調査票に記入）に対する回答を行い、学生の理解を深める。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA339

スポーツビジネス論Ⅰ

千田 利史

配当年次／単位：年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるスポーツの意味や価値を、主に、ビジネスの側面から総合的に解説したい。

【到達目標】

ビジネスとしてのスポーツを成立させている歴史的な要因や、現在のスポーツ運営を支えるメカニズム、及び今後の展望についての体系的な知識の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツマーケティングの実務経験を持つ講師が、実施のケーススタディを紹介しつつ、最新の理論体系を解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代社会とスポーツ	見るスポーツ、するスポーツ
第 2 回	マーケティングとスポーツ	理論
第 3 回	スポーツマーケティングの実際	ケーススタディ
第 4 回	スポーツ団体の仕組み	各種競技団体
第 5 回	オリンピックの運営の仕組み	ビジネスとしてのオリンピック
第 6 回	ワールドカップサッカーの仕組み	ビジネスとしてのワールドカップ
第 7 回	競技団体とスポンサー	企業のスポンサーシップ
第 8 回	広告会社の役割	広告会社のスポーツ部門の仕事
第 9 回	人気スポーツと財政基盤	野球、すも、バレーボール、スケート
第 10 回	テレビとスポーツ	放映権とスポーツ番組
第 11 回	報道とスポーツ	ニュースとスポーツの関係
第 12 回	インターネット状況とスポーツ	新しいメディアとスポーツ
第 13 回	スポーツと消費者	理論、消費者類型
第 14 回	現代社会にとってのスポーツの意味	総論
第 15 回	現代のスポーツビジネスの課題と可能性（まとめ）	スポーツビジネスのさらなる成長には、何が必要か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常から、スポーツに関心を持つこと。
試合結果だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ネットなどでスポーツビジネスに関する記事に多く目を通していただくこと。

【テキスト（教科書）】

各テーマに応じ配布する。

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

レポートの評価（50%）
および平常点（50%）を加味する

【学生の意見等からの気づき】

ビジュアル素材などもより積極的に活用する。
最新のスポーツ界の動向を解説し、紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

ビデオ、スライドなどを活用

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA339

スポーツビジネス論Ⅱ

千田 利史

配当年次／単位：年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツビジネス上の課題を発見し、その解決策を考案する。
チームでのプレゼンテーションを行い、チームごとに競う。

【到達目標】

課題の発見と、その解決策を、グループ学習も加えて学ぶ機会とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスの応用編として、グループごとに選択した課題をもとに、ソリューションを発見し、発表する実践的な授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	課題の設定	①スポーツチームの経営 ②メディアとのよりよい関係づくり ③スポンサーシップ
第 2 回	課題の解説①	チームの運営と役割分担をどう行うか
第 3 回	課題の解説②	メディアリレーション
第 4 回	課題の解説③	スポンサーシップ
第 5 回	グループ分け	編成とリーダーの決定
第 6 回	プレゼンテーションの仕方	発表形式
第 7 回	グループ発表①	質疑 コメント
第 8 回	グループ発表②	質疑 コメント
第 9 回	中間総括	プレゼンテーションのテクニックと必要なポイント
第 10 回	グループ発表③	質疑 コメント
第 11 回	グループ発表④	質疑 コメント
第 12 回	優秀プレゼンの発表	選考基準 コメント
第 13 回	スポーツビジネスとは何か	理論の整理
第 14 回	職業としてのスポーツの可能性	スポーツに関わる職業
第 15 回	グループ発表への総評とアドバイス	スポーツビジネスの発展に、具体的なアイデアをどう活用していくべきか（まとめの議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間以外に、グループでの簡単な調整準備会議が必要です。
受講人数にもよりますが、およそ、10 人程度で一つのグループを編成し、共同でプレゼンテーション（発表）を行う。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、各回の講義で配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

グループ作業での貢献や発表内容（40%）
最終授業時の小テスト（20%）
及び平常点（40%）を合計して評価する

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の積極的な参加と発表を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

各自（グループごとに）が PPT で発表資料作成

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA340

実践キャリア論

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

就職やその後の仕事、労働環境をとらえてキャリアを考える。

【到達目標】

大学生が大学を卒業して就職し、やがて定年に至るまでの過程をキャリアの1通加と見え、それらをトータルに考える。そのなかで仕事を通して自らのキャリアを形成し、蓄積するとはどういうことかを考え、就職やその後の自らのキャリアにつなげるための基礎力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

労働環境の現場で活躍し、キャリア形成の一面を熟知している人たちを講師に招いて、キャリア形成の現場について学ぶ。第1部は入門、第2部は就職、第3部は職場でのキャリア形成、第4部は雇用に関連して困ったときの解決法について、法律、行政機関、労働組合の機能や役割などについて学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	キャリア論入門	一般的にキャリアとは何か、なぜそれを学ぶのかについて考える。
第2回	実践キャリア論の構成	実践キャリア論では具体的に、何を、なぜ、どういう順番で学ぶのかについて、概略的に説明する。
第3回	キャリアと就職	キャリアの入り口としての就職について考える（ゲストスピーカー）。
第4回	企業特殊能力（就社）	就職した企業における人材開発システムについて学ぶ（ゲストスピーカー）
第5回	特定専門能力（就職）	一企業以外で通用する専門性と自己啓発について学ぶ（ゲストスピーカー）
第6回	起業家精神（就場）	転職・個人事業・起業に必要なキャリアについて学ぶ（ゲストスピーカー）
第7回	職場での法律問題1	普通の会社員に職場で起こっている、起こりうる法律問題の実際について学ぶ（ゲストスピーカー・弁護士）。
第8回	職場での法律問題2	第7回に続く（ゲストスピーカー・弁護士）。
第9回	職場のメンタルヘルス	仕事の現場におけるメンタルヘルスの実際と対処法（ゲストスピーカー）。
第10回	仕事で困ったときは1	個別的労使紛争に焦点をあてつつ、紛争調整委員会、各県労働局、労働相談センター等の機能や業務について学ぶ（ゲストスピーカー）。
第11回	仕事で困ったときは2	労働基準監督署（官）の機能や日常業務について学び、それが私たちが仕事で困ったとき、その解決にどう結びつくのか考える。
第12回	労働組合のはたらき1	労働組合はふだん職場でどんな活動をしているのか、また、そこにはどんな問題が持ち込まれ、いかに解決しているのか。その日常活動について話を聞く（ゲストスピーカー）。
第13回	労働組合のはたらき2	労働組合は何をしたらいいのか、労働組合のナショナルセンターの仕事や機能等について学ぶ（ゲストスピーカー）。
第14回	まとめ	13回で学んだ内容を復習し、内容を確認する。
第15回	試験	これまで学んだことを確認するために論述式の試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習および事後の復習を必ずすること。また、ゲストスピーカーの話が多いので、しっかりノートを取って勉強すること。

【テキスト（教科書）】

特定の本をテキストとして使うことはしない。必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方』有斐閣ブックス、2012年。

【成績評価の方法と基準】

出席を重視し、また、最後の授業で論述式の試験により、特定のテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等を基準に評価する。出席を重視するため、出席80%以下の者は単位取得ができないことに注意が必要です。

【学生の意見等からの気づき】

取り上げてほしいテーマに関しては様々な要望があるが、可能なものは取り入れるようにしたい。

【その他の重要事項】

労働環境論Ⅰ・Ⅱで学んだ内容をより具体的な次元で学ぶ。卒業後のことを想定しながら、講義を聞き、考えてほしい。なお、ゲストスピーカーの仕事の都合によって一部変更することがあります。

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【関連の深いコース】

強いて言うならエコ経済経営コース、地域環境共生コース。しかし、就職や就職後の仕事に関連しているという点で全ての学生に関係する科目だと考えてほしい。

HA340

グローバル人材論

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will study about what sort of matters there are concerning Global Human Resources (GHR, global jinzai in the Japanese terminology) and how Japanese companies and multi-national companies deal with them.

【到達目標】

This class aims to help students learn why GHR has been discussed in Japan in recent years and understand GHR as a part of their career plan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

This class will take up various topics concerning GHR, including employment by Japanese companies of Japanese students studying overseas, overseas students studying in Japanese universities and Japanese students who wish to work in the global business areas. The class is run in English basically in the form of lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	What is GHR?	What GHR is will be discussed in the first session.
第 2 回	Quick move to GHR	It will be discussed why Japan has been moving quickly towards GHR particularly since around 2010?
第 3 回	Japanese students studying overseas	What has been happening on the employment of Japanese students studying overseas?
第 4 回	Japanese students, kikokusijo	Same as above concerning Japanese students, so-called kikokushijo.
第 5 回	Overseas students studying in Japan	Same as above concerning overseas students studying in Japan.
第 6 回	Japanese students	How are Japanese students seen by Japanese companies in terms of GHR?
第 7 回	Government policies concerning GHR	What are government policies on GHR?
第 8 回	Policies of employer organizations	What are employer organizations' policies on GHR?
第 9 回	Schools, private cramming schools and International Baccalaureate	How are schools and private cramming schools (juku and/or yobiko) trying to adapt to the growing needs to GHR and International Baccalaureate?
第 10 回	Japanese universities and their education towards GHR	What are and/or are not Japanese universities doing about GHR?
第 11 回	Employment of GHR	To what extent are there needs to the employment and use of GHR by Japanese companies?
第 12 回	Education and training for GHR in the company	Education and training for GHR by Japanese companies will be reviewed.
第 13 回	Difficulties in the employment of GHR	What sort of difficulties are there in the employment and use of GHR particularly among Japanese companies?
第 14 回	Review and summary	The class will review and summarize discussions in the past sessions of this class.
第 15 回	Final examination	Final examination.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should read handouts in advance of class and make clear what they cannot understand and should be ready to ask questions about them.

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is used, but various handouts will be provided.

【参考書】

A few reference books will be introduced in the first session.

【成績評価の方法と基準】

Assessment is made based on attendance, short exams, participation in the discussion in class and the final exam. Attendance is very important and the minimum attendance to get credits is 80%. Short exams are conducted from time to time in class. The final exam is conducted in the final class.

【学生の意見等からの気づき】

The important thing is how to carefully deal with the insufficient understanding of English by students.

【その他の重要事項】

Those students who wish to take this subject are supposed to have taken Introduction to Career Studies. They also must attend the first class with their marks in English language ability tests such as TOEFL, TOEIC, Eigo-kentei shiken and/or similar others.

【関連の深いコース】

This subject will be the basis of all the courses.

HA500

人間環境特論（アーティストと社会貢献）

庄野 真代

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境、人権、医療、福祉、災害など多様な公共的課題に関するアーティストの社会貢献活動は世界的にみても20世紀半ばから歴史的蓄積があるが、そこから生きた学問を紡ぎ出す作業は未開拓である。そこで、この授業では、私自身の「音楽を通した社会貢献・支援活動」を積んだ経験とともに、社会貢献活動を推進しているアーティストが共生社会の実現にどう関わっているのかを考えながら、参加者自身の社会性を問い直す機会とする。さらに、アーティストと大学の協働による新たな社会貢献論を構想する。

【到達目標】

- ・アーティストの社会貢献活動の歴史、現状と課題について理解する。
- ・アーティストが社会貢献活動を通じて訴えたい現代社会の諸問題を考察する。
- ・アーティストの社会貢献活動を通して、自らの社会参加について思考力を高める。
- ・社会貢献活動の実践的な企画力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず「アーティスト」「社会貢献」という言葉の定義について理解を深め、アーティストが国際社会や日本で活動を展開してきた歴史的な経緯を確認する。さらに、現代社会におけるアーティストの多様な社会貢献活動を検討しながら、それらが社会や一般市民の考えにどのような影響をおよぼしていく可能性があるのかを探る。授業形式は、毎回のテーマに添った内容を解説しながら関連した音楽や映像を紹介し、それぞれが調べてきた豆情報を持ち寄って検討する。授業期間内に1～2回、ゲストスピーカーを迎える予定をしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介と講義ガイダンス
第2回	アーティストとは？社会貢献とは？	芸術は人が豊かな精神生活を営む上で不可欠なもの。その担い手であるアーティストの定義や社会貢献の意味への理解を深める。
第3回	プロテストソングの誕生～アーティストと現代史（1）	1960年代にアメリカのフォーク歌手らが政治的抗議の歌を歌い、ジョンレノンらによって他ジャンルに広がり、音楽が社会活動となった経緯について検討する。ビート・シーガーなど。
第4回	代表的アーティストの社会貢献と自己変容～アーティストと現代史（2）	イギリスとアイルランドのロック／ポップス界のスター達で結成された「ライブ・エイド」（1984年）を契機に「USAフォー・アフリカ」「LIVE 8」などが作られ、多くのアーティストが慈善活動家として動き出した時代を考察する。ポップ・ゲルドフ、ボノなど。
第5回	社会貢献活動の軌跡～アーティストと現代史（3）	平和・環境・子ども・HIV/AIDS、貧困、災害支援、地域など、諸問題に取り組みアーティストの活動を知る。マイケルジャクソンなど。
第6回	国際社会とアーティスト～親善大使として役割	国や文化の違いを超えて交流できるアートの有用性を考察するとともに、国内外の親善大使として活動するアーティストがどのような働きをしているのかを探ってみる。アンジェリーナ・ジョリーなど。
第7回	東日本大震災とアーティストの社会貢献活動	震災後、アーティストたちが被災地支援のために手がけたことを検証するとともに、各地における反応や成果、その継続性について検討する。レディガガなど。
第8回	アートと市民社会組織	アート（文化・芸術）の促進活動そのものが社会貢献活動になっているNPO／NGO、市民団体について検討する。
第9回	企業とアーティストの協働	企業や団体が行う社会貢献活動において、アーティストが関わる（チャリティイベントなど）ケースの企画意図や効果について考える。

第10回	コミュニティ形成とアーティストの役割	アートのある場所には人が集まり一時的なコミュニティができる。そこでのアーティストの果たす役割について検討する。
第11回	社会貢献活動の企画ワークショップ	アーティストが社会貢献する企画をたててみる。
第12回	アーティスト参加型プロジェクトのケース	「ピンクリボン」「ほっとけない世界のまじしきキャンペーン」「なんとかしなきゃ！プロジェクト55億人」など、啓蒙プロジェクトに参加してきたアーティストを検証する。
第13回	クラウドファンディングなどによる支援活動例	アーティストが社会貢献するための資金集めについて最近の動向を検証し、誰もが社会参加につながる方法を知る。
第14回	新たな知の創造と社会貢献活動の展望	授業内容に基づきながら、新たな社会貢献論を構想し、さらに、社会の触媒としてのアートから生まれた提言が、今後どのように市民社会で発展していくのかを探る。
第15回	共生社会づくりへの参加の扉～誰もがチェンジャーになれる？	最終回ではなくここがスタート地点。授業全体から感じたことを「自分らしいアクション」に繋げていく意義を問うことでまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

好きなアーティストの、本来の活動をとおした社会貢献、あるいは本業外での社会貢献活動を探してみよう。次回の内容に添った豆情報一つ調べてくる。

【テキスト（教科書）】

資料を適宜、配布

【参考書】

その都度、紹介

【成績評価の方法と基準】

- ①出席 30%、②毎回、提出してもらう豆情報 20%、③課題レポート 30%、④授業内試験 20% による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

現在活動中のアーティストの動画などの紹介が好評だったため、今期も新しい情報を提供しながら講義を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター、PC、各種AV機器

【その他の重要事項】

講師が主催している復興支援コンサート「シェアリング2015」の現場（6/27）への参加、9月に全国で開催する平和市民イベント「セプテンバーコンサート」の準備スタッフとして参加を希望される方は歓迎します。是非、実際の社会貢献プログラムを体験してみてください。

【関連の深いコース】

全てのコース

HA500

人間環境特論（比較行動学）

草山 太一

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

動物の行動と生態について、繁殖および社会性の視点から概説する。社会的行動はグループを形成する動物にとっては重要であり、それぞれの動物は生息環境やその集団の持つ事情によって自身の行動を変化させてきた。ヒト以外の動物の生態や能力を知ることは、ヒトを理解する一助となる。これらの動物例を比較検討することによって、私たちヒトの行動特性を知ることを目的とする。

【到達目標】

1. 比較行動学の研究アプローチについて説明できる。
2. 行動の獲得方法について説明できる。
3. 生息環境と配偶システムの関連について説明できる。
4. 集団で生活することの利点と欠点について説明できる。
5. 性淘汰について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

PC プレゼンテーションの講義形式で行う。できるだけ動画を紹介することで、視覚的に理解しやすいように工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要、到達目標などを説明する。
第 2 回	行動研究の歴史と方法	動物研究がどのような経緯で行なわれるようになったのか、またどのような研究方法があるかについて概説する。
第 3 回	行動の獲得（1）	動物の行動は本能か、それとも経験によるのか、について、いくつかの例から説明する。
第 4 回	行動の獲得（2）	いくつかの事例をもとに、遺伝的にプログラムされている行動について説明する。
第 5 回	行動の獲得（3）	刷り込みや模倣を例に、行動の獲得方法について説明する。
第 6 回	信号・ディスプレイ（1）	動物が発するメッセージの種類、内容について説明する。
第 7 回	信号・ディスプレイ（2）	ディスプレイの由来、動物の儀式的行動について説明する。
第 8 回	群れの形成（1）	なぜ群れるのか？ その理由について説明する。
第 9 回	群れの形成（2）	群れを構成することで生じる社会的問題について説明する。
第 10 回	群れの形成（3）	「なわばり」をテーマに、群れと繁殖について解説する。
第 11 回	性淘汰（1）	自然淘汰と性淘汰について説明する。
第 12 回	性淘汰（2）	オス側の立場より、性淘汰が生じる理由について解説する。
第 13 回	性淘汰（3）	メス側の立場より、性淘汰が生じる理由について解説する。
第 14 回	性淘汰（4）	性淘汰を支える仮説について説明する。
第 15 回	まとめ	試験の実施および総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連する文献や映像資料を参照し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

『動物の社会』東海大学出版会

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

2015 年度より担当

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA500

人間環境特論（ヒトと動物の心理学）

草山 太一

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒト以外の動物がどのように世界を認知しているか、その能力を比較検討する領域は、比較認知科学と呼ばれている。記憶、社会的認知、社会的知性などさまざまな動物の認知機能に関する研究内容を紹介する。ヒト以外の動物の生態や能力を知ることは、ヒトを理解する一助となる。これらの動物例を比較検討することによって、私たちヒトの行動特性を知ることを目的とする。

【到達目標】

1. 比較認知科学の研究アプローチについて説明できる。
2. 行動の獲得方法について説明できる。
3. 記憶や忘却の仕組みについて説明できる。
4. ヒトと動物の概念形成の違いについて説明できる。
5. 動物の社会的認知について説明できる。
6. 社会的知性について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

PC プレゼンテーションの講義形式で行う。できるだけ動画を紹介することで、視覚的に理解しやすいように工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要、到達目標などを説明する。
第 2 回	比較認知科学の研究方法	動物を対象とした「こころ」の研究がどのような経緯で行なわれるようになったのか、またどのような研究方法があるかについて概説する。
第 3 回	行動の獲得（1）	レスポナント条件づけ、オペラント条件づけという行動の獲得方法について解説する。
第 4 回	行動の獲得（2）	条件づけを用いて、動物の「こころ」に関する反応を調べる研究について解説する。
第 5 回	記憶（1）	ヒトと動物の記憶に関する相違点について説明する。
第 6 回	記憶（2）	ヒトと動物の「忘却」に関する相違点について説明する。
第 7 回	概念形成	概念をもつことはヒト固有なことなのか？ ヒトと動物の相違点について解説する。
第 8 回	社会的認知（1）	同種と他種、また既知と未知、自分の仲間を視覚的にどのように見ているか、鳥類を中心に説明する。
第 9 回	社会的認知（2）	自分のことを自分と認識する「自己認知」について、いくつかの動物を対象に紹介する。
第 10 回	洞察・道具使用	動物の問題解決能力、および道具使用行動について説明する。
第 11 回	知識の継承	動物はどのように知識を獲得するのかについて、新しい知見をもとに説明する。
第 12 回	協力行動	動物の協力行動に関する最新の研究を紹介し、利己・利他的な行動の意味について解説する。
第 13 回	社会的知性（1）	社会集団の大きさと、脳の発達との関係について提唱された仮説について説明する。
第 14 回	社会的知性（2）	道具使用と直立 2 足歩行との関係より、ヒトの高度な社会的知性のルーツについて解説する。
第 15 回	まとめ	試験の実施および総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連する文献や映像資料を参照し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

渡辺茂 『ハトがわかればヒトがみえる』 共立出版

藤田和生 【比較認知科学への招待】 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

2015年度より担当

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA101

人間環境学への招待

人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学」とは何か－多様な視点を学ぶ－

【到達目標】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース・研究会などの理解）、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考とは何かを各コース科目を担当する教員の講義を通して理解する。多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得ることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず学部の専門カリキュラム構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特徴などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、各コースの学習内容について解説し、各学問領域のアプローチの基本について学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学とは何か	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。
第2回	大学での学び方	大学でどう学ぶか。大学での学びの特性を提示し考えてもらう。また、大学でのノートの取り方を実習を交えて解説する。
第3回	地域環境共生コースの学び①	コースの概要を説明し、導入講義を行う。各学問領域からのアプローチの特色と基本的視点を紹介する。
第4回	環境文化創造コースの学び①	同上
第5回	エコ経済経営コースの学び①	同上
第6回	国際環境協力コースの学び①	同上
第7回	環境サイエンスコースの学び①	同上
第8回	現場で学ぶ方法	フィールドスタディの意義と目的。現場で学ぶ方法の紹介。
第9回	地域環境共生コースの学び②	コースに関連する科目の担当教員による講義。
第10回	環境文化創造コースの学び②	同上
第11回	エコ経済経営コースの学び②	同上
第12回	国際環境協力コースの学び②	同上
第13回	環境サイエンスコースの学び②	同上
第14回	環境をマネジメントする	環境マネジメントシステムの解説とキャンパスでの取り組みの紹介。
第15回	まとめ-この学部でいかに学ぶか-	講義の全体を総括し、学部理念の再確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んでくる。

【テキスト（教科書）】

小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房、ほか

【参考書】

各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

文献および課題レポートの提出を求めます。期末試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

【その他の重要事項】

本科目は、1年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは水曜1時限目に、G～Lクラスは水曜2時限目に登録・履修すること。再履修者は、自分のクラスの授業に参加してください。

HA101

人間環境学への招待

人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学」とは何か－多様な視点を学ぶ－

【到達目標】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース・研究会などの理解）、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考とは何かを各コース科目を担当する教員の講義を通して理解する。多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得ることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず学部の専門カリキュラム構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特徴などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、各コースの学習内容について解説し、各学問領域のアプローチの基本について学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学とは何か	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。
第2回	大学での学び方	大学でどう学ぶか。大学での学びの特性を提示し考えてもらう。また、大学でのノートの取り方を実習を交えて解説する。
第3回	地域環境共生コースの学び①	コースの概要を説明し、導入講義を行う。各学問領域からのアプローチの特色と基本的視点を紹介する。
第4回	環境文化創造コースの学び①	同上
第5回	エコ経済経営コースの学び①	同上
第6回	国際環境協力コースの学び①	同上
第7回	環境サイエンスコースの学び①	同上
第8回	現場で学ぶ方法	フィールドスタディの意義と目的。現場で学ぶ方法の紹介。
第9回	地域環境共生コースの学び②	コースに関連する科目の担当教員による講義。
第10回	環境文化創造コースの学び②	同上
第11回	エコ経済経営コースの学び②	同上
第12回	国際環境協力コースの学び②	同上
第13回	環境サイエンスコースの学び②	同上
第14回	環境をマネジメントする	環境マネジメントシステムの解説とキャンパスでの取り組みの紹介。
第15回	まとめ-この学部でいかに学ぶか-	講義の全体を総括し、学部理念の再確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んでくる。

【テキスト（教科書）】

小島・西城戸編著,2012,「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房、ほか

【参考書】

各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

文献および課題レポートの提出を求めます。期末試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

【その他の重要事項】

本科目は、1年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは水曜1時限目に、G～Lクラスは水曜2時限目に登録・履修すること。再履修者は、自分のクラスの授業に参加してください。

HA101

基礎演習

人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等を学ぶ。
第4回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（2）	同上
第6回	テキストの講読（3）	同上
第7回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第8回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第9回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第10回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論2	同上
第12回	グループ発表・討論3	同上
第13回	グループ発表・討論4	同上
第14回	グループ発表・討論5	同上
第15回	総括のグループワーク	レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、討論の積極性、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと時間帯（ゾーン）をそれぞれ第3希望まで調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

HA111

情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

3～6回の講義・実習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。
インターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	実習環境の解説／IT系の資格について／スキルレベルの確認／コンピュータおよびネットワークの歴史と基礎知識
第2回	ネットワークの活用とセキュリティ	学内のネットワーク・インターネットの活用／電子メールの活用／情報セキュリティについて
第3回	情報検索と活用	インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第4回	文書作成演習-書式	Microsoft Wordの基本的な文書作成と書式の活用演習
第5回	文書作成演習-編集・ページレイアウト	編集機能、ページレイアウト、印刷設定等一般的なレポートに最低限必要な機能の演習
第6回	文書作成演習-図表の活用	各種図、表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成演習
第7回	文書作成応用	wordを利用した文書作成の応用（様々な文書レイアウト）
第8回	表計算演習-基本的な概念	Microsoft excelの概念と基礎的な計算処理の演習
第9回	表計算演習-書式	各種データの扱い方の演習と表の作成演習
第10回	表計算演習-編集と基本的な関数	データ・表の編集と合計や平均等の基本関数の演習と表作成演習
第11回	表計算演習-さまざまな関数とグラフ作成	使用頻度の高いさまざまな関数の演習とグラフ作成演習
第12回	表計算演習-データベース	統計データの取得と加工法、データベース機能について演習
第13回	表計算応用	より高度な書式、関数の活用
第14回	プレゼン資料作成-スライドの作成	powerpointを利用したプレゼン資料作成の基礎。スライドの作成と編集、図表の活用演習
第15回	プレゼン資料作成-アニメーションの設定	スライド資料に対してスライド切替え、アニメーションの活用演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の内容が確実に身につくように必要に応じて復習・練習を繰り返すこと。

【テキスト（教科書）】

講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポート課題により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室のパソコンを利用する。

【その他の重要事項】

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上で行う。USBメモリ等を用意・活用しても良いだろう（任意）。
初回講義時にユーザーID、パスワードが利用できるようにしておくこと（1年生はガイダンス時に配布されたプリント、2年生以上で不明な場合は情報カフェテリアで確認しておくこと）。
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

HA111

情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

3～6回の講義・実習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。
インターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	実習環境の解説／IT系の資格について／スキルレベルの確認／コンピュータおよびネットワークの歴史と基礎知識
第2回	ネットワークの活用とセキュリティ	学内のネットワーク・インターネットの活用／電子メールの活用／情報セキュリティについて
第3回	情報検索と活用	インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第4回	文書作成演習-書式	Microsoft Wordの基本的な文書作成と書式の活用演習
第5回	文書作成演習-編集・ページレイアウト	編集機能、ページレイアウト、印刷設定等一般的なレポートに最低限必要な機能の演習
第6回	文書作成演習-図表の活用	各種図、表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成演習
第7回	文書作成応用	wordを利用した文書作成の応用（様々な文書レイアウト）
第8回	表計算演習-基本的な概念	Microsoft excelの概念と基礎的な計算処理の演習
第9回	表計算演習-書式	各種データの扱い方の演習と表の作成演習
第10回	表計算演習-編集と基本的な関数	データ・表の編集と合計や平均等の基本関数の演習と表作成演習
第11回	表計算演習-さまざまな関数とグラフ作成	使用頻度の高いさまざまな関数の演習とグラフ作成演習
第12回	表計算演習-データベース	統計データの取得と加工法、データベース機能について演習
第13回	表計算応用	より高度な書式、関数の活用
第14回	プレゼン資料作成-スライドの作成	powerpointを利用したプレゼン資料作成の基礎。スライドの作成と編集、図表の活用演習
第15回	プレゼン資料作成-アニメーションの設定	スライド資料に対してスライド切替え、アニメーションの活用演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の内容が確実に身につくように必要に応じて復習・練習を繰り返すこと。

【テキスト（教科書）】

講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポート課題により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室のパソコンを利用する。

【その他の重要事項】

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上で行う。USBメモリ等を用意・活用しても良いだろう（任意）。
初回講義時にユーザID、パスワードが利用できるようにしておくこと（1年生はガイダンス時に配布されたプリント、2年生以上で不明な場合は情報カフェテリアで確認しておくこと）。
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

HA111

情報処理基礎

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活に必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 4 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 5 回	Excel の応用：表計算（1）	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 6 回	Excel の応用：表計算（2）	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第 7 回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第 11 回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第 12 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。
第 15 回	まとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

HA111

情報処理基礎

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活に必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 4 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 5 回	Excel の応用：表計算（1）	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 6 回	Excel の応用：表計算（2）	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第 7 回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第 11 回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第 12 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。
第 15 回	まとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と平常点を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

HA111

情報処理基礎**渡邊 誠**

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：情報の理論、実務とその応用

本科目では、情報とその処理についての理論と応用法を学習し、ユーザとしての立場から IT 技術を活用して業務改善を図り、あるいは各種研究に役立てるための能力を養います。国家試験（経済産業省）「IT パスポート試験」を受験することを念頭に置いています。また同省「基本情報技術者試験」を目指すための内容についても触れます。これらの内容に沿って学習していく過程で、環境問題との接点も意識することになります。例えばマネジメントの考え方など、最終的には情報処理の問題にとどまらず幅広い領域の問題に関連することが理解されます。

【到達目標】

IT に関する知識を習得して、国家試験のカリキュラムの内容を理解することを最初の目標としています。さらにそこで得られた知識を実際の問題に照らしてどのように応用できるのかを考える力を養うことがもうひとつの目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

情報実習室は使わず通常教室でテキストを使用して学習することを中心に行います。コンピュータの仕組みやソフトウェア、業務組織の機能・運用と業務改善、品質管理手法など広範囲の内容について学習します。現代社会における科学技術のあり方などについても考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、情報処理技術者試験の説明
第 2 回	IT システムと利用 －テクノロジー（1）	PC の構造としくみ、ソフトウェア
第 3 回	IT システムと利用 －テクノロジー（2）	システム構成とネットワーク
第 4 回	IT システムと利用 －テクノロジー（3）	セキュリティ対策
第 5 回	IT システムと利用 －テクノロジー（4）	表計算と関係データベースの考え方
第 6 回	IT システムの開発と経営 －ストラテジ（戦略）－（1）	経営戦略と業務分析
第 7 回	IT システムの開発と経営 －ストラテジ（戦略）－（2）	品質管理手法、問題分析手法
第 8 回	IT システムの開発と経営 －ストラテジ（戦略）－（3）	会計・財務の分析
第 9 回	IT システムの運用管理 －マネジメント－（1）	システム開発工程とスケジュール管理
第 10 回	IT システムの運用管理 －マネジメント－（2）	システムのテストとその手法
第 11 回	IT システムの運用管理 －マネジメント－（3）	システム運用と信頼性
第 12 回	IT パスポート試験の対策と応用（1）	具体的な問題にアプローチ
第 13 回	IT パスポート試験の対策と応用（2）	具体的な問題にアプローチ
第 14 回	基本情報技術者試験の対策と応用（1）	カリキュラム解説
第 15 回	基本情報技術者試験の対策と応用（2）	具体的な真問題にアプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

使用するテキストについて、毎回予習と復習を行ってください。テキストの中の練習問題も含めて学習してください。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します。

【参考書】

開講時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果と出席状況を勘案し評価します。

【学生の意見等からの気づき】

あまり急がずにできるだけゆっくと進めています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習教室は使用しません。通常教室においてテキストを使った講義を行います。

HA111

情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

3～6回の講義・実習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。
インターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	実習環境の解説／IT系の資格について／スキルレベルの確認／コンピュータおよびネットワークの歴史と基礎知識
第2回	ネットワークの活用とセキュリティ	学内のネットワーク・インターネットの活用／電子メールの活用／情報セキュリティについて
第3回	情報検索と活用	インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第4回	文書作成演習-書式	Microsoft Wordの基本的な文書作成と書式の活用演習
第5回	文書作成演習-編集・ページレイアウト	編集機能、ページレイアウト、印刷設定等一般的なレポートに最低限必要な機能の演習
第6回	文書作成演習-図表の活用	各種図、表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成演習
第7回	文書作成応用	wordを利用した文書作成の応用（様々な文書レイアウト）
第8回	表計算演習-基本的な概念	Microsoft excelの概念と基礎的な計算処理の演習
第9回	表計算演習-書式	各種データの扱い方の演習と表の作成演習
第10回	表計算演習-編集と基本的な関数	データ・表の編集と合計や平均等の基本関数の演習と表作成演習
第11回	表計算演習-さまざまな関数とグラフ作成	使用頻度の高いさまざまな関数の演習とグラフ作成演習
第12回	表計算演習-データベース	統計データの取得と加工法、データベース機能について演習
第13回	表計算応用	より高度な書式、関数の活用
第14回	プレゼン資料作成-スライドの作成	powerpointを利用したプレゼン資料作成の基礎。スライドの作成と編集、図表の活用演習
第15回	プレゼン資料作成-アニメーションの設定	スライド資料に対してスライド切替え、アニメーションの活用演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の内容が確実に身につくように必要に応じて復習・練習を繰り返すこと。

【テキスト（教科書）】

講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポート課題により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室のパソコンを利用する。

【その他の重要事項】

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上で行う。USBメモリ等を用意・活用しても良いだろう（任意）。
初回講義時にユーザID、パスワードが利用できるようにしておくこと（1年生はガイダンス時に配布されたプリント、2年生以上で不明な場合は情報カフェテリアで確認しておくこと）。
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

HA111

情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

3～6回の講義・実習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。
インターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	実習環境の解説／IT系の資格について／スキルレベルの確認／コンピュータおよびネットワークの歴史と基礎知識
第2回	ネットワークの活用とセキュリティ	学内のネットワーク・インターネットの活用／電子メールの活用／情報セキュリティについて
第3回	情報検索と活用	インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第4回	文書作成演習-書式	Microsoft Wordの基本的な文書作成と書式の活用演習
第5回	文書作成演習-編集・ページレイアウト	編集機能、ページレイアウト、印刷設定等一般的なレポートに最低限必要な機能の演習
第6回	文書作成演習-図表の活用	各種図、表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成演習
第7回	文書作成応用	wordを利用した文書作成の応用（様々な文書レイアウト）
第8回	表計算演習-基本的な概念	Microsoft excelの概念と基礎的な計算処理の演習
第9回	表計算演習-書式	各種データの扱い方の演習と表の作成演習
第10回	表計算演習-編集と基本的な関数	データ・表の編集と合計や平均等の基本関数の演習と表作成演習
第11回	表計算演習-さまざまな関数とグラフ作成	使用頻度の高いさまざまな関数の演習とグラフ作成演習
第12回	表計算演習-データベース	統計データの取得と加工法、データベース機能について演習
第13回	表計算応用	より高度な書式、関数の活用
第14回	プレゼン資料作成-スライドの作成	powerpointを利用したプレゼン資料作成の基礎。スライドの作成と編集、図表の活用演習
第15回	プレゼン資料作成-アニメーションの設定	スライド資料に対してスライド切替え、アニメーションの活用演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習の内容が確実に身につくように必要に応じて復習・練習を繰り返すこと。

【テキスト（教科書）】

講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用、文書作成、表計算の3つのレポート課題により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室のパソコンを利用する。

【その他の重要事項】

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上で行う。USBメモリ等を用意・活用しても良いだろう（任意）。
初回講義時にユーザID、パスワードが利用できるようにしておくこと（1年生はガイダンス時に配布されたプリント、2年生以上で不明な場合は情報カフェテリアで確認しておくこと）。
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

HA111

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。
近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにと
もな、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。
この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学
ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理につ
いても触れる。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。
1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題
を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・基本操作方 法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パ ソコンの基本的な操作を確認する。
第2回	ファイル・フォルダ・木 構造	キーボードとマウスを用いた入力など。 ファイル・フォルダ・木構造の基本を 学ぶ。
第3回	ペイント系画像処理： Photoshopによる実習	Photoshopによる写真や画像の処理 方法を学ぶ。
第4回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画 像処理の基本を学ぶ。
第5回	ドロー系画像処理：自由 課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由 課題を制作する。
第6回	Web ページ製作： HTMLの基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。 HTML について重点的に学ぶ。
第7回	Web ページ製作：CSS の基本（1）	CSS について学ぶ。
第8回	Web ページ製作：CSS の基本（2）	CSS について学ぶ。
第9回	Web ページ製作：課題 ページの作成（1）	Web ページの自由課題を作成する。
第10回	Web ページ製作：課題 ページの作成（2）	Web ページの自由課題を作成する。
第11回	Web ページ製作：課題 ページのまとめ	自由課題のまとめと評価を行う。
第12回	WWWの仕組み	WWWの仕組みを学習し、情報発信 と受信の仕組みを理解する。
第13回	情報検索のコツと練習	WWWにおける効率的な情報検索の 方法を学ぶ。
第14回	インターネットの光と影 ：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学 ぶ。様々な事例を取り上げ、インター ネットの利用における問題点や注意点 を理解する。
第15回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないか
もしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWWを通じて教材を配布する。
また、授業のなかで、テキストを紹介する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題提出を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得
していることが望まれる。
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受
講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

HA111

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。
近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにと
もない、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。
この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学
ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理につ
いても触れる。

【到達目標】

- この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。
1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
 2. 模式図を自作することができる。
 3. ウェブページを制作することができる。
 4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題
を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・基本操作方 法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パ ソコンの基本的な操作を確認する。 キーボードとマウスを用いた入力など。
第 2 回	ファイル・フォルダ・木 構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を 学ぶ。
第 3 回	ペイント系画像処理： Photoshop による実習	Photoshop による写真や画像の処理 方法を学ぶ。
第 4 回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画 像処理の基本を学ぶ。
第 5 回	ドロー系画像処理：自由 課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由 課題を制作する。
第 6 回	Web ページ制作： HTML の基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。 HTML について重点的に学ぶ。
第 7 回	Web ページ制作：CSS の基本（1）	CSS について学ぶ。
第 8 回	Web ページ制作：CSS の基本（2）	CSS について学ぶ。
第 9 回	Web ページ制作：課題 ページの作成（1）	Web ページの自由課題を作成する。
第 10 回	Web ページ制作：課題 ページの作成（2）	Web ページの自由課題を作成する。
第 11 回	Web ページ制作：課題 ページのまとめ	自由課題のまとめと評価を行う。
第 12 回	WWW の仕組み	WWW の仕組みを学習し、情報発信 と受信の仕組みを理解する。
第 13 回	情報検索のコツと練習	WWW における効率的な情報検索の 方法を学ぶ。
第 14 回	インターネットの光と影 ：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学 ぶ。様々な事例を取り上げ、インター ネットの利用における問題点や注意点 を理解する。
第 15 回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないか
もしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。
また、授業のなかで、テキストを紹介する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題提出を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得
していることが望まれる。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受
講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

HA110

統計とデータ分析

渡邊 誠

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ： EXCEL を使って統計学の基礎とデータ分析法を学び環境データを理解する

統計学は環境問題はもちろんの事、様々な現象（社会的、自然的）を定量的に分析し論理的に最適な判断を下すために必要な基礎知識である。例えば IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書の中には世界平均の地上気温や海水面水位その他のデータが掲載されているが、同時に「不確実性の幅」、「5～95%が含まれる範囲」、「90%信頼区間」などという表現も含まれている。このような環境情報を読み解くには統計学の初歩的知識が必要となる。同時に情報検索やデータ処理に関する手法も習得しておく必要がある。本科目ではパソコンを利用して統計学の基礎とデータ処理法を学ぶことをテーマとしている。

【到達目標】

本科目では EXCEL を利用しながら様々な情報を読むための基礎を学習する。これにより統計的知識などを実際の環境データの分析に応用できる力を身に付けることを目標としている。もちろん統計学の初歩とデータ分析法を学習することは、環境学への応用というだけでなく、大学生として身に付けるべき教養という側面もあるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は毎回、情報教室を使用して進めていく。各種ソフト+ネットワーク利用法など IT に関わる全般的なスキルの習得に加え、EXCEL の利用法を中心に学習する。これにより統計学の基礎を学ぶ。なお実務的な力を高めるために EXCEL 関数なども積極的に利用する。本科目は理系の内容が苦手だと思っている文系の学生が受講することを前提としているため、ゆっくりと分かりやすく授業を進めていく予定である。EXCEL の高度利用を目指している学生にとっても有益な授業となるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。
第2回	情報教室の利用法	情報環境の説明と各種ソフトウエア+ネットワークの利用のしかたについて。
第3回	EXCEL 実習 1	表の作成と演算、データベース機能、グラフ機能、相対参照と絶対参照・複合参照など。
第4回	EXCEL 実習 2	各種関数の利用法、IF 関数による条件分岐、多分岐構造と階層性など。
第5回	EXCEL 実習 3	論理演算、複雑な条件判断を伴う処理、統計関数の利用法など。
第6回	環境データの検索と分析 1	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第7回	環境データの検索と分析 2	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第8回	統計学入門 1	代表値（平均値、モード、メディアンなど）について。ランダム性と正規分布、様々な分布について。分布の中心はどこなのか？なぜ正規分布が現れるのか？
第9回	統計学入門 2	散布度（偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数など）について。分布の広がり（バラツキ）の程度をどのように計るのか？
第10回	統計学入門 3	データ位置（基準値、偏差値とその統計的意味、正規分布とその面積など）について。例えば偏差値が 70 であるとは、55 であるとは統計的にどのような意味か？
第11回	統計学入門 4	相関分析と回帰分析（相関係数と 2 つの量の関係の強さ、最小自乗法の考え方、単回帰分析と重回帰分析など）について。因果関係を見抜くにはどうすればいいか？

第12回 統計学入門 5

統計的推定（母集団と標本、点推定と区間推定、信頼区間など）について。サンプル調査から全体の様子を推定するには？

第13回 統計学入門 6

統計的検定（仮説と検定、危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択など）について。

第14回 統計学入門 7

因子分析について。原因と結果の分析法。結果からその重要な要因を見抜くには？

第15回 総括

環境データを統計的に理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業内容を復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。出席を重視し、これと最終授業に出題するレポートの内容を勘案して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報教室を利用します。受講にあたっては皆さんのパソコン経験の有無は問いません。

【その他の重要事項】

この科目は統計学を初歩から学習していきますので、受講に際しての数学的な予備知識はあまり必要としていません。

この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお勧めします。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

旧科目名称「統計概論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

HA132

英語 I (スキルアップ科目)

平野井 ちえ子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning)教材や authentic な映画などを用いて、日常会話の基礎力を養います。

【到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一目標です。また、厳しいステップではありますが、教材の英語と生の英語の違いを学ぶことも重要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初は、後述のテキストと同 CALL 教材により、基礎的なリスニングとスピーキングの力を養います。教材に慣れてきたら、インプットとアウトプットのバラエティを豊かにし、authentic な英語表現になじむため、随時映画やドラマの断片も教材とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスと後述のテキストに基づいて、講座概要を説明します。CALL 教材のデモンストレーションもあります。受講者選抜となる可能性がとて高いので、受講を希望する人は、必ず出席してください。
第 2 回	テキスト Chapter1・2 (旅行編)	‘Where Do I Get the Bus?’ (Getting information) ‘Do You Have a Reservation, Ma’am?’ (Checking in at a hotel)
第 3 回	テキスト Chapter3・4 (旅行編)	‘Could You Repeat That?’ (Asking for directions) ‘I’ll Take the Wrangler Convertible’ (Renting a Car)
第 4 回	テキスト Chapter5・6 (旅行編)	‘Would You Like Soup or Salad?’ (Ordering a meal) ‘Where’s the Fitting Room?’ (Shopping for clothes)
第 5 回	テキスト Chapter7・8 (旅行編)	‘Would You Mind Taking My Picture?’ (Asking for a favor) ‘Good to See You!’ (Meeting a friend)
第 6 回	テキスト Chapter9・10 (旅行編)	‘I Enjoyed My Stay’ (Checking out of a hotel) ‘Aisle Seat, Please’ (Expressing preference)
第 7 回	テキスト (旅行編) の応用	テキスト (旅行編) で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
第 8 回	テキスト Chapter11・12 (留学編)	‘You Are One of the Family Now’ (Home stay) ‘I Want to Help!’ (Offering to help)
第 9 回	テキスト Chapter13・14 (留学編)	‘So, What’s Your Major?’ (Self-introduction) ‘I’ll Try to Do My Best’ (Getting advice)
第 10 回	テキスト Chapter15・16 (留学編)	‘When Do I Have to Return This?’ (Checking out a book) ‘Do You Have Any ID?’ (Opening a bank account)
第 11 回	テキスト Chapter17・18 (留学編)	‘How about Sea Mail?’ (Sending a package) ‘Would You Like to Join Us?’ (Inviting a friend)
第 12 回	テキスト Chapter19・20 (留学編)	‘I Have a Sore Throat’ (Buying medicine) ‘Let’s Keep in Touch, OK?’ (Saying good-bye)

第 13 回	テキスト (留学編) の応用	テキスト (留学編) で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
第 14 回	期末試験	13 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行います。この試験では、正確さを重視します。
第 15 回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスを発行します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、各 Chapter の Communication Focus には目を通してください。授業後は、Main Dialogue と Interview を復習してください。また、授業内でのタスクのために、Model Dialogue は完全に覚える必要があります。

【テキスト（教科書）】

Viva! San Francisco (Macmillan Languagehouse)
written by Hiroto Ohyagi and Timothy Kiggell.
2,000 JPY

【参考書】

URL
<http://www.mpaa.org/>
<http://www.ox.ac.uk/gazette/>
<http://www.londontheatre.co.uk/> など。

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%
・出席状況（遅刻や欠席の多い人は、周囲に迷惑をかけ、授業の進行にも支障をきたす原因となるので、とても重視します。）
・参加内容（初級なので、全体として正確さよりも積極性を重視します。個別学習もモニターして評価します。また、ペアやグループでのアクティビティで周囲と協力的に参加できるかどうかも大切です。）

【期末試験】50%

・リスニングを含む筆記試験
以上を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「実践的な英語表現が身につけてよかった」・「映画を用いたタスクが楽しかった」・「新しいCALLシステムにふれたのが新鮮だった」など、好評だったと自負しています。「映画のタスクをもっとやりたかった」という意見もあったので、2015年度を受講生の様子を見ながら、教材英語と authentic な英語のバランスを調整したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。本講座は受講希望者が多数となる可能性がとて高いです。初回授業にて選抜または抽選を行うことになると思います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA132

英語 I (スキルアップ科目)

板橋 美也

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニングを中心に英語の日常会話表現に親しもう

【到達目標】

日常生活に必要なリスニング力が身に付き、様々なとっさの状況で適切な英語の表現を用いることができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教科書や補足教材を用いながら、授業中にできるだけ多くの英語を解説とともに聞き、それぞれのテーマの表現に耳を慣らします。さらに、耳でおぼえた表現を適切な発音で用いることができるように、教室のオーディオ再生録音機材を用いながら、overlapping, repeating, shadowing などによる練習を適宜行います。また、せっかく覚えた日常表現も、実際の英会話では、緊張や恥ずかしさでとっさに出てこない、ということをよくあると思います。そこで、Native World Pro. という双方向の英会話ソフトを用いて、実際の英会話でのやり取りを各自が気後れせずに練習できる機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方についての説明
第 2 回	教科書 Units 1 and 2	トラブルや困難に巻き込まれたときの会話や乗り物に関する会話を聞き取る練習をしながら、位置・場所・時間・頻度に関する表現をおぼえます。
第 3 回	教科書 Units 3 and 4	ショッピング・スポーツ・エンターテインメントに関する会話を聞き取る練習をしながら、数量・距離・長さや感情に関する表現をおぼえます。
第 4 回	Native World Pro. 日常会話編 Asking for direction	実際の英会話で道をたずねる表現を用いる練習をします。
第 5 回	教科書 Units 5 and 6	食事・旅行・レジャーに関する会話を聞き取る練習をしながら、勧誘・提案・依頼・判断・評価に関する表現をおぼえます。
第 6 回	教科書 Units 7 and 8	ビジネス・オフィス・インターネット・コンピュータ関連の会話を聞き取る練習をしながら、経験・完了・情報の交換に関する表現をおぼえます。
第 7 回	Native World Pro. 日常会話編 Ordering breakfast at the restaurant	レストランでの実際の英会話の練習をします。
第 8 回	教科書 Units 9 and 10	金銭・費用関連の会話やホテルでの会話を聞き取る練習をしながら、方法・手段・原因・理由に関する表現をおぼえます。
第 9 回	教科書 Units 11 and 12	天候に関する会話や電話での会話を聞き取る練習をしながら、予定・日程・許可・義務に関する表現をおぼえます。
第 10 回	Native World Pro. 日常会話編 Sending a package at the post office	実際の英会話で、郵便局で荷物を送るための表現を用いる練習をします。
第 11 回	教科書 Units 13 and 14	学校や家庭での会話を聞き取る練習をしながら、賛成・不賛成の意向や可能性を示す表現をおぼえます。
第 12 回	教科書 Unit 15 と補足教材	健康に関する会話を聞き取る練習をしながら、目的を示す表現をおぼえます。
第 13 回	補足教材	補足教材を用いてさらなるリスニング力の向上をめざします。
第 14 回	補足教材	補足教材を用いてさらなるリスニング力の向上をめざします。
第 15 回	試験	授業でおぼえた表現を聞き取る試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を用いる回の前には、それぞれの週の Unit の問題を、教科書付属の自習用 CD を用いて予習してください。また、教科書・補足教材や Native World Pro. で覚えた表現を授業後に復習しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

Listening Practice for Daily Expressions (鶴見書店)

【参考書】

必要に応じて指示します

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

授業によってリスニングの時間を確保することができたという感想が多くみられましたが、「継続は力なり」ですので、授業以外にも自主的にリスニングの時間を作ることで、さらにスキルアップをめざしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA132

英語Ⅱ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to improve the ability of speaking and listening by using the video.

Through guided conversation practice and pair work you will learn the expressions of everyday English and be able to express yourself.

【到達目標】

To be able to communicate with people freely

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Entrance quiz and Course Introduction	Students are given a written test for about forty minutes and the top 24 students will be accepted.
第 2 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 3 回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	The rest of Unit 1 (second viewing, comprehension questions and Words in context) Unit 2 words & phrases, first viewing
第 4 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	The rest of Unit 2(second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 3 words & phrases, first viewing
第 5 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	The rest of Unit 3 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 4 words & phrases, first viewing
第 6 回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	The rest of Unit 4 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 5 words & phrases first viewing, listening exercise
第 7 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	The rest of Unit 5 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 6 words & phrases first viewing, listening exercise
第 8 回	Unit 7 Andy's Dilemma	The rest of Unit 6 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 7 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 9 回	Unit 8 A Night in Paris	The rest of Unit 7 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 8 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 10 回	Unit 9 A Plot against Miranda	The rest of Unit 8 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 9 words & phrases, first viewing, listening exercise

第 11 回	Unit 10 Andy's Final Choice	The rest of Unit 9 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 10 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 12 回	Unit 10 Andy's Final Choice- Discussion	The rest of Unit 10 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第 13 回	Wrap up	The rest of Unit 10 and discussion
第 14 回	Acting out of the scene	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair.
第 15 回	In-class quiz of this course	Students are given a 60-minute written test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Reading the script and summarizing each unit.

Writing down their favorite line.

Studying the new words and phrases in advance.

【テキスト（教科書）】

The Devil Wears Prada (松柏社、2,200 円)

【参考書】

必要に応じて講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

Test (70 %) , Attendance and Assignments (30 %)

【学生の意見等からの気づき】

to give students more chance to have a little discussion

【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA132

英語Ⅲ（スキルアップ科目）**磯部 芳恵**

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位
 開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：水4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an advanced level class for highly motivated students. The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English.

【到達目標】

to be able to make a presentation which is logical and persuasive

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

Students make a recitation of three pages from Obama Speeches and give a presentation based on their essay at the end of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz, Course introduction	Students will be given a listening test.
第2回	Chapter 1 Artists Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第3回	Chapter 1 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第4回	Chapter 1 Writing	Organizing: The Essay
第5回	Chapter 2 Language Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第6回	Chapter 2 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第7回	Chapter 2 Writing	Organizing: The Process Essay
第8回	Chapter 3 Hygiene	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第9回	Chapter 3 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第10回	Chapter 3 Writing	Literal and Extended Definitions
第11回	Chapter 4 Groups, Organizations, and Societies	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第12回	Chapter 4 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第13回	Chapter 4 Writing	Description
第14回	Chapter 4 Writing	Writing practice
第15回	Presentation	Students give a presentation based on their essay.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. They will submit it every week.

【テキスト（教科書）】

Weaving It Together 4(Cengage Learning)2,730 円
 『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000 円

【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

Attendance and participation 40%, Assignments and Presentation 60%

【学生の意見等からの気づき】

To give students more chance to make a presentation

【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

【その他の重要事項】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA132

英語Ⅳ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：水 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context.

【到達目標】

To be able to acquire basic skills in business scenes

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The number of the students will be limited so they must attend the first class and take an entrance quiz.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course introduction	Students will take a written test.
第2回	Unit 1 A Common Language	Talking business, listening & reading
第3回	Unit 1 A Common Language	Language in use Writing
第4回	Unit 2 Work to live, live to work	Talking business Listening
第5回	Unit 2 Transitions	Talking business, listening & reading
第6回	Unit 3 Work to live, live to work	Language in use & Speaking
第7回	Unit 3 Transitions	Language in use Writing
第8回	Unit 3 Transitions	Talking business & listening
第9回	Unit 3 Transitions	Language in use & speaking
第10回	Unit 3 Transitions	Writing
第11回	Unit 7 Shopping around	Talking business & listening
第12回	Unit 7 Shopping around	Language in use & wrtng
第13回	Unit 9 The Innovators	Talking business & listening
第14回	Unit 9 The Innovators	Language in use & wrtng
第15回	Wrap-up and quiz	Students will make a presentation and take a quiz.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will do the reading part at home and submit it the following week.

【テキスト（教科書）】

Head for Business Intermediate(Oxford University Press)2,941 円

【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

Attendance & Participation 40%, Assignments 30%, Test30%

【学生の意見等からの気づき】

to give students more chance to study current news

【その他の重要事項】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA132

テーマ別英語 1（スキルアップ科目）

板橋 美也

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Design in Europe, North America and Japan in the 20th century

【到達目標】

Through the course, students will be able to:

-define major schools and movements of design in Europe, North America and Japan in the 20th century

-explain how social, economic and political contexts of each period influenced designs of everyday objects.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Almost everything we use daily, such as a pen, a coffee mug, a mobile phone, a chair, etc. is a 'designed' object. But have you ever thought about how the 'designs' to which we are familiar today were created in the process of modernization? This course will give students an overview of the history of design in Europe, North America and Japan in the 20th century. Before each class, students will be provided with worksheets so that they can grasp a general outline of what they will study in the week. After listening to the lecture in the beginning of each class, students will be asked to answer the comprehension questions in the worksheets. At the end of each class, students will write in reaction papers about what they feel or think about the theme of the week or the designs shown during the lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Guidance on the course
第2回	The prelude to the 20th century	Industrialization, the Arts and Crafts Movement, etc.
第3回	The dawning of the 20th century design	The Deutcher Werkbund, the Vienna Workshops, the Design and Industries Association, etc.
第4回	Modernism 1	The Bauhaus
第5回	Modernism 2	Le Corbusier, Scandinavian design, etc.
第6回	Consumerism and design 1	Art Deco
第7回	Consumerism and design 2	Hollywood style, streamline design, Raymond Loewy, etc.
第8回	Modernism in Japan	The emergence of designers in Japan
第9回	National identities in design	Design in Britain, Germany, Italy, the United States, etc. in the 1920s and the 1930s.
第10回	Design after the Second World War 1	Populuxe, Charles and Ray Eames, Eero Saarinen, etc.
第11回	Design after the Second World War 2	Arne Jacobson, Gio Ponti, Terence Conran, etc.
第12回	Japanese design after the Second World War	Design in the age of rapid economic growth in Japan
第13回	Post-modernism	Reactions against modernism in design
第14回	Exam	Students can bring the worksheets, handouts, notebooks and dictionaries to the exam.
第15回	Exam review	Exam review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare for each class by using worksheets given beforehand.

【テキスト（教科書）】

Worksheets will be provided by the instructor.

【参考書】

Please bring a dictionary to the class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on:

-attendance (Students who miss 4 classes or more will not be able to pass this course.)

-class participation

-an exam (Students who does not take the exam will not be able to pass this course)

【学生の意見等からの気づき】

I'm glad to know that there were many 'discoveries' for you in this course.

【その他の重要事項】

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA132

テーマ別英語 2 (スキルアップ科目)

武貞 稔彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位
 開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Global Development and Sustainability

This course provides an overview of the current themes and topics on Global Development and Sustainability. The topics and knowledges provided will be of great help for students to expand their worldview and to give better background when they talk in the international society.

【到達目標】

By the end of the semester, students should be able to do the following in English:

1. To understand and summarize the written and spoken arguments of others.
2. To formulate well-developed and logical arguments, and convey them in a clear and concise manner.
3. To speak out their ideas and opinions with less hesitation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

Classes will include a range of listening and speaking activities including small group discussion and presentation. Especially, students are expected to express themselves in English proactively. Perfection in grammar is NOT the most important part in the class. Still, the content may be difficult for lower proficiency learners, so only students who are willing to actively participate in class should attend.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation and Overview	Overview of the course, mini lesson and student selection if necessary
第 2 回	Civilization 1	On what is civilization. Reading, listening and discussion
第 3 回	Civilization 2	On how civilization rises and falls. Reading, listening and discussion
第 4 回	Civilization 3	On possible future of our civilization. Reading, listening and discussion
第 5 回	Poverty 1	On who the poor are. Video, reading and discussion
第 6 回	Poverty 2	On how to eradicate poverty. Discussion and speech practice
第 7 回	Poverty 3	On difference of poverty between developing countries and developed countries Reading, listening and discussion
第 8 回	Water 1	On scarcity of water resources Reading, listening and discussion
第 9 回	Water 2	On commoditization of water Reading, listening and discussion
第 10 回	Water 3	On possible war over water resources Video, reading and discussion
第 11 回	Food	On land rush Video, reading and discussion
第 12 回	Environment	On climate change Video, reading and discussion
第 13 回	Presentation 1	group/individual presentation on class topics
第 14 回	Presentation 2	group/individual presentation on class topics
第 15 回	Summary and feedback	mini-lecture on class topics and discussion

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to read reference materials, to do some web site research and to write the answer to questions given beforehand for the next class.

【テキスト (教科書)】

Materials will be distributed in class.

【参考書】

Additional resources will be introduced in each class, if necessary.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a written assignment, and overall contribution to the class

* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

N.A.(Result of FY2014 questionnaire is not reported yet.)

【その他の重要事項】

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA132

テーマ別英語 3 (スキルアップ科目)

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1～4年 / 1単位
開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Healthcare issues and lifestyle choices in the modern world

【到達目標】

To expand students' English competence through readings, listening and discussions on the theme of health. Participants should be interested in both the theme and in improving their English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

Weekly topic texts will be studied and discussed in pairs and small groups. Students will be expected to contribute their ideas and experience.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
第 2 回	Aging	Reading and discussion
第 3 回	Sleep	Listening, questionnaire and discussion
第 4 回	Allergies	Reading, questionnaire and discussion
第 5 回	Tobacco	Reading and discussion
第 6 回	Exercise and sport	Listening, questionnaire and discussion
第 7 回	Mid-term presentation 1	Writing
第 8 回	Mid-term presentation 2	Speech practice and performance
第 9 回	Food and nutrition	Questionnaire and discussion
第 10 回	Alcohol	Reading and discussion
第 11 回	Stress and Stress management	Listening, questionnaire and discussion
第 12 回	Common diseases and complaints	Questionnaire and discussion
第 13 回	Alternative medicine and therapies	Reading and discussion
第 14 回	Degenerative diseases and lifestyle	Listening, questionnaire and discussion
第 15 回	Course review and test preparation	Reading and listening

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

【テキスト (教科書)】

None.

【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson

【成績評価の方法と基準】

Final written exam (30%), midterm assessment (30%), attendance (30%) and class participation (10%)

【学生の意見等からの気づき】

New course from 2013

【その他の重要事項】

Students should have the time to attend ALL classes, and participate actively in discussions.

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA132

テーマ別英語 4 (スキルアップ科目)

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1～4年 / 1単位
開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The development and social history of modern western popular music

【到達目標】

To expand students' English competence through listening to and discussing the various genres of music that contributed to the development of popular music in the 20th century.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

Classroom multimedia facilities will be used to examine a variety of genres of popular music and then readings and discussions in English will explore the social and cultural context of the music.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
第 2 回	Blues and Gospel	Listening/video, reading and discussion
第 3 回	Jazz	Listening/video, reading and discussion
第 4 回	Folk and Country music	Listening/video, reading and discussion
第 5 回	Pop and the entertainment industry	Reading and discussion
第 6 回	Early Rock	Listening/video, reading and discussion
第 7 回	The 60s	Listening, reading and discussion
第 8 回	Mid-term presentation preparation	Reading, writing, speech practice
第 9 回	Mid-term presentation	Speaking practice and speech
第 10 回	British Rock music	Listening/video, reading and discussion
第 11 回	Later Rock music	Listening/video, reading and discussion
第 12 回	Soul, Disco, R & B	Listening/video, reading and discussion
第 13 回	Hip hop/rap	Listening/video, reading and discussion
第 14 回	African and Asian influences	Listening/video, reading and discussion
第 15 回	Course review and exam preparation	Reading and writing

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

【テキスト (教科書)】

None.

【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson

【成績評価の方法と基準】

Final written exam (30%), midterm assessment (30%), attendance (30%) and class participation (10%)

【学生の意見等からの気づき】

New course from 2013

【学生が準備すべき機器他】

Classroom multimedia facilities, Web

【その他の重要事項】

Besides and interest in the theme, students should want to actively participate in discussions in English, and be prepared to attend all the classes.

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

HA400

研究会 (A)

草山 太一

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「なぜヒトは○○○だろうか？」といった素朴な疑問をもとに、文献資料よりヒトの生理的・心理的な仕組みや働きについて調査し、自らが問題を立脚し解決しようとする方法を体得することを目的とする。

【到達目標】

1. 研究テーマを選定し、レポート内にて自分の意見を述べるができる。
2. 文献購読をし、その内容をまとめ、ゼミ員に対して発表できる。
3. グループ内で、ディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

設定したテーマに関して、問題や資料などの情報を共有することで、一定の共通理解を得ながら、文献研究を進める。授業は主に SGD（スモールグループディスカッション）形式を用いて行う。全体では毎回一人ずつ、皆の前で文献（日本語、英語どちらでも良い）講読を行い、発表の技術を身につける。グループそれぞれが目標やテーマを決め、調査および討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要、ねらい、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第 2 回	文献検索、プレゼンテーション、レポート作成	テーマ選びから文献検索、プレゼンテーション、レポート作成に関する説明を行なう。
第 3 回	テーマ設定、意見交換	グループ分けを行い、役割分担を決める。
第 4 回	文献講読、意見交換	今後の計画を立てる。グループワークを行う。
第 5 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。
第 6 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 7 回	中間発表	文献を講読し、意見交換を行う。
第 8 回	文献講読、意見交換	グループごとに、これまで話し合った内容を発表する。
第 9 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 10 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、意見交換を行う。
第 11 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。
第 12 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 13 回	(1) 最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 14 回	(1) 最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 15 回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。
第 16 回	ガイダンス	秋学期のスケジュール確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第 17 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 18 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。
第 19 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 20 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。
第 21 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 22 回	中間研究報告	文献を講読し、意見交換を行う。
第 23 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 24 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。
第 25 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。
第 26 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 27 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。
第 28 回	研究発表会（1）	文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 29 回	研究発表会（2）	グループワークを行う。
第 30 回	研究発表会、レポート提出	文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。

第 20 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 21 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。
第 22 回	中間研究報告	グループワークを行う。
第 23 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。
第 24 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 25 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、意見交換を行う。
第 26 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。
第 27 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 28 回	研究発表会（1）	グループワークを行う。
第 29 回	研究発表会（2）	文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 30 回	研究発表会、レポート提出	研究成果の発表を行った後に、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・設定したテーマに関する資料を図書館、WEB を活用して調べておく。
- ・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
- ・思いついた疑問をそのままにしないで、調べるように習慣づける。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

- ・その科学が成功を決める リチャード・ワイズマン 文春文庫

【成績評価の方法と基準】

出席（50%）、報告（25%）、レポート（25%）を総合して判断する

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

HA400

研究会 (A)

石神 隆

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「サステイナブルなまちづくり」

都市環境および地域形成に関する事例研究型のゼミナール。

【到達目標】

定めた個別テーマについて探求することにより、現実社会を深く理解、研究のおもしろさを体得し、調査研究能力とともに、様々な企画能力をも涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

都市環境および地域形成について、歴史、環境、生活、経済などの視点から、国内・海外の都市や地域を対象に、事例研究を行う。

ゼミ全体の基本的な年間テーマは、年度始めにいくつか提案し、皆で議論して決める。そのテーマのうち、グループあるいは個人のテーマおよび対象地域を個別に設定し、自主的に研究を進めていく。

ゼミでは、①基本文献の輪読と議論、②共通ミニフィールドスタディ、③グループ研究、④個人研究を進める。グループ研究はサブゼミとして自主的に進め、中間成果を逐次、本ゼミで発表・議論し、最終的には印刷物として完成させる。4年生は卒業論文(別途単位)、2・3年生は、タームペーパーを作成し、年度末に発表し提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	各自の活動紹介、全体ガイダンス
第2回	全体のテーマ設定	研究の基本方向設定のための議論
第3回	小テーマ・対象の設定	小テーマ・対象内容別グループ分け
第4回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第5回	文献資料収集講読・議論	全体およびグループごとの研究活動
第6回	文献資料収集講読・議論	全体およびグループごとの研究活動
第7回	資料収集・研究企画議論	全体およびグループごとの研究活動
第8回	研究構想発表会	各グループの発表・討論
第9回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第10回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第11回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第12回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第13回	中間発表会準備	全体およびグループごとの作業
第14回	第1回中間発表会	各グループの発表・討論
第15回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第16回	研究作業と議論	主にグループごとの研究活動
第17回	同上、中間レポート作成	主にグループごとの研究活動
第18回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第19回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第20回	第2回中間発表会	各グループの発表・討論
第21回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第22回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第23回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第24回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第25回	第3回中間発表会	各グループの発表・討論
第26回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第27回	研究レポート作成	主にグループごとの研究活動
第28回	研究レポート作成	主にグループごとの研究活動
第29回	最終発表会	各グループの成果発表・討論
第30回	総括的ディスカッション	年間の研究会活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各グループ毎に、自主的にサブゼミおよびテーマ研究の現地調査を実施する。また、文献や資料の購読・研究は、個人・グループベースで常時行っていく。なお、全体として、逐次、討論会やミニフィールドスタディを実施する。

【テキスト（教科書）】

年度テーマの設定によっては、共通テキストを設定する場合がある。このほか、逐次、輪読のための共通資料を使用する予定である。

【参考書】

個別の内容により、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席および準備、議論への参加状況）50%、成果物（グループ研究および個人研究）評価 50%。

【学生の意見等からの気づき】

学生により基礎知識の不足がある。これを補うため、基本的な事項につき、講義する機会を随時もつとともに、自主学習を課する予定である。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース

HA400

研究会 (A)

板橋 美也

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術・デザインと異文化交流の歴史

【到達目標】

美術・デザインの世界や日本の異文化交流の歴史についての理解を深めます。また、クラスでの発表とその準備作業を通して、資料収集・分析能力や調査内容の概要を報告する能力を養います。研究会での様々な活動を通して、自らの文化・自明のものだと思っていた文化を新たな視点から捉えなおしてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

(1) 指定した文献や作品に関するディスカッションを通して、美術・デザインや異文化交流の歴史について皆で考えます。

(2) 発表担当者が各自の関心にもとづいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションをします。いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の内容、進め方についての説明
第2回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第3回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第4回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第5回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第6回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第7回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第8回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第9回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第10回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第11回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第12回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第13回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第14回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第15回	春学期のまとめ	春学期に学んだことを復習・総括します
第16回	秋学期へのガイダンス	秋学期の内容と進め方についての説明
第17回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第18回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第19回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第20回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第21回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第22回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第23回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション

第24回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第25回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第26回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第27回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第28回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第29回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第30回	1年間のまとめ	1年間で学んだことを復習・総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストの範囲をよく読んでおき、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、研究発表に際しては、自らの問題意識にもとづいて主体的に調査を行います。

【テキスト（教科書）】

随時指定します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

研究会への貢献度（発表の内容、授業中の発言、参加態度など）と年度末のレポートから総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中は遠慮せずに発言しましょう。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース

HA400

研究会 (A)

杉戸 信彦

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然界は時として災害をもたらします。その姿は、われわれの理解と考え方で大きく変わってきます。本研究会では、自然環境（主に地形環境や地震発生環境）と土地条件、土地の歴史などについて、自然災害という側面を重視しながら主に自然地理学的な観点から考え、人間社会のあり方を見つめなおします。

【到達目標】

自然環境が人間社会に与える影響を多面的に読み解く見識を培うこと。災害の多い日本列島で生きるうえで、また人口減少、高齢化、都市集中といった背景のなかで長期的なまちづくりに求められる妥当な「自然観」を養うこと。調査法や発表法を身につけること。地図を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

座学に加え、野外実習や課題演習、個人研究を行います。個人研究ではテーマや地域を設定して取り組みレポートを作成します。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、土地条件、土地の歴史、土地利用、プレート境界、活断層、長期予測、ハザードマップ、災害の歴史、インフラ、まちづくり、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。学生の皆さんの主体的な興味関心と情熱がベースになります。はじめは漠然としていても構いませんが、学びを積極的にすすめ、意義深いテーマや重要な地域にたどりつくよう期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	趣旨説明、発表法やレジュメ作成法等の説明、グループ分け
第2回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第3回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第4回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第5回	課題演習	机上作業
第6回	野外実習	フィールド巡検
第7回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第8回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第9回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第10回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第11回	討論会	討論、とりまとめ、発表
第12回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第13回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第14回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第15回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第16回	ガイダンス	趣旨説明、論文やレポートの書き方等の説明
第17回	個人研究の準備	テーマや地域の設定
第18回	個人研究の準備	テーマや地域の設定
第19回	課題演習	机上作業
第20回	野外実習	フィールド巡検
第21回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第22回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第23回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第24回	討論会	討論、とりまとめ、発表
第25回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第26回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第27回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第28回	個人研究	進捗状況報告、質疑応答、討論
第29回	個人研究（最終発表）	発表、質疑応答、討論
第30回	個人研究（最終発表）	発表、質疑応答、討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の収集・分析や事前調査、発表準備、復習、追加調査、とりまとめ等を行う。

【テキスト（教科書）】

購入または担当教員から配布ほか

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

知識や応用力、思考力に加え、基礎力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明あるいは効果的な進め方を心がけます。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース・地域環境共生コース

HA400

研究会 (A)

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際法・国際環境法の研究を通して、国際平和（国際紛争の解決、環境問題の改善、よりよい社会の実現）について考える。

【到達目標】

1. 自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論する。
2. 卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1. 国際法および国際環境法に関連する文献講読、判例研究
 2. 個人の研究報告
 3. その他（時事問題に関する討論、ディベート等）
- *受講者の関心に応じ、下記の計画通りに進行しないこともある。
*校外授業及び合宿を行う（場所、内容等は受講者の希望を考慮して決める）。
*サブゼミで、読書会、映画鑑賞会、講演会等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	年間計画
第 2 回	報告および討論 (1)	グループ報告と討論
第 3 回	報告および討論 (2)	グループ報告と討論
第 4 回	報告および討論 (3)	グループ報告と討論
第 5 回	報告および討論 (4)	グループ報告と討論
第 6 回	報告および討論 (5)	グループ報告と討論
第 7 回	報告および討論 (6)	グループ報告と討論
第 8 回	報告および討論 (7)	グループ報告と討論
第 9 回	報告および討論 (8)	グループ報告と討論
第 10 回	報告および討論 (9)	グループ報告と討論
第 11 回	報告および討論 (10)	グループ報告と討論
第 12 回	報告および討論 (11)	グループ報告と討論
第 13 回	報告および討論 (12)	グループ報告と討論
第 14 回	報告および討論 (13)	グループ報告と討論
第 15 回	ゼミ合宿	研究会修了論文中間報告、ディベート、ディスカッション
第 16 回	打ち合わせ	秋学期の研究計画
第 17 回	研究報告 (1)	個別報告と討論
第 18 回	研究報告 (2)	個別報告と討論
第 19 回	研究報告 (3)	個別報告と討論
第 20 回	研究報告 (4)	個別報告と討論
第 21 回	研究報告 (5)	個別報告と討論
第 22 回	研究報告 (6)	個別報告と討論
第 23 回	研究報告 (7)	個別報告と討論
第 24 回	研究報告 (8)	個別報告と討論
第 25 回	研究報告 (9)	個別報告と討論
第 26 回	研究報告 (10)	個別報告と討論
第 27 回	研究報告 (11)	個別報告と討論
第 28 回	研究報告 (12)	個別報告と討論
第 29 回	校外授業	個別報告と討論
第 30 回	研究会修了論文発表会	研究会修了論文発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の十分な予習

【テキスト（教科書）】

開講時に指示

【参考書】

適宜指示

【成績評価の方法と基準】

平常点、レポート

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同じように行います。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース

HA400

研究会 (A)

梶 裕史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：海・離島の「文化的景観」とエコツーリズム
「文化的景観」という考え方をベースに、離島・海辺固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、「現地訪問を通じて事例研究を行う。なお新規参加者は夏休みに企画・実施する「沖縄離島ゼミ合宿」への参加を必修とする。個人研究テーマに関わる「現地訪問」については「授業の概要と方法」参照のこと。

【到達目標】

新規参加者は「環境表象論Ⅱ」の内容を、ゼミ合宿として催行する現地調査・体験によって実感的に理解すること。また、この刺激で自主的に現地訪問を計画する意欲を高めると同時に、沖縄に限らず様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、個々の研究成果を「共有」できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教室での1年間の流れは「授業計画」参照。必修の「現地訪問」（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する）について、沖縄離島ゼミ合宿参加者は、これを現地訪問替わりとすることができる。3・4年生は、個別に自主的に訪問計画を立てることになる（「海」「島」に関わる推奨テーマにより、沖縄以外の離島・海辺を選んでも構わない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	昨年度の研究成果発表①、意見交換	研究発表は1人20分程度、1回につき1名。
第3回	昨年度の研究成果発表②、意見交換	同上
第4回	昨年度の研究成果発表③、意見交換	同上
第5回	昨年度の研究成果発表④、意見交換	同上
第6回	昨年度の研究成果発表⑤、意見交換	同上
第7回	昨年度の研究成果発表⑥、意見交換	同上
第8回	昨年度の研究成果発表⑦、意見交換	同上
第9回	昨年度の研究成果発表⑧、意見交換	同上
第10回	昨年度の研究成果発表⑨、意見交換	同上
第11回	グループワーク（1）	個々の成果の共有につながるテーマを学生が自主設定
第12回	グループワーク（2）	同上
第13回	個別の現地訪問構想の情報交換	テーマやフィールドの性格に共通性がある学生同士の協力を奨励
第14回	小フィールドスタディ（神楽坂等の夏の祭事）	90分以内で学べるフィールドを選ぶ。
第15回	個別指導	個別の現地訪問計画書提出
第16回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑩、意見交換	秋学期からは、今年度の現地訪問成果の発表でも可。
第17回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑪、意見交換	同上
第18回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑫、意見交換	同上
第19回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑬、意見交換	同上
第20回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑭、意見交換	同上

第21回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑮、意見交換	同上
第22回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑯、意見交換	同上
第23回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑰、意見交換	同上
第24回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑱、意見交換	同上
第25回	2年生の共同研究発表	夏休みのゼミ合宿の成果
第26回	グループワーク（3）	個々の成果の共有につながるテーマを学生が自主設定
第27回	グループワーク（4）	同上
第28回	学年末論文の構想発表（タイトル・要旨・仮目次等）	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。
第29回	3・4年生による自主就活セミナー・ディスカッション	ゼミで学んだことを社会に出てどう活かすか 等
第30回	論文個別指導	学年末論文の最終アドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、現地訪問の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席、発表内容、学年末論文、ゼミという組織の中での協調性・貢献度、等々の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

PPT 等

【その他の重要事項】

新規参加者で「環境表象論Ⅱ」を未履修の人は、今年度中に受講してください。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース・地域環境共生コース

HA400

研究会 (A)

北川 徹哉

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会とエネルギーとのかかわりは、ほぼ永遠に考え続けなければならない重要な課題である。本研究会においては、国内外のエネルギー政策や技術の過去・現在、エネルギーと人間とのかかわり、エネルギーの未来像について勉強してゆく。

【到達目標】

1. 我が国におけるエネルギー政策の重要性を説明できる。
2. エネルギーと環境負荷軽減、人の暮らしとの関係を説明できる。
3. 交通・運輸、居住空間などにおけるエネルギーの現状と課題について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

前半は、指定したテキストあるいは資料を用いて各自の担当部分を決めて輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分の内容を理解して、その他の文献も参照しながら内容をまとめ、発表に臨む。後半には、春学期の輪講で得た知識をベースに個人あるいはグループごとにテーマを設定して課題に取り組む。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	テキスト・資料の内容	輪読するテキスト・資料の内容と社会・エネルギーとの関連性、輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第15回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	14番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第16回	調査テーマの選定	調査グループの決定、前半の輪読をヒントに調査テーマを考案、構想発表の準備
第17回	調査テーマの構想発表・討論 (その1)	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論 (第1回)
第18回	調査テーマの構想発表・討論 (その2)	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論 (第2回)
第19回	調査と分析 (その1)	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第20回	調査と分析 (その2)	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第21回	調査と分析 (その3)	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備

第22回	中間発表・討論 (その1)	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論 (第1回)
第23回	中間発表・討論 (その2)	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論 (第2回)
第24回	調査と分析 (その4)	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第25回	調査と分析 (その5)	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第26回	調査概要書の作成について	調査概要書のフォーマットと注意事項の説明
第27回	調査概要書の執筆	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆
第28回	調査概要書の執筆・最終発表の準備	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆、最終発表の準備
第29回	最終発表・討論 (その1)	各自あるいは各グループによる最終発表と討論 (第1回)、調査概要書の提出
第30回	最終発表・討論 (その2)	各自あるいは各グループによる最終発表と討論 (第2回)、調査概要書の提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第1～15回：輪読箇所精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習

第16回：エネルギーと社会に関する時事問題・課題の抽出

第17～18、22～23回：発表用スライドなどの作成、発表の練習

第19～21、24～26回：各種文献・レポート・インタビューなどによる調査と分析

第27～28回：調査概要書の執筆・データ整理

第29～30回：発表用スライドなどの作成、発表の練習、調査概要書のりばい

【テキスト (教科書)】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート (調査概要書) (30% : 論述の適切さ、到達目標1～3への到達度)、発表 (40% : スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への到達度)、議論 (30% : 説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への到達度) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

おおむね好評でした。

【その他の重要事項】

楽しく、じっくりと勉強します。また、知識を脳裏に固定化するには質問するのが一番です。わからないことは遠慮せずに質問し、スッキリさせてゆきましょう。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA400

研究会 (A)

内山 勝久

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の考え方と手法を学びます。現実の環境問題への適用を意識しながら、手法の理解と定着、批判と発展を図ります。

【到達目標】

本研究会では環境経済学に関する体系的な知識や思考方法を獲得することを目指します。その過程で、地球環境問題などさまざまな環境問題に関して、環境経済学の視点からどのように考えて対処すればよいのかを身につけたいと考えています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本研究会では、問題意識を深め課題解決につなげられるよう、環境経済学等に関する文献の輪読を中心に、ディスカッションを重点的に行います。サブゼミ（後輩のサブゼミでの指導も含む）やゼミ合宿なども行い、総合力の獲得を目指します。4年生は論文作成のための経過および最終報告なども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の進め方について相談
第 2 回	文献講読 (1)	指定された課題図書に基づく報告および討論
第 3 回	文献講読 (2)	報告および討論
第 4 回	文献講読 (3)	報告および討論
第 5 回	文献講読 (4)	報告および討論
第 6 回	文献講読 (5)	報告および討論
第 7 回	文献講読 (6)	報告および討論
第 8 回	文献講読 (7)	報告および討論
第 9 回	文献講読 (8)	報告および討論
第 10 回	文献講読 (9)	報告および討論
第 11 回	文献講読 (10)	報告および討論
第 12 回	文献講読 (11)	報告および討論
第 13 回	文献講読 (12)	報告および討論
第 14 回	文献講読 (13)	報告および討論
第 15 回	春学期総括	春学期学習のまとめ
第 16 回	修了論文中間発表会	修了論文に関する進捗状況報告
第 17 回	文献講読 (14)	報告および討論
第 18 回	文献講読 (15)	報告および討論
第 19 回	文献講読 (16)	報告および討論
第 20 回	文献講読 (17)	報告および討論
第 21 回	文献講読 (18)	報告および討論
第 22 回	文献講読 (19)	報告および討論
第 23 回	文献講読 (20)	報告および討論
第 24 回	文献講読 (21)	報告および討論
第 25 回	文献講読 (22)	報告および討論
第 26 回	文献講読 (23)	報告および討論
第 27 回	文献講読 (24)	報告および討論
第 28 回	秋学期総括	秋学期学習のまとめ
第 29 回	修了論文報告会 (1)	報告会への参加・発表・討論
第 30 回	修了論文報告会 (2)	報告会への参加・発表・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が主体となって研究会を運営していくために、以下の点を要請します。

- 1) 毎回、指定された範囲の予習と復習の実施。
- 2) サブゼミへの参加。
- 3) ゼミ合宿への参加。
- 4) 各種課題の提出。
- 5) 4年生は、研究会修了論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

環境経済学のテキストを使用します（詳細は開講時に指示します）。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会への参加、プレゼンテーションの質、ディスカッションによるクラスへの貢献、提出されたレポート等に関して総合的に評価します。無断で研究会を欠席することは厳禁とします。

【学生の意見等からの気づき】

修了論文執筆に関しては、参考となる事項も研究会のなかで適宜紹介します。また、サブゼミでの作業内容との連携強化も意識します。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース

HA400

研究会 (A)

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会では、「持続可能な地域社会の創造」をテーマとして、地域環境に直接または間接的にかかわる多様な政策領域を統合的に検討する。また自治体以外にも、市民、NPO、企業などの参加・協働を展望する。研究会の目的と意義は、「持続可能な地域社会」について、地域実践を含む高度なアクティブ・ラーニングを通して深く理解しながら、「社会人基礎力」などの名称で呼ばれる大学生としての総合的な能力を構築することである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・研究会の共通テーマ、学生の個人テーマに関する知識を獲得する。
- ・時事問題に関する知識を獲得し、現代社会を理解するための知見の涵養する。
- ・問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。
- ・地域実践に関する企画運営能力を身につける。
- ・研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
- ・文章力を涵養する。
- ・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングであるPBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流を行いながら、調査研究を実施し政策提言を含む報告書にまとめる。さらに基礎的な能力構築のために、ワークショップ技法の習得、書評の執筆、時事問題に関する討論などを日常の研究会に組み込む。さらに、学生の個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定してゼミ研究論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、1年間のスケジュールなどを確認する。
第2回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告した上で、質疑応答により共有する。
第3回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。
第4回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第5回	文献講読（2）	同上。
第6回	文献講読（3）	同上。
第7回	文献講読（4）	同上。
第8回	文献講読（5）	同上。
第9回	文献講読（6）	同上。
第10回	文献の総括と秋学期の方向性の検討	文献全体を総括しながら、共通テーマに関する知見を整理し、秋学期の調査研究課題への視点を共有する。
第11回	個人テーマの報告（1）	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第12回	個人テーマの報告（2）	同上。
第13回	個人テーマの報告（3）	同上。
第14回	個人テーマの報告（4）	同上。
第15回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。
第16回	地域連携プロジェクトの検証（1）	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、秋学期の共通テーマに反映する知見を共有する。
第17回	地域連携プロジェクトの検証（2）	同上。
第18回	共通テーマの調査研究（1）	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第19回	共通テーマの調査研究（2）	同上。

第20回	共通テーマの調査研究（3）	同上。
第21回	共通テーマの調査研究（4）	同上。
第22回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。
第23回	共通テーマの調査研究（5）	担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。
第24回	共通テーマの調査研究（6）	同上。
第25回	共通テーマの最終成果の共有	共通テーマの最終成果について、全体で確認し共有する。
第26回	個人テーマの報告（1）	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第27回	個人テーマの報告（2）	同上。
第28回	個人テーマの報告（3）	同上。
第29回	個人テーマの報告（4）	同上。
第30回	個人テーマの報告（5）	同上。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の時間外学習を行う。

- ・文献の事前学習、時事問題の情報収集、書評の作成。
- ・共通テーマに関する事前のグループワーク。
- ・個人テーマに関する論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】

開講時の約1ヶ月前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、個人テーマへの取り組み姿勢とゼミ論文の執筆（30%）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特定地域に関するPBL（問題発見・解決型学習）を進めることについて、答えのない問題に取り組むこと、さらにチームとしての協働は能力構築にとって意義があると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、「地域環境共生コース」、「環境文化創造コース」に登録した学生を対象としています。

したがって、履修にあたり、上記のコースの関連科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連する科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を図っていくことが望ましいと考えています。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的栄養が得られる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA400

研究会 (A)

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会の基本的なテーマは、「持続可能な地域社会の創造」である。特に「ソーシャル・イノベーション」といわれるテーマについて、ローカルな視点から理論やケースを検討しながら地域実践に参画する。また共通テーマ以外に、各人が個人テーマとして研究会修了論文の執筆に向けた調査研究を行う。研究会の目的と意義は、共通テーマへの取り組みを通して、「社会人基礎力」などの名称で呼ばれる大学生としての総合的な能力を構築しながら、自らの卒業後のキャリアイメージを模索すること、さらに研究会修了論文を完成させることである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・ 共通テーマ、個人テーマに関する知識を獲得する。
- ・ 論文作成能力を身につける。
- ・ 問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。
- ・ 研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
- ・ プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングである PBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流に参画する。さらに、研究会修了論文については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果については公開のプレゼンテーションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第 3 回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマについて、調査研究の内容、地域連携プロジェクトとの関連性などを検討する。
第 4 回	文献講読（1）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読（2）	同上。
第 6 回	文献講読（3）	同上。
第 7 回	地域連携プロジェクトの企画（1）	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。
第 8 回	文献講読（4）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 9 回	文献講読（5）	同上。
第 10 回	文献の総括	文献の内容を総括し、共通テーマに関する知見を共有する。
第 11 回	地域連携プロジェクトの企画（2）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施設計について検討する。
第 12 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 13 回	個人テーマの報告（2）	同上。
第 14 回	個人テーマの報告（3）	同上。
第 15 回	地域連携プロジェクトの企画（3）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第 16 回	秋学期の方向性の確認	秋学期の共通テーマの方向性を確認する。
第 17 回	地域連携プロジェクトの検証（1）	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第 18 回	地域連携プロジェクトの検証（2）	同上。
第 19 回	文献講読（1）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 20 回	文献講読（2）	同上。
第 21 回	文献講読（3）	同上。
第 22 回	文献講読（4）	同上。

第 23 回	文献講読（5）	同上。
第 24 回	文献の総括	文献の内容を総括し、共通テーマに関する知見を共有する。
第 25 回	個人テーマの報告（1）	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告（2）	同上。
第 27 回	個人テーマの報告（3）	同上。
第 28 回	個人テーマの報告（4）	同上。
第 29 回	個人テーマの報告（5）	同上。
第 30 回	研究会の総括	1 年間の研究会の内容を総括し、成果を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の時間外学習を行う。

- ・ 文献の事前学習。
- ・ 地域連携プロジェクトの企画。
- ・ 研究会修了論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】

- ・ 開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、研究会修了論文に関する個人テーマへの取り組み姿勢（30 %）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

PBL（問題発見・解決型学習）として、地域で実践し、その成果に関する報告書作成などに取り組むことは、かなりの負担ですが、チームとして協働しながら、かつ学外の組織や人々と連携することで、責任について体感し、研究会を通して、いわゆる「社会人基礎力」を育てていると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、「地域環境コース」、「環境文化創造コース」に登録した学生を対象としています。

したがって、履修にあたり、上記のコースの関連科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連する科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を図っていくことが望ましいと考えています。

このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的栄養が得られる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA400

研究会 (A)

後藤 彌彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ 環境法政策に関する研究
環境法政策に関して時事問題の討議や、個別分野の研究を行う

【到達目標】

環境関連分野を志望している者だけでなく、一般の企業人社会人となる人にとっても必要な環境法政策に関する知識を身につけ、持続可能な社会の実現を目指して自ら行動できる地球市民となる基礎能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

環境法政策に関する手法 (規制、計画、情報等) に関する講義と文献購読・討議、新聞記事等による時事問題の討議、個別分野の研究と発表・討議を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	オリエンテーション
第 2 回	教材による講義	環境法の手法 1
第 3 回	教材による講義	環境法の手法 2
第 4 回	教材による講義	環境法の手法 3
第 5 回	教材による講義	環境法の手法 4
第 6 回	時事問題	学生による発表と討議
第 7 回	時事問題	学生による発表と討議
第 8 回	時事問題	学生による発表と討議
第 9 回	事例発表	学生による発表と討議
第 10 回	事例発表	学生による発表と討議
第 11 回	事例発表	学生による発表と討議
第 12 回	事例発表	学生による発表と討議
第 13 回	事例発表	学生による発表と討議
第 14 回	まとめ	授業の総括
第 15 回	まとめ	授業の総括
第 16 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 17 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 18 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 19 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 20 回	時事問題	学生による発表と討議
第 21 回	時事問題	学生による発表と討議
第 22 回	時事問題	学生による発表と討議
第 23 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 24 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 25 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 26 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 27 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 28 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 29 回	まとめ	授業の総括
第 30 回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教材を予習する
事例、レポート発表のために、準備する

【テキスト (教科書)】

文献とプリント

【参考書】

その都度 紹介する

【成績評価の方法と基準】

発表、討議の状況により評価する

【学生の意見等からの気づき】

グループによる事例研究を行う

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・国際環境協力コース・エコ経済経営コース

HA400

研究会 (A)

関口 和男

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ハンナ・アレント『人間の条件』を通じて、現代社会とそこに住む我々人間の実相を理解する。とくに、「現代に生きるとは何か」「人間とは何か」という哲学の根本問題を参加者と共に追究する。

【到達目標】

「自分の言葉で考えること」と、「自分の考えをきちんと表現し、他者に伝達すること」ができるようにする。事象について複眼的な見方ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

上記文献の徹底的な精読と質疑応答。毎回、コメンテーターを決め、その人を中心に精読をする。ただし、参加者は、必ず一回は質問することを義務付ける。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第一・第二章を概観し、アレントの政治思想の基本構造を理解する。	質疑応答
第 2 回	同上	質疑応答
第 3 回	前年度に引き続き、講読。	質疑応答
第 4 回	文献講読	質疑応答
第 5 回	文献講読	質疑応答
第 6 回	文献講読	質疑応答
第 7 回	文献講読	質疑応答
第 8 回	文献講読	質疑応答
第 9 回	文献講読	質疑応答
第 10 回	文献講読	質疑応答
第 11 回	文献講読	質疑応答
第 12 回	文献講読	質疑応答
第 13 回	文献講読	質疑応答
第 14 回	文献講読	質疑応答
第 15 回	文献講読	質疑応答
第 16 回	夏休み中の学習指示	質疑応答
第 17 回	夏休みの課題の総括	質疑応答
第 18 回	文献講読	質疑応答
第 19 回	文献講読	質疑応答
第 20 回	文献講読	質疑応答
第 21 回	文献講読	質疑応答
第 22 回	文献講読	質疑応答
第 23 回	文献講読	質疑応答
第 24 回	文献講読	質疑応答
第 25 回	文献講読	質疑応答
第 26 回	文献講読	質疑応答
第 27 回	文献講読	質疑応答
第 28 回	文献講読	質疑応答
第 29 回	文献講読	質疑応答
第 30 回	文献講読	質疑応答

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞やニュースを必ず毎日見ておくこと。

【テキスト (教科書)】

ハンナ・アレント『人間の条件』志水訳、筑摩書房文庫

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

どんな些細な疑問点も質問するように。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース

HA400

研究会 (A)

武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2015 年度は、途上国における最大の課題である「貧困」について、その歴史、現状、対策などを、より深く、先進国における「貧困」の姿と重ね合わせながら議論を行います。

【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第 2 回	基礎文献の輪読（1）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 3 回	基礎文献の輪読（2）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 4 回	基礎文献の輪読（3）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 5 回	基礎文献の輪読（4）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 6 回	基礎文献の輪読（5）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 7 回	基礎文献の輪読（6）	途上国における貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 8 回	グループディスカッション 課題 1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 9 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 10 回	グループディスカッション 課題 2	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 11 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 12 回	グループディスカッション 課題 3	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 13 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 14 回	グループディスカッション 課題 4	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 15 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 16 回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 17 回	英文輪読	英語文献の輪読と意見交換
第 18 回	英文輪読	英語文献の輪読と意見交換
第 19 回	グループディスカッション 課題 5	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 20 回	同上	同上
第 21 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション

第 22 回	グループディスカッション 課題 6	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 23 回	同上	同上
第 24 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 25 回	グループディスカッション 課題 7	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 26 回	同上	同上
第 27 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 28 回	グループディスカッション 課題 8	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 29 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 30 回	まとめ	1 年間を通しての議論をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

ゼミ開講前に平田 オリザ（著）「わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か（講談社現代新書 2177）」を一読しておくことが望ましい。他は研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会への出席および議論への貢献、期末レポートを勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生同士のコミュニケーションをより頻繁に行いたいとの意見および、個人としての意見発表のスキル向上への配慮の要望があったことから、人数と時間の制約の中での議論の進め方について留意したい。

【その他の重要事項】

今年度も水曜日 1 限をサブゼミの時間と設定します。内容については受講者の自主的な提案に従います。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース・地域環境共生コース

HA400

研究会 (A)

田中 勉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ローカルな環境問題の社会学

【到達目標】

参加者それぞれが個人テーマを設定し研究を行う。地域社会の研究手法および環境問題への社会的アプローチの仕方を学び、それを具体的な事例に適用して考察することを目的とする。文献購読、資料収集、レポート作成、研究発表の順序で段階を追って各自の関心に基づき一年を通じて着実に前進できるようにする。2・3年生は課題を明確にして年度研究論文の作成をめざす。4年生は研究会終了論文の作成が最終目的となる。レポート執筆、個人研究報告などのしかたについてもきちんと身につけることもめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

はじめに文献を参考にいくつかのテーマでグループ討議を行い、資料の検索、社会的な思考法、分析のための概念枠組み、基礎概念などについて学ぶ。次いで各自の研究構想を報告し、参考文献・資料の検索と課題文献を決め、夏期レポートの作成をおこなう。レポートに基づき報告、コメント・質疑などをふまえて年度論文を作成する。春学期終了時に個別面談を行い、課題文献の選定をおこなう。課題によっては現地調査に関する指導を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	参加者確定、ガイダンス、文献配布	参加メンバーの確認。ゼミの進め方、ゼミルールの説明。文献を配布し、発表分担を決める。レジュメ作成に関する指示をする。
第 2 回	文献発表①	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第 3 回	文献発表②	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第 4 回	文献発表③	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第 5 回	文献発表④	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第 6 回	文献発表⑤	担当者による文献発表とグループワークを行う。
第 7 回	GWまとめ⑥	グループワークのまとめ。個人テーマ記入用紙配布。
第 8 回	文献発表⑦	担当者による文献発表と討論を行う。
第 9 回	文献発表⑧	担当者による文献発表と討論を行う。
第 10 回	個人研究構想発表①	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第 11 回	個人研究構想発表①	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第 12 回	個人研究構想発表②	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第 13 回	個人研究構想発表③	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第 14 回	個人研究構想発表④	個人テーマに関する研究構想の発表と討議。
第 15 回	個人研究発表まとめ	個人テーマに関するまとめ。春学期試験期間中に個別に休暇中の課題文献を指示する。
第 16 回	個人研究・文献発表①	個人別の課題文献の発表と討論。
第 17 回	個人研究・文献発表②	個人別の課題文献の発表と討論。
第 18 回	個人研究・文献発表③	個人別の課題文献の発表と討論。
第 19 回	個人研究・文献発表④	個人別の課題文献の発表と討論。
第 20 回	個人研究・文献発表⑤	個人別の課題文献の発表と討論。
第 21 回	個人研究・テーマ発表①	個人別の研究テーマに関する発表。
第 22 回	個人研究・テーマ発表②	個人別の研究テーマに関する発表。
第 23 回	個人研究・テーマ発表③	個人別の研究テーマに関する発表。
第 24 回	個人研究・テーマ発表④	個人別の研究テーマに関する発表。
第 25 回	個人研究・テーマ発表⑤	個人別の研究テーマに関する発表。
第 26 回	個人研究・テーマ発表⑥	個人別の研究テーマに関する発表。
第 27 回	個人研究・テーマ発表⑦	個人別の研究テーマに関する発表。
第 28 回	個人研究・テーマ発表⑧	個人別の研究テーマに関する発表。

第 29 回 研究会終了論文発表① 4 年次生の「研究会終了論文」の発表と講評。

第 30 回 研究会終了論文発表② 4 年次生の「研究会終了論文」の発表と講評。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

個人研究のテーマ選定、文献・資料検索を行う。社会調査 (インタビュー・調査票調査) を行う場合は個別に指導する。

【テキスト (教科書)】

宮内泰介「グループディスカッションで学ぶ社会学トレーニング」三省堂
藤村正之「考えるヒント」弘文堂
関・中澤ほか「環境の社会学」有斐閣

【参考書】

小島・西城戸編「フィールドから考える地域環境」ミネルヴァ書房
西城戸・船戸編「環境と社会」人文書院
宮内泰介「自分で調べる技術」岩波書店
日本環境社会学会「環境社会学研究」新曜社

【成績評価の方法と基準】

出席をもっとも重視します。発表、ディスカッションへの参加度、レポートなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションとその報告の時間を増やし、より討議が深まるようにします。

【その他の重要事項】

参加者数によって各回の時間配分は変更されることがあります。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース

HA400

研究会 (A)

辻 英史

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「市民社会」を生きる一歴史・環境・文化
いま、「市民社会」が関心を集めている。地域社会、コミュニティ、共同体、住民自治、さまざまな名称で呼ばれているが、いずれも人びとが自主的に集まり、議論を通じて自分たちの手で課題を解決していこうとする姿勢を指している。

このゼミでは、ヨーロッパおよび日本を中心に世界各国の「市民社会」をめぐる諸問題を扱う。それぞれの「市民社会」はどのような歴史があったのか、どのような問題を抱えているのか、国家、自治体、企業、NPO などとの関係はどうなっているのか。歴史学を中心にさまざまな角度から探ってみたい。

【到達目標】

2015年度は「ボランティア／志願すること」をテーマとする。
個人が、自分の属する集団や周囲の環境に関わる公的な目的のために、必ずしも直接自身の利益にならなくても、自発的に何らかの行動を起こすこと。これは世界各地で古くから見られる現象である。近年では、「市民社会」の重要な要素として注目され、評価されている。

ひとくちに「志願する」と言っても、どのような種類があるのだろうか。どのような状況下で、どのような動機から、人は「志願する」のだろうか。そのために社会はどのような制度や仕掛けを作り出しているのか。

この研究会では、さまざまな「ボランティア」の事例を取り上げ、それを通じて過去および現代の「市民社会」の実相にせまりたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

両学期とも、前半はテーマに関する重要な文献の購読をおこない、後半は春学期はグループワーク、秋学期はディベートをおこなう。その準備や個別の研究報告のためにサブゼミを開講する (隔週で週1回を予定)。

またゼミ合宿を単独で1回 (6月予定)、同志社大学経済学部ほか他大学ゼミと合同で1回 (10月上旬予定) 開催する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの説明
第2回	研究発表	3-4年生の研究発表
第3回	研究発表	3-4年生の研究発表
第4回	研究発表	3-4年生の研究発表
第5回	文献購読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第6回	文献購読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第7回	文献購読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第8回	文献購読	テーマに関する基礎的なテキストを購読する。
第9回	グループワーク	グループワークのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第10回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第11回	グループワーク	グループワークをおこなう。
第12回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第13回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第14回	グループワーク報告	各グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第15回	まとめ (全)	全体討論およびゼミ合宿準備
第16回	オリエンテーション	ゼミ合宿の準備をかねる。
第17回	卒論中間報告	4年生が卒論の中間報告をおこなう。
第18回	卒論中間報告	4年生が卒論の中間報告をおこなう。
第19回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第20回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第21回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第22回	文献購読	テーマに関する発展的なテキストを購読する。

第23回	ディベートテーマ決め	ディベートのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第24回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第25回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第26回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第27回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第28回	卒論最終報告	4年生対象の卒論完成報告
第29回	卒論最終報告	4年生対象の卒論完成報告
第30回	まとめ	全体討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミのなかでは参加者の個別の関心にそのまま合致した内容を扱うことは少ないので、各自の自主的な努力が重要である。自分の関心に即して文献を調べ、資料を集めるなど調査し、報告の準備をすること。

また、文献購読の際は、必ず事前にテキストを用意し、読んでくること。

【テキスト (教科書)】

植村邦彦『市民社会とは何か』平凡社新書、2010年。
小熊英二『社会を変えるには』講談社現代新書、2012年。
小熊英二ほか『平成史』(増補新版) 河出書房新社、2014年。
吉田徹『感情の政治学』講談社選書メチエ、2014年。
ほか、必要に応じて授業中に指示する。

【参考書】

小島・西城戸編著『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。
ほか、必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加 (できる限り出席すること)、研究報告、レポート (各学期末)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA400

研究会 (A)

永野 秀雄

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2015 年度は、環境関連の日本法と英文契約を研究します。

【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 15 回	春学期本ゼミ発表 (12)、夏合宿課題の説明	環境関連の日本法と英文契約に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表

第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 29 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 30 回	卒論発表会	4 年生による卒論発表会の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

【テキスト (教科書)】

環境法のテキストと、英文契約の資料を開講時に指定します。

【参考書】

田中英夫 (編集代表) 『英米法辞典』 (東京大学出版会、1991 年)。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

HA400

研究会 (A)

永野 秀雄

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2015 年度は、環境関連の日本法と英文契約を研究します。

【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 15 回	春学期本ゼミ発表 (12)、夏合宿課題の説明	環境関連の日本法と英文契約に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表

第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 29 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の日本法と英文契約に関する発表
第 30 回	卒論発表会	4 年生による卒論発表会の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

【テキスト (教科書)】

環境法のテキストと、英文の環境関連契約を開講時に指定します。

【参考書】

田中英夫 (編集代表) 『英米法辞典』 (東京大学出版会、1991 年)。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

HA400

研究会 (A)

長峰 登記夫

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

職業生活をとおして労働環境を考える。

【到達目標】

春学期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめる。こうした学習や作業をとおして、私たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、議論、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

春学期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか、等について学習する。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム1(終身雇用)	日本の雇用システムの3大特徴とされてきた終身雇用、年功制、企業内組合のうちの終身雇用について学ぶ。
第5回	日本の雇用システム2(年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第6回	日本の雇用システム3(企業内組合)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといつてよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国の組合とのちがいをみていく。
第7回	日本の雇用システム4(成果主義的雇用管理)	海外諸国と比較して、日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第8回	日本の雇用システム5(雇用とジェンダー)	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第9回	日本の雇用システム6(非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	仕事と労働時間1(労働時間)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのかについて学ぶ。

第11回	仕事と労働時間2(長時間労働とメンタルヘルス)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間はいかに関係しているのか等について考える。
第12回	大学生の就職1(日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第13回	大学生の就職2(大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等をとおして最新の情報を確認する。
第14回	大学生の就職3(グローバル人材)	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用の実態はどうか等について考える。
第15回	レポート提出とコメント	第2回・3回の授業で説明したレポート作成の注意事項にしたがってレポートが作成されているか、簡単にコメントをする。
第16回	春学期学習の復習1(日本の雇用とは)	春学期に行った日本の雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第17回	春学期学習の復習2(日本の雇用の新たな流れ)	日本の雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第18回	学生による研究発表1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第19回	学生による研究発表2	上記と同じ
第20回	学生による研究発表3	上記と同じ
第21回	学生による研究発表4	上記と同じ
第22回	学生による研究発表5	上記と同じ
第23回	学生による研究発表6	上記と同じ
第24回	学生による研究発表7	上記と同じ
第25回	学生による研究発表8	上記と同じ
第26回	学生による研究発表9	上記と同じ
第27回	学生による研究発表10	上記と同じ
第28回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第29回	学生による研究発表11	第18回と同じ
第30回	学生による研究発表12	上記と同じ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントしたり、意見を言えるようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する、発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。

【テキスト (教科書)】

春学期は基本的に本の1章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、2012年。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 出席、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

修了論文作成において、より早い時期からの計画的な指導が必要。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA400

研究会 (A)

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を講読しながら、実証的な社会学研究を自ら行うためのノウハウを理解する。

【到達目標】

本研究会では、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を集中的に講読し、「環境」「都市」「地域」に対する社会的なまなざし、アプローチの特徴を学ぶ。また、社会調査の基本的な方法論と実践を踏まえた上で、研究会参加者自らの関心から「自分で調べ」、最終的に研究会修了論文を執筆することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

研究会参加者の関心に従い、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究 (国内外) を決定し、全員で講読する。また、自分でテーマを設定し、研究会修了論文を執筆する。なお、研究会修了論文のテーマは、必ずしも環境や環境問題に特化しなくてもかまわない。研究会参加者の問題関心を重要視する。本やインターネットを「カットアンドペースト」してまとめたといった類の「レポート」ではなく、あくまでも「自分で調べる」という営みによって生み出された「論文」を目指す。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションの実施。演習の年間計画を立てる。
第 2 回	文献購読 (1)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 3 回	文献購読 (2)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 4 回	文献購読 (3)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 5 回	文献購読 (4)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 6 回	文献購読 (5)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 7 回	文献購読 (6)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 8 回	研究会修了論文中間報告 (1)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 9 回	文献購読 (7)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 10 回	文献購読 (8)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 11 回	文献購読 (9)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 12 回	文献購読 (10)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 13 回	文献購読 (11)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 14 回	文献購読 (12)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 15 回	研究会修了論文中間報告 (2)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。

第 16 回	文献購読 (13)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 17 回	文献購読 (14)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 18 回	文献購読 (15)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 19 回	文献購読 (16)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 20 回	研究会修了論文中間報告 (3)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 21 回	研究会修了論文中間報告 (4)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 22 回	文献購読 (17)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 23 回	文献購読 (18)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 24 回	文献購読 (19)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 25 回	文献購読 (20)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 26 回	研究会修了論文中間報告 (5)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 27 回	研究会修了論文中間報告 (6)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 28 回	研究会修了論文中間報告 (7)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 29 回	研究会修了論文中間報告 (8)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 30 回	研究会修了論文中間報告 (9)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関連文献の講読。および、研究会修了論文執筆に向けた一連の作業 (文献購読、調査、論文執筆等)

【テキスト (教科書)】

富田涼都, 2014, 『自然再生の環境倫理』昭和堂
保屋野初子, 2014, 『流域管理の環境社会学』岩波書店
木村至聖, 2014, 『産業遺産の記憶と表象』京都大学学術出版会
丸山康司, 2014, 『再生可能エネルギーの社会化』有斐閣
丸山康司・西城戸誠・本巢芽美 (編著), 2015, 『リスクと地域資源管理からみた再生可能エネルギー (仮題)』ミネルヴァ書房

【参考書】

随時、指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点。ただし、社会人学生で 2015 年度から研究会に参加する者は春学期、秋学期にレポートの提出を求める。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース

HA400

研究会 (A)

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会の〈環境〉の中で特に「農」「水」「エネルギー」と〈人〉のかかわりを巡る課題に対して、実証的な研究の手法を学びながら、社会調査を行い、実践的な課題解決をする力を養う。

【到達目標】

地域社会の「農」「水」「エネルギー」と〈人〉のかかわり方を再考し、その関係性の再構築のための実践に着目した調査研究を実施する。首都圏近郊および中山間地域・被災地などをフィールド対象とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、3つの部分から構成される。

- 1) 文献講読：フィールドや調査テーマに関連した文献を講読する。
- 2) 現地視察：文献講読と閉講しながら、首都圏や東京都の中山間地域における農林業ならびに集落についての現地視察を行う。
- 3) グループに分かれての調査研究の実施：テーマの設定、現地調査、報告書・論文の執筆、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションを実施する。
第2回	文献講読(1)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第3回	文献講読(2)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第4回	文献講読(3)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第5回	文献講読(4)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第6回	文献講読(5)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第7回	現地視察	調査地域の視察を実施する。
第8回	調査グループの設定、テーマの選定(1)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第9回	調査グループの設定、テーマの選定(2)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第10回	グループ中間発表会	グループ別に調査テーマの方向性について報告し合い、議論をする。
第11回	調査準備・予備調査(1)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第12回	調査準備・予備調査(2)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第13回	調査準備・予備調査(3)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第14回	調査準備・予備調査(4)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第15回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告と今後の方向性について報告し合い、議論をする。
第16回	各グループにおける調査(1)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第17回	各グループにおける調査(2)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第18回	各グループにおける調査(3)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。

第19回	各グループにおける調査(4)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第20回	各グループにおける調査(5)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第21回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告を行い、議論をする。
第22回	各グループにおける調査(6)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第23回	各グループにおける調査(7)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第24回	各グループにおける調査(8)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第25回	各グループにおける調査(9)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第26回	各グループにおける調査(10)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第27回	グループの発表・報告書作成(1)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第28回	グループの発表・報告書作成(2)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第29回	グループの発表・報告書作成(3)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第30回	グループの発表・報告書作成(4)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の講読やフィールドワークを課す。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、指定する

【成績評価の方法と基準】

授業やフィールドワークへの出席ならびに参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース

HA400

研究会 (A)

根崎 光男

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：環境問題への歴史学的アプローチ

環境史の教養を深めるために、日本の歴史上、生じたさまざまな環境問題を歴史学という学問を活用して、その歴史事実の把握と歴史評価を行えるようにする。そのために、歴史資料の読解、古文書の解読、グループ学習、フィールド調査、各自の研究発表を行い、環境史研究を進める。

【到達目標】

日本の歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を研究するための文献収集・資料読解・課題解決の能力を養う。このなかで、ゼミ生は環境史研究のテーマを自ら見つけて調査研究し、4年時に研究会修了論文を提出することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

この授業は、指定されたテーマに関連した歴史資料・古文書の読解、フィールドの調査、各自の調査・研究に基づく発表、研究レポート・研究会修了論文の執筆といった一連の作業を、演習形式により行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションー環境史研究の調査と方法	本研究会の目標の周知と環境史研究の文献探索、調査方法、研究方法などを学習する。
第 2 回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 3 回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 4 回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 5 回	古文書解読①	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 6 回	古文書解読②	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 7 回	調査研究のグループ発表①	指定した課題を分析し、グループ別に発表する。
第 8 回	調査研究のグループ発表②	指定した課題を分析し、グループ別に発表する。
第 9 回	史跡探索①	フィールドに出かけ、史跡探索を実施する。
第 10 回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 11 回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 12 回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 13 回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 14 回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 15 回	特定テーマ中間発表⑥	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 16 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う。
第 17 回	史跡探索②	フィールドに出かけ、史跡探索を実施する。
第 18 回	史料読解④	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 19 回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 20 回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。

第 21 回	古文書解読③	指定された古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 22 回	古文書解読④	指定された古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 23 回	調査研究のグループ発表③	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第 24 回	調査研究のグループ発表④	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第 25 回	特定テーマ研究発表①	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 26 回	特定テーマ研究発表②	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 27 回	特定テーマ研究発表③	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 28 回	特定テーマ研究発表④	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 29 回	特定テーマ研究発表⑤	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 30 回	特定テーマ研究発表⑥	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配付した歴史資料・古文書の読解。
グループ・個人の研究にかかわる文献探索・講読。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50 %)、発表 (20 %)、レポート (30 %) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況を把握するため、随時面談を行う。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA400

研究会 (A)

長谷川 直哉

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

CSR (企業の社会的責任) や Business Ethics (経営倫理) を中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

【到達目標】

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の分野で実証的アプローチによる研究を行い、4年生は研究会修了論文、2・3年生は日経ストックリーグレポートを作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得しディベート能力も涵養します。秋学期は、複数のチームを編成し日経新聞と野村証券が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス ・ストックリーグ ・卒業論文	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要 卒業論文の執筆スケジュール
第2回	CSR 文献講読①	担当者による報告と全体討議
第3回	CSR 文献講読②	担当者による報告と全体討議
第4回	CSR 文献講読③	担当者による報告と全体討議
第5回	CSR 文献講読④	担当者による報告と全体討議
第6回	CSR 文献講読⑤	担当者による報告と全体討議
第7回	経営分析文献講読①	担当者による報告と全体討議
第8回	経営分析文献講読②	担当者による報告と全体討議
第9回	経営分析文献講読③	担当者による報告と全体討議
第10回	経営分析文献講読④	担当者による報告と全体討議
第11回	ストックリーグ・テーマ 検討①	担当者による報告と全体討議 チーム編成
第12回	ストックリーグ・テーマ 検討②	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第13回	ストックリーグ・テーマ 検討③	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第14回	ストックリーグ・テーマ 検討④	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第15回	卒業論文中間報告① ストックリーグ・テーマ 検討⑤	4年生による卒業報告 ファンドテーマの構想発表
第16回	卒業論文中間報告②	卒業論文テーマ・構成の発表 ファンドテーマの発表
第17回	ストックリーグ・グルー プ中間報告①	チームの活動報告
第18回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第19回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第20回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第21回	ストックリーグ・グルー プ中間報告②	経営分析・企業ヒアリング ユニバースの発表
第22回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第23回	ストックリーグ活動	ポートフォリオの概要発表
第24回	ストックリーグ活動	バーチャルトレード
第25回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第26回	ストックリーグ・グルー プ中間報告③	ポートフォリオの完成
第27回	ストックリーグ活動	レポート作成
第28回	ストックリーグ活動	レポート作成
第29回	ストックリーグ・レポ ート発表会	レポートの最終発表
第30回	卒業論文発表会	卒業論文の最終発表

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

【テキスト (教科書)】

研究会の開講前に掲示します。

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

〔共通評価〕ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度
〔個別評価〕4年生：卒業論文
2・3年生：ストックリーグのレポート

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA400

研究会 (A)

日原 傳

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中国語文献講読

【到達目標】

・中国の新聞、雑誌の一般的な記事なら、辞書を引きながら独力で読むことの出来るレベルへの到達を目指す。

・中国に関するテーマで論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・中国語の基礎を習得した学生を対象に、中国語の文献を読みこなす力を高める訓練をする。

・最初の時間に中国語の文献を読むために必要な工具書、中国語書籍を扱う書店等について紹介する。以後は毎回テキストを輪読してゆく。研究会終了論文執筆予定者が各自の研究テーマについて発表し、意見交換をする時間も設ける。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語の文献を読むために	・工具書、中国語書籍を扱う書店の紹介 ・テキストに関する相談
第 2 回	文献講読	テキスト輪読
第 3 回	文献講読	テキスト輪読
第 4 回	文献講読	テキスト輪読
第 5 回	文献講読	テキスト輪読
第 6 回	文献講読	テキスト輪読
第 7 回	文献講読	テキスト輪読
第 8 回	文献講読	テキスト輪読
第 9 回	文献講読	テキスト輪読
第 10 回	発表、文献講読	発表 (論文の構想)、テキスト輪読
第 11 回	発表、文献講読	発表 (論文の構想)、テキスト輪読
第 12 回	発表、文献講読	発表 (論文の構想)、テキスト輪読
第 13 回	文献講読	テキスト輪読
第 14 回	文献講読	テキスト輪読
第 15 回	文献講読	テキスト輪読
第 16 回	文献講読	テキスト輪読
第 17 回	文献講読	テキスト輪読
第 18 回	文献講読	テキスト輪読
第 19 回	文献講読	テキスト輪読
第 20 回	文献講読	テキスト輪読
第 21 回	文献講読	テキスト輪読
第 22 回	文献講読	テキスト輪読
第 23 回	発表、文献講読	発表 (論文要旨)、テキスト輪読
第 24 回	発表、文献講読	発表 (論文要旨)、テキスト輪読
第 25 回	発表、文献講読	発表 (論文要旨)、テキスト輪読
第 26 回	文献講読	テキスト輪読
第 27 回	文献講読	テキスト輪読
第 28 回	文献講読	テキスト輪読
第 29 回	文献講読	テキスト輪読
第 30 回	文献講読	テキスト輪読

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・辞書を引き、次回読む文章を下読みしておく。同時にすらすら音読できるまで繰り返し発音練習を行なう。

・各自研究テーマを決め、論文執筆のために文献を収集する。

・論文を執筆する。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布する。

【参考書】

『中日辞典』(小学館)、『中国語辞典』(白水社) レベルの中国語辞書。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への参加態度、発表内容) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ様々な形の文章に触れられるように工夫する。

研究会修了論文に関しては、個別に面談指導する時間を早くから設ける。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース・国際環境協力コース

HA400

研究会 (A)

平野井 ちえ子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、文化政策・アートマネジメントの現状を考えます。

【到達目標】

1. 地域に暮らす人々の生活とそれぞれの地に固有の文化活動との関わりを理解することです。
2. 基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアをもつことが必要です。
3. 文化というソフトウェアから地域を考える姿勢が大切です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

春学期は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行なった後、参加者各自に舞台芸術鑑賞レポートの作成と発表を求めます。秋学期は、文化政策とそのケーススタディの基本書を輪読しつつ、参加者各自が設定した地域の文化のケーススタディを指導します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	1年間の流れを概説します。また、春学期の舞台芸術鑑賞レポートについて説明します。
第2回	現代演劇1：講義・討論	翻訳劇の歴史について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第3回	現代演劇2：講義・討論	現代日本の劇作家・演出家について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第4回	前衛演劇：講義・討論	「アングラ」・「舞踏」につて講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第5回	最新舞台情報・舞台芸術鑑賞レポート作成指導	舞台芸術情報の探し方を指導します。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第6回	民俗芸能1：講義・討論	日本の民俗芸能について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第7回	民俗芸能2：講義・討論	日本の民俗芸能について講義を行ないます。映像資料について意見交換します。
第8回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論(1)	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第9回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論(2)	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第10回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論(3)	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第11回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論(4)	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第12回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論(5)	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第13回	フィールドワーク文献講読・討論(1)	『フィールドワーク 一書を持って街へ出よう』1. フィールドワークとは何か 2. フィールドワークの論理
第14回	フィールドワーク文献講読・討論(2)	『フィールドワーク 一書を持って街へ出よう』3. フィールドワークの実際 4. ハードウェアとソフトウェア
第15回	フィールドワーク実践講義	フィールドワークのケーススタディを紹介します。
第16回	文献講読・討論(『入門文化政策』1)	1. 文化政策の観点からの京都観光論 2. 国際観光と文化政策 3. 地域文化資源と文化マネジメント(富山の事例)
第17回	文献講読・討論(『入門文化政策』2)	1. 市民と自治体による文化芸術創造都市づくり(横浜の事例) 2. 中山間地域の文化政策 3. 文化政策とその担い手

第18回	文献講読・討論(『入門文化政策』3)	1. 格差社会における文化政策 2. ライフスタイルのための文化政策 3. 文化政策としてのミュージアム・マネジメント
第19回	文献講読・討論(『入門文化政策』4)	1. 活動の現場からみた公と民の協働論 2. 市民文化の創造環境を目指して 3. 公共施設の運営と指定管理者制度
第20回	文献講読・討論(『入門文化政策』5)	1. 文化創造拠点としての宗教空間 2. 「政策科学」のこれからと文化政策への期待
第21回	地域の文化レポート作成指導(1)	調査方法や論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第22回	地域の文化レポート作成指導(2)	調査の具体例としてSCOT (Suzuki Company of Toga) について講義します。
第23回	地域の文化レポート作成指導(3)	参加者各自が設定したレポートテーマとアイデアの詳細を交換します。
第24回	地域文化レポート発表・討論(1)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第25回	地域文化レポート発表・討論(2)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第26回	地域文化レポート発表・討論(3)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第27回	地域文化レポート発表・討論(4)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第28回	地域文化レポート発表・討論(5)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第29回	地域文化レポート発表・討論(6)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第30回	総括(ラウンドテーブル)	「地域」と「文化」の関わりについて共に考えます。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

文献講読の予習(発表者はレジュメの準備)
舞台芸術鑑賞とフィールド調査(レポート作成)

【テキスト(教科書)】

井口貢(2008)『入門文化政策 地域の文化を創るということ』ミネルヴァ書房
佐藤郁哉(2006)『フィールドワーク 一書を持って街へ出よう』新曜社

【参考書】

日本放送協会(2010)『NHK日本の伝統芸能(2010年度版)』日本放送出版協会
舞台芸術財団演劇人会議(2005)『シンポジウム・劇場芸術の地平』舞台芸術財団演劇人会議
SPAC(1999)『劇場とは何か 新しい文化活動の創出に向けて』SPAC
平野井(2006)「小鹿野歌舞伎の現在」『法政大学人間環境論集』第6巻第2号
平野井(2007)「SPACの地域性と国際性」『法政大学人間環境論集』第7巻第2号
平野井他(2014)「人間環境セミナー「芸術・文化の現場」をふりかえって」『法政大学人間環境論集』第14巻第3号
ほか。

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%
出席・参加態度、口頭発表(テキスト輪読分と、各期末レポートの概略について)

【期末レポート】50%

春学期は、舞台芸術鑑賞レポート
秋学期は、文化発信の「場」のレポート

【学生の意見等からの気づき】

好評です。今後も、学生の自主性を尊重し、地域と芸術をバランスよく論じ合う交流の場としていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

BT0309教室使用

【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース・地域環境共生コース

HA400

研究会 (A)

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境工学は環境問題を専門的に取り扱うために欠かせない基礎です。ここでは、高等学校工業科用文部省検定済教科書「環境工学基礎」のコピー版である『環境工学入門』(実教出版)をテキストに用い、輪読、問題演習、研究発表を通じた学習を行います。

【到達目標】

エコ検定合格は最低限のレベルであり、公害防止管理者試験など各種試験受験のための基礎知識習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

テキストの購読、問題演習、レポートの作成を通じて知識の習得を行います。合わせて4年生は、関連するテーマで卒業論文を作成します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	顔合わせ、自己紹介など
第2回	第1章 地球と人類 (1)	地球の成り立ち、地球上の資源
第3回	第1章 地球と人類 (2)	世界の資源と人間
第4回	第2章 社会と環境 (1)	社会と環境の歴史
第5回	第2章 社会と環境 (2)	日本の環境政策
第6回	卒業論文指導	関心事項の抽出
第7回	卒業論文指導	関心事項の発表
第8回	第3章 地球温暖化とエネルギー (1)	地球温暖化とその影響 1
第9回	第3章 地球温暖化とエネルギー (2)	地球温暖化とその影響 2
第10回	第3章 地球温暖化とエネルギー (3)	エネルギーの利用技術と地球温暖化対策
第11回	第4章 廃棄物とリサイクル (1)	廃棄物の現状 1
第12回	第4章 廃棄物とリサイクル (2)	廃棄物の現状 2
第13回	第4章 廃棄物とリサイクル (3)	廃棄物の処理技術と管理 1
第14回	第4章 廃棄物とリサイクル (4)	廃棄物の処理技術と管理 2
第15回	卒業論文指導	研究テーマの確定
第16回	卒業論文指導	中間報告
第17回	現地見学 (1)	見学の準備
第18回	現地見学 (2)	見学の実施
第19回	現地見学 (3)	見学のまとめ
第20回	第5章 地域環境の保全 (1)	大気汚染の現状と対策
第21回	第5章 地域環境の保全 (1)	水質汚染の現状と対策
第22回	第5章 地域環境の保全 (1)	土壌・地下水汚染の現状と対策

第23回	第5章 地域環境の保全 (1)	騒音・振動・臭気の現状と対策
第24回	第6章 産業と環境 (1)	産業界の取り組み
第25回	第6章 産業と環境 (2)	環境リスクと安全管理
第26回	第6章 産業と環境 (3)	省エネルギー
第27回	第6章 産業と環境 (4)	廃棄物処理とリサイクル、大気・水環境保全
第28回	第7章 都市・生活と環境 (1)	都市システム、住環境と環境
第29回	第7章 都市・生活と環境 (2)	環境保全に向けた取り組み
第30回	まとめ	卒業論文の発表など

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

指示される演習と4年生は卒業研究の実施をしてください。

【テキスト(教科書)】

『環境工学入門』実教出版

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

研究会への参加状況で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から内容を新たに実施します。

HA400

研究会 (A)

金藤 正直

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本研究会では、「地域の持続的成長を実現するためのビジネスモデルをどのように構築 (デザイン) すればいいのか?」という問題への解決策を多面的な研究や調査を通じて提案していくことを目的とする。

【到達目標】

本研究会では、地域 (都道府県あるいは市町村) 内の企業、地方自治体、地域、国による事業 (「プロジェクト」ではなく、「ビジネス」) に関する問題とその解決策を、研究テーマごとに編成されたチームで主体的に、また、論理的に考え、説明していく能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

①地域の農林水産業 (第 1 次産業) やその関連産業が行っている先進的な持続的成長のためのビジネスモデルを、テキストや他の著書、論文、報告書等を用いて明らかにしていく。

②①の結果に基づくアンケート調査やヒアリング調査 (インタビュー) を実施し、ビジネスモデルの実態をより深く理解していく。

③各自のさらなるレベルアップのために、ゲストスピーカーによる講演、アンテナショップや施設等の調査、合宿、調査先や大学間での勉強会や報告会等のイベントを開催する。

④①～③の成果は、研究・調査計画書やそれをもとに作成される研究ノート、レポート、研究会修了論文にまとめていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。また、チームを作り、その中で行う研究・調査のテーマを検討する。
第 2 回	研究・調査やその成果報告の方法 (A)	文献を用いた研究とその成果報告に関する方法を説明する。
第 3 回	研究・調査のテーマと方法に関する報告	各チームが行う研究・調査のテーマと方法について報告し、決定する。
第 4 回	研究・調査に関する映像資料の視聴 (A)	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を各チームで議論する。
第 5 回	製品・商品の生産・販売店の調査 (A)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設等に行き、そこでの取組内容について調査する。
第 6 回	研究・調査報告①	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 7 回	研究・調査報告②	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 8 回	研究・調査報告③	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 9 回	研究・調査報告④	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。

第 10 回	研究・調査報告⑤	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 11 回	研究・調査報告⑥	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 12 回	研究・調査報告⑦	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 13 回	研究・調査報告⑧	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 14 回	研究・調査やその成果報告の方法 (B)	アンケート調査およびヒアリング調査とその結果報告に関する方法について説明する。
第 15 回	研究・調査計画書の作成方法	これまでに行ってきた研究・調査の成果を整理する計画書の作成方法について説明する。
第 16 回	研究・調査計画書の報告 (中間報告) (A)	これまでに取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第 17 回	研究・調査計画書の報告 (中間報告) (B)	これまでに取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第 18 回	研究・調査に関する映像資料の視聴 (B)	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を各チームで議論する。
第 19 回	製品・商品の生産・販売店の調査 (B)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設等に行き、そこでの取組内容について調査する。
第 20 回	研究・調査報告⑨	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 21 回	研究・調査報告⑩	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 22 回	研究・調査報告⑪	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 23 回	研究・調査報告⑫	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 24 回	研究・調査報告⑬	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 25 回	研究・調査報告⑭	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 26 回	研究・調査報告⑮	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 27 回	研究・調査報告⑯	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査を考慮に入れた研究・調査報告を行う。
第 28 回	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカー (行政、事業者、市民・NPO、学識経験者等) の講義とその内容に関する討論を行う。

- 第29回 総括－最終報告
(A)－
今年度取り組んだ研究・調査や作成した計画書（レポートあるいは(小)論文）に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
- 第30回 総括－最終報告
(B)－
今年度取り組んだ研究・調査や作成した計画書（レポートあるいは(小)論文）に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会で使用するテキスト以外に、その内容に関連する著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事等を用いて、研究テーマ選び、研究・調査の目的・視点やそれに関する先行研究の検討等を計画的に実施してください。

【テキスト（教科書）】

二神恭一・高山貢・高橋賢（2014）『地域再生のための経営と会計・産業クラスターの可能性』中央経済社。
※毎回の報告はパワーポイントを利用しますので、各チームはレジユメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

チームあるいはそのメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の5点に基づいて評価します。
・平常点（講義回数の2/3以上の出席を評価の条件）（30%）
・討論への参加（発言内容・積極性）（20%）
・報告用配布レジユメの内容（10%）
・報告内容（プレゼンテーション能力）（20%）
・提出物（研究・調査計画書、レポート、(小)論文等）の内容（20%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

本研究会は、チームあるいは個人による研究や調査だけではなく、研究会メンバー、調査先の方々、学外の学生と一緒に勉強会や報告会等のイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができるとともに、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力を身につけてください。

【関連の深いコース】

・エコ経済経営コース

HA400

研究会 (A)

松本 倫明

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地球温暖化とその周辺」
地球環境／地球温暖化対策／省エネ／エネルギー問題／エコ技術 など、地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。

【到達目標】

地球温暖化とその周辺について理解を深めます。
客観的に定量的に考察する力をつけます。
プレゼンの方法と論文の書き方も指導します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「環境速報」（通年）…環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。
「文献輪講」（前期）…地球温暖化に関する文献を輪講します。文献は毎年異なります。近年では、IPCC第3次評価報告書、IPCC第4次評価報告書、エネルギー白書、原子力・自然エネルギーに関する書籍、科学技術社会論（STS）の書籍を輪講した実績があります。2015年度はIPCC第5次評価報告書を輪講する予定です。
「研究報告」（後期）…個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。
「グループワーク」（逐次）…特定のテーマについてグループで研究します。環境展における企業研究や文献調査などを行った実績があります。
「報告書」（年度末）…1年間の成果をまとめた報告書を提出します。4年生は研究会修了論文（卒論）を提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	打ち合わせ	研究会運営について打ち合わせをします。
第2回	環境速報 文献輪講 グループワーク	環境速報と文献輪講を行います。グループワークを話し合います。
第3回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第4回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第5回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第6回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第7回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第8回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第9回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第10回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第11回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第12回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第13回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第14回	グループワーク発表 グループワーク発表	春学期のグループワークの成果を発表します。
第15回	まとめ	春学期のまとめをします。
第16回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第17回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。グループワークについて話し合います。
第18回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第19回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。

第 20 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 21 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 22 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 23 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 24 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 25 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 26 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 27 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 28 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 29 回	グループワーク発表	グループワークの発表を行います。
第 30 回	まとめ	1 年間のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動で学外で調査を実施することがあります。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示をします。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢、発表と議論の内容、年度末報告書にもとづき総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

ピアレビューは好評なので今年度も引き続きピアレビューを行います。グループワークを充実させます。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションではパワーポイントを用います。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA400

研究会（A）

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくためにストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上（2）	同上（2）
第 5 回	同上（3）	同上（3）
第 6 回	同上（4）	同上（4）
第 7 回	同上（5）	同上（5）
第 8 回	同上（6）	同上（6）
第 9 回	同上（7）	同上（7）
第 10 回	同上（8）	同上（8）
第 11 回	同上（9）	同上（9）
第 12 回	同上（10）	同上（10）
第 13 回	同上（11）	同上（11）
第 14 回	同上（12）	同上（12）
第 15 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 16 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（13）	研究発表とディスカッション
第 18 回	同上（14）	同上（14）
第 19 回	同上（15）	同上（15）
第 20 回	同上（16）	同上（16）
第 21 回	同上（17）	同上（17）
第 22 回	同上（18）	同上（18）
第 23 回	同上（19）	同上（19）
第 24 回	同上（20）	同上（20）
第 25 回	同上（21）	同上（21）
第 26 回	同上（22）	同上（22）
第 27 回	同上（23）	同上（23）
第 28 回	同上（24）	同上（24）
第 29 回	同上（25）	同上（25）
第 30 回	1 年のまとめ	1 年のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書をよむこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の出席および参加態度により評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA400

研究会（A）

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくためにストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が1998年から14年連続で3万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1年に2回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第2回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第3回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション
第4回	同上（2）	同上（2）
第5回	同上（3）	同上（3）
第6回	同上（4）	同上（4）
第7回	同上（5）	同上（5）
第8回	同上（6）	同上（6）
第9回	同上（7）	同上（7）
第10回	同上（8）	同上（8）
第11回	同上（9）	同上（9）
第12回	同上（10）	同上（10）
第13回	同上（11）	同上（11）
第14回	同上（12）	同上（12）
第15回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第16回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第17回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（13）	研究発表とディスカッション
第18回	同上（14）	同上（14）
第19回	同上（15）	同上（15）
第20回	同上（16）	同上（16）
第21回	同上（17）	同上（17）
第22回	同上（18）	同上（18）
第23回	同上（19）	同上（19）
第24回	同上（20）	同上（20）
第25回	同上（21）	同上（21）
第26回	同上（22）	同上（22）
第27回	同上（23）	同上（23）
第28回	同上（24）	同上（24）
第29回	同上（25）	同上（25）
第30回	1年のまとめ	1年のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、春学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の出席および参加態度により評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA400

研究会（A）

安岡 宏和

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伊豆諸島をフィールドとして離島の自然と文化について学び、それを活かした地域経済や地域社会のあり方について考える。

【到達目標】

エスノグラフィー型フィールドワークにもとづく地域研究をとおして、自分自身の具体的な経験のなかから問題意識を練りあげ、じっさいに取り組むことのできる問いを設定し、それに解答をあたえる方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

2年間の目標は、エスノグラフィー型フィールドワークを実施し、それにもとづいた論文を書くことである。したがって授業時間外にフィールドワークをおこなうことが必須である。フィールドワークは原則として個人でおこなう。フィールドワークの期間はとくに定めないが、エスノグラフィーを書くためには相応の時間が必要であろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	年間の計画を調整する。
第2回	プレゼンテーションとディスカッション（1）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第3回	プレゼンテーションとディスカッション（2）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第4回	プレゼンテーションとディスカッション（3）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第5回	プレゼンテーションとディスカッション（4）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第6回	プレゼンテーションとディスカッション（5）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第7回	プレゼンテーションとディスカッション（6）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第8回	プレゼンテーションとディスカッション（7）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第9回	プレゼンテーションとディスカッション（8）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第10回	プレゼンテーションとディスカッション（9）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第11回	プレゼンテーションとディスカッション（10）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第12回	プレゼンテーションとディスカッション（11）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第13回	プレゼンテーションとディスカッション（12）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第14回	プレゼンテーションとディスカッション（13）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第15回	プレゼンテーションとディスカッション（14）	学生がフィールドワークの構想・計画を発表し、ディスカッションをおこなう。
第16回	プレゼンテーションとディスカッション（15）	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第17回	プレゼンテーションとディスカッション（16）	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第18回	プレゼンテーションとディスカッション（17）	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。

第 19 回	プレゼンテーションとディスカッション (18)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 20 回	プレゼンテーションとディスカッション (19)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 21 回	プレゼンテーションとディスカッション (20)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 22 回	プレゼンテーションとディスカッション (21)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 23 回	プレゼンテーションとディスカッション (22)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 24 回	プレゼンテーションとディスカッション (23)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 25 回	プレゼンテーションとディスカッション (24)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 26 回	プレゼンテーションとディスカッション (25)	学生がフィールドワークの結果を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 27 回	プレゼンテーションとディスカッション (26)	年度末報告 (1)
第 28 回	プレゼンテーションとディスカッション (27)	年度末報告 (2)
第 29 回	プレゼンテーションとディスカッション (28)	年度末報告 (3)
第 30 回	プレゼンテーションとディスカッション (29)	年度末報告 (4)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) フィールドワーク
- (2) プレゼンテーションと報告書の準備

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業中に提示

【成績評価の方法と基準】

- (1) 毎回のディスカッションへの貢献 (50 点)
- (2) 年度末報告 (50 点)

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA400

研究会 (A)

渡邊 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：文系の立場から科学技術政策へ向けて多角的に考える「人」と「環境問題」の関連について具体的な事例をもとに幅広く考察し、環境問題の論点や視点の持ち方を研究していきます。科学技術の進歩とは何か？を意識しながらその将来像や政策の方向について考えていきます。参加者同士で調査・報告・討論しながら人間と科学技術の関係性などについて考察を深めます。具体的な調査内容は授業時に相談しながら選定します。

【到達目標】

今日我々が抱えている環境問題を科学技術の進歩の結果としてとらえ、その歴史や役割などを考察し、我々のライフスタイルなどを結びつけながら総合的に考える力を養うことを目標としています。自分の意見をしっかりと持ち、説得力のある表現（プレゼンテーション）ができるようになることも目標のひとつです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

1 年間の授業内容はおおむね次の通りです。＜春学期＞まず 2 名ずつのチームを作り調査や討論を進め報告します。その後、チームを発展させて 4～5 名ずつに分かれてグループ研究を行います。その研究結果を発表し合い、お互いの問題意識やそれに関わる知識を全員で共有します。これは参加者間のディスカッションがよりスムーズにいくように考えた段階的方法です。また学外の施設見学や環境展示会などに参加し、そこでの調査内容を報告し検討します。これにより企業や団体・組織などの環境問題の捉え方や取組の最前線を調査します。＜秋学期＞個人の研究テーマについて調査・研究を進め、報告と討論を行います。具体事例についてのメリット・デメリット、経済性、環境貢献性などについて多角的に考察を行います。4 年生は「研究会修了論文」を提出することを前提としていますが、その中間発表と最終報告も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年間の授業計画についての打ち合わせを行います
第 2 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行います
第 3 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行います
第 4 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行います
第 5 回	小チームによる検討	2 名ずつに分かれてテーマを決めて話し合いをし、検討内容を報告します
第 6 回	小チームによる検討	2 名ずつに分かれてテーマを決めて話し合いをし、検討内容を報告します
第 7 回	小チームによる検討	2 名ずつに分かれてテーマを決めて話し合いをし、検討内容を報告します
第 8 回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第 9 回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第 10 回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第 11 回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第 12 回	グループ研究	グループ毎にテーマを選定し調査・研究を進めます
第 13 回	個人研究へ向けて	個人研究のテーマについて検討と打ち合わせを行います
第 14 回	個人研究へ向けて	個人研究のテーマについて検討と打ち合わせを行います
第 15 回	個人研究へ向けて	個人研究のテーマについて検討と打ち合わせを行います
第 16 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第 17 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第 18 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告し討論します

発行日：2021/6/1

- | | | |
|--------|--------------------|--------------------------------------|
| 第 19 回 | 卒論の中間報告（4 年生） | 研究会修了論文（卒論）の中間報告と質疑応答を行います |
| 第 20 回 | 卒論の中間報告（4 年生） | 研究会修了論文（卒論）の中間報告と質疑応答を行います |
| 第 21 回 | 卒論の中間報告（4 年生） | 研究会修了論文（卒論）の中間報告と質疑応答を行います |
| 第 22 回 | 個人研究の報告と検討（2,3 年生） | 個人研究の調査内容について報告し討論します |
| 第 23 回 | 個人研究の報告と検討（2,3 年生） | 個人研究の調査内容について報告し討論します |
| 第 24 回 | 個人研究の報告と検討（2,3 年生） | 個人研究の調査内容について報告し討論します |
| 第 25 回 | 個人研究の報告と検討（2,3 年生） | 個人研究の調査内容について報告し討論します |
| 第 26 回 | 総合討論 | それまでの検討内容を参考にして共通テーマを設定し全員で総合討論を行います |
| 第 27 回 | 総合討論 | それまでの検討内容を参考にして共通テーマを設定し全員で総合討論を行います |
| 第 28 回 | 卒論の最終報告（4 年生） | 研究会修了論文（卒論）の最終報告と質疑応答を行います |
| 第 29 回 | 卒論の最終報告（4 年生） | 研究会修了論文（卒論）の最終報告と質疑応答を行います |
| 第 30 回 | 卒論の最終報告（4 年生） | 研究会修了論文（卒論）の最終報告と質疑応答を行います |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究テーマあるいは個人研究テーマを進めるための調査、検討、資料作成を行うこととします。発表に際してはあらかじめレジュメを作成し提出します。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況、報告内容、討論参加の積極性、レポート内容などをもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA400

研究会 (A)

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決に導く方策について探求することをテーマとします。その際、科学的な視点、国際的な視点、地域社会や経済活動との関わり、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識を上積みする基盤を作り、その上に各自の問題意識を組み立て、卒業論文を目指します。

【到達目標】

以下の4点を身に付けることを目標とします。

- ①自然環境に関する幅広い知識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力
- ③他者との議論をととして、異なった観点からの意見を受け入れ合意を形成する能力
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的に論文にまとめる能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

設定した課題について、グループワーク、フィールド学習、個人学習をととして、議論・調査・考察を行い、成果を取りまとめることを基本とします。これと並行して、各自の自然環境に対する問題意識に沿って自主的に課題を設定し、情報収集と整理分析、事例研究などの調査活動を行い、研究考察を経て成果として取りまとめ、最終的な卒業論文作成につなげます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	グループ研究	グループ討議と発表
第3回	グループ研究	グループ討議と発表
第4回	グループ研究	グループ討議と発表
第5回	グループ研究	グループ討議と発表
第6回	グループ研究	グループ討議と発表
第7回	グループ研究	中間まとめ
第8回	中間発表	研究成果の発表
第9回	グループ研究	グループ討議と発表
第10回	グループ研究	グループ討議と発表
第11回	グループ研究	グループ討議と発表
第12回	グループ研究	グループ討議と発表
第13回	グループ研究	グループ討議と発表
第14回	グループ研究	グループ成果まとめ
第15回	春学期成果発表	グループ研究の成果発表
第16回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第17回	個人研究	研究計画作成と発表
第18回	個人研究	情報収集と発表
第19回	個人研究	情報収集と発表
第20回	個人研究	情報整理と発表
第21回	個人研究	調査分析と発表
第22回	個人研究	調査分析と発表
第23回	中間発表	研究成果の発表
第24回	個人研究	調査分析と発表
第25回	個人研究	評価・考察と発表
第26回	個人研究	評価・考察と発表
第27回	個人研究	成果まとめ
第28回	個人研究	成果まとめ
第29回	年間成果発表	個人研究の成果発表
第30回	年間成果発表	個人研究の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自または共通の課題に関して、文献資料の収集や資料作成、事前学習、必要なフィールドワーク、発表準備など、成果に向けた調査研究を着実にを行います。また、休日等に行う野外学習や、自主企画をベースに行うテーマ別の研究・提案・発表などのサブゼミ活動を積極的に行います。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

前年度までに「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」を履修していない学生は、今年度当該科目を必ず履修してください。また、より自然への理解を深めるため、「自然環境科学の基礎（生態学）」（春期）とその応用である「自然環境論Ⅳ」（秋期）を併せて履修することを推奨します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース・地域環境共生コース・国際環境協力コース

HA400

研究会（B）

杉戸 信彦

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然界は時として災害をもたらします。その姿は、われわれの理解と考え方で大きく変わってきます。本研究会では、自然環境（主に地形環境や地震発生環境）と土地条件、土地の歴史などについて、自然災害という側面を重視しながら主に自然地理学的な観点から考え、人間社会のあり方を見つめなおします。

【到達目標】

自然環境が人間社会に与える影響を多面的に読み解く見識を培うこと。災害の多い日本列島で生きるうえで、また人口減少、高齢化、都市集中といった背景のなかで長期的なまちづくりに求められる妥当な「自然観」を養うこと。調査法や発表法の基礎を身につけること。地図の基礎を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

座学に加え、野外実習や課題演習、グループワーク（数名で構成し助けあいます）を通じて自ら手足を動かし「発見」する経験を重視します。グループワークではテーマや地域を設定して取り組みレポートを作成します。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、土地条件、土地の歴史、土地利用、プレート境界、活断層、長期予測、ハザードマップ、災害の歴史、インフラ、まちづくり、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。もちろん学生の皆さんの興味を考慮します。全体を通じ基礎的な内容を扱います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	趣旨説明、発表法やレジュメ作成法等の説明、グループ分け
第2回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第3回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第4回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第5回	課題演習	机上調査
第6回	野外実習	フィールド巡検
第7回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第8回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第9回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第10回	討論会	討論、とりまとめ、発表
第11回	時の話題について	発表、質疑応答、討論
第12回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第13回	文献購読	発表、質疑応答、討論
第14回	討論会	討論、とりまとめ、発表
第15回	まとめ	小レポート作成・提出
第16回	ガイダンス	趣旨説明、論文やレポートの書き方等の説明
第17回	グループワークの準備	グループ分け・テーマや地域の設定
第18回	グループワークの準備	グループ分け・テーマや地域の設定
第19回	課題演習	机上作業
第20回	野外実習	フィールド巡検
第21回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第22回	グループワーク	討論、とりまとめ、発表
第23回	討論会	進捗状況報告、質疑応答、討論
第24回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第25回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第26回	討論会	進捗状況報告、質疑応答、討論
第27回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第28回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第29回	グループワーク	進捗状況報告、質疑応答、討論
第30回	まとめ	レポート発表、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の収集・分析や事前調査、発表準備、復習、追加調査、とりまとめ等を行う。

【テキスト（教科書）】

購入または担当教員から配布ほか

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

知識や基礎力、思考力に加え、応用力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明あるいは効果的な進め方を心がけます。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース・地域環境共生コース

HA400

研究会 (B)

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際法・国際環境法に関する英語の文献や裁判の判決を講読し、関連する問題についての討論を行う。

国際社会の諸問題について、英語で発表を行う。

【到達目標】

専門領域における英語文献を抵抗なく購読できるようになること。

国際問題について、英語で討論できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・参加者の関心のあるテーマについて、英語の文献を全員で講読する。

・国際社会の諸問題について、英語で発表し、討論を行う。

*受講者の人数や関心により、必ずしも計画通りに進行しないことがある。

*必要に応じてサブゼミを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第 2 回	文献購読 (1)	文献講読と討論
第 3 回	文献購読 (2)	文献講読と討論
第 4 回	文献購読 (3)	文献講読と討論
第 5 回	文献購読 (4)	文献講読と討論
第 6 回	文献購読 (5)	文献講読と討論
第 7 回	文献購読 (6)	文献講読と討論
第 8 回	映画鑑賞会 (1)	映画鑑賞と討論
第 9 回	判例研究 (1)	判例講読と討論
第 10 回	判例研究 (2)	判例講読と討論
第 11 回	判例研究 (3)	判例講読と討論
第 12 回	判例研究 (4)	判例講読と討論
第 13 回	判例研究 (5)	判例講読と討論
第 14 回	映画鑑賞会 (2)	映画鑑賞と討論
第 15 回	まとめ	まとめ
第 16 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第 17 回	文献購読 (7)	文献講読と討論
第 18 回	文献購読 (8)	文献講読と討論
第 19 回	文献購読 (9)	文献講読と討論
第 20 回	文献購読 (10)	文献講読と討論
第 21 回	文献購読 (11)	文献講読と討論
第 22 回	文献購読 (12)	文献講読と討論
第 23 回	映画鑑賞会 (3)	映画鑑賞と討論
第 24 回	判例研究 (6)	判例講読と討論
第 25 回	判例研究 (7)	判例講読と討論
第 26 回	判例研究 (8)	判例講読と討論
第 27 回	判例研究 (9)	判例講読と討論
第 28 回	判例研究 (10)	判例講読と討論
第 29 回	映画鑑賞会 (4)	映画鑑賞と討論
第 30 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の予習

【テキスト (教科書)】

受講者と相談の上、その都度指示する

【参考書】

受講者と相談の上、その都度指示する

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース

HA400

研究会 (B)

梶 裕史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：「文化的景観」とエコツーリズム

「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、個別の現地訪問を通じて事例研究を行う。

【到達目標】

ゼミテーマ「文化的景観」について講義する「環境表象論Ⅱ」の内容を、自らフィールドを選んで企画する現地調査・体験によって実感的に理解すること。また、ゼミの仲間の研究発表 (様々なフィールドの話) から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、個々の研究成果を「共有」できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

教室での 1 年間の流れは「授業計画」参照。「現地訪問」(各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する。一人旅が多い)の場所選びについて、新規参加者には「海」と暮らしとの関わり、というテーマを推奨します。離島や港町などはフィールドとして絶好です。従って応募者は海が好きの人が向いているでしょう。なお継続参加者は、従来通り自由選択です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、自己紹介	年間スケジュールの説明等
第 2 回	昨年度の研究発表①、意見交換	研究発表は 1 人 20 分前後、1 回につき 1 名。
第 3 回	昨年度の研究発表②、意見交換	同上
第 4 回	昨年度の研究発表③、意見交換	同上
第 5 回	昨年度の研究発表④、意見交換	同上
第 6 回	昨年度の研究発表⑤、意見交換	同上
第 7 回	昨年度の研究発表⑥、意見交換	同上
第 8 回	昨年度の研究発表⑦、意見交換	同上
第 9 回	昨年度の研究発表⑧、意見交換	同上
第 10 回	昨年度の研究発表⑨、意見交換	同上
第 11 回	グループワーク (1)	個々の成果の共有につながるテーマを学生が自主設定
第 12 回	グループワーク (2)	同上
第 13 回	個別の現地訪問構想の情報交換	テーマやフィールドの性格に共通性がある学生同士の協力を奨励
第 14 回	小フィールドスタディ (神楽坂等の夏の祭事)	90 分以内で学べるフィールドを選ぶ。
第 15 回	個別指導	個別の現地訪問計画書提出
通年	テーマ	内容
第 16 回	昨年度 (または今年度) の研究成果発表⑩、意見交換	秋学期からは、今年度の現地訪問成果の発表でも可。
第 17 回	昨年度 (または今年度) の研究成果発表⑪、意見交換	同上
第 18 回	昨年度 (または今年度) の研究成果発表⑫、意見交換	同上
第 19 回	昨年度 (または今年度) の研究成果発表⑬、意見交換	同上

発行日：2021/6/1

第 20 回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑭、意見交換	同上
第 21 回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑮、意見交換	同上
第 22 回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑯、意見交換	同上
第 23 回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑰、意見交換	同上
第 24 回	昨年度（または今年度）の研究成果発表⑱、意見交換	同上
第 25 回	2 年生の研究発表	共同発表も可
第 26 回	グループワーク（3）	個々の成果の共有につながるテーマを学生が自主設定
第 27 回	グループワーク（4）	同上
第 28 回	学年末論文の構想発表（タイトル・要旨・仮目次等）	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。
第 29 回	3・4 年生による自主就活セミナー・ディスカッション	ゼミで学んだことを社会に出てどう活かすか 等
第 30 回	論文個別指導	学年末論文の最終アドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、現地訪問の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

授業のなかで紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

出席、発表内容、学年末論文、ゼミという組織の中での協調性・貢献度、等々の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

PPT 等

【その他の重要事項】

- ・新規参加者で「環境表象論Ⅱ」未履修の人は、今年度中に受講してください。
- ・このゼミは 2016 年度から A ゼミ化する予定です。例年、1 年間限りではなく 2 年から 4 年まで継続して参加する学生が多く、テーマも、質的にも A ゼミとほぼ変わらないと考えて下さい。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース・地域環境共生コース

HA400

研究会 (B)

北川 徹哉

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

気象は私たちにとって身近なものであり、私たちが地表で社会生活を営んでいる限りは必然的につき合っていく存在である。また、多くの企業ではその収益が気象の影響を受けるなど、気象と経済・経営とも密接な関係がある。この研究会では、これらの気象と社会や経済との関係を念頭に、気象を基礎からじっくりと勉強する。

【到達目標】

1. 人の生活・社会と気象とのかかわりを説明できる。
2. 様々な気象の特徴やしぐみについて説明できる。
3. 気象における環境問題について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

テキストを2冊ほど選び、各自の担当部分を決めて春学期は1冊目を、秋学期は2冊目を輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分を理解して内容をまとめて臨み、発表する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	テキスト(1)の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、 輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第15回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	14番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第16回	テキスト(2)の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、 輪読担当部分の取り決め
第17回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第18回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第19回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第20回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第21回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第22回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第23回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第24回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

第25回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第26回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第27回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第28回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第29回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第30回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	14番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第1～30回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習

【テキスト (教科書)】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表(50%：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への達成度)、議論(50%：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への達成度)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

おおむね好評でした。

【その他の重要事項】

自分がわからない部分は、ほかの人もわからないものです。わからないことを皆で学ぶのがゼミなのです。気象に興味はあっても今まで踏み込むチャンスがなかった学生さん、気象予報士に興味がある学生さん、一緒に勉強してゆきましょう。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA400

研究会 (B)

マコナキー・トロイ

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

* Human Communication *

This seminar will deal with human communication, especially how humans understand the world through language and make and interpret meaning with each other. In order to deepen understanding of the nature of language and its role in human life, students will be introduced to basic concepts and theories from various fields such as linguistics, philosophy, sociology, cultural anthropology and more.

【到達目標】

Students will learn how to understand and apply a range of social scientific concepts and theories in order to investigate language-related problems that they are interested in. Students will develop the ability to think philosophically and construct logical academic presentations and essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Why study language and culture?
第 2 回	The concept of culture	What are different ways of looking at culture?
第 3 回	Culture and society	How do culture and society relate to each other?
第 4 回	Socialization	How do we become social beings?
第 5 回	Identity	Who am I? Am I sure? How do I know?
第 6 回	Language and nationalism	What role does language play in the construction of national identities?
第 7 回	Language ideologies	What on earth is a language ideology?
第 8 回	Linguistic relativity	Do different languages create different worlds?
第 9 回	The cultural foundation of knowledge	How do culture, knowledge, and morality relate to each other?
第 10 回	Culture and education	How are cultural values imparted through the education system?
第 11 回	Presentations	Student-led discussion
第 12 回	Presentations	Student-led discussion
第 13 回	Presentations	Student-led discussion
第 14 回	Review	Exam preparation
第 15 回	Final exam	Exam and final Q&A
第 16 回	Consolidation	Review of main themes from Semester 1
第 17 回	Globalization	Globalization?
第 18 回	Ideologies of globalization	Internationalisation? What? What social values are implied by globalisation?
第 19 回	Globalization and communication	What is the impact of globalisation on communication?
第 20 回	Intercultural communication	Why should we care about intercultural communication?
第 21 回	Inter-group psychology	What are the social-psychological mechanisms of in-group preference?
第 22 回	Communication accommodation theory	How do we try to bridge cultural gaps in communication?
第 23 回	Ethnocentrism	What are the foundations of ethnocentrism?

第 24 回	Intercultural understanding	Isn't intercultural understanding just a naive idea?
第 25 回	Intercultural understanding	How should we view intercultural understanding in the age of globalization?
第 26 回	Individual Presentations	Student-led discussion
第 27 回	Individual Presentations	Student-led discussion
第 28 回	Individual Presentations	Student-led discussion
第 29 回	Review	Exam preparation
第 30 回	Final exam	Exam and final Q&A

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will need to read materials indicated by the teacher and also review notes from previous classes. Much time will be needed for preparation of presentations and essays.

【テキスト (教科書)】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

Jackson, Jane. (2014). Introducing language and intercultural communication. Routledge.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated based on contribution to class activities, 2 presentations, an essay, and two exams.

【学生の意見等からの気づき】

本ゼミは英語習得を第一の目的としているわけではないので、授業時は英語と日本語を適宜使用します。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA400

研究会 (B)

後藤 彌彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ 行政、国会の仕組み

行政法を違う角度から学び、その補完を行うことにより、行政法の克服へ資する。

【到達目標】

現代国家に生きるものとして行政に関わる基本的な知識とその応用を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

内閣府 (内閣等) と立法府 (国会) の仕組みを概観することにより、法律がどのように作られ、どのように執行されるかを学び、「行政法の基礎」とは違った角度からその補完を行う。

したがって、行政法を学びたい者が対象となるが、「行政法の基礎」を受講した者でさらに行政法を学びたい者を優先する。公務員志望者の参加を歓迎する。授業は教材 (テキスト、プリント) による講義と学生による事例発表、行政法の個別テーマに関するレポート発表により進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	オリエンテーション
第 2 回	教材による講義	行政①内閣
第 3 回	教材による講義	行政②内閣総理大臣
第 4 回	教材による講義	行政③議院内閣制
第 5 回	教材による講義	行政④行政組織
第 6 回	教材による講義	行政⑤地方公共団体
第 7 回	事例発表	学生による発表と討論
第 8 回	事例発表	学生による発表と討論
第 9 回	事例発表	学生による発表と討論
第 10 回	事例発表	学生による発表と討論
第 11 回	事例発表	学生による発表と討論
第 12 回	事例発表	学生による発表と討論
第 13 回	事例発表	学生による発表と討論
第 14 回	まとめ	授業の総括
第 15 回	まとめ	授業の総括
第 16 回	教材による講義	国会①選挙
第 17 回	教材による講義	国会②任務
第 18 回	教材による講義	国会③政策立案
第 19 回	教材による講義	国会④サポーター
第 20 回	教材による講義	国会⑤政党
第 21 回	教材による講義	国会⑥法律の成立
第 22 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 23 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 24 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 25 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 26 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 27 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 28 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 29 回	まとめ	授業の総括
第 30 回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教材を予習する

事例、レポート発表のために、準備する

【テキスト (教科書)】

まず、法学ナビゲーション (有斐閣アルマ) を用いる

【参考書】

その都度 紹介する

【成績評価の方法と基準】

発表、討議の状況により評価する

【学生の意見等からの気づき】

グループによる事例研究を行う。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・国際環境協力コース・エコ経済経営コース

HA400

研究会 (B)

関口 和男

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本年度は、ギリシャ悲劇の中でも、スケールの大きいアイスキュロス『オレスティア三部作』を取り上げ、人間の本质「神々と人間」「共同体と人間」「公と私」など、この作品が含んでいる現代的なテーマに直接触れつつ、グローバル化を支える真の素養を身につける。

【到達目標】

混迷する時代状況のなかで生き抜くことは、われわれにおおくの困難と苦悩を味あわせる。そこに横たわる「社会に生きる自分とは何か、そもそも人間とは何か」という問いに、授業を通じて目を向けることは、必ずやそれらの根本問題について考える手がかりを得させてくれるに違いない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

古代ギリシアの悲劇作家のアイスキュロスの作品である『オレスティア三部作』を教科書として、劇中のそれぞれの役割を学生諸君が分担して朗読し、その後、そこに含まれる思想的な意味などを中心に討議していくこととする。毎回の担当者を決めて、じっくり読み、考え、質疑応答していく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	古代ギリシアとは何か	質疑応答
第 2 回	ギリシャ悲劇について	質疑応答
第 3 回	ニーチェ『悲劇の誕生』について	質疑応答
第 4 回	オレスティア三部作の購読	質疑応答
第 5 回	上記文献講読	質疑応答
第 6 回	上記文献講読	質疑応答
第 7 回	上記文献講読	質疑応答
第 8 回	上記文献講読	質疑応答
第 9 回	上記文献講読	質疑応答
第 10 回	上記文献講読	質疑応答
第 11 回	上記文献講読	質疑応答
第 12 回	上記文献講読	質疑応答
第 13 回	上記文献講読	質疑応答
第 14 回	上記文献講読	質疑応答
第 15 回	春学期購読部分と現代という時代状況についての討議	質疑応答
第 16 回	夏休み中の学習の指示	質疑応答
第 17 回	春学期学習の概観	質疑応答
第 18 回	上記文献講読	質疑応答
第 19 回	上記文献講読	質疑応答
第 20 回	上記文献講読	質疑応答
第 21 回	上記文献講読	質疑応答
第 22 回	上記文献講読	質疑応答
第 23 回	上記文献講読	質疑応答
第 24 回	上記文献講読	質疑応答
第 25 回	上記文献講読	質疑応答
第 26 回	上記文献講読	質疑応答
第 27 回	上記文献講読	質疑応答
第 28 回	上記文献講読	質疑応答
第 29 回	学習の総括	質疑応答
第 30 回	学習の総括	質疑応答

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

『社会人のための世界史』『社会人のための日本史』の並行学習。などを、空いた時間に読むことが大切。

【テキスト (教科書)】

アイスキュロス『ギリシャ悲劇 I』(ちくま文庫)

【参考書】

塩野七海『ローマ人の物語』

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

活発な討議を期待する。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース

HA400

研究会 (B)

武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2015 年度のテーマは「エネルギー」です。途上国における開発と環境保全—特に持続可能なエネルギー政策の観点から—をテーマに、先進国の社会の姿と重ね合わせながら議論を行います。

【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読 b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方 (予定) について概説する。
第 2 回	基礎文献の輪読 (1)	エネルギーに関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 3 回	基礎文献の輪読 (2)	エネルギーに関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 4 回	基礎文献の輪読 (3)	エネルギーに関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 5 回	基礎文献の輪読 (4)	エネルギーに関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 6 回	基礎文献の輪読 (5)	エネルギーに関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 7 回	基礎文献の輪読 (6)	エネルギーに関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 8 回	グループディスカッション 課題 1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 9 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 10 回	グループディスカッション 課題 2	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 11 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 12 回	グループディスカッション 課題 3	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 13 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 14 回	グループディスカッション 課題 4	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 15 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 16 回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 17 回	グループディスカッション 課題 5	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 18 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 19 回	グループディスカッション 課題 6	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 20 回	同上	同上

第 21 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 22 回	グループディスカッション 課題 7	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 23 回	同上	同上
第 24 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 25 回	グループディスカッション 課題 8	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 26 回	同上	同上
第 27 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 28 回	グループディスカッション 課題 9	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 29 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 30 回	まとめ	1年間を通しての議論をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

ゼミ開講前に平田 オリザ (著) 「わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か (講談社現代新書 2177) を一読しておくことが望ましい。他は研究会にて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会への出席および議論への貢献、期末レポートを勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

グループ内での意見交換の時間、グループ発表後のディスカッション時間の確保、さらにゼミ生同士のコミュニケーションの機会増のため、議論と意見表明に十分な時間をとるように留意することとします。

【その他の重要事項】

学生の自主的な提案により木曜 6 限にサブゼミが開催されることがあります。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース・地域環境共生コース

HA400

研究会 (B)

田中 勉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

千代田区の地域環境政策（CES・千代田エコシステム）研究

【到達目標】

このゼミは 2006 年に法政大学が千代田区と締結した「事業協力協定」に基づき設置された特別の科目です。千代田区における「個人の環境配慮行動を促進する仕組み」を研究し、企画・実践することを目的としています。これまでの研究と実践活動の実績をもとに、さらなる改善を目指して進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず千代田区の地域特性を把握するために区の統計資料や文献を学び、区の関係者（区役所・企業・NPO）からの聞き取りを行う。平行して、「個人の環境配慮行動」に関わる要因について文献を読み、理解を深める。このゼミの特徴は、区内の関係者と協働して実践活動を行うことにある。千代田区温暖化対策課やCES推進協議会が開催する環境イベントへの参加などをとおして「CES（千代田エコシステム）」の周知・普及をはかる。またキャンパス内でも活動し、環境へ配慮した行動・生活スタイルの実践を呼びかける。なお、このゼミは参加者が役割分担して運営するのが特徴である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	メンバー確認、CES について	ゼミメンバーを確認し、主要な役割分担を相談する。 環境マネジメントシステムとは何か、CES の特色について、説明と質疑。
第 2 回	ゼミの経過（報告書）講義	20143 年度までの活動について前年度メンバーから報告・説明を行う。
第 3 回	千代田区の特徴①	千代田区の地域特性を資料により理解する。
第 4 回	千代田区の特徴②	前週の説明を受けて、質疑応答を行う。
第 5 回	区役所担当者による講義	区的环境政策（温暖化対策条例・環境モデル都市など）について講義を受ける。
第 6 回	CES 推進協議会事務局への聞き取り	CES 推進協議会の事務局の担当者による協議会の活動内容についての説明と質疑。
第 7 回	プログラムミーティング①	2015 年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第 8 回	プログラムミーティング②	2015 年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第 9 回	プログラムミーティング③	プログラムを決定。
第 10 回	プログラムミーティング④	実施グループメンバーへの割り振り。各プログラムグループごとの討議。
第 11 回	プログラムミーティング⑤	各プログラムグループごとの討議。
第 12 回	文献発表①	個人の環境配慮行動に関する文献の配布と分担。
第 13 回	文献発表②	グループ別の文献に関する討議。
第 14 回	文献発表③	グループ討議の結果報告。
第 15 回	夏期休暇中活動の打ち合わせ	夏期休暇中のイベントについて、日程の確認と参加者の確定、および9月以降のスケジュールについて確認。
第 16 回	夏期休暇中活動の報告、秋学期計画	夏期休暇中のイベントについて、参加者より実施報告。スケジュールの確認。
第 17 回	プログラムミーティング⑥	各プログラムグループごとの討議。
第 18 回	プログラムミーティング⑦	各プログラムグループごとの討議。
第 19 回	講演会（講師：未定）	行政・企業・NPOなどの環境への取り組み事例を学ぶ。
第 20 回	千代田研究①	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第 21 回	千代田研究②	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第 22 回	千代田研究③	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。

第 23 回	年度活動報告書作成会議 ①	報告書の構成と原稿執筆の分担、編集委員の決定。
第 24 回	プログラムミーティング ⑧	各プログラムグループごとの討議。
第 25 回	プログラムミーティング ⑨	各プログラムグループごとの討議。
第 26 回	プログラムミーティング ⑩	各プログラムグループごとの討議。
第 27 回	プログラムミーティング ⑪	各プログラムグループごとの討議。
第 28 回	年度活動報告書作成会議 ②	報告書原稿の進捗確認。
第 29 回	年度活動報告書作成作業	報告書編集作業。
第 30 回	活動のふり返りと次年度活動へ向けて	各プログラムの実施結果の報告および次年度目標の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ時間以外に、各種イベント参加、区内施設見学や「まちあるき」などを実施します。いずれもゼミ生自身で企画・実施します。ただし各自の時間の都合で参加することを原則としているので、他の授業には支障がありません。

【テキスト（教科書）】

千代田区統計・千代田区の歴史
広瀬幸雄編「環境行動の社会心理学」北大路書房

【参考書】

杉浦淳吉「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版
石原ほか「まちづくりを学ぶ」有斐閣

【成績評価の方法と基準】

出席および活動参加、役割関与など総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

グループ分けを行い、ゼミ活動の計画立案・実行の責任分担を明確にする。

【その他の重要事項】

このゼミは5・6限目の2時限連続で行います。1時限だけの登録はできません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA400

研究会（B）

田中 勉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

千代田区の地域環境政策（CES・千代田エコシステム）研究

【到達目標】

このゼミは2006年に法政大学が千代田区と締結した「事業協力協定」に基づき設置された特別の科目です。千代田区における「個人の環境配慮行動を促進する仕組み」を研究し、実践することを目的としています。これまでの研究と実践活動の実績をもとに、さらなる改善を目指して進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず千代田区の地域特性を把握するために区の統計資料や文献を学び、区の関係者（区役所・企業・NPO）からの聞き取りを行う。平行して、「個人の環境配慮行動」に関わる要因について文献を読み、理解を深める。このゼミの特徴は、区内の関係者と協働して実践活動を行うことにある。千代田区温暖化対策課やCES推進協議会が開催する環境イベントへの参加などをとおして「CES（千代田エコシステム）」の周知・普及をはかる。またキャンパス内でも活動し、環境へ配慮した行動・生活スタイルの実践を呼びかける。なお、このゼミは参加者が役割分担して運営するのが特徴である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	メンバー確認、CESについて	ゼミメンバーを確認し、主要な役割分担を相談する。環境マネジメントシステムとは何か、CESの特色について、説明と質疑。
第2回	ゼミの経過（報告書）講義	2013年度までの活動について前年度メンバーから報告・説明を行う。
第3回	千代田区の特徴①	千代田区の地域特性を資料により理解する。
第4回	千代田区の特徴②	前週の説明を受けて、質疑応答を行う。
第5回	区役所担当者による講義	区的环境政策（温暖化対策条例・環境モデル都市など）について講義を受ける。
第6回	CES推進協議会事務局への聞き取り	CES推進協議会の事務局の担当者による協議会の活動内容についての説明と質疑。
第7回	プログラムミーティング①	2014年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第8回	プログラムミーティング②	2014年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第9回	プログラムミーティング③	プログラムを決定。実施グループメンバーへの割り振り。
第10回	プログラムミーティング④	各プログラムグループごとの討議。
第11回	プログラムミーティング⑤	各プログラムグループごとの討議。
第12回	文献発表①	個人の環境配慮行動に関する文献の配布と分担。
第13回	文献発表②	グループ別の文献に関する討議。
第14回	文献発表③	グループ討議の結果報告。
第15回	夏期休暇中活動の打ち合わせ	夏期休暇中のイベントについて、日程の確認と参加者の確定、および9月以降のスケジュールについて確認。
第16回	夏期休暇中活動の報告、秋学期計画	夏期休暇中のイベントについて、参加者より実施報告。スケジュールの確認。
第17回	プログラムミーティング⑥	各プログラムグループごとの討議。
第18回	プログラムミーティング⑦	各プログラムグループごとの討議。
第19回	講演会（講師：未定）	行政・企業・NPOなどの環境への取り組み事例を学ぶ。
第20回	千代田研究①	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第21回	千代田研究②	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。

第 22 回	千代田研究③	参加者各自が千代田区に関するテーマを選び研究発表を行う。
第 23 回	年度活動報告書作成会議 ①	報告書の構成と原稿執筆の分担、編集委員の決定。
第 24 回	プログラムミーティング ①	各プログラムグループごとの討議。
第 25 回	プログラムミーティング ②	各プログラムグループごとの討議。
第 26 回	プログラムミーティング ③	各プログラムグループごとの討議。
第 27 回	プログラムミーティング ④	各プログラムグループごとの討議。
第 28 回	年度活動報告書作成会議 ②	報告書原稿の進捗確認。
第 29 回	年度活動報告書作成作業	報告書編集作業。
第 30 回	活動のふり返りと次年度活動へ向けて	各プログラムの実施結果の報告および次年度目標の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ時間以外に、各種イベント参加、区内施設見学や「まちあるき」などを実施します。いずれもゼミ生自身で企画・実施します。ただし各自の時間の都合で参加することを原則としているので、他の授業には支障がありません。

【テキスト（教科書）】

千代田区統計・千代田区の歴史
広瀬幸雄編「環境行動の社会心理学」北大路書房

【参考書】

杉浦淳吉「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版
石原ほか「まちづくりを学ぶ」有斐閣
篠木幹子「環境問題へのアプローチ」多賀出版

【成績評価の方法と基準】

出席および活動参加、役割関与など総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

グループ分けを行い、ゼミ活動の計画立案・実行の責任分担を明確にする。

【その他の重要事項】

このゼミは5・6限目の2時限連続で行います。1時限だけの登録は出来ません。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA400

研究会（A）

谷本 勉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大森荘蔵の科学哲学の研究

【到達目標】

「心」の問題を中心に据えて、世界、自然、環境について批判的に考える力を得ることを目指す

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大森荘蔵の種々の哲学エッセーをそれぞれ担当して読解した後、皆で議論して、理解を深めていく

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第 2 回	イントロダクション 1	「夢まぼろし」 「記憶について」 「真実の百面相」 「心の中」
第 3 回	イントロダクション 2	「ロボットの申し分」 「夢見る脳、夢みられる脳」
第 4 回	イントロダクション 3	イントロダクションの総括のための議論と解説
第 5 回	イントロダクション 4	「哲学的知見の性格」 「他我の問題と言語」 「言語と集合」 初期大森哲学の前半の総括のための議論と解説
第 6 回	初期大森哲学 1	「決定論の論理と、自由」
第 7 回	初期大森哲学 2	「知覚の因果説検討」
第 8 回	初期大森哲学 3	「知覚風景と科学的世界像」
第 9 回	初期大森哲学 4	初期大森哲学の後半の総括のための議論と解説
第 10 回	初期大森哲学 5	それぞれの描く大森哲学 1
第 11 回	初期大森哲学 6	夏休みの課題解説
第 12 回	初期大森哲学 7	夏休みの課題の発表と議論
第 13 回	初期大森哲学 8	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」 1 「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」 2 「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」 3 「科学の罫」
第 14 回	春学期総括 1	「虚想の公認を求めて」
第 15 回	春学期総括 2	中期大森哲学の総括のための議論と解説
第 16 回	秋学期の展望	「過去の制作」
第 17 回	中期大森哲学 1	「ホーリズムと他我問題」
第 18 回	中期大森哲学 2	「脳と意識の無関係」
第 19 回	中期大森哲学 3	「時は流れず－時間と運動の無縁」
第 20 回	中期大森哲学 4	「後の祭り」を祈る－過去は物語」
第 21 回	中期大森哲学 5	「自分と出会う－意識こそ人と世界を隔てる元凶」
第 22 回	中期大森哲学 6	後期大森哲学の総括のための議論と解説
第 23 回	後期大森哲学 1	それぞれの描く大森哲学 2
第 24 回	後期大森哲学 2	科学的なものの見方考え方の実像についてのまとめ
第 25 回	後期大森哲学 3	
第 26 回	後期大森哲学 4	
第 27 回	後期大森哲学 5	
第 28 回	後期大森哲学 6	
第 29 回	秋学期総括 1	
第 30 回	秋学期総括 2	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で随時指示する

【テキスト（教科書）】

『大森荘蔵セレクション』（平凡社ライブラリー、2011年）

【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

担当部分の発表の内容と議論への参加の態度を加味して、総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでの指摘を授業に反映していく。

HA400

研究会 (B)

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業生活をとおして労働環境を考える。

【到達目標】

春学期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめる。こうした学習や作業をとおして、私たちが卒業後就職してからかかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、議論、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか、等について学習する。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム 1(終身雇用)	日本の雇用システムの3大特徴とされてきた終身雇用、年功制、企業内組合のうちの終身雇用について学ぶ。
第5回	日本の雇用システム 2 (年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第6回	日本の雇用システム 3 (企業内組合)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといってよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国の組合とのちがいでみていく。
第7回	日本の雇用システム 4 (成果主義的雇用管理)	日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第8回	日本の雇用システム 5 (雇用とジェンダー)	海外諸国と比較して、日本企業で女性はより大きなハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、均等法施行以来それはどう変化してきたのかについても学ぶ。
第9回	日本の雇用システム 6 (非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	仕事と労働時間 1 (労働時間)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのかについて学ぶ。

第 11 回	仕事と労働時間 2（長時間労働とメンタルヘルス）	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間はいかに関係しているのか等について考える。
第 12 回	大学生の就職 1（日本の就職の特徴）	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第 13 回	大学生の就職 2（大学生の就職の実態）	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等とおして最新の情報を確認する。
第 14 回	大学生の就職 3（グローバル人材）	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用の実態はどうか等について考える。
第 15 回	レポート提出とコメント	第 2 回・3 回の授業で説明したレポート作成の注意事項にしたがってレポートが構成されているか、コメントをする。
第 16 回	春学期学習の復習 1（日本の雇用とは）	春学期に行った日本的雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第 17 回	春学期学習の復習 2（日本の雇用の新たな流れ）	日本的雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第 18 回	学生による研究発表 1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 19 回	学生による研究発表 2	上記と同じ
第 20 回	学生による研究発表 3	上記と同じ
第 21 回	学生による研究発表 4	上記と同じ
第 22 回	学生による研究発表 5	上記と同じ
第 23 回	学生による研究発表 6	上記と同じ
第 24 回	学生による研究発表 7	上記と同じ
第 25 回	学生による研究発表 8	上記と同じ
第 26 回	学生による研究発表 9	上記と同じ
第 27 回	学生による研究発表 1 0	上記と同じ
第 28 回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第 29 回	学生による研究発表 1 1	第 1 8 回と同じ
第 30 回	学生による研究発表 1 2	上記と同じ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントしたり、意見を言えるようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する、発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。

【テキスト（教科書）】

春学期は基本的に本の 1 章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 [改訂版]』有斐閣ブックス、2012 年。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 出席、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

文章の書き方等、レポート作成のより詳細な指導が必要。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA400

研究会 (B)

根崎 光男

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境問題への歴史学的アプローチ
環境史の教養を深めるために、日本の歴史上、生じたさまざまな環境問題を歴史学という学問を活用して、その歴史事実の把握と歴史評価を行えるようにする。そのために、歴史資料の読解、古文書の解読、グループ学習、フィールド調査、各自の研究調査・発表を行い、環境史研究を進める。

【到達目標】

日本の歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を研究するための文献収集・資料読解・課題解決の能力を養う。このなかで、ゼミ生は環境史研究のテーマを自ら見つけて調査研究し、研究レポートを提出することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は、指定されたテーマに関連した歴史資料・古文書の読解、フィールドの調査、各自の調査・研究に基づく発表、研究レポートの執筆といった一連の作業を、演習形式により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・環境史研究の調査と方法	本研究会の目標の周知と環境史研究の文献探索、調査方法、研究方法などを学習する。
第 2 回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 3 回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 4 回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 5 回	史料読解④	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 6 回	古文書読解①	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 7 回	古文書読解②	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 8 回	史料読解のグループ学習①	指定した課題の調査結果を、グループ別に発表する。
第 9 回	史料読解のグループ学習②	指定した課題の調査結果を、グループ別に発表する。
第 10 回	史跡探索①	フィールドに出かけ、史跡探索を実施する。
第 11 回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 12 回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 13 回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 14 回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 15 回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 16 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う。
第 17 回	史跡探索②	フィールドに出かけ、史跡探索を実施する。
第 18 回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 19 回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。

第 20 回	史料読解⑦	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 21 回	史料読解⑧	歴史史料を読解・分析し、討論を行う。また史料解釈を通して、歴史の論理を学ぶ。
第 22 回	古文書解読③	指定した古文書を解読・分析し、討論を行なう。
第 23 回	古文書解読④	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う。
第 24 回	調査研究のグループ発表③	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第 25 回	調査研究のグループ発表④	指定した課題を調査し、グループ別に発表する。
第 26 回	特定テーマ研究発表①	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 27 回	特定テーマ研究発表②	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 28 回	特定テーマ研究発表③	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 29 回	特定テーマ研究発表④	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
第 30 回	特定テーマ研究発表⑤	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定した歴史史料・古文書を読解。
研究テーマの文献探索・講読。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配付する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、発表（20％）、研究レポート（30％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究の進捗状況を把握するため、随時面談を行う。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・環境文化創造コース

HA400

研究会 (B)

長谷川 直哉

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

CSR (企業の社会的責任) や Business Ethics (経営倫理) を中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

【到達目標】

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の基礎知識を習得し、日経新聞・野村証券主催のストックリーグに参加して企業評価とバーチャルトレードを経験します。その成果を基にレポートを作成してコンテストにチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、ストックリーグに必要な知識を習得します。秋学期は、チームを編成しストックリーグに参加します。ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ・ストックリーグ ・卒業論文	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要 卒業論文の執筆スケジュール
第 2 回	CSR 文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	CSR 文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	CSR 文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	CSR 文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	CSR 文献講読⑤	担当者による報告と全体討議
第 7 回	経営分析文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 8 回	経営分析文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 9 回	経営分析文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 10 回	経営分析文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 11 回	ストックリーグ・テーマ 検討①	担当者による報告と全体討議 チーム編成
第 12 回	ストックリーグ・テーマ 検討②	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 13 回	ストックリーグ・テーマ 検討③	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 14 回	ストックリーグ・テーマ 検討④	詳細はガイダンス時に提示
第 15 回	卒業論文中間報告① ストックリーグ・テーマ 検討⑤	卒業論文の構想発表 ファンドテーマの構想発表
第 16 回	卒業論文中間報告②	卒業論文テーマ・構成の発表
第 17 回	ストックリーグ・グルー プ中間報告①	チームの活動報告 ファンドテーマの発表
第 18 回	ストックリーグ活動	チームの活動報告
第 19 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 20 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 21 回	ストックリーグ・グルー プ中間報告②	経営分析・企業ヒアリング ユニバースの発表
第 22 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動	ポートフォリオの概要発表
第 24 回	ストックリーグ活動	バーチャルトレード
第 25 回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第 26 回	ストックリーグ・グルー プ中間報告③	ポートフォリオの完成
第 27 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 28 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 29 回	ストックリーグ・レポ ート発表会	レポート最終稿の発表
第 30 回	Aゼミと合同ゼミ 卒業論文発表会	卒業論文発表会の聴講

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

【テキスト (教科書)】

研究会の開講前に掲示します。

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

〔共通評価〕ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度
〔個別評価〕ストックリーグのレポート

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・地域環境共生コース

HA400

研究会 (B)

マコナキー・トロイ

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

* Human Communication *

This seminar will deal with human communication, especially how humans understand the world through language and make and interpret meaning with each other. In order to deepen understanding of the nature of language and its role in human life, students will be introduced to basic concepts and theories from various fields such as linguistics, philosophy, sociology, cultural anthropology and more.

【到達目標】

Students will learn how to understand and apply a range of social scientific concepts and theories in order to investigate language-related problems that they are interested in. Students will develop the ability to think philosophically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

Classes will include short lectures from the teacher, small-group discussion, whole-class discussion, analysis of readings, and presentations.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Why study language and culture?
第 2 回	The nature of language	What do we mean when we say 'language'?
第 3 回	The nature of communication	What things are able to communicate? Why? How?
第 4 回	Animal communication vs. Human communication	How are animal reality and human reality affected by communication?
第 5 回	Language and human nature	Is there a linguistic dimension to human nature?
第 6 回	Language and reality	Where do our concepts come from? How is language related to 'truth'?
第 7 回	Language and thought	How are language and thinking related?
第 8 回	Linguistic relativity	Do different languages create different worlds?
第 9 回	Cultural translation	How can important cultural concepts be translated into other languages?
第 10 回	Multilingualism	What are the individual and societal benefits of multilingualism?
第 11 回	Presentation	Student-led discussion
第 12 回	Presentation	Student-led discussion
第 13 回	Presentation	Student-led discussion
第 14 回	Review	Exam preparation
第 15 回	Final exam	Exam and final Q&A
第 16 回	Consolidation	Review of main themes from Semester 1
第 17 回	The concept of culture	What do we usually mean when we say 'culture'?
第 18 回	Culture and society	How do culture and society relate to each other?
第 19 回	Language and society	How does language represent social structures?
第 20 回	Language and society	What is the relationship between language and power in society?
第 21 回	Language and identity	What is identity and how does it relate to language?
第 22 回	Politeness theory	What does it mean to be polite?
第 23 回	Politeness theory	What are the psychological and social mechanisms of politeness?
第 24 回	Intercultural understanding	What is ethnocentrism and cultural relativism?

第 25 回	Intercultural understanding	What is intercultural understanding in the age of globalization?
第 26 回	Individual presentations	Student-led discussion
第 27 回	Individual presentations	Student-led discussion
第 28 回	Individual presentations	Student-led discussion
第 29 回	Review	Exam preparation
第 30 回	Final exam	Exam and Q&A

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Each class requires you to take notes and think deeply about the content. Students will need to review their notes regularly and continue to consider the ideas raised in class.

【テキスト (教科書)】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

Jackson, Jane. (2014). Introducing language and intercultural communication. Routledge.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated based on contribution to class activities, 2 presentations, an essay, and two exams.

【学生の意見等からの気づき】

本ゼミは英語習得を第一目的としているわけではないので、授業時は英語と日本語の両方を適宜使用します。

【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

HA400

研究会 (B)

吉田 秀美

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

開発途上国について様々な側面から理解を深めると同時に、問題の解決に向けた具体的な取り組み方法をグループで企画立案する。2016 年度は社会的側面に力を入れ、女性・教育・紛争などをキーワードに途上国の事例を学びつつ、日本の私たちの足元も見つめていく。

【到達目標】

国際協力や国際交流に関心のある学生が、ゼミでのディスカッションや自主的な課外活動に取り組み、互いに刺激しあう機会を設け、自ら考えて行動する能力を培う。

プレゼンテーション、論理的な文書作成、論理的思考、英文読解などのスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

文献購読、グループディスカッション、グループ学習と発表。
それらの過程で、各スキルを向上させる題材や方法を取り入れる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	概要紹介
第 2 回	グループワーク	討議による受講者同士の相互理解
第 3 回	グループワーク	討議による受講者同士の相互理解
第 4 回	文献講読と討議	各分野の基礎知識を深める
第 5 回	文献講読と討議	各分野の基礎知識を深める
第 6 回	文献講読と討議	各分野の基礎知識を深める
第 7 回	文献講読と討議	各分野の基礎知識を深める
第 8 回	グループ分け	各自でテーマを出し合い、テーマごとにグループ分けを行う
第 9 回	グループ作業	課題についての調査作業を進める
第 10 回	グループ作業	課題についての調査作業を進める
第 11 回	グループ作業	課題についての調査作業を進める
第 12 回	グループ作業	課題についての調査作業を進める
第 13 回	プレゼンテーション	各班の調査結果発表
第 14 回	プレゼンテーション	各班の調査結果発表
第 15 回	プレゼンテーション	各班の調査結果発表
第 16 回	グループ分け	特定地域・分野の課題を選び、グループ分けを行う
第 17 回	グループワーク	各課題について掘り下げて調査を行い、解決策を考案する
第 18 回	グループワーク	各課題について掘り下げて調査を行い、解決策を考案する
第 19 回	グループワーク	各課題について掘り下げて調査を行い、解決策を考案する
第 20 回	プレゼンテーション	グループワークの成果発表
第 21 回	プレゼンテーション	グループワークの成果発表
第 22 回	ゲストスピーカー	関連分野のゲストに話を聞く
第 23 回	グループワーク	報告書の執筆作業
第 24 回	グループワーク	報告書の執筆作業
第 25 回	グループワーク	報告書の執筆作業
第 26 回	グループワーク	報告書の執筆作業
第 27 回	プレゼンテーション	報告書の内容発表
第 28 回	プレゼンテーション	報告書の内容発表
第 29 回	プレゼンテーション	報告書の内容発表
第 30 回	卒業論文報告会	卒論執筆者の報告を聞く

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストや参考資料は必ず予習すること。
グループ活動には積極的にかかわってください。

【テキスト (教科書)】

授業内で紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席と平常点：50%

発表・レポート：各 25%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度以上に、アウトプット重視で行きたいと思います。

【関連の深いコース】

国際環境協力コース

HA400

研究会 (B)

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題を解決に導く方策について探求することをテーマとします。その際、科学的な視点、国際的な視点、地域社会や経済活動との関わり、他の環境問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識を上積みする基盤を作り、より高度な学習に向けて素養と技術を身につけることを目指します。

【到達目標】

以下の4点を身に付けることを目標とします。

- ①自然環境に関する幅広い知識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力
- ③他者との議論をとおして、異なった観点からの意見を受け入れ合意を形成する能力
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的に成果をまとめる能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

設定した課題について、グループワーク、フィールド学習、個人学習をとおして、議論・調査・考察を行い、成果を取りまとめることを基本とします。併せて講義形式により知識を深めることをとおして基礎的な思考力を高めます。さらに、各自の自然環境に対する問題意識に沿って自主的に課題を設定し、情報収集と整理分析、事例研究などの調査活動を行い、成果として取りまとめます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第3回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第4回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第5回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第6回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第7回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第8回	中間発表	研究成果の発表
第9回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第10回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第11回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第12回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第13回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第14回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第15回	春学期成果発表	課題研究成果の発表
第16回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第17回	グループ研究	グループ討議と発表
第18回	グループ研究	グループ討議と発表
第19回	グループ研究	グループ討議と発表
第20回	グループ研究	グループ討議と発表
第21回	グループ研究	グループ討議と発表
第22回	グループ研究	グループ討議と発表
第23回	中間発表	研究成果の発表
第24回	グループ研究	グループ討議と発表
第25回	グループ研究	グループ討議と発表
第26回	グループ研究	グループ討議と発表
第27回	グループ研究	グループ討議と発表
第28回	グループ研究	成果まとめ
第29回	年間成果発表	研究の成果発表
第30回	年間成果発表	研究の成果発表

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自または共通の課題に関して、文献資料の収集や資料作成、事前学習、必要なフィールドワーク、発表準備など、成果に向けた調査研究を着実にを行います。また、休日等に行う野外学習や、自主企画をベースに行うテーマ別の研究・提案・発表などのサブゼミ活動を積極的に行います。

【テキスト (教科書)】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

前年度までに「自然環境政策論Ⅰ(春期)及びⅡ(秋期)」を履修していない学生は、今年度当該科目を必ず履修してください。また、より自然への理解を深めるため、「自然環境科学の基礎(生態学)」(春期)とその応用である「自然環境論Ⅳ」(秋期)を併せて履修することを推奨します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース・地域環境共生コース・国際環境協力コース

HA400

研究会 (B)

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

【到達目標】

受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実に用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい箇所は、担当教員が解説いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英文契約書の背景 (1)	国際契約書と英語等
第 2 回	英文契約書の背景 (2)	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第 3 回	契約書の英語 (1)	接続詞、助動詞等
第 4 回	契約書の英語 (2)	特殊な用語法 (1)、小テスト
第 5 回	契約書の英語 (3)	特殊な用語法 (2)、小テスト
第 6 回	契約書の英語 (4)	特殊な用語法 (3)、小テスト
第 7 回	契約書の英語 (5)	特殊な用語法 (4)、小テスト
第 8 回	契約書の英語 (6)	売買契約書 (1)、小テスト
第 9 回	契約書の英語 (7)	売買契約書 (2)、小テスト
第 10 回	契約書の英語 (8)	売買契約書 (3)、小テスト
第 11 回	英文契約の読解 (1)	実際の英文契約読解 (班による発表)
第 12 回	英文契約の読解 (2)	実際の英文契約読解 (班による発表)
第 13 回	英文契約の読解 (3)	実際の英文契約読解 (班による発表)
第 14 回	英文契約の読解 (4)	実際の英文契約読解 (班による発表)
第 15 回	英文契約の読解 (5)	実際の英文契約読解 (班による発表)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書で指定された小テストの箇所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときに和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。

【テキスト (教科書)】

宮野準治・飯泉恵美子著『英文契約書の基礎知識』（ジャパンタイムズ社、1997年）、配布プリント。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです。小テストの結果、班の発表等で評価します。なお、3回以上欠席したり、小テストの勉強や発表準備をしてこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、丁寧に英文契約の読み方を解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【関連の深いコース】

エコ経済経営コース・国際環境協力コース

HA400

研究会 (B)

日原 傳

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

俳句実作講座

【到達目標】

- ・俳句の実作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・日本の伝統のなかではぐまれてきた季語の豊かさを認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

俳句の実作をする授業である。毎回、句会形式で授業を進める。参加者は毎回俳句を3句ほど用意して投句する。清記、選句、披講のあと、投句された作品を対象に討議する。随時「題詠」も行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	句会	俳句の規則の説明、句会を体験する（題詠）
第 2 回	句会	当季雑詠、歳時記の紹介
第 3 回	句会	当季雑詠、「切字」の説明
第 4 回	句会	当季雑詠、「取り合わせ」の説明
第 5 回	句会	当季雑詠、題詠
第 6 回	句会	当季雑詠、題詠
第 7 回	句会	当季雑詠、題詠
第 8 回	句会	当季雑詠、題詠
第 9 回	句会	当季雑詠、題詠
第 10 回	句会	当季雑詠、題詠
第 11 回	句会	当季雑詠、題詠
第 12 回	句会	当季雑詠、題詠
第 13 回	句会	当季雑詠、題詠
第 14 回	句会	当季雑詠、題詠
第 15 回	句会	当季雑詠、題詠

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・毎回俳句を3句ほど作って持参する。
- ・歳時記の世界に親しむ。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）
山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）
平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）
藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）
片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版）
日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度・投句作品）と最終レポートによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

討議の材料となる例句を出来るだけ紹介し、議論が深まるようにしたい。

【関連の深いコース】

環境文化創造コース・地域環境共生コース

HA400

研究会 (B)

谷本 有美子

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

基本テーマは「自治体で働くということ」です。卒業後に自治体で公共政策の担い手となることを目指す学生のために、公務員予備校などで主に学ぶ一次の筆記試験対策とは異なる観点からキャリアデザインを支援する研究会です。またこの研究会における経験を通じて、論述やグループ討議、最終面接などの二次試験以降の対策になり、さらに学生が自治体職員になった場合に必要となる政策形成能力の基礎を身につけることも目的としています。

【到達目標】

第1に自治体職員のキャリアイメージを形成すること、第2に自治体職員になるための目的意識を涵養すること、第3に市民性を備え、広い視野を持って地域課題に対応できる能力について理解を深めることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

現在、自治体で求められている人物像に関する講義、地域課題に関する広い視野やコミュニケーション能力を身につけるための時事問題に関するテーマ討議、ゲストスピーカー (現職の自治体職員等) の講義と対話、地域の課題に取り組んだ自治体の政策事例の検討 (担当職員のキャリア形成も含む)、特定地域の課題と政策動向に関する調査・新たな政策アイデアの検討と報告、必要に応じ現地調査などを組み合わせていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会の進め方についての説明と、受講者の意見交換を通じて自治体職員に対する各人のイメージを共有する
第2回	自治体職員のミッションとは?	自治体職員が働く現場の事例から、仕事のミッションについて考える
第3回	自治体の政策課題の発見 (1)	最近の報道から自治体に関連しそうな課題を受講生が持ち寄り、グループでその対策アイデアを検討し、発表する
第4回	自治体の政策課題の発見 (2)	第3回の続き
第5回	ケース分析「自治体職員の仕事 (1)」	テキストの事例を題材に自治体職員の仕事に必要な能力についてグループで討議し、発表する
第6回	ケース分析「自治体職員の仕事 (2)」	第5回の続き
第7回	自治体職員 (ゲストスピーカー) に聞く (1)	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際やキャリアについて聞き取り
第8回	自治体職員 (ゲストスピーカー) に聞く (2)	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際やキャリアについて聞き取り
第9回	自治体職員としてのキャリア形成を考える	ゲストスピーカーからの聞き取り内容と文献のケースを比較しながら、キャリア形成に焦点を当ててグループで討議する
第10回	政策形成思考のトレーニング (1)	自治体現場の最前線の政策課題を見出し、グループディスカッションを通じて解決策を探る
第11回	政策形成思考のトレーニング (2)	第10回の続き
第12回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成 (1)	受講生各自が仮の志望自治体を選び、関心のある政策を調べて、自身がどのように携わり、キャリアを形成したいかについてのプレゼンテーションを行う
第13回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成 (2)	第12回の続き
第14回	特定自治体の政策調査とキャリアイメージの形成 (3)	第12・13回の続き

第15回 総括討論

学習した内容を振り返りつつ、自治体職員の役割・あるべき像などについて総括的に討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・テーマ討論や講義内容に関する事前学習
- ・ゲストスピーカーからの聞き取りのための事前学習
- ・関心を持った自治体の政策や地域資源等についての情報収集

【テキスト (教科書)】

各回のテーマに応じて、必要な印刷物を配付します。

【参考書】

稲継裕昭『地方自治入門』(有斐閣)の他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

課題の履行と提出、参加姿勢による総合評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

自治体の仕事の実際に触れられる機会を可能な限り提供します。グループ討議で他の受講生と共に学びながら報告内容をまとめる経験を積み、発表の機会を通じてプレゼンテーション技術が向上できるようなサポートをします。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース

HA400

研究会（B）

石神 隆

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「サステイナブルなまちづくり」を基本テーマとした、都市環境および地域形成に関する集中学習型のゼミナール。

【到達目標】

都市環境および地域形成に関して定めた個別テーマについて探求することにより、現実社会を深く理解し、研究のおもしろさを体得し、また、様々な企画能力をも培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国内外の都市や地域を対象に、環境、生活、経済、産業、歴史などの視点から、文献購読と事例研究を行う。文献については年度初めにいくつか提示すると同時に、必要に応じ適宜提示する。事例研究の具体的なテーマ等に関しては、議論しつつ決めていく。ゼミでは、①文献の輪読と議論、②グループによる事例研究、③個人研究を進める。グループ研究と個人研究は自主的に進め、その成果を逐次、ゼミで発表・議論し、最終的にはレポートとしてまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	各自の紹介、研究会の進め方等を説明
第 2 回	年間研究全体テーマ設定	全体の共通テーマの提案と議論
第 3 回	文献（A）の輪読と議論	集中的に基本文献（A）を読み、議論
第 4 回	文献（A）の輪読と議論	集中的に基本文献（A）を読み、議論
第 5 回	文献（A）の輪読と議論	集中的に基本文献（A）を読み、議論
第 6 回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第 7 回	各グループ小テーマ議論	グループを形成し、それぞれ議論
第 8 回	各グループ小テーマ議論	主にグループごとの研究活動
第 9 回	各グループ研究構想発表	各グループの小テーマと研究の企画
第 10 回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第 11 回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第 12 回	資料収集分析・議論	全体およびグループごとの研究活動
第 13 回	第 1 回中間発表会	各グループの研究成果の発表・討論
第 14 回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第 15 回	文献（B）の輪読と議論	集中的に基本文献（B）を読み、議論
第 16 回	文献（B）の輪読と議論	集中的に基本文献（B）を読み、議論
第 17 回	文献（B）の輪読と議論	集中的に基本文献（B）を読み、議論
第 18 回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第 19 回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第 20 回	第 2 回中間発表会	各グループの発表・討論
第 21 回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第 22 回	文献（C）の輪読と議論	集中的に基本文献（C）を読み、議論
第 23 回	文献（C）の輪読と議論	集中的に基本文献（C）を読み、議論
第 24 回	文献（C）の輪読と議論	集中的に基本文献（C）を読み、議論
第 25 回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第 26 回	研究作業、議論	主にグループごとの研究活動
第 27 回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学・テーマ調査
第 28 回	最終研究発表会準備	主にグループごとの研究活動
第 29 回	最終研究発表会	各グループの成果発表・討論
第 30 回	総括的ディスカッション	年間の研究会活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献はもとより各種参考文献も自主的に講読し習得していく。また、グループ毎に適宜計画し、事例研究の現地調査を積極的に実施する。

【テキスト（教科書）】

輪読のための共通テキスト（3冊程度：年度初めに提示）を使用する。また、テーマの設定によっては、別途に共通の資料を使用する場合がある。

【参考書】

個別の内容により、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席および準備、議論への参加状況）50%、成果物（グループ研究および個人研究の評価）50%

【学生の意見等からの気づき】

学生により基礎知識の不足がある。これを補うため、基本的な事項につき、講義する機会を随時つととともに、自主学習を課する予定である。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース

HA400

研究会 (B)

安岡 宏和

配当年次/単位：2～4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

エスノグラフィー型フィールドワークをおこなうための準備段階として、エスノグラフィーの基礎を学ぶ。

【到達目標】

- (1) エスノグラフィー型フィールドワークをおこなうための理論的枠組を身につける。
- (2) エスノグラフィー (民族誌) を批評する目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

前期は、エスノグラフィー型フィールドワークと理論に関する文献を講読し、ディスカッションをおこなう。後期は、成果としてのエスノグラフィー (民族誌) をとりあげ、批評をおこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	年間の計画を調整する。
第 2 回	プレゼンテーションとディスカッション (1)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 3 回	プレゼンテーションとディスカッション (2)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 4 回	プレゼンテーションとディスカッション (3)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 5 回	プレゼンテーションとディスカッション (4)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 6 回	プレゼンテーションとディスカッション (5)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 7 回	プレゼンテーションとディスカッション (6)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 8 回	プレゼンテーションとディスカッション (7)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 9 回	プレゼンテーションとディスカッション (8)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 10 回	プレゼンテーションとディスカッション (9)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 11 回	プレゼンテーションとディスカッション (10)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 12 回	プレゼンテーションとディスカッション (11)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 13 回	プレゼンテーションとディスカッション (12)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 14 回	プレゼンテーションとディスカッション (13)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 15 回	プレゼンテーションとディスカッション (14)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 16 回	プレゼンテーションとディスカッション (15)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 17 回	プレゼンテーションとディスカッション (16)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 18 回	プレゼンテーションとディスカッション (17)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 19 回	プレゼンテーションとディスカッション (18)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 20 回	プレゼンテーションとディスカッション (19)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 21 回	プレゼンテーションとディスカッション (20)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 22 回	プレゼンテーションとディスカッション (21)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 23 回	プレゼンテーションとディスカッション (22)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 24 回	プレゼンテーションとディスカッション (23)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 25 回	プレゼンテーションとディスカッション (24)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
第 26 回	プレゼンテーションとディスカッション (25)	学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。

- 第 27 回 プレゼンテーションとディスカッション (26) 学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
- 第 28 回 プレゼンテーションとディスカッション (27) 学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
- 第 29 回 プレゼンテーションとディスカッション (28) 学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。
- 第 30 回 プレゼンテーションとディスカッション (29) 学生が担当文献の内容を報告し、ディスカッションをおこなう。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】
文献講読の準備

【テキスト (教科書)】

授業のなかで決定

【参考書】

授業中に提示

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの貢献

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【関連の深いコース】

国際環境協力コース・環境文化創造コース

HA400

研究会 (B)

渡邊 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ:文系の立場から物質の循環とエネルギーについて考える
この研究会は文系の皆さんを対象にしたゼミであり、環境問題を研究する上で必須のサイエンスを学んでいきます。物質とエネルギーに関連する諸問題について具体的な事例をもとに幅広く考察し、環境問題について多角的に考える習慣を身につけます。キーワードは、資源と廃棄物、物質の循環、リサイクル、再生可能エネルギー、省・創・蓄エネ、そしてエントロピーなどです。これらのテーマをもとに、環境問題をより深く眺め、諸学問分野の垣根を超えた学際的な発想ができるようになることを目指します。

【到達目標】

新聞あるいは学術的雑誌、各種統計資料を含む様々な環境問題関連の情報を理解し、読み解くことができるようになることが目標です。授業はディスカッションしながら進んでいくため、参加者相互の共働によりコミュニケーション能力を身につけることも目標のひとつです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

春学期ではおもに具体的な統計資料、各種記事・資料などをもとに学習し、参加者相互で内容の確認等を行います。各々に割り当てられた担当部分を発表し合うという方法で進めていきます。秋学期ではおもに、各自テーマを持ち寄り、報告し合い、それにもとづき質疑・応答、意見交換・討論などを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と進め方の確認を行う
第 2 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する
第 3 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する
第 4 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとにディスカッションを経験する
第 5 回	サイエンス入門としての学習 (文系の立場から)	環境問題に関連する基礎資料をもとにサイエンスとの関連を学習する
第 6 回	サイエンス入門としての学習 (文系の立場から)	環境問題に関連する基礎資料をもとにサイエンスとの関連を学習する
第 7 回	サイエンス入門としての学習 (文系の立場から)	環境問題に関連する基礎資料をもとにサイエンスとの関連を学習する
第 8 回	サイエンス入門としての学習 (文系の立場から)	環境問題に関連する基礎資料をもとにサイエンスとの関連を学習する
第 9 回	事例研究	各種記事、統計資料などをもとに環境問題と対策の現況などに関する事例を調査する
第 10 回	事例研究	各種記事、統計資料などをもとに環境問題と対策の現況などに関する事例を調査する
第 11 回	事例研究	各種記事、統計資料などをもとに環境問題と対策の現況などに関する事例を調査する
第 12 回	事例研究	各種記事、統計資料などをもとに環境問題と対策の現況などに関する事例を調査する
第 13 回	事例研究	各種記事、統計資料などをもとに環境問題と対策の現況などに関する事例を調査する
第 14 回	総括	春学期授業内容の振り返りとさらなる課題の見出をおこなう
第 15 回	総括	春学期授業内容の振り返りとさらなる課題の見出をおこなう
第 16 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う
第 17 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う
第 18 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う
第 19 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う

第 20 回	個人研究のテーマ検討	テーマを持ち寄り調査・報告内容の検討を行う
第 21 回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第 22 回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第 23 回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第 24 回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第 25 回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第 26 回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第 27 回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第 28 回	個人研究報告	研究内容の報告とディスカッションを行う
第 29 回	総括	共通テーマを設定しディスカッションを行う
第 30 回	総括	共通テーマを設定しディスカッションを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献収集、事前調査、報告のための資料作成などを行います。

【テキスト (教科書)】

特に使用しません。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況と授業参加への積極性、レポート提出状況などをもとに総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

文系の立場からサイエンスを眺めることを常に意識しています。このことを継続します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

HA400

研究会 (B)

金藤 正直

配当年次/単位：2～4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本研究会では、「地域の持続的成長を実現するためのビジネスモデルをどのように構築 (デザイン) すればいいのか?」という問題への解決策を多面的な研究や調査を通じて提案して行くことを目的とする。

【到達目標】

本研究会では、研究会 A で提案していく地域 (都道府県あるいは市町村) 内の企業、地方自治体、地域、国による事業 (「プロジェクト」ではなく、「ビジネス」) に関する問題への解決策を、主体的に、かつ論理的に考えていくための知識や能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

①地域の農林水産業 (第 1 次産業) やその関連産業による持続的成長のためのビジネスモデルをデザインしていくうえで必要な概念やツール等を、テキストだけではなく、他の著書、論文、報告書を利用しながら検討する。

②各自のさらなるレベルアップのために、ゲストスピーカーによる講演、アンテナショップや施設等のヒアリング調査 (インタビュー)、合宿、調査先や大学間での勉強会や報告会等のイベントを開催する。

③①と②の成果を、研究会 A で作成する研究・調査計画書やそれをもとにした研究ノート、レポート、研究会修了論文等にどのように活かせるかを検討し、報告する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。
第 2 回	研究・調査テーマとその検討方法 (A)	研究・調査のテーマを提示し、これをテキストや他の著書を用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第 3 回	研究・調査テーマとその検討方法 (B)	研究・調査のテーマに対して論文や報告書等を用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第 4 回	研究・調査に関する映像資料の視聴 (A)	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を全員で議論する。
第 5 回	製品・商品の生産・販売店の調査 (A)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設等に行き、そこでの取組内容について調査する。
第 6 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論①	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 7 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論②	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 8 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論③	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 9 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論④	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。

第 10 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑤	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 11 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑥	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 12 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑦	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 13 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑧	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 14 回	研究・調査テーマの検討内容の整理 (A)	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していく。
第 15 回	小 括	春学期までの研究・調査の取組内容を整理し、その内容を全員に共有していく。
第 16 回	研究・調査テーマに関する報告会 (A)	これまでに取り組んだ研究・調査テーマに関する取組内容を各自報告し、それを全員で議論する。
第 17 回	研究・調査テーマに関する報告会 (B)	これまでに取り組んだ研究・調査テーマに関する取組内容を各自報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 18 回	研究・調査に関する映像資料の視聴 (B)	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を全員で議論する。
第 19 回	製品・商品の生産・販売店の調査 (B)	研究・調査に関連するアンテナショップや施設等に行き、そこでの取組内容について調査する。
第 20 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑨	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 21 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑩	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 22 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑪	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 23 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑫	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 24 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑬	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 25 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑭	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 26 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑮	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 27 回	研究・調査テーマの検討内容の報告・議論⑯	個々に文献を用いて整理した研究・調査のテーマの検討結果を報告し、それを全員で議論する。
第 28 回	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカー (行政、事業者、市民・NPO、学識経験者等) の講義とその内容に関する討論を行う。
第 29 回	研究・調査テーマの検討内容の整理 (B)	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していくとともに、その内容を研究・調査計画書やそれをもとに作成される研究ノート、レポート、研究会修了論文に活かしていく方法を説明する。
第 30 回	総 括	今年度取り組んだ研究・調査の取組内容を整理し、その内容を全員に共有していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会で使用するテキスト以外に、その内容に関連する著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事等を用いて、研究テーマ選び、研究・調査の目的・視点やそれに関する先行研究の検討等を計画的に実施してください。

【テキスト（教科書）】

二神恭一・高山貢・高橋賢（2014）『地域再生のための経営と会計-産業クラスターの可能性』中央経済社。

※必要に応じてパワーポイントを用いて報告してもらいますので、レジュメの作成と配布をお願いします。

【参考書】

メンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事等を紹介したり、配布します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の5点に基づいて評価します。

- ・平常点（講義回数の2/3以上の出席を評価の条件）（30%）
- ・討論への参加（発言内容・積極性）（20%）
- ・報告用配布レジュメの内容（10%）
- ・報告内容（プレゼンテーション能力）（10%）
- ・提出物（リアクション・ペーパー等）（30%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、意見や要望を考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究や調査だけではなく、研究会メンバー、調査先の方々、学外の学生と一緒に勉強会や報告会等のイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができるとともに、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力を身につけてください。

【関連の深いコース】

- ・エコ経済経営コース

HA400

研究会修了論文**人間環境学部教員**

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Aタイプ研究会を原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

研究会修了論文を執筆することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各A研究会の中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	同上
第4回	テーマの設定と構成③	同上
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	同上
第7回	資料の収集③	同上
第8回	資料の収集④	同上
第9回	資料の収集⑤	同上
第10回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理②	同上
第12回	情報の整理③	同上
第13回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆②	同上
第15回	執筆③	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

Bタイプ研究会受講者は登録できない。
各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【関連の深いコース】

全コース

HA500

人間環境セミナー

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期 | 曜日・時限：土3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本セミナーは、全国離島振興協議会・財団法人日本離島センターにお願いし、わが国の離島について、その地理、自然、文化、環境、産業等について多面的に学習する講座です。離島に興味のある方、行ってみたい方、生活してみたい方等、多くの方に受講して頂ければ幸いです。

学生の皆さんには、わが国の離島の意義、多様性、素晴らしさについて理解して頂きたいと思います。

【到達目標】

学生諸君が、専門分野の講師の話聞き、離島に関する様々な側面について理解を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、それぞれの専門分野の講師を学外からお招きして、具体的なテーマに関する講演を聴講します。各講師の知見に触れることで、受講者の視野が広がることを期待しています。

担当：永野秀雄、梶裕史、西城戸誠。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・セミナー	セミナーのねらいと進め方、各回の講演タイトルの紹介、外部講師による講義
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	セミナー	外部講師による講義
第15回	試験	これまでの講義内容について、筆記試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で配布されたプリントを復習してください。また、日ごろから離島に関する新聞記事、書籍を読むように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。外部講師が必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

参考書は外部講師が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、平常点50%、期末試験50%です。出席は毎回とります。10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとします。また、4回以上の欠席はD評価となりますので注意してください。期末試験は、各講師が示したポイントについて出題されます。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター

【その他の重要事項】

講演後に講師への質問の時間が設けられますので、積極的に質問してください。講師の方々は丁寧に回答くださいますので、理解を深められるはず。セミナーの詳しいテーマ及び外部講師については、掲示板及び学部HPにて発表します。また、来年度以降のセミナーの開催予定については、「履修の手引き」に掲載しています。

【関連の深いコース】

地域環境共生コース・エコ経済経営コース・国際環境協力コース・環境文化創造コース

HA500

人間環境セミナー

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期 | 曜日・時限：土3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人と自然の出会う場所－「公園」の活用と課題－

【到達目標】

各講師のもつ豊富な知識や経験に触れ、人と自然がかかわりあう「場」への意識を深化させる、また人と自然のかかわりあいに対する多角的視野を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、ひろい意味での「公園」に関連した研究や実務に最前線で携わっている方々を講師としてお招きします。キーワードは、自然公園、都市公園、庭園、保護区、景観、遺産、動植物、地形、地質、資源、災害などです。各回の講師と講演タイトルは4月以降、決定次第掲示板および学部HPにて発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーのねらいと進め方、各回の講師と講演タイトルの紹介
第2～14回	セミナー	外部講師による講演
第15回	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の配布資料を復習する。また、準備学習や復習等において、関連する文献や時の話題、映像等に触れる。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講師が必要に応じて紹介予定

【成績評価の方法と基準】

平常点50%・期末試験50%
平常点は、各回、当日の講義に関する感想・コメントを出席カードに一定量記述いただくことで評価します。記述が不十分な場合、評価はゼロとします。また、10分以上遅れての入室は認めません。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味をもち、自主的に学習できるテーマを選びます。

【その他の重要事項】

講演後に講師への質問の時間を設けます。めったにない貴重な機会です。また講師の方々も丁寧に回答くださいます。積極的に質問してください。セミナーの詳しいテーマ及び外部講師については、掲示板及び学部HPにて発表します。なお、来年度以降のセミナーの開催予定については「履修の手引き」に掲載しています。

【関連の深いコース】

全てのコース

HA500

インターンシップ

人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4年／2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

就業体験を通じたキャリア形成

【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大学外での就業体験であるため通常の授業と異なり、実習先での学習と就業体験が主たる内容となります。そのため、大学では準備のための指導および実習後の指導を行います。実習機関によって内容が異なりますので担当教員による個別指導が中心となります。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	インターンシップ説明会（春・秋 Semester で各一回行います）	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第2回	「インターンシップ申込書」の提出	担当教員による面接で実習期間や実習内容について審査し、科目登録の可否を通知します。
第3回	「インターンシップ実習計画書」の提出	履修が許可された場合、実習受け入れ機関や実習プログラムに関する所定の項目を記入し提出する。これと同時に「インターンシップ保険」の手続きを行ないます。保険料は不要です。「キャリアセンター」で手続きをします。これは科目履修の必須条件です。上記の第1回～第3回の手続きを終えた後、実習を行います。
第4回～第13回	実習	受け入れ機関からの「実習終了確認」を受け、報告書を作成・提出する。作成に当たっては担当教員の指導を受けなければなりません。
第14回	実習終了後「インターンシップ実習報告書」の作成・提出	実習終了後の Semester に開催される「インターンシップ実習報告会」で口頭発表を行います。
第15回	インターンシップ実習報告会（実習終了後の Semester に開催）	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習機関の検索と選択は各自が自主的に行わなければなりません。実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い実習の効果を高めることが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

個別に指導します。

【成績評価の方法と基準】

この科目は通常の成績評価は行わず、「単位認定」をおこないます。従って、GPA の対象科目とはなりません。単位認定には、報告書の提出と人間環境学部主催の報告会（6月・11月実施）での口頭報告が必要となります。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

履修・単位登録に関する注意事項

- 履修学年：2014年度より「2年次～4年次」に変更しました。
- 登録時期：実習終了後の Semester 登録時に行います。（1年次秋 Semester から実習でき、登録は2年次春 Semester に行います）
- 履修手続き、書類の配布、提出はすべて学務窓口です。「説明会」において手続きに関する文書を配布・説明を行う。
- 履修上限は4単位です、ただし1 Semester の登録は2単位までです。

HA500

フィールドスタディ

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現場（自然環境や社会環境）を訪問し、環境に関連するとりくみについて触れ、あるいは実習する。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムである。

【到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、改めて啓発を受けて自らの問題意識を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回～第4回	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第5回～第11回	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日前後に及ぶこともある。
第12回～第14回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
第15回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【テキスト（教科書）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。